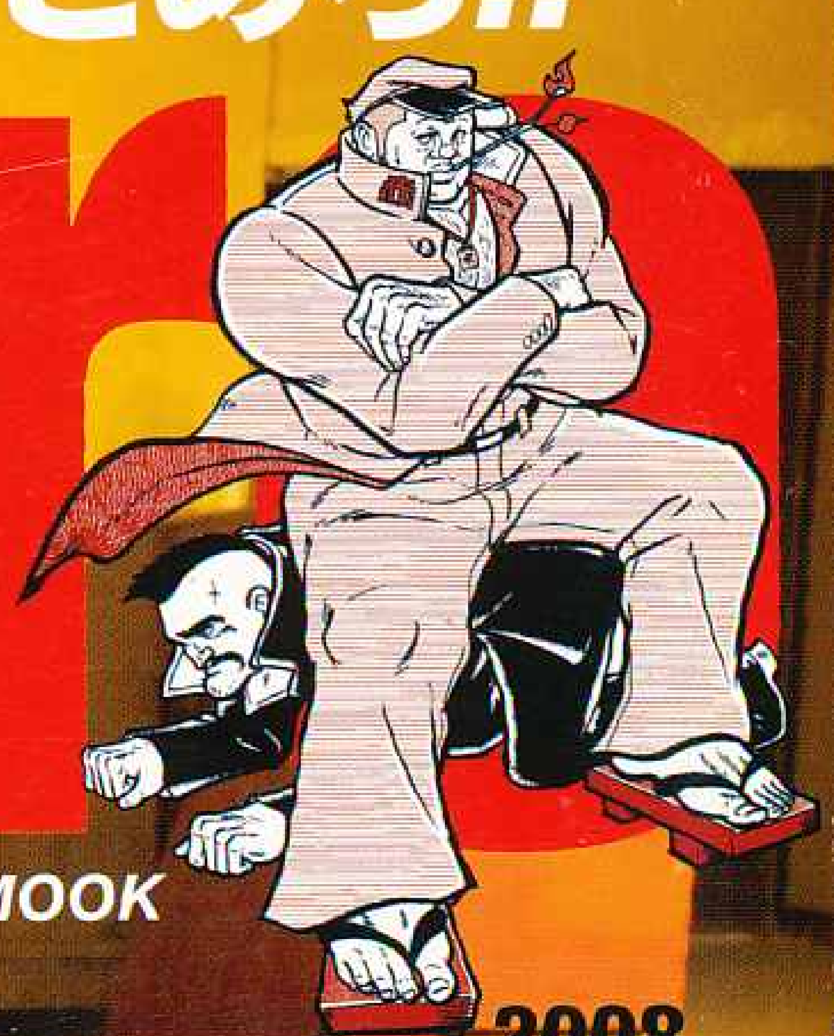
いまこそ桜庭和志の“現実”を受けとめろ!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE



enterbrain MOOK

2008
124
880yen

永田さん(弟)を完封勝利!
“ミスターやれんのか!”からDREAMの大黒柱へ!!

青木真也

“英雄”の格闘家人生をプレイバック!
その知られざる素顔に迫る!!

宇野薫

敵は最先端MMAファイター!
クラッシャーの正念場!!

川尻達也

ミスターHERO'Sが
夢の舞台へアダルトに登場!

所英男



愛と切なさの夢舞台——!!
大熱狂の『DREAM.4』から見えたもの!

発動する“リアル”ドリーム!!

シャキーン!

桜庭、魔王不在の混沌バトルを制するのは誰だ?
DREAMミドル級GP決勝進出者を直撃!!

ホナウド・ジャカレイ/メルヴィン・マヌーフ
ゼルグ・“弁慶”・ガレシック/ゲガール・ムサシ

恐るべき世界最高峰の底力!
“KID級”から黄金のライトヘビー級まで!!

UFC&WEC
23ページ大特集!!

kamipro 124 カッコつける姿は見たくない

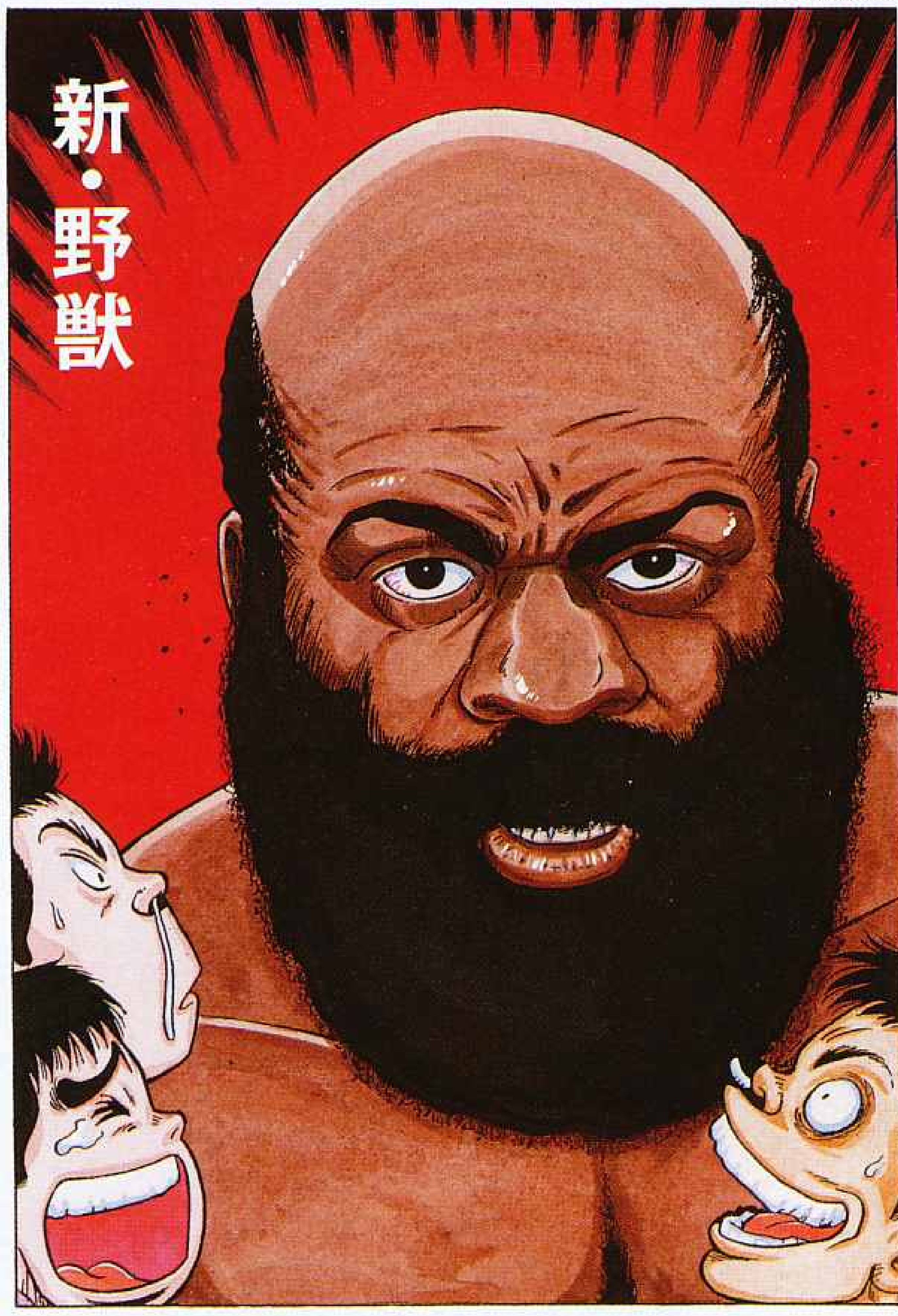
うわ~ん、うわ~ん、いつか来た道だよ~。



キンボ・スライス衝撃のズンドコ全米地上波デビュー!

な〜んだ、サップじゃん!


©みのもけんじ



2008 No.124 CONTENTS

kamipro

表紙写真/タイコウクニヨシ



この現実は本当か
あの夢は幻か

「大会自体については、4回目ということでこなれてきて、かたちができつつある。ミドル級GPについては、2試合が判定になりましたが、格闘技の残酷さを感じましたし、判定の試合に関しても実力が拮抗しているので過酷でしたね。残酷さと過酷さが……」

DREAMに発動する〝リアル〟――!!

笹原EPが挙げる桜庭和志にとっての残酷な現実も、メルヴィン・マヌーフからすれば幸福な現実だったのかもしれない。個人の事情や立場によって現実の捉え方は180度変わってくるし、それらの価値観は一瞬にしてひっくり返ることもざらではある。

あの現実は夢なのか。
この夢は現実か――。

感じる夢と現実は人それぞれで、人それぞれの夢と現実があるが、夢と現実のあいだから立ち昇る物語に、誰もが心を奪われてしまう。

夢だけでは甘さしかない。現実だけでは厳しさしかない。

夢から見えてくる現実や、現実から弾き出される夢に心が震えるのだ。

桜庭和志に見たい夢があったから、切ない現実に打ちのめされた。

宇野薫に見たい夢があったから、浮き彫りになった感情に鳥肌立った。

青木真也に見たい夢があるから、「いまこそやれんのか！」と叫んだのだ。

この現実は本当か。あの夢は幻か。俺はいったい誰なんだ？

それを確かめるために、人は現実と夢のあいだで泳ぎ続けていく。

ヴァンダレイ、日本もまだ闘ってるぞ!!



6.15『DREAM.4』ミドル級GP2回戦
マヌーフ戦完敗で現出した“リアル”な現実

桜庭和志
Kazushi Sakuraba





むき出しの

夢からさめると、“リアル”な現実が待っていた……。6.15『DREAM.4』のメイン、ミドル級GP2回戦にファンの期待を背負って登場した桜庭和志は“猛獣”マヌーフの電光石火の連打で、わずか1分30秒の完敗劇。試合前のVでは、「人生に悔いなし」と自ら最終章を思わせる唄まで披露していた桜庭。いったい我々は今後の桜庭とどう向き合うべきなのか？　桜庭と親交が深く、変態座談会メンバーとしても活躍中の井上崇宏氏が桜庭への思い、この一戦に踏み出したその心中をズバリ激筆!!

文／井上崇宏（THE PEHLWANS）　撮影／乾晋也　構成／真下義之

もう1年以上も前に解いた禁煙を、なぜかいまだ嫁には言えないでいます。

桜庭和志が自身の会社を立ち上げ、とりあえず公式のホームページを作るのだという話を聞いたのが、2007年4月。この公式サイトで定期的に配信するというインタビューの聞き手という仕事が、ひょんなことからそれまで桜庭とはほとんど接点のなかったボクのところへと回ってきた。

それから今日までのおよそ1年あまり。お互い、人見知りの激しい者同士が徐々に徐々にと打ち解け、楽しいインタビューをこなしてきたように思う。

そして楽しい中にも、これは墓場まで持っていくべきだろうと判断されるような桜庭の本音の部分を、取材前後にポロリポロリと聞くこともあった。ボクは時間の経過とともに、桜庭にとって少なからず「信用のおけるヤツ」になったのだと思う。

そんな桜庭に最後に会ったのは、5月26日。前号の『kamipro Special 2008 JULY』に掲載された桜庭和志インタビューを収録したあの日である。

振り返ると、あのインタビューは〝楽しいインタビュー〟を超えた、初めて桜庭に対して醜いクソを垂れたインタビューだった。桜庭とほぼ同世代ながら「仕事ってなんですか？　働くってどういうことですか？」などと、いまだ中学生のような悩

我が人生に悔いなし



Kazushi Sakuraba

みがふと頭をもたげるクソ野郎（ボク）による〝13歳のハローワーク〟な質問大会。
そしてインタビュー収録後の、他者に打ち明けたがゆえにさらに高まる13歳モードという悪循環の中、精神の安定を、とやはりタバコを一服。憂さが新たな憂さを呼び込んだ、夕暮れどきの『Laughter7』エントランス。
「あの〜。そもそも、なんで俺はコソコソしながらタバコを吸ってるんだっけ……？」
そんな第二次U（憂うつ）があれよあれよと旗揚げ、重ね重ねのショボイ自問自答がスターティングオーバーし始めたとき、そこにカメラマンによる撮影を終えた桜庭が、タバコとライターを左手に携えやってくる。
「今日はなんなんだよ井上さん。大丈夫だってぇ！　大丈夫だから！」
面倒くさいインタビューを終え、本日のお役御免とばかりにうまそうにタバコを吸いながら、そんなやさしい言葉をこのクソ野郎に投げかけてくれる。ここはあの日の放課後の体育館裏か？　桜庭センパイは笑みをたやさずこう続けた。
「っていうか、俺だって『俺の人生、こんなんだったっけ？』って考えることありますよ。そんなときはすっげえ酔っぱらっちゃいます。でも、なるようになるっしょ。大丈夫、大丈夫だから」
じつは帰宅前には、匂い消しにと衣服にファブリーズを噴射しています。ボクはいったい何をそんなに隠したがっているのか？
禁煙に挫折したという自前のハートの脆弱さか。あれだけスッパリとやめられたタバコを数年後にふたたび口にするほど、さてはなにやら精神的に「わー」となってるのでは、とあらぬ推測・ご心配をかけたくないからか。
それにしても聞き捨てならない。あの桜庭和志がときおり、「俺の人生、こんなんだったっけ？」と思い酩酊をしてしまうのだという。聞いてはいけないことを聞いてしまったような、そんな桜庭のメンタリティ。ボクのようなファブリーズ野郎にも何か思い当たるフシはあるだろうか？　そんなことを頭の中で考えながらも、表面上はいつものように儀式的なくだらないバカ話を繰り広げ、おおいに笑い、その日も桜庭と別れた。
そして2008年6月15日、横浜アリーナ。
ビジョンに映し出される〝職業・桜庭和志〟の文字。
はたして桜庭は、大好きな石原裕次郎の『わが人生に悔いなし』をイントロに、白のマスクを被って姿を現わした。
わが人生に悔いなし？
白いマスク？
なぜだ。ボクにはやはりこの意味がハッキリとはわからない。だが、さあ桜庭がいよいよ決戦に臨むというこのときになって突然、このパフォーマンスの意味とは別の「俺の人生、こんなんだったっけ？」に心当たりがあることに気づいてしまったのだ。
ここ数年、ボクたちは桜庭という英雄に、そして桜庭の身辺に降りかかったさまざまなシーンに対し、〝ファブリーズ〟をしてきた。
この〝ファブリーズ〟はある種、英雄のみが獲得している特権で、そのことを熟知しているボクたちは、英雄からこの権利を侵奪することに必要性を見ず、自発的に噴射してきたように思う。過去の例



［6.15 DREAM.4］
横浜アリーナ
◯メルヴィン・マヌーフ vs 桜庭和志×
（1R 1分30秒 KO）
桜庭は今回も横浜アリーナに自転車で駆けつける入場前映像つきで入場。白いマシンマスク姿の桜庭は、下に同じマスクをもう1枚被っており2枚とも脱ぎ捨ててリングイン。試合は〝猛獣〟マヌーフが得意の打撃で桜庭をコーナーに追い詰め、ハイキックからパンチ連打！無数のパウンドを食らった桜庭は90秒でKO負けを喫した。

から見ても、英雄の取り扱いはこれで間違いがないのだ、とばかりに。

だが、英雄がふと背中を見せた瞬間を見計らってそっと噴射していたこの〝ファブリーズ〟が、じつは知らず知らずのあいだに英雄の顔面にブッかかっていた疑いはないか？

あるいは、気弱な深層心理が〝ファブリーズ〟顔面襲撃を実行させ、この〝生ける伝説〟を殺し、美しき記憶を真空パック、リアルな伝説にしてしまおうとしていたフシを完全否認することができるのか？

はたして、当の桜庭は〝ファブリーズ〟をしてほしかったのだろうか……？

桜庭和志を世界中から愛される総合格闘技の英雄たらしめたのは、強引に言ってしまえば、あらゆる〝英雄の特権〟をリング内外で行使してくる男たちを、腕一本で否定しまくるという痛快活劇を繰り広げてきたからだったはずだ。この活劇から生まれた幾多の名シーンが数を重ねていくうち、やがて桜庭はニュータイプの英雄となったのだ。

この歴史の再確認を怠り、そんなニュータイプに昨今ボクたちがとった方策が〝ファブリーズ〟というオールドスクール。おそらく、いつのまにか自分の周辺に漂い始めたこの不自然なまでにやさしいフローラルの香りに桜庭は気づき、そしてこの香りはお気に召さなかったのだろうと思うのだ。なぜならこの方策は、除菌のようでいてニュータイプのアイデンティティをぶち壊す細菌テロでしかなかったわけだから（そこにある年の大晦日、ココナッツの香りまでもが混じり、どうにも堪えがたい異臭騒ぎとなってしまった……）。

「俺の人生、こんなんだったっけ？」とは、つまりこういうことではないかと思う。特権を与えられれば与えられるほど、英雄が英雄でなくなっていくというパラドックス。

かくして、桜庭和志にとって今回の〝猛獣〟メルヴィン・マヌーフ戦とは、ボクたちによって無理矢理持たされた英雄の特権を放棄し、ドブ川に投げ捨てるための闘いだったのだ。

〝職業・桜庭和志〟。

そんな生業を持つ男を前にして、ハローなワークを仕掛けたところで、答えなど出ないはずである。

〝職業・桜庭和志〟。

たったいま、思い出した。そうだ、ボクが再びタバコを口にしたのは、取材で桜庭と会う頻度が急速に増え始めたあの頃からだ。英雄に触れることによってしばしば訪れる、何モノでもない己のチッポケな存在が浮き彫りにされる瞬間。焦り、苛立ち、恐怖心。

〝職業・桜庭和志〟。

そうだ、これまでノー天気に生きてきたボクが、とたんに生業について考えるようになったのもあの頃からだ。

桜庭和志に触れたことによって、ボクは生まれて初めて苦しみ、迷い始めた。そして、人間として少しずつ真面目になってきた気がしている。

だが、自分に〝ファブリーズ〟している時点で、まだまだクソはクソなのである。

そして桜庭は〝職業・桜庭和志〟をまっとうし、またしてもさらに遠くへと行ってしまった――。



Tatsuya Kawajiri vs Eddie Alvarez

上の潰し合い!

ないで〜!!

REAM.5
GRANDPRIX 2008
ROUND



Caol Uno vs Shinya Aoki

これぞ極上の

夢ならさめ

7.21DR

LIGHT WEIGHT GR

FINAL

強くて凄くておもしろい新世紀DREAMファイター！



――ワオ木さん、あいかわらず泣いてましたね。

青木　いやいや！

――「いやいや」って、泣いてたじゃないですか！

青木　泣くつもりはなかったんだけどぉ、お客さんが「泣け！」って言うから、本当に泣きそうになっちゃったんですよ……。

――お客さんもべつに命令してるわけじゃないんですから（笑）。

青木　最近"泣き芸"になってきちゃってますよね～。マズイ!!

――よっ、涙のカリスマ!!　もしかして涙腺、ゆるいんですか？

青木　……日和ってるんですよ！　試合が終わった直後って、日和っちゃうんですよね。昨日もそうだったしな～……。

――しかし、昨日の永田克彦戦はド肝を抜かれました!!　青木さん、じつは強いじゃないですか！

青木　じつは強いんですよ!!　でも、ナガタロックが危なかったですね～。

――真面目に言ってます？

青木　いやいや、下から組みついてくるナガタロックで固められそうになったから。

――ま、それはさておきただ勝つだけじゃなくて、全局面で圧倒してたのが凄いなって。五輪レスラー相手に二度もテイクダウンするなんて！

青木　試合前は下になることも想定してたんですけどね。でも、四つ構えで組んだときに「あれ？　これってテイクダウン取れちゃうじゃん」って。

――最初のタックルは打撃をエサにしてのものですよね？

青木　最初に右ミドルを蹴って、相手が夢中でパンチで突っ込んできたときにタックルしたんですけど。相手は差し合いが相当強いって聞いてたんですよね。

――永田さんはレスリングの五輪銀メダリストですよ！

青木　でも、アッサリ取れちゃったんで「これは絶対に勝てる!!」って確信しました。

――じゃあ、そのあとはけっこう余裕だったんですか？

青木　いや、こっちがマウント取ったら、ガチガチに防御されたんですよ。あれがナガタロック？

――だから全然違いますよ！（笑）。最後のマウントからのフットチョークは、修斗のグラップリングマッチ（2006年3月24日／鶴屋浩戦）で披露しましたよね。

青木　そうです！　けっこう前になりますけどね。みんなビックリしてましたね～。

――ビックリするというか、複雑すぎてわからんというか……『kamipro』に優しくない技ですねぇ。あんな難しい技、狙ってたんですか？　狙って狙えるものなのかわからないですが（笑）。

青木　ホントは肩固めや十字にいこうと思ったんですけど、ずっと抱きつかれていたじゃないですか。極端に言うと、「一本取られなきゃいい」という感じにも受け取れたので、コッチも意地になって極めてやろうと思って！

――男の子ですねぇ。

青木　だって、昨日の試合はボクからすれば"お客さんとの勝負"でもあったんです。

――はいはい。この試合の内容は、決勝ラウンドの『DREAM・5』の命運も握っていたというか。

青木　もしかしたら、上から固められて判定に持ち込まれる可能性もある。ただ



「いまボクがほしいのは勝ったときの充実感とロマンです」

青木真也 Shinya Aoki

この男の"夏"を見逃すな！

いざ行け、大阪夏の陣！ われらがワオ木さんがライト級GP決勝ラウンドの残り一枠をかけた闘いで永田さん弟に完勝！ 7月に大阪で開催される『DREAM.5』では準決勝で"HERO'Sのプリンス"宇野薫と対戦することに。「誇りをかけて英雄をたたきのめしたい！」と宣言した"泣き虫エース"が「最強」、「DREAM愛」、そして「スパッツ」を語った！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

勝つだけじゃダメだなって思っていたんで。

—そうはいっても、あんなスゴ技をMMAでやる人って限られてますよね？

青木 う〜ん、MMAじゃないですね。日本初じゃないですか？ アメリカとかであったかもしれないですけど、聞いたことないし。

—おそらく世界初ですよ。またアメリカで大騒ぎになるんじゃないですか？「オリエンタル・マジック!!」とかって。

青木 なったら嬉しいですね。……またエディ・ブラボー（ラバーガード開発者）が「オレ様が教えた」とかハッタリかましそうだなぁ。こうやって、他人のフンドシで相撲取るわけですよ！ もう!!（ブツブツ）。

—青木さん、落ち着いてください（笑）。しかし、カルバン戦もそうでしたけど、青木さんってトータルファイターなんだなってあらためて思い知らされましたね。

青木 ……珍しいですね、『kamipro』のクセにボクをほめるなんて。いつもは、けなしてばっかりなのに！

—そうでしたっけ？ ウチが一番応援してますよ！（笑）。

青木 だって「青木さん、寝技できたんですね！」とかバカにして！

—すいません。てっきり、ただ口の悪いおもしろファイターだとばっかり（笑）。

青木 口が悪いんじゃないですよ！ 性格が悪いんです。ククク。

—そんな青木さんの大活躍で、このライト級はまだDREAMが世界最高峰だぞっていう雰囲気が出てきましたね。いまの青木さんがそう叫べば、多くの人が頷く説得力がありますよ。

青木 DREAM自体も凄く盛り上がってきましたよね！ ドラマやロマンがあるし、観てて楽しいものになりましたよ。まぁ、いままでがいまいちだったとしたら、『DREAM・1』のボクの試合（JZカルバン戦／ノーコンテスト）が悪いんですけどねぇ……（いじけるように）。

—ダハハハハ！ 青木さん、あの試合後、じつは相当悩んでましたよね？



[6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
◯青木真也 vs 永田克彦×
（1R 5分12秒 フットチョーク）
青木は器用に右ミドルで永田を牽制しながら、ドンピシャのタイミングのタックルでテイクダウン！ マウントに移ると右足をギロチンチョークのように永田の首に固定。そのまま足で押さえつけながら絞めるフットチョークで完勝！

yaoki

宇野選手は逆境に強いイメージです。あと……性格が悪いと思います（笑）

青木 悩んでましたねぇ……。今回の試合後にハジけてたときも、「あぁ、『DREAM・1』のときにこういう試合ができてたらなぁ」って、しみじみ思いましたよ。けっこう責任を感じてるんですよ。『DREAM・2』と今回の試合で、やっとこれでトントンに戻せたかなぁって。

—「んあ〜！ まだまだだぁ〜」。……サダハルンバはこうやって黒く念じているはずです（笑）。

青木 確かにこれからです！ 次の闘いも……、宇野薫という選手がボクを強くしてくれると思いますし。

—決まりましたね、決勝ラウンドの相手。宇野さんはどういう印象ですか？

青木 う〜ん……33歳。

—あ、まず年齢（笑）。

青木 あとオシャレ!!

—もう会見のネタはいいですよ。ファイターとしての印象です！

青木 そうですねぇ、宇野選手は逆境に強いっていうイメージですね。それとトータルファイターですよね。スタンドもグラウンドの技術もあって、強いと思いますよ。あとやっぱり……根本的に性格が悪いと思います（笑）。

—ダハハハハ！ え〜っと、いまの発言、削ります（笑）。

青木 いやいや、へんな意味じゃなくて、格闘家としての性格の悪さですよ？ これ、けっこう重要なんですよ。

—つまり、非情さがあるってことですか。

青木 そうです！ 絶対になんとしても勝とうっていうのが感じられるんですよね。

—宇野さんにそんな怖さを感じるんですか。それはおもしろいなぁ。

青木 ……ぶっちゃけ、すべて怖いですよ。ボク根性ないから（かわいらしく）。宇野選手って、「若者に負けてられるか」っていう気持ちもじつは内面に持ってると思うんです。けど、これからの格闘技界って、ボクら若い世代が頑張らないとダメですから。いつまでも、前の世代に背負わせるわけにもいかないんで。

—いいなぁ、「若者」という言葉の響き（笑）。青木さんの言う「ボクら」って誰ですかね？

青木 ミドル級だとケガール・ムサシくん。ボクの後輩です!!

—あと同級生のカルバンくんとか。青木さんとは仲が悪いですけど（笑）。

青木 あとは一つ後輩のエディ・アルバレスくん。彼にも頑張ってもらわないと！

—そう考えると、青木さんと同世代の日本人選手は出てきてないですね。

青木 そう、先輩だらけ!!

—で、あまり先輩にかわいがられてないというか（笑）。

青木 あんまり後輩がいないからこそ、はしゃいでるボクが脅威だったりするんでしょうね。

—そうそう、世代間の話につながるんですけど、青木さんは昨日の桜庭選手の試合をどうご覧になりました？ 桜庭さんって、興行的に闘わなきゃいけない部分があったりするじゃないですか。

大阪はいろんな選手が出ますけど ボクらライト級の試合がメインです！

青木　そこは正直、凄いと思います。

——青木さんもＤＲＥＡＭでは、そういう局面があったと思うんですけど。

青木　だからこそ尊敬しますね。

——青木さんは自分の身体を犠牲にしてまで闘うっていう心構えはあるんですか？

青木　ありますね、正直。そこはケガとか関係ないっていうのはありますよ。

——青木さんは年を取ったらどういう闘い方をしていきたいですか？　いわゆる最強を目指す道からは徐々に外れていくわけじゃないですか。

青木　ボクは格闘技が好きなかぎり続けたいですけど、逆に最強を目指さなくなったら辞めます（キッパリ）。やっぱりファイターとしての最強でもあるし、男としてのロマンの最強でもあるし。

——たとえば、その〝最強〟を目指すうえで、ほかの団体の選手に目はいきます？

青木　全然いきますよ。ＵＦＣの選手を見ても単純にすげぇな、やりたいなって思いますし。条件さえ許すんであれば勝負したいって思いますよ。まぁ、いまのボクはＤＲＥＡＭでの責任があるわけだし、好き勝手にできることじゃないんですけど。でも、素直な気持ちを言えばやりたいですよ。強いヤツがそこにいるのであれば。

——じゃあ、そこはステージじゃなくて選手個人だったりするところもあると？

青木　まあ、いくら名前があっても、適当な相手と適当な試合をしているヤツには魅力を感じません。ＢＪペンみたく素直に強さ求めて試合しているほうが絶対にカッコいいですよ。

——つまり、どんなに強い選手だろうが、挑戦する姿勢が必要だってことですか？

青木　そうです！　やっぱりいままでの経験を価値あるものにするために挑戦するんだと思うんですよ。プロとしてのお金も重要ですけど、それ以前に強い選手と闘いたいのは男としてのロマンだから。

——選手本人の闘う動機にファンは応援するわけですからね。

青木　１００万円くれるから試合するとかっていう感覚になったら、もうボクは格闘家を辞めますね。もちろんお金をもらうことに対するプライドは持ってるんですよ。だけどお金じゃない部分があるんですよね。……ボク、わけわかんないこと言ってますか？

——いや、大丈夫ですよ（笑）。

青木　だからどんどん挑戦していくしかないわけですよ。チャンピオンになってもベルトなんかどうでもいいんだから。ベルトは押し入れ、もしくは質屋ですよ。

——また極端ですね、青木さん（笑）。

青木　いまボクがほしいのは勝ったときの充実感とロマンなんですよ。だから挑戦したいんです。この２年間そういう道を歩んできてますけど、まだまだこれからも挑戦したいんですよ。

——なんか、ＤＲＥＡＭでいろいろなことを経験したことで、格闘技に対する考え方って変わりましたか？

青木　……あんまり変わってないですかね。

——いや、そこは「変わった!!」という答えが聞きたかったのに（笑）。自分が大人になったっていう感覚はないですか？

青木　純粋に格闘技が好きで、最強になりたいっていうのは変わらないですね（笑）。いつも思うんですけど、ボクは最高の試合を組まれたら最高の仕事をするから、あとは結果が出たら任せた！　みたいな。だから、まったく何も考えてないです。……けど、好きですよ、ＤＲＥＡＭ。

——ダハハハ！　突然、何を言いだしてるんですか（笑）。

青木　いやいや、わりとＤＲＥＡＭを愛してるほうですよ！

——誰に釈明しているんですか、いったい（笑）。まあ、大阪の『ＤＲＥＡＭ・５』はかなり楽しみですね、どうなることやら。

青木　なんかいろんな選手が出るみたいですけど、ボクらライト級の試合がメインです（キッパリ）。そこは忘れさせないです。

——対戦相手以外の出場選手とも勝負？

青木　テレビ放映がゴールデンだからとか、こっちが闘う動機はそんなんじゃないですからね。つらい思いをして、わけわかんないところからＤＲＥＡＭを支えてきたんですから！

——よっ、涙のカリスマ!!

青木　……その甲斐あって、最近はスタッフも優しいんですよねぇ。

——たとえば？

青木　今回、初めてホテルに泊めてくれた!!

——それ、あたりまえですよ！　『やれんのか』のときはＤＥＥＰジムに寝泊まりしたワオ木さんからすれば、ステップアップですけど。

青木　ホテルって、朝は食べ放題なんですよ！

——よかったですねぇ。まあ、宿泊客はあたりまえですけど（笑）。

青木　タダだと思って死ぬほど朝飯食ってたら、マヌーフがもっと食ってて、たくましくならなきゃあかんな、と（笑）。

——そんなことより、最近のスパッツ、ネタ切れじゃないですか？

青木　してないでしょ!?　失礼なこと言われたら困るよ！

——いやいや、今回の柄も何ネタなのかなぁと思って。わかんなかったです。

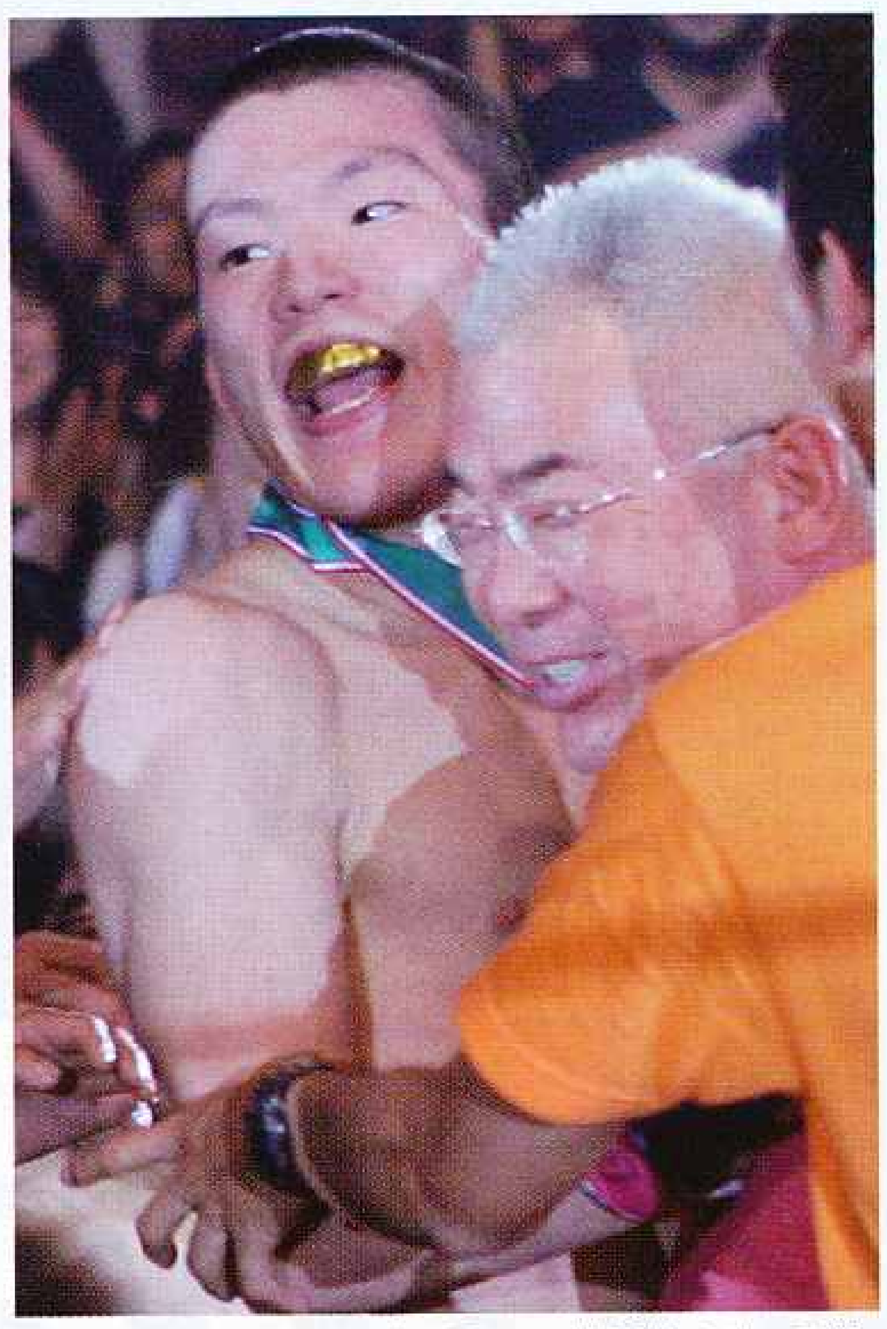
青木　ラウンドガールカラーです！（なぜか自慢気に）。

——ダハハハハ！　どんなネタですか！

青木　まあ、大阪も楽しみにしてくださいよ。『バカサバイバー』が合うと思うんですよね、ウルフルズの地元ですし。

——わかりました。新世紀のＭＭＡを期待してます！

【08年6月16日／都内ホテルにて収録】



あおき・しんや■1983年5月8日、静岡県出身。柔道、柔術、サンボなどに精通。軽量級最強グラップラーの呼び声が高く、その類い希なる技術で観る者を魅了する。そしてこのたび公武堂から、すっかりおなじみ青木パパのＴシャツの発売が決定！　181㎝、70kg。



残ったメンバーを見て「優勝しちゃうんだろうな、俺」って思いましたね

川尻達也
Tatsuya Kawajiri

5.11『DREAM.3』で盟友・石田光洋が宇野薫に敗れると「やれんのか!」とばかりに対戦要求をブチ上げた川尻。一夜明け会見では非礼を詫びた川尻だったが、宇野とやりたい気持ちに変わりはないはず。しかし、6.15『DREAM.4』横浜大会の休憩明け、リング上で行なわれた運命の公開抽選で川尻の相手に決まったのは……さ、笹原イベントプロデューサー!?(左ページの写真参照)

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

——ボクは公開抽選を2階席のうしろのほうから見てたんですけど、どうやら川尻選手の準決勝の相手は笹原(圭一)イベントプロデューサーになったみたいですね?

川尻 そうッスね。いろいろ鬱憤もあるんで、ちょっととっちめてやろうかな、と。

——エッ、何か笹原さんに不満でもあるんですか?

川尻 いや、べつにないですけど(笑)。

——冗談はさておき、準決勝戦の相手は熱望していた宇野戦ではなく、エディ・アルバレスに決まったわけですが、率直な感想を聞かせてください!

川尻 原稿用紙で何枚ぐらい語ればいいですかね?(笑)。

——枚数的には8枚分ぐらい語っていただければ、と(笑)。

川尻 わかりました(笑)。まあ、結果はともかく、公開抽選っていうのはフェアでよかったんじゃないですか。みんなの前で対戦相手が決まるっていうのはわかりやすいと思うし。

——ただ、個人的な感情もそうでしょうし、お客さんのリアクションを聞いても、やはり川尻vs宇野戦を期待している人は多かったみたいですけど。

川尻 そうでしたね(苦笑)。まあ、あれだけ盛り上がったんだから「組んじゃえばいいじゃん!」って思いもあるんですけど、そこはやっぱり、僕一人でどうこうできないんで。

——まあ、そうですよね。

川尻 そういうのも含めて、自分の中でうまく怒りを次の試合にぶつければいいと思うし。まあ、グダグダ言っててもしょうがないんでね。

——あれ、宇野さんへの対戦要求からだいぶ経ってますけど、怒りの感情も少なからずあるわけですか?

川尻 怒りっていうか、率直に闘いたいなっていう、その気持ちだけですね。おもいっきりやり合いたかったなって。ハッハッハッハッ!

——結果的にはアルバレスになったわけですが、どうですか、試合をシミュレーションすると。

川尻 まあ、もう決まったんで、3文字だけッスよね。

——ん!? なんですか、3文字って?

川尻 まあ、それはご想像にお任せします(ニヤリ)。

——3文字っていってもいろいろありますけど、平仮名ですか? それともアルファベット?

川尻 平仮名!

——平仮名で3文字? "つぶす"とか?

川尻 まあ、そういう感じで。

——対アルバレス戦に対して、その3文字ってことなんですか?

川尻 いや、もう誰が相手でも。まあ、問題ないッスね!(キッパリ)。

——自信満々ですね。

川尻 たぶん、エディにKOでもなんでも勝てば、もうそのまま勢いでいっちゃうんじゃないかなって。もう、いくしかないでしょう! みたいな感じですよね。

——アルバレスの強さは、このあいだのヨアキム(・ハンセン)戦でだいぶ浸透した感もありますし、それこそKO勝ちなんかしたら、その勢いで「これは優勝するだろ」みたいなムードも高まるでしょうね。

川尻 たぶん、その勢いでいけると思いますよ。

——大会後のリング上では「たぶん、優勝しちゃうと思います」と、早速、優勝宣言も飛び出してましたが、かなり自信があるわけですね?

川尻 そうッスね。なんか準決勝に残ったメンバーを見て、「あ、優勝しちゃうんだろうな、俺」みたいな。

——ほう!

川尻 これはイケるなっていう。今日の青木(真也)くんと永田(克彦)選手の試合を観て、「青木、スゲェ!」とか、このあいだのエディとハンセンの試合を観て、「エディ、スゲェ!」とか、宇野さんと石田(光洋)くんの試合を観て、「宇野選手、つえ~な」って、みんな思ったと思うんですよ。もちろん、僕もみんな素晴らしい選手だと思うけど、ぶっちゃけ「ふ~ん」って感じなんですよね。

——とにかく自信があると?

川尻 もちろん、簡単に優勝できるとは思ってないけど、1回戦のエディを越えればイケるんじゃないかなっていう、そんな気がするんですよ。

——気がするんだったら、しょうがないです(笑)。

川尻 いや、気だけじゃなくて、根拠

もう誰が相手だろうが平仮名で3文字だけです！

もあるんですけどね。

—根拠もあるなら完璧じゃないですか⁉

川尻 はい、完璧です（笑）。

—そういえば、川尻さんって宇野さんと誕生日が一緒なんですよね。お互い5月8日生まれで。

川尻 そうッスね。血液型も一緒なんです。二人ともB型で。

—血液型も。じゃあ、試合スタイルこそ違うとはいえ、どこかしら共通点はあるんですかね？

川尻 いや、とくにないッスね（キッパリ）。

—あ、そうですか（笑）。ちなみに、青木さんは5月9日生まれで、勝ち残った選手は誕生日が近いんですよね。だから、どうしたって言われるとそれまでなんですけど（笑）。

川尻 エディはいつなんですかね？

—エディはちょっとわかんないんですけど（※1月11日生まれ）、K—1MAXで2回優勝しているブアカーオ（・ポー．プラムック）も川尻さんと同じ誕生日なんですよね。なんか縁起がいい気がしません？

川尻 それを言ったら宇野さんも一緒じゃないですか（笑）。

—あ、そうか（笑）。

川尻 あと、曙選手も同じ誕生日なんですよ。

—曙さんもそうなんですか。もう一つ言えば、プロレスラーの田上明さんもそうみたいですよ。

川尻 あ〜、そうなんですよね。

—知ってましたか。田上さんも茨城在住なんですけど、何かしら接点はあるんですか？

川尻 いや、ないッスけど（笑）。あとは光GENJIの赤坂晃も同じなんですよ。

—……。話題を変えたいと思います。



『DREAM.4』の休憩明けに行なわれたライト級GP決勝トーナメント公開抽選。青木、川尻に続いてクジを引いた宇野の相手は……川尻ではなく青木。最後にエディの代理・笹原EPが川尻の横に並び、7.21大阪大会のカードが確定した。

川尻 ハッハッハッハッ！

—早くも優勝宣言が飛び出した川尻さんですけど、決勝は青木選手と宇野選手のどちらが勝ち上がってくると思います？

川尻 う〜ん、どっちがっていうのはわかんないですけど、青木くんがやりたいことは決まってるじゃないですか。一本取るっていう。

—まあ、そうですよね。

川尻 でも、宇野さんってオールラウンダーなんで、やった人にしかわかんないと思うんですけど、相手の気持ちをはぐらかすのがうまいんですよ。相手の思いとか考えをすかすっていうか。

—なんか実感がこもってますね（笑）。

川尻 そういうタイプって、たぶん青木くんやったことないと思うし、青木くんは剛のタイプに強いと思うんですよ。相手をいなして一本取る、みたいな。で、宇野さんはそういう闘い方もできるし、ガツンと剛vs剛でいく闘い方もできると思うんで。その中で宇野さんがどういう戦略を練ってくるかによって勝者は違ってくるんじゃないですかね。

—まあ、理想としては、決勝で宇野さんと闘いたいっていうのが本音なんじゃないですか？

川尻 そうなるんであれば、そうなってほしいですけどね。まあ、いつもどおり媚びずに自分のやりたいことを好き勝手にやって、それを応援してくれるファンと一緒に夢を見たいなって感じですね。

—好き勝手にやって、テイク・ザ・ドリームする、と？

川尻 そんな感じです（笑）。僕はホント、自分の好き勝手に闘ってるだけなんで。そういう自分に対して声援を送ってくれる人はホントありがたいと思うし、偽善じゃなくて凄く力にもなるし。

—実際、好き勝手やって、それが評価されたら一番いいですよね。

川尻 そうッスね。それに自分って、ほかの選手に比べると普通だと思うんですよ。

—普通といいますと？

川尻 たとえば、青木くんみたいな、凄いひらめきの関節技だったり、宇野さんとか（桜井）マッハさんみたいな流れるような動きだったり、観てる人が惚れ惚れするような、そういう動きってできないんで。

—どちらかというと器用なタイプではないですよね（笑）。

川尻 おもいっきり不器用ですから（笑）。ただ単純に「強くなりたい」、「絶対負けたくない！」っていう気持ちだけでやってきたんで。だから、会場に観に来てくれたファンの人が好きで格闘技を始めて、負けたくないっていう気持ちで続けた結果こうなったっていう。

—こうなっちゃいましたか（笑）。

川尻 べつにセンスもあるとは思わないし。だって、高校まではずっと陸上部でしたからね（笑）。

—そうなんですよね。

川尻 そういう意味では、みんなの代表っていう気持ちもあるし、みんなも頑張れば、僕みたいになれると思うんですよ。

—いやいや、それはかなり難しいかと思われます（笑）。まあでも、お客さんも感情移入しやすい選手ではあるんでしょうね。応援しがいがあるというか。

川尻 そうであったら嬉しいですよね。だって、気持ちいいじゃないですか？ 宇野さんや青木くん、エディとか凄いセンスを持った人を自分みたいなヤツがブッ倒したら。観ていてもおもしろいと思うし、それが一番盛り上がるんじゃないですか？

—まあ、そうですよね。

川尻 そういう意味でも、自分のことを応援してくれる人たちを裏切りたくないし、大阪で一緒に泣けたら最高ッスよね。

—優勝して、みんなで勝利を分かち合いたい、と。

川尻 そうッスね。もうね、ダイブしますよ、優勝したら！

—もしかして、道頓堀とかですか？

川尻 いやいや、観客に。

—観客にダイブって、花道から？

川尻 リングから（笑）。

—プロレスラーじゃないんですから（笑）。まあ、リング上から客席までは、ちょっと遠いような気もしますが、優勝記念ダイブ、期待してます！

川尻 客席まで届くかどうか、わかんないですけど、ダイブできるように頑張ります！

【08年6月15日／『DREAM.4』大会後の横浜アリーナにて収録】



かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。00年4月、修斗での中山功戦でプロデビュー。04年12月、ビトー・シャオリン・ヒベイロに勝利し第8代修斗世界ウェルター級王者に。05年からはPRIDE武士道で活躍。今年3月からDREAMに参戦。7.21『DREAM.5』大阪城ホール大会ではエディ・アルバレスとの対戦が決定している。171センチ、70キロ。



PRIDE vs HERO'S最終章!?
青木真也戦決定!!



宇野薫

Caol Uno

“夢”のカギを握る男

全試合レビュー付き徹底大特集

聞き手／橋本宗洋　撮影／吉場正和

「ルミナさんと闘いたい」って修斗時代はそれだけでやってました

ついに、DREAMライト級GPファイナルの組み合わせが決定した。4人全員が独自の個性の持ち主、一人として〝格落ち〟などいないし、誰を中心にして見ても興味深い、稀有なメンバーによる闘いである。

宇野薫も、他の3人に劣らぬ、このGPの大きな焦点だ。開幕戦欠場、2回戦で石田光洋をスリーパーで下し、試合後には川尻達也からケンカ腰の対戦要求を受けた。そういう流れの中で、宇野の存在感は増すばかり。

だが、と思う。我々は宇野についてどれだけのことを知っているだろうか。旧PRIDE勢との闘い、その化学反応によって輝きを放っているように見える宇野だが、それはファンの〝見方〟が変わったにすぎないのではないか。

あらためて宇野の闘いを振り返れば、それはほとんど〝激動〟と言っていい。佐藤ルミナというカリスマを倒しての修斗王座獲得。ルミナとのリマッチを制した直後に王座を返上し、UFCに参戦すると中量級創成期の立役者となった。そして『HERO'S』でも常に中心選手としてシビアな闘いに身を投じ、〝お茶の間テレビコンテンツ〟のイメージが強かった大会のコアな部分を担ってきたのである。宇野薫という選手は、常にリスクを厭わず、前へ前へと進んできたのだ。

ただ、これまではそのことが充分に伝わってこなかったのではないか。どんなリスキーな試合でもスマートに、あるいは淡々と〝こなして〟いるように見えてしまう宇野は、じつは最も実像とイメージが乖離した選手なのかもしれない。

いまこそ、宇野の格闘人生を振り返らねばならない。決して多くを語らず、漠然としたイメージの中で、彼は何を思い、なんのために闘ってきたのか。このインタビューはGPファイナルの組み合わせが決定する前に収録したものだが、大一番へと向かう宇野のモチベーションの在りかを読み解くヒントにはなるはずだ。

——今回は宇野選手のこれまでの闘いを振り返りながら、どんな姿勢でプロとして生きてきたのかをお聞きできればなと思ってます。

宇野　はい。よろしくお願いします。

——有名な話ですが、宇野選手は高校生のときにパンクラスの入門テストを受けてるんですよね。

宇野　そうです、はい。

——で、残念ながら合格はできなかったんですが、その後、どういう経緯で総合格闘技の道に進んでいったんですか？

宇野　普通に「洋服屋さんで働きたいな」とも思っていましたけど、たまたま、専門学校の友だちが「佐藤ルミナっていう強い選手がいる」って教えてくれたんです。それで調べてみたら、シューティングジム八景というジムにルミナさんが練習に来ていて。そこで、最初は体験入門して、その後も何ヵ月か通いました。

——じゃあもう、総合格闘技のスタート地点からルミナさんがいたという。

Caol Uno

宇野　アルバイトをしながら、ルミナさんを目指してアマチュア修斗に出て、いつかはプロになってルミナさんとやりたいと思っていました。その頃は漠然とした夢だったんですけど。

——慧舟會に入ったのもその頃ですか。

宇野　最初は八景ジムと慧舟會に並行して行っていましたけど、両方はなかなか通えないし、その当時同門では闘えないというのもわかってきて、修斗オフィシャルジムの選手を倒すのもいいのではと言われたのもあったし。それと廣野（剛康）さんがいたこともあって慧舟會でやっていくことにしました。

——ああ、八景ジムにいてはルミナさんと闘えないんだ、と。

宇野　慧舟會に入ったときに、守山（竜介。和術慧舟會東京本部代表）さんに「ルミナくんとやりたいんだったら、相手の3倍は練習しなきゃダメだよ」って言われたんです。考えてみると、その言葉だけでやってきたような気がします。

——実際、キャリアを重ねるにつれて注目度も上がって、ルミナさんとのタイトルマッチにまでこぎ着けますよね。

宇野　はい。

——しかも、その試合で劇的な勝ち方をして。デビュー前からの目標を、そこで達成しちゃったわけですよね。

宇野　達成感というか……よく〝真っ白な状態〟っていいますけど、本当にそんな感じでした。燃え尽きた感というか……。ただ、ルミナさんとはもう一回やるだろうという心構えのような気持ちはありましたので、ベルトはそのときまで持ってなければいけないと思いました。

——チャンピオンになった嬉しさよりも、「ベルトを持ってなきゃいけない」って感じだったんですね。当時の修斗って、Tシャツ人気も含めて凄く注目されてたじゃないですか。そういうリングのチャンピオンであるってことに充実感はなかったんですか？

宇野　やはり、ルミナさんに勝って真っ白になってしまった感じです。

——とにかくもう、ルミナさんの存在がひたすら大きかった。

宇野　だからベルトも、獲ってすぐ返上すればいいことだったのかもしれないけど、それだと勝ち逃げになってしまうなって思ったんです。それはルミナさんに対して失礼になると。

——あくまでもルミナさんとの再戦のためにベルトを巻いているってことですね。他の選手に対しては、そこまで熱くなれなかった感じですか。タイトルを守り続けることがモチベーションにはならなかったというか。

宇野　たとえば「ベルトを守る」とか「次はこの選手とやりたい」みたいなことを言うのは、嘘になってしまう。素直に言うとそういう気持ちにはなっていなかったので、それは嫌でした。やはり僕の中ではルミナさんが目標で、「ルミナさんといつか闘いたい」って、ただそれだけでやってきたので。

——じゃあ、ルミナさんとの再戦で勝ったときは、それこそベルトを持ってる責任感から解放されたというか。

宇野　責任感……なんて言っていいのかわからないけど、あのときは「こういう自分がベルトを持っていたら失礼なんじゃないか」と思ったんです。

——ルミナさんに連勝して、もう目標のない自分がチャンピオンでいてはいけない、と。あの試合ではリング上でタイトル

「ベルトを持ってなきゃいけない」って感

い、と。あの試合ではリング上でタイトル



返上を宣言されましたけど、その後のことって何か考えてたんですか？

宇野　考えていないです。

——じゃあ、格闘技そのものを続けるかどうかっていうのも……。

宇野　正直、わからなかったです。格闘技は好きなので続けたいという気持ちはありましたけど、どうしたらいいのかはわからなかった。

——じゃあ、そこで格闘技人生の大きな節目を迎えて。

宇野　そうですね。そういう時期に、母親から昔の『格通』（＝『格闘技通信』）の選手名鑑を見せられたんです。そこに、自分の目標として「世界に通用する選手になりたい」と書いてあって……。「こうなりたいんじゃなかったの？」と言われ、あらためて自分の気持ちに気づいたというか。

——そういう中で、UFC出場が決まったわけですね。

宇野　たしかシアトルで練習していたとき、UFCの話が来たんです。

——UFCでも中量級の中心選手として活躍して、日本に戻って修斗で川尻（達也）選手と闘って。その後、『Dynamite!!』出場から『HERO'S』へとつながるわけですが。他の選択肢もあったと思うんですけど、『Dynamite!!』出場を選択した理由はどこにあったんですか？

宇野　選択肢というと……？

——単純にPRIDE出場もあったでしょうし、ほかにもいろいろ大会はありますよね。

宇野　あのときは、修斗でヨアキム・ハンセンとやる予定だったんですよ。それがハンセンのケガで流れちゃったんですけど……。ただ、強い選手と闘いたいという

1
[1996.10.4 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
×vs桜井速人
(1R 1分04秒 腕ひしぎ十字固め)

プロデビュー戦ですけど、グラウンドでパンチされたときに「こういうルールなんだ」って初めて気づくぐらいに緊張してました。マッハ選手はアマのときから強い選手だなって気になってましたね。

2
[1997.5.28 エクストリームチャレンジ]
国立代々木競技場
○vsパトリック・アベルス
(1R 2分20秒 フロントチョーク)

初の外国人選手との試合ですが、それよりプロ初勝利として記憶に残ってます。相手の外国人特有の力強さは凄く感じましたけど、動きのある理想的な試合ができたので少し自信がつきましたね。

3
[1997.6.5 プロ修斗公式戦]
北沢タウンホール
○vsYUZO
(1R 2分14秒 チョークスリーパー)

修斗ではマッハ選手に負けて以来の参戦ですが、結果を出せて安心しました。北沢タウンホールでの修斗の大会っていまでこそ定着してますけど、たぶんこのときが一番最初だったと思います。

©SUSTAIN


4
[1997.10.12 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
△vs桑原卓也
(2R終了 判定 1-1)

この試合はドローなんですよね。桑原選手はマッハ選手ともドローになるくらいに地力のある選手で。身長に対して力が相当に強かったのでやりにくかったです、その壁を崩せなかったというか。

5
[1998.3.1 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
○vsルタ☆ユージ
(2R終了 判定 3-0)

この頃は修斗のオフィシャルジムが強い時期で、それ以外の選手にとってはチャレンジマッチみたいな感じでした。この試合もその一環というか。試合内容的にはスウィングしておもしろかったですね。

©SUSTAIN


6
[1998.5.13 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
○vsイアン・J・シャファー
(3R 3分13秒 腕ひしぎ十字固め)

修斗でクラスAになって最初の試合ですね。なかなか極められずにてこずった記憶があります。シャファー選手はいまもK-1 MAXとかで活躍してますけど、当時から打撃が凄い強い選手でしたね。

©SUSTAIN


7
[1998.7.29 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
○vsスボンコ・セコリエビッチ
(1R 3分15秒 三角絞め)

相手はブランコ・シカティックの弟子です。ルミナ選手が骨折して急きょ代役として2～3週間前のオファーで出て。いまは大会ギリギリのオファーが多いと話に聞きますが、当時は珍しくて。でもずっと練習してたんで、あせらなかったですね。

©SUSTAIN


8
[1998.10.25 VTJ '98]
東京ベイNKホール
○vsヒカルド・ボテーリョ
(3R 2分03秒 TKO)

これは大抜擢を受けた試合ですね、坂本さん（サスティン代表）が「若手のイキがいいのを」っていうことで第1試合に登用してくれて。結果的にその期待に応えられてよかったです。ルミナ選手との試合に近づけた試合というか。

©SUSTAIN


9
[1999.5.29 プロ修斗公式戦]
横浜文化体育館
○vs佐藤ルミナ
(3R 4分02秒 チョークスリーパー)

ルミナ選手はボクにとって憧れで修斗で一番強い選手といつか試合がしたいっていう、ただその気持ちだけで頑張ってきました。それがまさか勝つとは思わなかったので自分でも驚いたというか、不思議な感じでしたね。

©SUSTAIN


10
[1999.9.5 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
○vsディン・トーマス
(1R 3分16秒 チョークスリーパー)

固いというか強さのある選手でした。個人的にはそんなに動けた試合ではなかったのですが、内容的にはおもしろかったんじゃないかなと思います。ルミナ選手に勝ったあとだったので、いい試合しなきゃっていう部分で少し空回りしたかも。

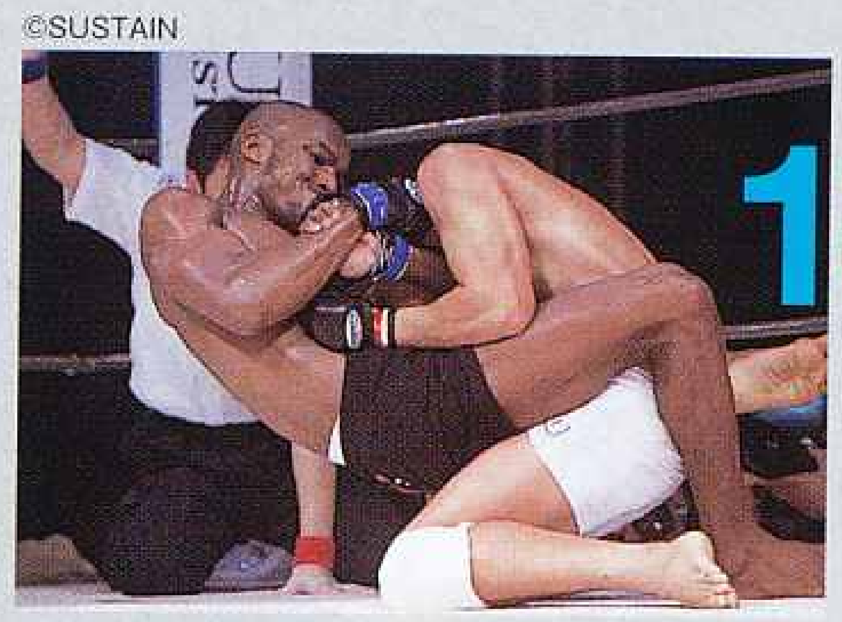
©SUSTAIN


11
[1999.12.11 VTJ '99]
東京ベイNKホール
△vsアンドレ・ベネデイラス
(時間切れ引き分け)

年齢的に上の選手なんですけど、相当タフでした。試合はちょっと固くなっちゃいましたね、最後の最後にちょっと展開できたくらいで。試合後にもう少し早く仕掛ければよかったと反省した記憶があります。

12
[2000.4.2 プロ修斗公式戦]
なみはやドーム
○vsデニス・ホールマン
(3R終了 判定 3-0)

ホールマン選手はこの試合のあとUFCでマット・ヒューズ選手に勝ってるだけあって強かったです。もちろん自分としてはいい動きをしたいですけど、相手が実力者だとなかなか思うようにはいかないというのを痛感する試合でした。

©SUSTAIN


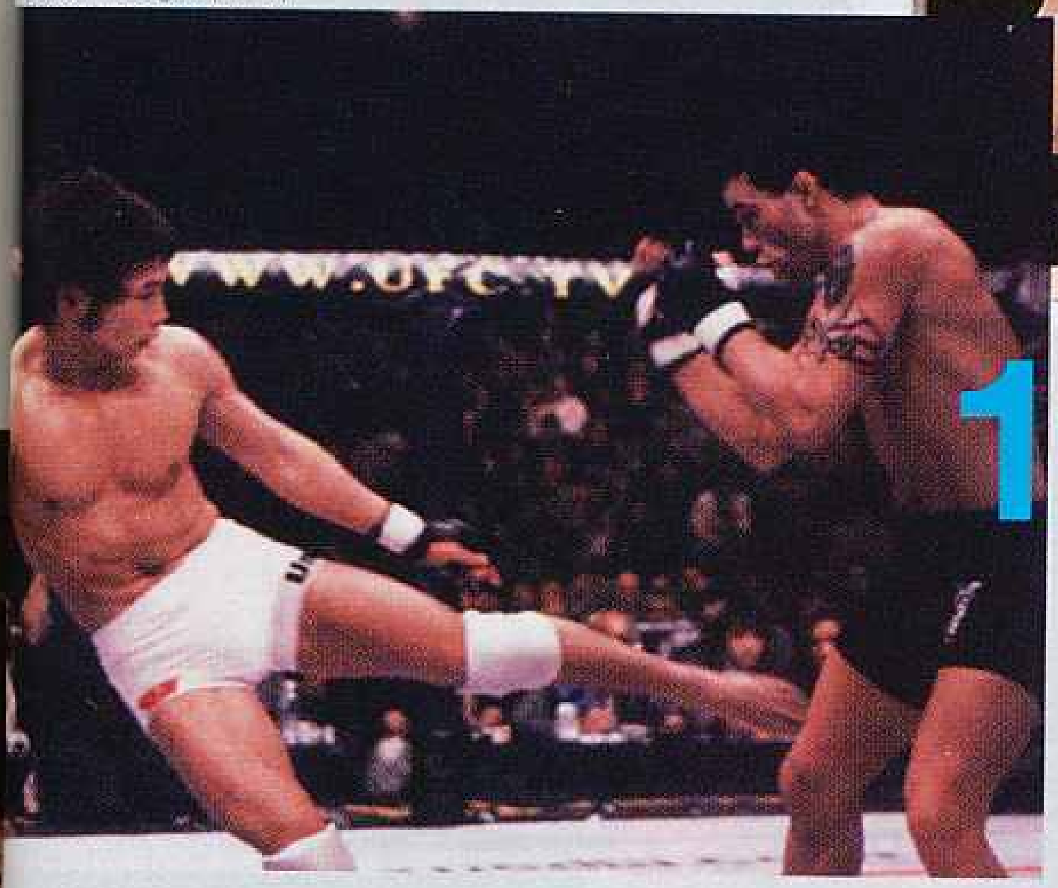
13
[2000.8.27 プロ修斗公式戦]
横浜文化体育館
×vsマーシオ・クロマド
(3R 1分49秒 フロントチョーク)

この頃は「ルミナ選手に勝ったんだから強くなきゃいけない、そのためにはいい試合をしなきゃいけない」っていう呪縛じゃないですけど、気持ちと身体が一致しないというか。練習してもうまくいかないっていう部分で苦しい時期でした。

14
[2000.12.17 プロ修斗公式戦]
東京ベイNKホール
○vs佐藤ルミナ
(1R 2分21秒 KO)

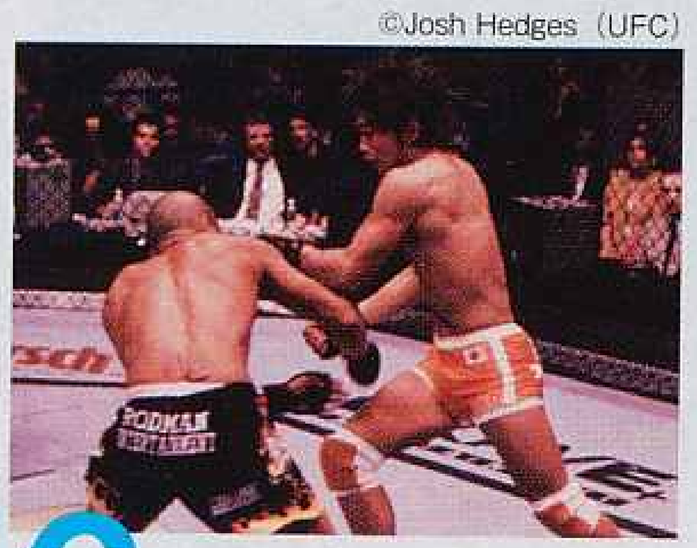
試合後にベルトを返上した試合です。もう一度ルミナ選手と試合ができると思ってたので、そのためだけにベルトは保持してたんです。それで結果を出せたので、このままベルト持ってることは失礼なんじゃないかと思い、自分一人の意志で返上しました。

©SUSTAIN


©Josh Hedges(UFC)


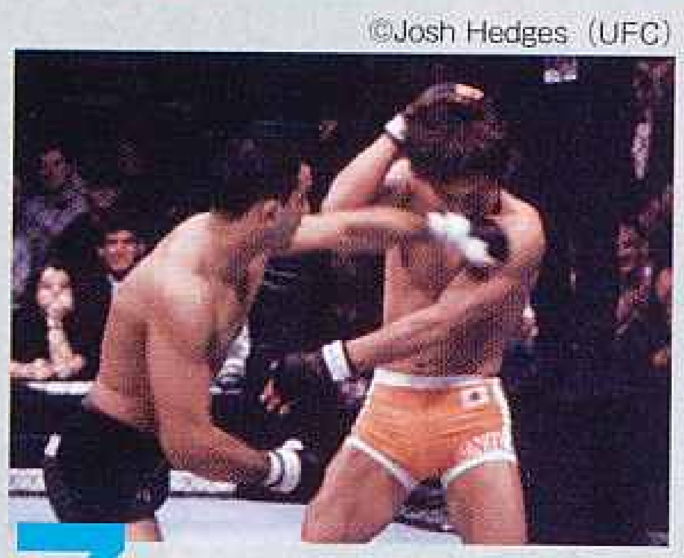
15
[2001.2.23 UFC30]
トランプ・タージ・マハール・カジノ
×vsジェンス・パルヴァー
(5R終了 判定 0-2)

UFCは大きい選手中心だと思ってたので参戦できるとは思ってなかったです。相手のパルヴァー選手はずっと気になってた選手です。ベルト返上して、今後どうなるのかなって思ってた時期だったので、なんか導かれてるような不思議な感じでした。

©Josh Hedges (UFC)


16
[2001.6.29 UFC32]
CALアリーナ
○vsファビアノ・イハ
(1R 1分49秒 TKO)

いいのが入ったっていうのは感覚でわかったんですけど、まさかKOするとは思ってなかったです。タイトルマッチの敗戦後の試合だったので、仕切り直しという意味ではいい勝ち方ができましたね。

©Josh Hedges (UFC)


17
[2001.11.2 UFC34]
MGMグランドガーデン
×vsB.J.ペン
(1R 0分11秒 KO)

試合内容は覚えてないですね。こっちの攻撃がかわされたと思ったら、アッパーがきて。全然見えなかったです。こういう経験はあとにも先にもこの試合ぐらいです。気づいたら控室でした。



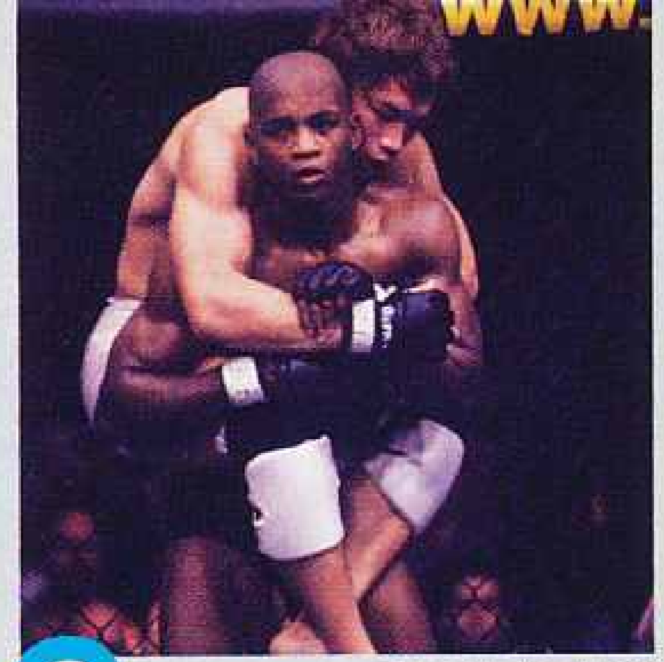


ビュー

修斗～UFC～HERO'S、そしてDREAM。
総合格闘技の黎明期から今日まで、常に第一線で
活躍を続けてきた宇野薫。ここではキャリア12年にわたる
激闘の歴史を、宇野本人に語ってもらった。
カオルコ（宇野の追っかけ）はもちろん、PRIDEファンも
"HERO'Sのプリンス"の輝かしい戦歴に注目せよ!

プリンスの華麗なる軌跡

宇野薫全試合レ



©Josh Hedges (UFC)

18 [2002.5.10 UFC37]
センチュリーセンター
◯vsイーブス・エドワーズ
(3R終了 判定 3-0)

イーブス選手はルミナ選手にアッサリ負けた印象があったんですけど、実際試合をするとディフェンスがうまくて強い選手でしたね。ペンに負けた次の試合だったんで精神的プレッシャーがキツかったです。

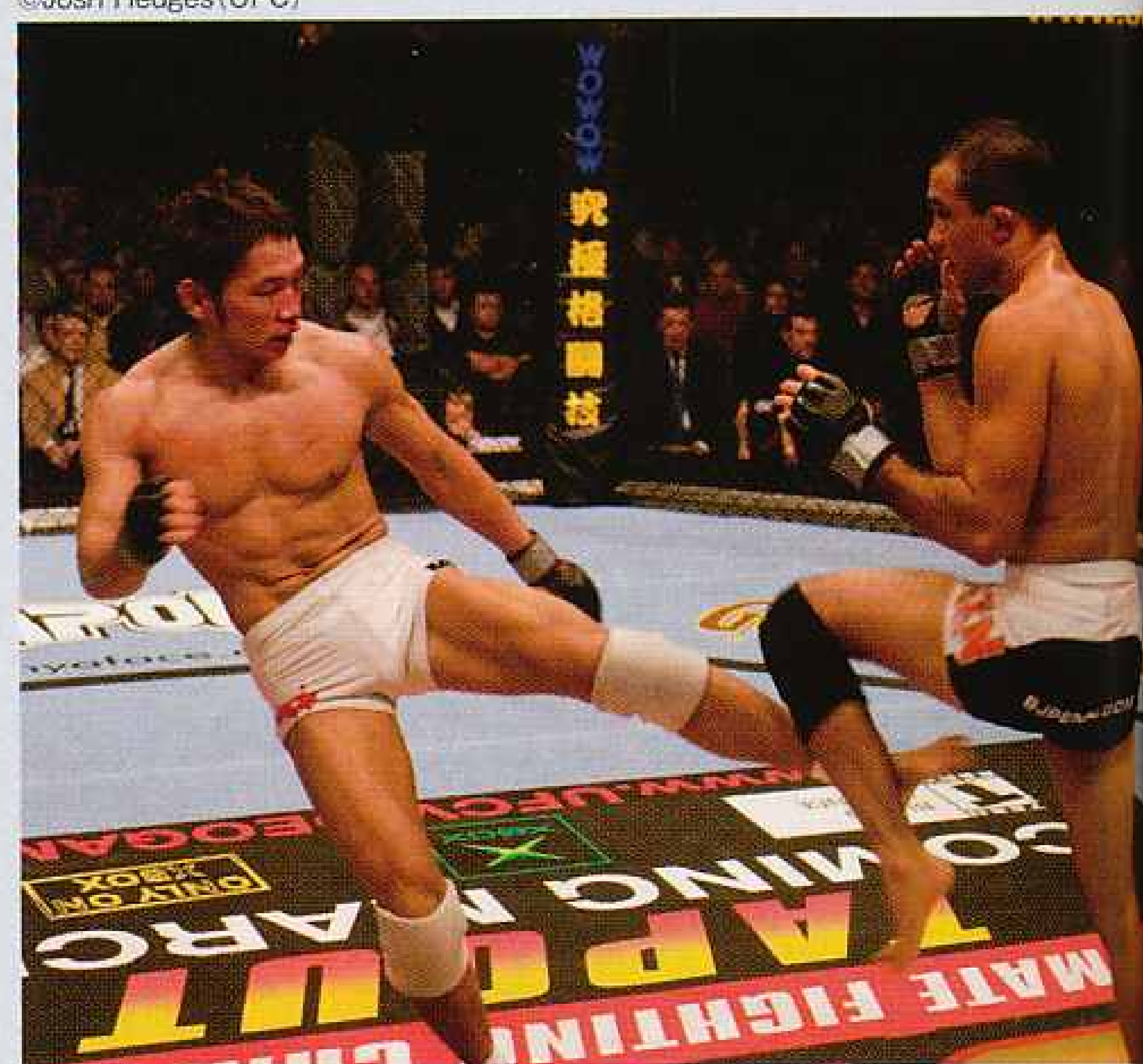
©Josh Hedges (UFC)



19 [2002.9.27 UFC39]
モヒガン・サン・アリーナ
◯vsディン・トーマス
(3R終了 判定 3-0)

二回目の対戦ですけどやっぱりガードが固かったですね。前回と違ってトップグループに位置するだけの力をつけてると思いました。これに勝たないとタイトルに挑戦できないので負けられない試合でした。

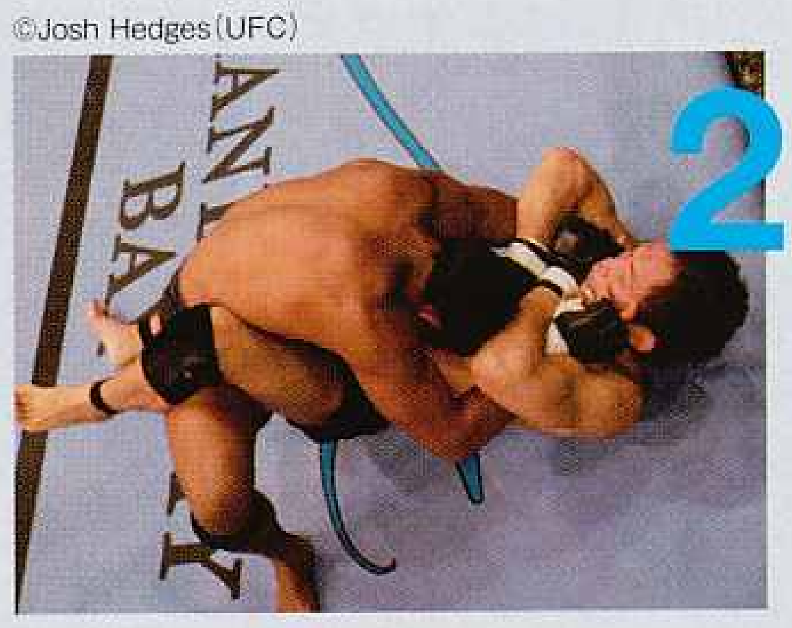
©Josh Hedges (UFC)



20 [2003.2.28 UFC41]
ボードウォークホール
△vsB.J.ペン
(5R終了 判定 1-1)

やっぱりペン選手は強かったです。前回の敗戦からなんとか勝ち上がってチャンスをもらったので、やっぱり負けたくないっていう気持ちがありました。恐怖心はなかったですね。結果的に負けなかったという意味ではよかったと思います。

©Josh Hedges (UFC)



21 [2003.9.26 UFC44]
マンダレイベイ・イベントセンター
×vsエルメス・フランカ
(2R 2分46秒 KO)

UFCの試合はすべて印象に残っているのですが、その最後の試合がこういうかたちに終わってしまったという部分では悔しいです。UFCというステージは日本のものとは違いました。最後の結果もそうですが、もう少し続けたかった気持ちはありました。

©SUSTAIN



22 [2004.3.22 プロ修斗公式戦]
後楽園ホール
△vs川尻達也
(3R終了 判定 0-1)

UFCから帰るときに最初に上がるリングは修斗って決めてました。出るなら勢いのある選手とやりたかったですし。ひさびさの修斗、しかも後楽園なので気合いが入りましたね。後楽園は好きな会場なので。熱を感じながら、いい試合ができてよかったです。



23 [2004.12.31 Dynamite!!]
大阪ドーム
◯vsチャンデット・ソーパンタレー
(2R 0分19秒 チョークスリーパー)

これは修斗のハンセン戦が、ハンセン選手の負傷で流れ、急なオファーでしたが『Dynamite!!』という大きなイベントで異種格闘技戦ができるということでギリギリの決断で出場しました。寝技30秒ルールという未知の経験できたのがよかったです。

©FEG Inc.



24 [2005.2.23 K-1 WORLD MAX 2005]
有明コロシアム
◯vsセルカン・イルマッツ
(1R 1分50秒 腕ひしぎ十字固め)

初のK-1 MAXのリングですね。お客さん層も違うということや、年末に引き続き、ストライカー系の選手に30秒で極めるルールにしろ、自分への挑戦がというのがありましたね。実際、30秒で極めるのは難しいなと思いました。



25 [2005.3.26 HERO'S]
さいたまスーパーアリーナ
×vsヨアキム・ハンセン
(3R 4分48秒 KO)

非常に勉強になった一戦です、最後に油断しなければ結果が出てたかもしれないですよね。ペン選手には開始11秒で負けて、この試合は残り12秒、こんな経験をして自分の糧になったというか。お客さんも内容は評価してくれて。



26 [2005.9.7 HERO'S]
有明コロシアム
◯vs所英男
(2R終了 判定 3-0)

ノゲイラ選手に勝って勢いのある所選手との試合だったので、負けられない気持ちと、自分がどれだけのものなのかっていう確認の気持ちが強かったです。所選手は実際実力があって、ちょっと間違えば危ないっていう場面が何回かありましたね。



27 [2005.9.7 HERO'S]
有明コロシアム
×vs山本"KID"徳郁
(2R 4分04秒 TKO)

高校時からレスリングの強さも知ってたので、トーナメントで一番闘いたかった選手です。まさか時代の流れとはいえこうして試合するとは思ってもいなかったですし、運命的なものを感じますよね。闘っていて楽しかったですし、凄く印象に残っている試合です。

©Josh Hedge



17 [200
MGM
×v
(1R 0
試合
攻撃
きて。
験はあ
気づい



34
[2006.10.9 HERO'S]
横浜アリーナ
×vsJ.Z.カルバン
(2R終了 判定 0-3)

カルバン選手の強さを、あらためて思い知ったような試合でしたね。メンジバー戦でほぐれて動き的には悪くはなかったんですが、カルバンの勝負強さが要所要所で感じられて、その結果が試合に出てしまった感じです。



31
[2006.10.9 HERO'S]
横浜アリーナ
◯vsアイヴァン・メンジバー
(2R終了 判定 3-0)

僕は一日複数の試合は経験したことはありますけど、この日は勝てば一日二試合ということもあってか、メンジバー選手が凄い固かったんですよね。内容には納得いかなかったですが、勝ってホッとしたっていう試合でしたね。

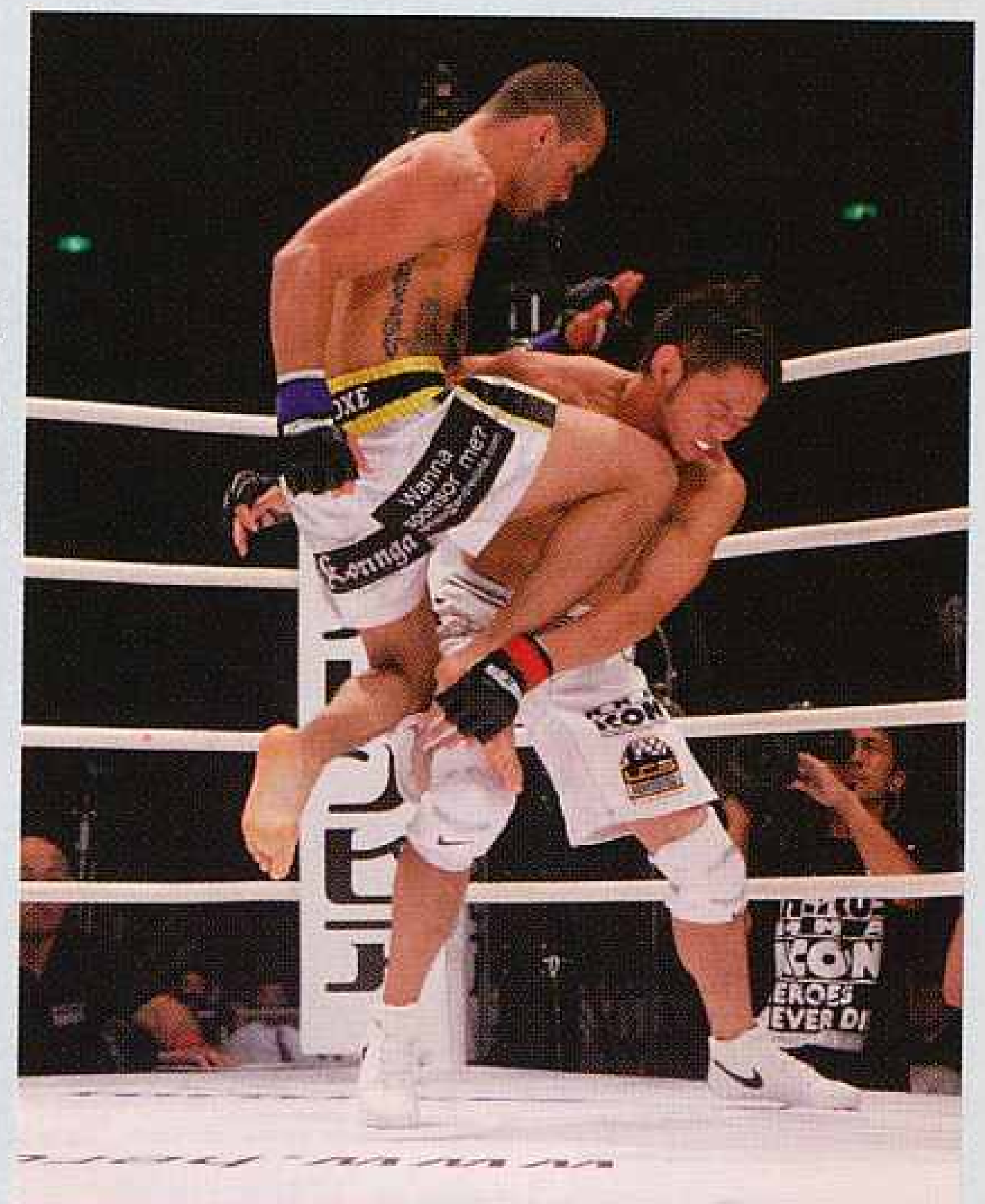


28
[2006.3.15 HERO'S]
日本武道館
◯vsリッチ・クレメンテ
(2R終了 判定 3-0)

相手の動きが硬くてしんどかった試合ですね。国内よりも海外のほうが知名度が高く実力者ということで、自分の試合をなかなかさせてもらえなくて。内容的に地上波にはどうかなって感じでした。もっと動きのある試合にしたかったです。

35
[2007.9.17 HERO'S]
横浜アリーナ
×vsアンドレ・ジダ
(2R終了 判定 0-3)

序盤で跳びヒザを食らってアゴを骨折した試合です。試合中もアゴがおかしいなっていう違和感があったんですけど、ドクターチェックで問題ないということで10分間なんとか持ちこたえて。意地だけで闘い抜いた試合でしたね。



36
[2008.5.11 DERAM.3]
さいたまスーパーアリーナ
◯vs石田光洋
(2R 1分39秒 チョークスリーパー)

いろんな部分で難しい試合でしたね。大きなケガからの復帰戦というのも初めてで。いままでの選手生活でプレッシャーのあった試合は少なくないんですけど、この試合が一番だったかも。実際やってて楽しかったし、いい試合ができたと満足してます。



32
[2007.3.12 HERO'S]
名古屋市総合体育館レインボーホール
◯vsアリ・イブラヒム
(1R 1分59秒 腕ひしぎ十字固め)

この選手は柔道のオリンピック代表ですよね。前日計量に比べて当日に身体が大きかったのが印象的でした。この年最初の試合だったので、カルバン戦の課題がどれだけ出せるかっていうのがテーマでした。結果的には十字が取れてよかったです。



29
[2006.5.3 HERO'S]
国立代々木競技場
◯vsオーレ・ローセン
(2R 4分36秒 チョークスリーパー)

須藤元気選手との試合を見てても感じたんですが、試合してみてやっぱ強いなって再確認しました。ディフェンスが固いのとグラウンドの力が凄かったです。だから一本取れそうなところまでいって、実際取るまでにけっこうてこずってしまいました。





33
[2007.7.16 HERO'S]
横浜アリーナ
◯vs永田克彦
(3R終了 判定 3-0)

負けられない試合でしたね、日本人メダリストとは初めてでしたし。KIDも「オリンピック選手は化け物」って言ってましたが、そのフィジカルの強さは宮田選手と練習してて僕も実感してましたし。そういう選手に勝てたのが嬉しかったです。



30
[2006.8.5 HERO'S]
有明コロシアム
◯vsブラックマンバ
(2R 3分30秒 チョークスリーパー)

マンバ選手は所選手をヒザ蹴りで倒してるんで警戒してたんですが、まんまとヒザを食らっちゃって。「ヤバい、当たっちゃった!」っていう印象が残ってます。このときは日本人選手が負け続きで、カッコ悪くてもいいから勝ちたいっていう気持ちでした。

宇野薫プロデュースイベント
「The CONTENDERS」で夢の二番勝負が実現していた!



[2001.10.8 The CONTENDERS 6]
横浜ランドマークホール
×vs五味隆典
(3R終了 判定 56-59)

コンテンダーズは僕がプロデューサーを務めた組み技限定のイベントです。団体の垣根を越えたマッチメイクでお客さんにも楽しんでもらおうと思って。五味選手は実際に肌を合わせてみてやっぱり強さを感じましたね、いま思い返してみても。



[2000.7.1 The CONTENDERS 2000]
Zeep Tokyo
×vs須藤元気
(2R終了判定 54-60)

このときは勢いのある選手とやりたいということで、当時パンクラスだった元気君に出てもらって。動きのある試合ができたのでお客さんにも満足してもらったみたいでよかったです。ジャイアントスイングで回されてしまいましたね……。

そのほかの「The CONTENDERS」おもな試合結果

[2003.12.5 The CONTENDERS Q]
×vs杉江"アマゾン"大輔&鶴屋浩
※パートナー=五味隆典

[2003.5.25 The CONTENDERS 8]
△vs三島☆ド根性ノ助&植松直哉
※パートナー=雷暗暴

[2002.7.7 The CONTENDERS 7]
△vs佐藤光芳&佐々木有生
※パートナー=光岡エイジ

[2002.3.10 The CONTENDERS X-RAGE vol.2]
×vs高阪剛&鈴木みのる
※パートナー=渋谷修身

[2001.6.10 The CONTENDERS Millennium-1]
△vs鈴木みのる&伊藤崇文
※パートナー=高瀬大樹

[1999.10.17 The CONTENDERS 2]
△vs渋谷修身

[1999.1.31 The CONTENDERS 1]
△vs三宅靖志

番外編!
プリンスはプロレスもお上手!?



[2000.12.31 INOKI BOM-BA-YE]
大阪ドーム
×vs松井大二郎&ザ・グレート・サスケ
※パートナー=小路晃
(20分00秒 ラ・マヒストラル)

格闘家がプロレスを行なうことで注目を集めた同イベント。宇野はプロレス初体験ながら、スピニングトーホールドや見事なスワンダイブ式のエルボーを披露! サスケ先生から「89点!」と高評価をもらった!



入場時や勝利後など、ここ最近の宇野は以前に比べ、感情を爆発させるシーンが目につくようになった。宇野のセコンドといえば、十年来の付き合いで宇野が絶大な信頼を寄せる有名スタイリストの山本康一郎氏、入門当時からの練習仲間・廣野剛康、そして先日、交通事故で不慮の死を遂げた守山竜介代表がおなじみだった――。

Caol Uno

「逃げないでやってきたな」って選手を終えたとき、そう思いたい

気持ちだけです。

――ハンセン戦がケガで流れた直後のタイミングで『Dynamite!!』の話があった、と。これは僕の印象なんですけど、『HERO'S』に出るようになってからの宇野選手って、勝ったあとに感情を爆発させるっていうか、嬉しさとか興奮をストレートに表わすようになりましたよね。ガッツポーズなんかも凄い力強くなってる感じがしたんですよ。

宇野　昔はしていなかったかもしれないです。ルミナさんに勝ったときくらいで。ほかの試合ではうつむいたり、(手で)バツを出したり。やはり試合に対して納得がいかなかったり、先に反省があったので。

――じゃあ、『HERO'S』に上がるようになって、ようやく自分でも試合に納得できるようになった、と。

宇野　試合をすればするほど、勝つのが難しいことがわかってくるんです。勝ち方にもいい勝ち方、悪い勝ち方がありますし、勝つこと自体も凄く難しくて、厳しいんです。だから、勝ったことに対しては素直に喜ぶべきであって、気持ちを抑える必要はないのかなって。反省はそのあとにしてもいいのではないかと思うようになりました。

――そのへん、宇野選手の中での〝プロ意識〟みたいなものが変わったのかなって思ったんですよ。

宇野　そういうところも含めて、変わったかもしれないです。前は、気持ちを出すのが苦手だったというのもありました。ただ、度がすぎたらいけないと思いますが、選手が勝って喜ぶ姿というのも、ファンと喜びを分かち合うという意味で必要なのではないかと思います。あとは勝っても負けても、ちゃんと礼をしてリングを降りると決めています。

――『HERO'S』に出ていた頃って、PRIDEをどんな気持ちで見てました?

宇野　いや、やはり同じ階級……PRIDEは73キロなので同じと言っていいかわかりませんが、そういう選手は気になります。それはPRIDEでもUFCでも、修斗やパンクラスもそうです。国内、海外関係なく、以前から変わりません。

――DREAMでは、PRIDE系の選手とも闘うわけじゃないですか。それこそ前回の石田(光洋)戦がそうでしたし、試合後は川尻選手が対戦要求してきたり。そういうアピールする、どんどん自己主張していくっていう部分は、宇野選手ってあまりなかったですよね。

宇野　基本的に、僕は相手のことをどうこう言うことはないです。純粋に総合格闘技をしたい、いい試合をしたいという気持ちだけですので、そこに特別な感情というのは入らないです。

――そういう宇野選手が、川尻選手に対戦要求されたときにどんなモードになるのかなっていうのに興味があるんですよ。

宇野　僕はとくには……。あのときは勝った興奮もありましたし、歓声も大きかったので、正直、よく聞こえていなかった

んです。

――じゃあ、宇野選手が「この大会に出る」、「この相手と闘う」って決める過程で考えること、大事にしてることってどういう部分になりますか。

宇野　それは僕一人で決められることではないです。流れもありますし。ただ、強い人とやりたいというのは常にあります。さっき（20ページからの「全試合レビュー」の取材で）対戦表を見せてもらいましたけど、これまで闘ってきた相手の名前を見ると、いまでも「強いな」と思える相手ばかりなんです。

――そうですよね。

宇野　そう思えるようにやっていきたいというか。最後、自分が選手を終えたときに「逃げないでやってきたな」と、思えるようにしたい。それをちゃんとやっていれば、認めてくれる方は認めてくれると思っています。

――実際、宇野選手って〝逃げてない〟ですよね。修斗のタイトルを獲って、UFCで活躍して、『HERO'S』でもコアな部分を担ってきたじゃないですか。そういう大変さをちゃんとわかってほしい、アピールしておきたいって気持ちはないですか？

宇野　すべての方に自分の考えを理解してほしいというのは難しいことだと思います。だから、いろいろな考え方がある中で、僕の考えも理解していただけたら嬉しいですよね。自分からアピールするというタイプでもないですし。

――むしろ、黙々とやっているほうが宇野選手にとっては自然というか。

宇野　自然であることは、常に自分の中で考えています。普通であり自然に。急に違うことやってもへんになっちゃうので（笑）。

――自然でありつつ、逃げないという。今回のGP決勝大会も、あくまで自然に。

宇野　はい。誰と当たることになっても、強い選手ばかりですし。あと考えるのは、「強くなりたい」、「うまくなりたい」って、それだけなんですよね。

――これだけキャリアを積んで、実績もあって、それでもまだ足りないですか。

宇野　まだまだなんですよね。昔、桜庭（和志）さんがいまの僕くらいの年齢のときに、スパーリングをさせてもらったんです。もう、二手、三手先を読まれる感じで。「僕も桜庭さんくらいの年齢になったら、ああなれるのかな」と思ったんですけど、実際その歳になったら……できてない（笑）。それくらい難しいんです、総合格闘技って。いままでもいろいろなことを教わってきましたけど、まだまだ強くなりたいし、うまくなりたいんです。

――そういう意味で、先日、亡くなられた守山さんに教わったことも多かったんじゃないですか。

宇野　本当にたくさんのことを教わりましたし、まだまだ教わりたいことはいっぱいありました。ただ、いまは悲しんだり、寂しい気持ちでいるだけではダメだと思うんです。7月21日に試合があるわけですから、まずはそこに向かって練習する。いい練習をして、いいコンディションでリングに上がり、いい試合をするだけです。

【08年6月9日／都内・RJWにて収録】



Caol Uno

うの・かおる■1975年5月8日、神奈川県横須賀市出身。高校時代はレスリング部で活躍、96年の全日本アマ修斗選手権で準優勝。同年10月の桜井速人戦でプロデビュー。憧れだった佐藤ルミナ相手に修斗ウェルター級王座戦で2連勝を飾ると、その後はUFC、『Dynamite!!』、『HERO'S』などで活躍。7月のDREAMライト級グランプリ準決勝では青木真也との対戦が決定している。アパレルショップ『宇野薫商店（UCS）』のオーナーとしても有名。172cm、70kg。

『DREAM・4』のリング上で行なわれた組み合わせ抽選で、宇野の準決勝の相手が青木真也に決まった。日本総合格闘技界の世代闘争と言える試合であり、GP初戦で〝PRIDE vs HERO'S〟の闘いを制した者同士の激突でもある。

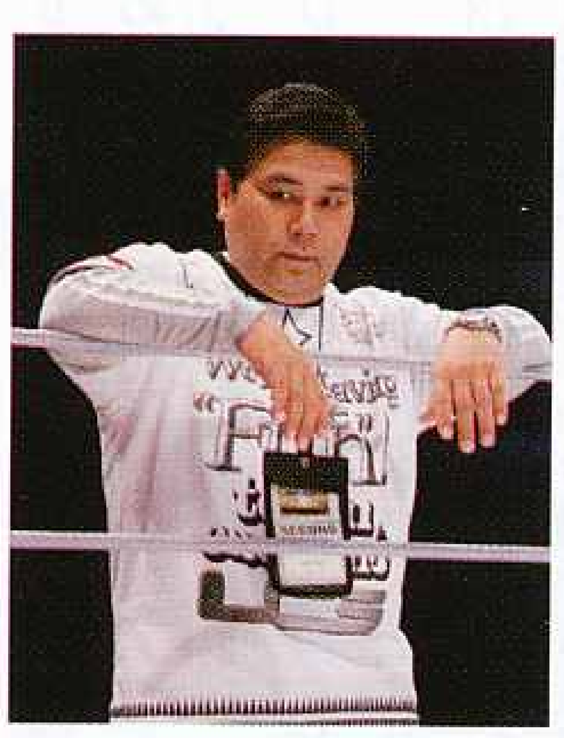
この組み合わせは、宇野が自ら選んだものではない、あくまで抽選で、つまり偶然によって決まったものだ。試合に向け、宇野は「前回以上のいい試合をしたいと思いますので、応援よろしくお願いします」とだけ語った。これまでと同じだ。あくまでも淡々と、流れの中で決まった闘いと向き合い、そしてそこから決して逃げない。ルミナとの再戦がそうだったように、石田戦がそうだったように、だ。

DREAMの扉を開いたのは、カルバンに勝った青木だけではない。石田との〝遺恨マッチ〟と向き合い、そして勝った宇野もまた、新たなステージの主人公の一人だ。『DREAM・4』で感じられた熱、その源は間違いなく『DREAM・3』の宇野vs石田戦の濃密なドラマにあった。宇野は決して、旧PRIDE勢の〝敵〟としてだけ存在するわけではない。むしろ、DREAMをさらに前進させるためのカギを握っているのだ。

宇野は常に、逃げないことで結果として前に進んできた。このライト級GPファイナルは、おそらく〝PRIDE vs HERO'S〟という構図の最終局面になる。その先にあるのは、PRIDEでもHERO'Sでもない新たな世界、青木vsカルバン戦、宇野vs石田戦で垣間見えた場所からさらに踏み込んだ世界になるはずだ。

つまり、青木とともに宇野の存在がDREAMをさらなる高みへと引き上げる役割を担うことになるのだ。

和術慧舟會東京本部代表・守山竜介氏が交通事故で急逝



すでにご存知の方も多いと思うが、宇野薫が所属する和術慧舟會東京本部代表の守山竜介氏が6月7日、都内での交通事故により死去した。享年46。守山代表は宇野をはじめ、岡見勇信や光岡映二など慧舟會に所属する数多くの選手を長きにわたって指導し、セコンドとしても選手から絶大な信頼を受けていた。6・15『DREAM・4』横浜大会の試合前には、故人の格闘技界での功績をたたえ、黙祷が捧げられた。故・守山代表のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

問う、

戦極とは誰だ？

（上から目線の『戦極』煽りVナレーション調）

諸君に言いたいことがある！　我輩は猫である。名前はまだ無い……じゃなくて、『戦極』は第三陣を終えても、あの独特の世界観はつかみどころがないのである。『戦極』ってホントに難しいので、本誌もまた、つかみどころのない企画で〝発動するリアル〟に迫ってみたぞ!!

極とは

である!?

センゴク論



聖地・さいたまスーパアリーナ巡礼興行ということもあり、主催者の自己評価で過去最高の盛り上がりを見せたという6・8『戦極～第三陣～』。

結局、〝戦極ポーズ〟は飛び出さぬまま終わってしまったが、ドゥエイン・ラドウィックが『一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ』を着てリングに登場するという珍場面を見れたのは収穫であったといえる。おそらく漢字プリントの具合が外国人的にちょっとカッコよく見えただけなのだとは思うが、なんにせよありがとうございます!

しかしながら今回は『戦極』の、演出面における〝及び腰〟がハッキリと露呈した興行でもあった。第二陣から導入された「シャキーン!」（ラウンド終了10秒前に鳴らされる『戦極』独自の効果音。やりすぎ感あふれるその仰々しい響きは、一部の歪んだファンから大絶賛された）を、今回はなんと封印。かと思えば、旗揚げ戦にて絶大なるインパクトを残したにもかかわらず、第二陣でなぜか控えめになってしまった〝戦極節〟（ナレーションの「出るぞ!」「いざ!」「見せてもらおうか!」といった独特のフレーズ）を再び全編にちりばめてきたのだ。これは『戦極』、明らかに様子をうかがっている!

いやむしろ「うかがっているぞ!」、そしてその迷いを「見守らせてもらおうか!」だ。

たとえば今回、休憩前の試合にて、内藤大助がプレゼンターとして登場する場面があった。が、なぜか内藤がトロフィーを渡した相手は、縁もゆかりもないはずのニック・トンプソンであった。いちおうトンプソンに促されるかたちでマイクを持った内藤だったが、予定にはなかったらしく完全なおのぼりさん状態。これには内藤をスタッフか何かと勘違いしたトンプソンが、「片づけろ」の意味合いでマイクを渡してしまったのではないかという脱力系の噂ものちにささやかれた。

また、興行中盤にはライト級トーナメント開催の告知がなされたのだが、その際、リング上で挨拶を行なった5選手のコメントもまた、どうにも弱火でハジけきれないものばかり。『戦極』全体を包む〝及び腰〟ムードは、どうやら選手にまで影響してしまっているようだ。

そしてその〝及び腰〟ムードがいよいよマックスに達したのは、興行のエンディングだ。メインで勝利した吉田秀彦を囲むようにリングへ集まる全出場選手。それを代表するかたちで吉田がマイクアピールを行なったのち、続いてマイクを手渡されたのはなぜかチェ・ム・ベであった。どうして、この日もっとも見た目の悪い敗北を喫したムベ?

全観衆がずっこけるなか、やはり歯切れの悪いコメントしかできなかった哀れなムベに続いたのは、出場選手の中では知名度の低いマーシオ・〝ペジパーノ〟・クルーズ。さりげなくマイクを渡す相手を間違えていたリングアナの姿が印象的であった。

最終的には菊田早苗が（自分の夢について延々と語りつつ）締め、なんとも〝及び腰〟ムード全開のまま幕を閉じた『戦極～第三陣～』だったが、振り返ってみれば、煽り映像全体の方向性もまた迷走していたといえる。第二陣最高のヒットであった「恐怖!人間ユンボ」のようなキワモノセンスは鳴りをひそめ、選手の紹介とインタビューに終始したVがほとんどだったのだが、メインとなった吉田秀彦vsモーリス・スミス戦の煽りでは「問う、吉田秀彦とは誰だ?」などの〝戦極節〟がいきなり大炸裂するのだからわからない。「このセンスのまま迷わず突き進んでくれればいいのに」などと、個人的にはどうしても思ってしまうのだが。

煽り映像における外国人選手のコメントが、やや画一的である点も気になった。まだ充分にキャラクターを確立できていない彼らのふるまいは、自己アピールどころか自己紹介レベルのものでしかない。僭越ながら「長々としゃべってるけど、みんな『アイム・チョーノ!』以上のことはなんにも言えてねえよなぁ」と感じた次第である。そしてそのことに気づいたとき、筆者の中で何かがはじけた。

「『戦極』とは、蝶野正洋なのではないか……?」

そんな閃きが生まれてしまったのである。怒らずにとりあえず続きを読んでほしい。ちゃんとした根拠もそれなりにあったりするのだ。「読ませてもらおうか!」の心意気で、一つお願いしたい。

現在、『戦極』という運動体は、そこまでファンの心をつかめているわけではない。新たなメジャーMMAイベントとして注目されるなか旗揚げし、早くも3度の興行を打って名を挙げたまではいいが、皆どこか本気でノリきれていない部分を感じてしまっているというのが実情であろう。これはデビュー後まもなくヤングライオン杯を制し、いち早く海外経験を積んだのち闘魂三銃士として華々しく売り出されたものの、いま一つファンがノってくれなかった白タイツ時代の蝶野正洋とかぶるイメージだ。

蝶野がブレイクしたきっかけは、言うまでもなく〝黒のカリスマ〟へのヒールターンである。しかしながら、白タイツ時代からケンカキックや「エーッ、オラー!」といったおなじみのチンピラムーブは健在であり、それらは当時、どちらかといえば地味なテクニシャンとして売っていた蝶野のスタイルとはあまりうまく噛み合っていなかったといえる。その不調和とはすなわち、すぐれたヒールセンスを内に秘めつつもさまざまな模索を行なっていた、レスラー蝶野の〝迷い〟の表われだ。この部分もやはり、〝戦極センス〟を出したり引っこめたりと模索しまくっている『戦極』自体の〝迷い〟と大きくかぶる。問題はその〝秘めたるセンス〟が、観客の心をつかめるかどうかなのだが……?

そして蝶野が〝黒のカリスマ〟として成功するに至った最大の要因といえば、なんといってもその〝ゴリ押し力〟であろう。〝黒〟というイメージカラーを積極的に打ち出し、衣装はおろかサングラスや日本刀といったアイテム類をも駆使して〝クールなワル〟を全力で演じながらも、リングに上がれば死んだフリや急所蹴りばかりを繰り返すそのスタイルに対し、失笑を漏らしたファンがいなかったと言えば嘘になる。ところが蝶野は、一度方向を定めてからはいっさい日和らなかった。ゴリ押しにゴリ押しを重ね、一般的には「カッコいい」と称される位置にまで登りつめてしまったのだ。「カッコいい」の対極にいる部下(ツノつき天山広吉)を随時引き連れていたことを考えると、これはとてつもないジャンプアップといえる。

ならば『戦極』はやはり、蝶野の成功に倣うべきなのだ。自らのセンスに行き先をゆだね、全力で大海原へシャキーンと漕ぎ出すべきなのである。多少ズレていようとも〝戦極センス〟におおいなる可能性があることは間違いない。そして「ゴリ押せばズレもいつかは味になる(五七五)」ということもまた、〝黒のカリスマ〟の歩んだ道程が示してくれているのだ。

そして我々が成すべきは、いま『戦極』の〝迷い〟を全力で見守ることだけなのである。そう、白タイツの蝶野を温かく見守っていたあの頃のように。

〝戦極センス〟がほかの誰にもマネできない、希少なものであることだけは確かなのであるからして、〝ゴリ押し度いかんによっては『戦極』が全MMAプロモーションの頂点に立つこともけっして夢物語ではないのだ。

かつて白タイツ時代の蝶野は、パワートレーナーという健康器具のCMに出演していたことがある。ボクトツさ丸出しのまま「俺は基礎体力をつけようと思っている人に、このパワートレーナーを薦めています」と棒読みで語るそのシュールな姿は、我々プロレスファンに衝撃とユルい笑いを提供してくれたものだった。彼が〝黒のカリスマ〟となった現在、この記憶は我々の財産である。ならば『戦極』の「シャキーン!」もまた同じであろう。〝戦極センス〟が世界を席巻したそのとき「昔は『シャキーン!』ていうのがあってな……」としたり顔で語るため、いまは『戦極』の迷いっぷりを目に焼きつけておくべきなのだ。

(田中太陽)

選手のふるまいは、自己アピールどころか
自己紹介レベルのものでしかない
『アイム・チョーノ!』以上のことは
なんにも言えていないのだ

戦極と
蝶野正洋で
アイム・セン



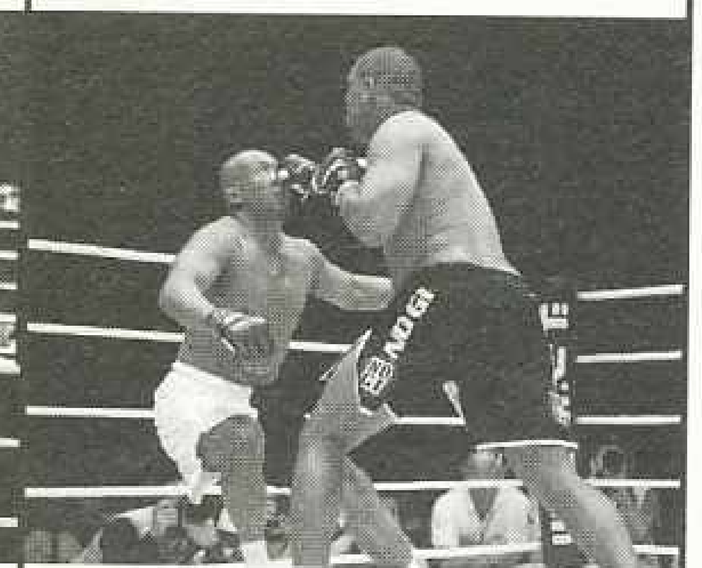
ショック！戦極ポーズ、早くも消滅危機？

6.8 戦極 クロスレビュー

構成／真下義之
撮影／乾晋也
イラスト／北出裕貴

第1試合 ［ライトヘビー級ワンマッチ］

○ファビオ・シウバ
［2R 0分24秒 KO］
高橋和生×



"人喰い義生"のリングネームでIGFで活躍する高橋和生（本名）が『戦極』初出陣！ ガンのつけ合いから果敢に攻め込む高橋は袈裟固め！ だがシウバも猛ラッシュから、脅威のヒザ蹴りを爆発させ、高橋を轟沈させた。

第2試合 ［ライト級ワンマッチ］

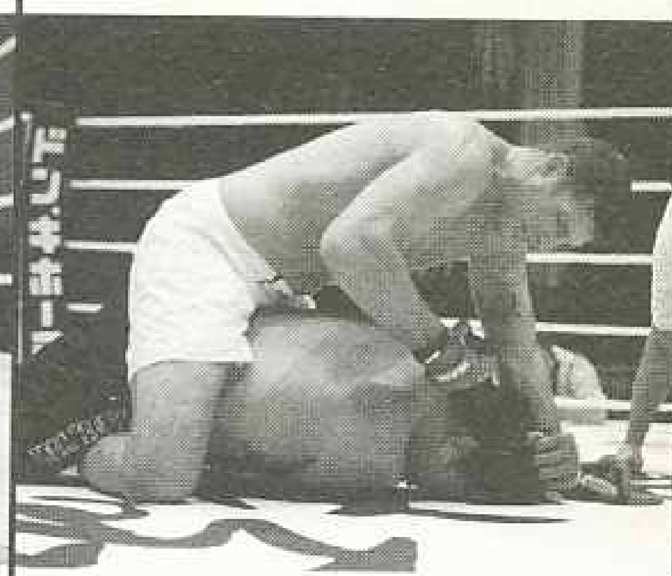
○ホドリゴ・ダム
［2R 4分38秒 TKO］
ジョルジ・マスヴィダル×



変幻自在のダムミッション（？）を操るホドリゴ・ダムとマスヴィダルが『戦極』初参戦。打撃でお見合い状態の中、ダムのパンチで電撃KO！ 試合後、ダムは五味へ対戦表明、マイクを手渡されてしまった五味は困惑しきり。

第3試合 ［ヘビー級ワンマッチ］

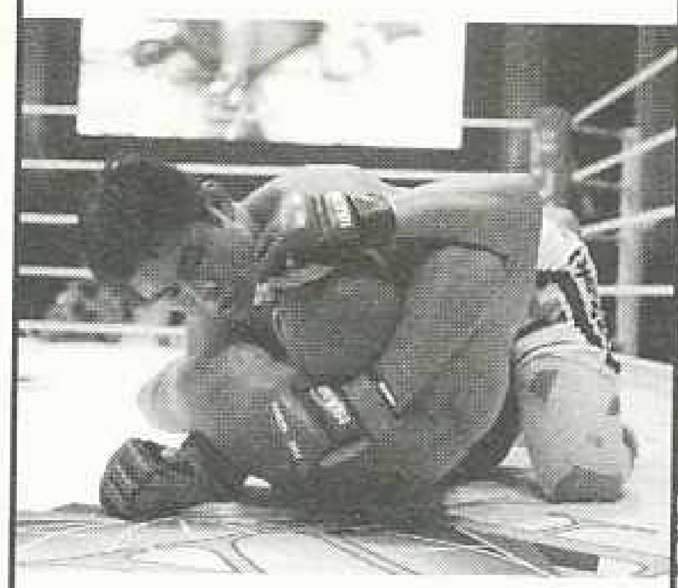
○マーシオ・"ペジパーノ"・クルーズ
［1R 4分37秒 腕ひしぎ十字固め］
チェ・ム・ベ×



戦極フィーバー♪ 韓国のチェ・ム・ベと柔術の強豪、ペジパーノが激突。昨年死去したハイアン・グレイシーのTシャツで入場したペジパーノは、調整不足のム・ベをあっさりテイクダウン。最後は腕十字で見事な完勝劇。

第4試合 ［ミドル級ワンマッチ］

○菊田早苗
［1R 3分54秒 腕ひしぎ十字固め］
クリス・ライス×



GRABAKAの総帥、出たぞ！ 緊急参戦の菊田は未知の強豪、クリス・ライスと激突。菊田はマウントを奪取し、狙いすました腕十字をズバリと極め、一本勝利。「年齢的にも勝負しなきゃいけない」と奮起のマイク。

世界のDJ GOZMA 郷野聡寛 （会場観戦）



ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。GRABAKA所属の実力派ファイター。修斗、パンクラス、PRIDEを経てUFCに参戦。得意の入場パフォーマンスでオクタゴンに戦慄を走らせた。現在は負傷で欠場中。176cm、77kg。

進化する高橋さん

38歳でも進化する高橋さんを見ました。上を取ってハーフから胸を合わせて、もう一本の脚を抜く。菊田さんが得意のパスガードは高阪さんからも「凄く練習した」とあとで聞いたし、いまだ新しい技術を覚えようという大先輩の姿を見て、自分も組み技もっと頑張らなきゃと刺激をもらいました。

ホドリゴ・ダムはいいヤツ

ホドリゴ・ダムは、2年前にウチによく練習に来てレスリングと寝技が強いし、見てるだけで楽しめる凄い動きを見せていたのに、今回はスタンドに終始したから、「おまえの寝技が観たかったよ！」と。でも菊田さんが勝ったあとリング下まで祝福に来たし、恩を忘れないいいヤツです。

結果よりプロセスが大事

チェ・ム・べが覇気がなくて、試合前に勝負は決していた感じ。野村克也監督が「結果よりそこに至るプロセスが大事」と言ってますけど、その言葉を思い出しました。ペジパーノはアブダビで佐々木（有生）と試合したときナメた態度だったんで、ム・べに頑張ってほしかったんですが。

あせらず万全に戻して

相手の身長が179cmと聞いてたのに、実際は190cm近くて情報戦では完敗。それでも試合を一本で終えてホッとしました、けっこう大きなケガも抱えているし心配でした。仲間に刺激を受けて試合したい気持ちもわかるけど、俺としてはあせらず万全に戻すまで休んでほしいとも思うんですよね。

"変態座談会"主宰 堀江ガンツ （会場観戦）



ほりえ・がんつ■1973年9月14日、栃木県出身。本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者。『kamipro』編集部に入ったあともUWF研究家を自称。変態座談会を主宰するカリスマ的変態として絶賛活躍中。

ファビオの顔が気になる

改名して「和生の試合を見せる」ということだったが、よくも悪くも高橋義生な試合。じつにプロらしい闘いだが、そろそろ勝ちがほしい。ファビオはシウバつながりで"ヴァンダレイの再来"と言われるが、ヴァンダレイにアニメの『おらぁグズラだど』を交配したような顔で、若干気になる。

シュールな光景

強い選手同士なんだろうけど、ハイレベルさが伝わってこないのが格闘技の難しいところ。ハンセンvsアルバレス戦のわかりやすさとは対照的。気になったのはホドリゴ・ダムの勝利後、『バウレビ』の井田英登さんがリングインして、リング上で撮影してたとこ。シュールな光景でした。

ちょっと気の毒

ひさびさにムベ様のフィーバーポーズを期待していたが、試合がちっともフィーバーせず。ペジパーノは、ホジャーvs近藤同様、完勝すぎて試合のインパクトが薄めだわ、全試合終了後、リングアナに「ペパジーノさん」って繰り返し名前を間違えられるわ、ちょっと気の毒でした。

ファンの夢をかなえて

This is菊田早苗！ マッチメイクから試合内容まで「これぞ菊田！」としかいいようのない"らしい"試合。試合後、菊田は「選手の夢をかなえるリングでもあってほしい」とマイクして、ヘンゾ戦、フランク・シャムロック戦を暗に希望していたが、プロならファンの夢をかなえてほしいのだが……。

プロレスラー、DDTテック代表 マッスル坂井 （煽りV観戦）



まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県新潟市出身。DDTプロレス中堅レスラーにして、『マッスル』主宰者。DDTの映像やグッズ制作を行なうDDTテック社長の顔も持ち、映画監督にも進出。186cm、120kg。

一言聞きたかった

この煽りVは、IGFでの"人食い義生"とは違った『戦極』の「発動したリアル」バージョンの高橋和生選手が"明るく楽しく激しい"総合格闘技をアピールし、シウバの勝利至上主義との価値観の違いはわかったんですが……、お互いがどう思ってるのかも一言聞きたかったですね。

対戦相手はどう思ってる？

ダム選手もジョルジ選手も"ロード・トゥ・五味"っていう部分で五味選手と闘いたいのはわかったんですが、目の前の対戦相手をどう思ってるのか。じつはジョルジ選手は「さばいて寿司にしてやる！」とか言ってるんですが、サラッと流していて、見返すまで気づきませんでした。

ニュートラルすぎかも

両者とも日本のファンへのメッセージをやたらとアピールしてて、ちょっと行儀よすぎるというか。無理に「ぶっ潰す！」とかは言わなくても、ニュートラルすぎかもしれない。煽りVはリアルである必要はなくてプロパガンダですし。う～ん。過剰な演出はあえて外してるんですかね？

言葉に説得力アリ

菊田さんくらいだと言葉に説得力があるから、『戦極』の煽りすぎないVでもシックリきますね。寝技一つで感情を表現できる方ですから。でも菊田さんくらいの人じゃないとなかなか難しい。ホントはほかの煽りVでコッテリ煽ってる中にこういうスッキリ系が入ると凄く活きるんです。

大会総評



“聖地”さいたまスーパーアリーナに初進出した『戦極』。やや不安視された観客動員は健闘したものの、なぜか観客数は“非公表”。試合も一本、KOが続くも大爆発には至らず。あとー歩のプラスアルファが今後の課題か？

光が見えたような気が
全体的にはけっこうよかったと思うんですけど。映像もわりと楽しめましたし。え、戦極ポーズがなくなってた？ 俺的にはべつにどうでもいいですね（笑）。真面目な話、3回目で『戦極』というイベントが少しかたちになってきたんじゃないでしょうか。光が見えてきたような気がしますよ、俺は。

三大要素がなくて残念
戦極ポーズと三崎のマイク、そして「シャキーン！」。僕が期待してた三大要素がなく残念。『戦極』のいいとこを削られちゃったな、と。あとぶっちゃけ、シャアの声が若干不快なのは僕だけでしょうか（笑）。あのトーンで「諸君に問いたい！」と言われても……。こっちが問いたいよ！

煽りVはリハでも重要
『戦極』の自然なスタイルのVもいいんですが、言い合いや挑発し合うのが本来の煽りVだし、実際に視聴利率も上がるらしいですから。あと煽りVって開場前にリハーサルで一度流すときに、アップ中の選手やスタッフでも一笑い起こして現場をほぐす役割もある。そういうノリがもっとほしかったですね。

第8試合
［ヘビー級ワンマッチ］
○吉田秀彦
［1R 2分33秒 袈裟固め］
モーリス・スミス×



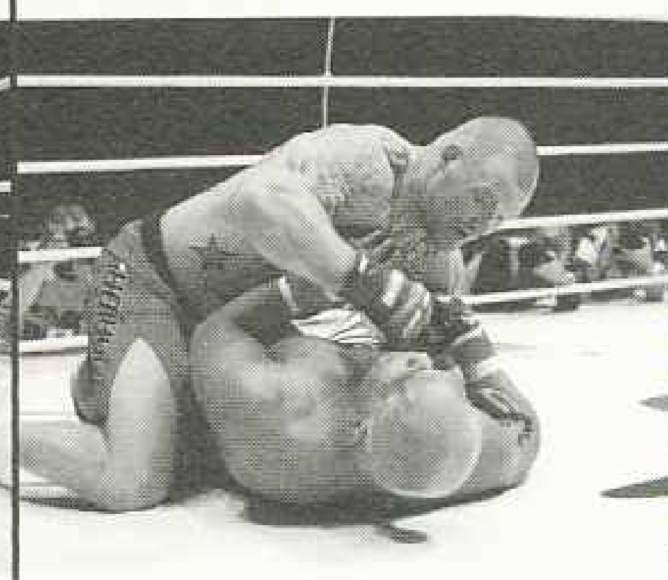
メインは吉田が、締めるぞ！ 相手は世界最強のキックボクサーと謳われ、UFC王者にもなった47歳の“レジェンド”モーリス・スミス。吉田は間合いを詰め、グラウンドから一気に袈裟固めでおもいっきり絞め上げ完勝！

袈裟固めはハンパない
モーリスの経験と闘いのインテリジェンスに注目してたんですが、あの袈裟固めはわかりにくいけどハンパなくキツイですよ。俺らも菊田さんによく食らうけど、ヘビー級の吉田さんに道衣を着てあれをやられたら仕方ない。ただ、あれがモーリスのすべてと思わないし、まだ観てみたいです。

路線的には間違ってない
この試合を観て、吉田の対戦相手は我々“変態”が思い入れある選手がいいな、と。たとえば桜庭、船木、田村、誰とやってもおもしろそうだし、ヤマヨシだっていい！ グルジア軍団が『戦極』に襲来するなら、吉田vsタリエルでもいい！ というわけでスミス戦は路線的には間違ってなかったかも。

ファンは知っている
05年『男祭り』の吉田vs小川直也戦の煽りVって究極でしたよね。自分のことは語らず、相手のことだけ語って煽りまくってましたから。このVは「吉田秀彦とは誰だ？」と出てましたが、ファンは「楽しい人」ってことも知ってるので。モーリス選手についての言葉も聞きたかったです。

第7試合
［ヘビー級ワンマッチ］
○トラビス・ビュー
［1R 1分24秒 TKO］
藤田和之×



「全身が武器状態」で帰国した藤田はケンドー・カシン&藤井軍鶏侍を引き連れ入場。試合は前に出た藤田に、ビューのカウンターパンチ炸裂！ 崩れ落ちた藤田に鉄槌三昧。まさかのTKO負けを喫し、場内は騒然となった。

まさに神の階級
前に藤田さんと練習したとき、デカくて速くて、タックルで吹き飛ばされて「バケモンだな」と思ったけど、その藤田さんをコツンで倒しちゃうヘビー級の破壊力は凄すぎ。まさに神の階級。きっと俺が右ストレートをドンピシャでブチ込んでも、俺の拳が壊れるだけで倒れないんだろうな。

ドラマチックな試合を希望
“格闘家”藤田は、最後のプライムタイムに入ってると思う。名前がない強い選手と闘うのは非常に偉いけど、そこは若手に任せて。『PRIDE GP』でヴァンダレイと真っ向勝負したような、勝敗を超えてレスラーとして銭が取れる、ファンも藤田も本気になるドラマチックな試合がいまこそ観たい。

僕が煽りVを撮るなら
藤田選手は“頂”とか“てっぺん”とかいう言葉が似合いますねぇ。ただ僕が煽りVを撮るなら、藤田選手は一言もしゃべらせず、関係者の証言のみで存在を知らしめる構成で幻想を高めるかも。実際、藤田選手のプライベートって謎で、GKさんのコラムでしかわからないですし（笑）。

第6試合
［ミドル級ワンマッチ］
○三崎和雄
［3R 終了 判定3-0］
ローガン・クラーク×



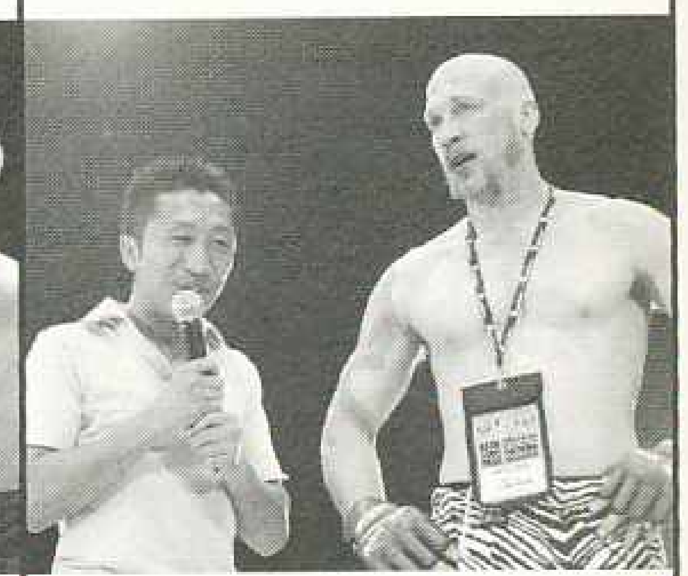
三崎の相手は長身&顔面ヒゲモジャ男のローガン・クラーク。互いに打撃を警戒する両者だが、3Rに三崎が猛ラッシュ！ 最後は踏みつけまで披露し、判定で3-0で三崎が勝利するも、ファン待望のマイクはおあずけ（涙）。

日本人は強かった
相手との体格差がキツかったけど、世界のあの階級はみんなあんなもん。それでも階級を落とさずに立ち向かい、そして試合中に大ケガしながらも闘い抜いたところに、今回は和雄の大和魂を感じました。お客さんにはわかりづらかったと思うけど、今回も日本人は強かったですよ。

「誰かに似てるな～」
ローガン・クラークって「誰かに似てるな～」と思ってたんだが、『ダーリンは外国人』（小栗左多里著）ってマンガに出てくるガイジン（トニー）にそっくりだと気づき、ついつい応援してしまいました。「趣味が家庭菜園」とネイチャーでもあるので、三崎と友情が芽生えたことでしょう。

パワースポットとハマった
これはいいですね！ 三崎選手が神社みたいなパワースポット、気の流れがいいとこに行くのは格闘家として正しいし、ナチュラルな作りとハマってた。パワースポットって炎のヤリ特訓や滝に打たれたりとかと同じ効果があると思うんです。『東スポ』では記事になりづらいですけど（笑）。

第5試合
［ウェルター級ワンマッチ］
○ニック・トンプソン
［2R 4分13秒 アームロック］
マイケル・コスタ×



『戦極』旗揚げ戦にも登場したニック・トンプソンとシュートボクセのマイケル・コスタが激突。試合はトンプソンがアームロックで一本！ 試合後、世界チャンプ・内藤大助をマイク係と間違える天然っぷりが炸裂。

巨大なうんこオブジェ
日本が誇る世界チャンプ（内藤大助）をマイク受け渡し係と勘違いしたのはすげぇ。それよりもあのモミアゲ！ あれね、首都高6号から見える浅草の吾妻橋のところの、あの巨大なうんこオブジェを思い出して、しょうがなかった（笑）。そのあたりも含め、強烈に惹きつけられました。

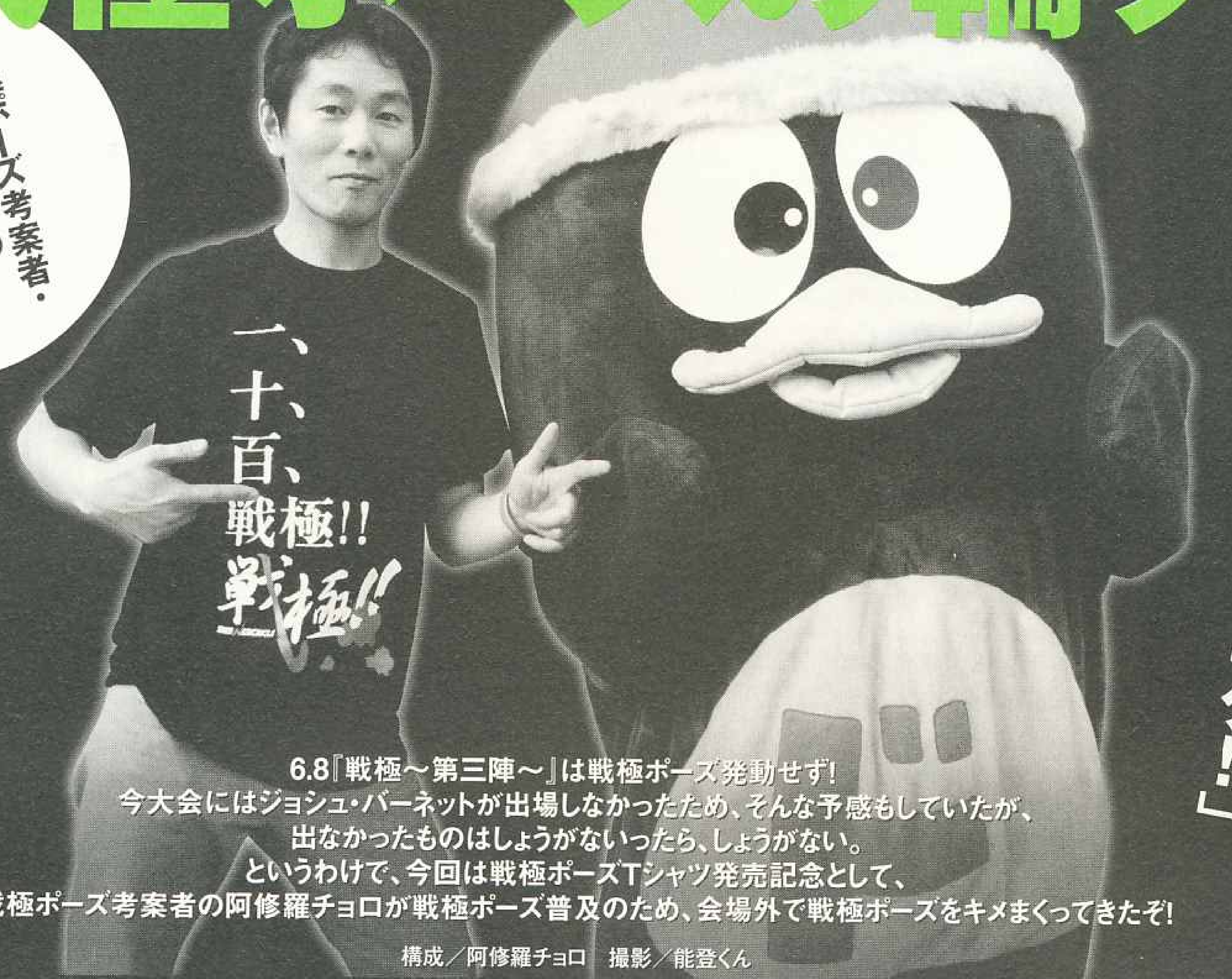
第二次UWF的な雰囲気
この試合で覚えてるのは、黒人のマイケル・コスタに「オバマー！」って野次が飛んだこと。ニック・トンプソンへの「ヨアキム・ハンセン～」って野次はハズしてたけど、暇な試合は野次で勝手に楽しむという、ある意味、かつての第二次UWF的な会場の雰囲気が妙に心地よかった。

どこに住んでるのかは重要
両者ともジムでの練習がメインのVですけど、ジム以外も見たかったかな。シュートボクセまでロケに行ってるなら、ブラジルの街並みとか。あとは家！『やれんのか！』の煽りVの石田光洋選手の部屋もよかったけど、どこに住んでるのかは重要だし、選手もリラックスできると思うんで。

戦極ポーズTシャツ発売記念で、いざ！

世界にひろげよう戦極ポーズの輪ッ!!

戦極ポーズ考案者・阿修羅チョロのグッズ売り場密着240分



ドンペンくんも「センゴク！ センゴク!!」

6.8『戦極〜第三陣〜』は戦極ポーズ発動せず！
今大会にはジョシュ・バーネットが出場しなかったため、そんな予感もしていたが、
出なかったものはしょうがないったら、しょうがない。
というわけで、今回は戦極ポーズTシャツ発売記念として、
戦極ポーズ考案者の阿修羅チョロが戦極ポーズ普及のため、会場外で戦極ポーズをキメまくってきたぞ！

構成／阿修羅チョロ　撮影／能登くん



よ〜し、このTシャツを着て戦極ポーズを広めるぞ！

開場はまだということでグッズ売り場も、それほど混雑はしていなかったが、とりあえずこのTシャツを着て、戦極ポーズTシャツの売れゆきを見守るぞ！　みんな買ってくれ！



戦極ポーズTシャツ普及のため、まずは自ら購入だ！

戦極ポーズTシャツは大会直前での制作だったため、完成品はグッズ売り場で初目撃。“平成の借金王”としては3800円の出費はかなり痛いが、Tシャツ普及のためガチで購入しましたよ！



なんと、我がダブルクロスブースの横は吉田道場だ！

会場外の特設グッズ売り場に到着してビックリ！ 限定100枚の戦極ポーズＴシャツが置かれたダブルクロスブースの両隣は吉田道場にART JUNKIEとどちらも本格派。おい、大丈夫かよ!?　いや、売ってやるって!!



ジョシュ不在で戦極ポーズは早くも風前の灯火か!?

会場内には、これまで『戦極』に参戦した選手の等身大パネルがズラリ。戦極ポーズ消滅の可能性も大きいが、とりあえずパネルのジョシュと「センゴクッ! センゴクッ!!」

結論から言うと、今回の6・8『戦極〜第三陣〜』では戦極ポーズは不発に終わった。残念至極で戦極！

大会前日会見では“『戦極』の頭脳”國保尊弘広報から「誰か選手に戦極ポーズ、教えてくれました？　ああいうのって一体感も出るし、いいと思うんですけど、いまのままだと明日は誰もやらないと思いますよ」と言われ、「エッ、教えていいの？」と、一瞬戸惑ったものの、さすがに大会前日に選手に教える機会も度胸もなく、戦極ポーズの行方は運を天にまかせることに。

その代わりというかなんというか、今回の『戦極〜第三陣〜』でボクはある使命に燃えていた。すでにご存知の方も多いかと思うが、今大会からボクが考案した戦極ポーズがＴシャツ化され、なんと、この日の会場販売から発売されることになったのだ！

というわけで、会場内で戦極ポーズが飛び出すかどうかはさておき、ボクは会場外のグッズ売り場でＴシャツの売れゆきをチェックし、購入者には、なかば強制的に戦極ポーズをやってもらい、一緒に記念撮影をすることを決意。ぶっちゃけ、「買ってくれる人はいるんだろうか？」と不安を抱きながらも、大会開始1時間半前の午後3時半からグッズ売り場に密着、いざ！

会場前の特設グッズ売り場にたどり着くと、あったぞ、戦極ポーズＴシャツ。しかし、ここで新たな不安が！なんと、我がダブルクロス・ブースの両隣は吉田道場ブースにジョシュＴシャツでおなじみのアートジャンキー・ブースと強敵揃いだったのだ。「まさか、潰しにかかっているのでは」と、よから

なぜか
ドゥエイン・ラドウィッグが戦極ポーズ！



グッズ売り場にふらりと現われたのが今大会は直前で欠場となってしまったラドウィッグ。Tシャツをプレゼントして、ポーズを伝授したぞ！



大勢のオーディエンスが見守る中、「そのセンゴクポーズっていうのは、どうやってやるの？」とラドウィッグはノリノリでやってくれたぞ！



休憩明けにリングに上がって挨拶をするというラドウィッグに「このTシャツを着て上がってください」とお願いすると「オッケー！」とニッコリ。



「イチ、ジュー、ヒャク、センゴク！ センゴク!!」と、すっかり戦極ポーズをマスターしたラドウィッグ。次回、第四陣では頼んだぞ！



「このポーズってジョシュがやったの？ オレ、ジョシュのフィギュアは持ってるよ」と得意げなラドウィッグ。来月また同じ場所で会いましょう！

戦極ポーズTシャツ購入者と記念撮影、いざ!!



ありがとう！売店のおねえさん!!



最後の最後に一緒に戦極ポーズを決めてくれたのは、頼んでもいないのに、なぜか戦極ポーズTシャツを大プッシュしてくれていた素敵なおねえさんだ。第四陣も一緒にやるぞ!?

ぬ考えが頭をよぎったそのとき、おそらくバイトと思われる売り子のおねえさんが「大人気の戦極Tシャツはこちらですよ〜！」と声を張り上げているではないか！　嬉しくなったボクは金もないのに勢いで戦極ポーズTシャツを購入。早速それを着込んで「頼む、買ってくれ！」と心の中で繰り返していると、予想をはるかに上回るペースで売れていったのだ。これホント！

「戦極ポーズTシャツ買いましたよね？　そのポーズを考えたのはボクなんですけど、一緒に戦極ポーズをして写真撮ってもらえません？」と、怪しさ全開で声をかけまくるボクに、ほとんどの人が「『kamipro』の人ですよね？　戦極ポーズ？　いいですよ」と非常に協力的。それから試合そっちのけ（失礼）でグッズ売り場で目を光らせていたボクは、大会終了後までTシャツ購入者を見つけては戦極ポーズで記念撮影三昧。会場では不発でも、会場外では戦極ポーズの乱れ咲きだったのだ！　しまいには、ドンペンくんや、ふらりと姿を見せたラドウィッグにもポーズを伝授し、気分はすっかり戦極ポーズ伝道師……って、おまえはターザンか！　アチャー。

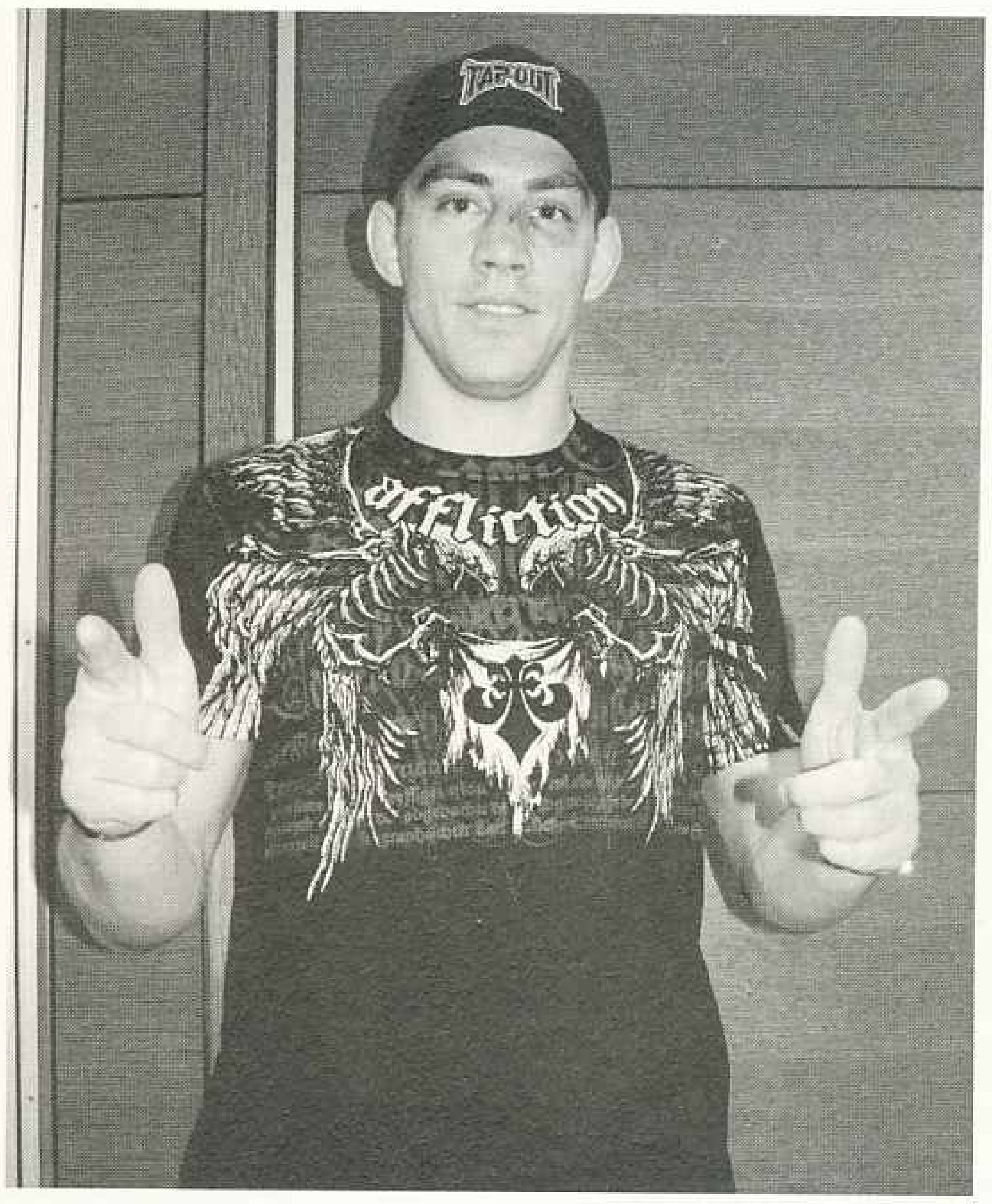
そんなこんなで、限定100枚のTシャツも最終的には半分近く売れるという予想をはるかに上回る健闘ぶり。このTシャツ、いまなら、まだ『kamipro』通販でゲットできると思うので、ほしい方は急ぐべし！

それでは、最後に戦極と戦極ポーズのさらなる発展を願って、やりますか〜ッ！　一、十、百、戦極ッ！　戦極ッ!!　シャキーン!!（←復活希望）。

ドゥエイン・ラドウィッグ

8・25『戦極～第四陣～』ライト級トーナメント出場決定

「五味はパンチの角度が独特で読みにくい。間違いなく世界トップクラスの選手だよ！」



DUANE LUDWIG■1978年8月4日、米国コロラド州出身。キックボクシングをバックボーンに持ちK-1 MAXにも参戦。あの武田幸三からKO勝利を収めている。現在はストライク・フォースや『戦極』で活躍中。178cm、70kg。

ついに開催が正式発表となった『戦極』のライト級トーナメント――。そのテーマは、ずばり"ロード・トゥ・五味隆典"だ。国内外に強豪選手がひしめく70キロ級で、優勝者が五味と闘うことになりそうだ。『戦極～第三陣～』に出場予定だったが、試合が流れてしまったドゥエイン・ラドウィッグもそのトーナメントに名を連ねることになった。さっそく意気込みを聞いてみた。

聞き手／坂井ノブ

――『戦極～第三陣～』では試合が組まれなくて残念でしたね。

ラドウィッグ そうだね。ほぼ決まりかけていた対戦相手が、直前に具合が悪くなったみたいだけど、試合に向けてトレーニングして体調を仕上げてきたから試合をしたかったよ。

――それはしんどいですねぇ。

ラドウィッグ やっぱりファイターがトレーニングするにはそれなりにお金や時間もかかるから、その成果を試合で発揮できないのはつらいところだよ。ただ、そういったことも、このビジネスの一部だと思う。やっぱり対戦相手のことは自分でコントロールできないからね。

――今回、試合が流れたおかげかどうかはわかりませんが、8月のトーナメントへの出場が決まりましたね。

ラドウィッグ ああ、それは嬉しいよ。ただ、本業であれば今回の試合で勝ったらトーナメントに出場するという順序だったと思うんだ。本音を言えば自分で権利を勝ち取りたかったけど、いまは出られるだけで嬉しいよ。

――トーナメントは北岡悟、光岡映二、横田一則、ホドリゴ・ダムとあなたが出場決定選手です。

ラドウィッグ パッと見るとグラウンド・スキルが優れた選手が多いという印象だね。グラウンド対策をしっかり練らないといけない。僕とは違うバックグラウンドを持った選手ばかりだと思うから、1回戦の対戦相手が決まったらゲームプランを考えるよ。

――光岡選手は「1回戦は日本人vs外国人対決がいいんじゃないか」と提案したんですけど、これについては？

ラドウィッグ そうだね。僕もそっちのほうがおもしろいと思うよ。

――このトーナメントは「五味隆典の挑戦者を決める」というテーマがあるんですが、あなたは『戦極～第一陣～』で五味選手と闘ってますよね（1ラウンドTKO負け）。対戦してみて、どんな印象を受けましたか？

ラドウィッグ とても賢い闘い方をする選手だね。パンチの角度が凄く独特で、動きを読みにくかった。オリジナリティのある動きで自分のスタイルを持っているから彼は強いんだ。間違いなく世界トップクラスの選手だと思う。

――なるほど。『戦極』という舞台はいかがですか？

ラドウィッグ とてもいい大会を開催していると思うよ。今回直前で試合がなくなってしまったのは残念だったけど、誠意ある対応をしてくれてお礼を言いたいよ。戦極Tシャツもプレゼントしてもらったし（笑）。

――それはウチの編集部の阿修羅チョロが勝手に渡したTシャツですね。リング上で挨拶したときも「一、十、百、戦極!! 戦極!!」Tシャツを着ていただいてましたよね。ありがとうございます！

ラドウィッグ クールなTシャツだね。ちなみに、あとはヨシダ（吉田秀彦）サンとジョシュ（・バーネット）のフィギュアは自腹で買ったんだ。ヨシダサンにはサインをもらっちゃったんだぜ！ ヨシダサンはおもしろい人だった！

――そうですよねぇ（笑）。……って、フィギュア好きなんですか。

ラドウィッグ ああ、コレクターなんだ。今度、日本に来たときにはゴミ（五味隆典）やほかの選手のフィギュアも買いたい。

――ちなみにほかにコレクションしてるものはありますか？

ラドウィッグ 世界各国のいろんな飲み物のボトルを集めてるよ。こないだはスネークが入ったお酒のボトルを手に入れたんだ。あとは蜂が入ってるお酒とか、梅が入ってるお酒とか、日本にはいろいろあるよね！

――それは飲むんですか？

ラドウィッグ いや、自分は酒もタバコもやらない。トレーニングと甘いものだけだね（笑）。日本のお菓子は最高だ！ とくにアーモンド・チョコレートとグミは最高だよ。……一つ言っておくが、ゴミじゃないぜ（笑）。ダーッハッハッハッハ！

――日本のダジャレまでしっかりコレクトしてましたか（笑）。

ラドウィッグ 今回は試合がなかったから日本を満喫してるよ。ホテルのある新宿近辺と、三軒茶屋でショッピングもできたし。

――三軒茶屋！ なぜ、そんなマニアックなところで買い物を!?（笑）。

ラドウィッグ （三軒茶屋にある）シルバーウルフでトレーニングをしてたんだ。マサト（魔裟斗）とスパーリングもやったよ。青アザを作っちゃったけどね（笑）。


――そんなに激しいスパーだったんですか。以前は試合もしましたよね。

ラドウィッグ ああ、凄いファイターだよ。かなり充実したトレーニングができた。この調子でトレーニングを積んで8月には、今度こそちゃんと試合をしたいね（笑）。もちろん勝つつもりだよ。

――期待してます！

【08年6月9日／都内ホテルにて収録】


6.8『戦極～第三陣～』ではリング上から挨拶を行ない、トーナメント参戦を表明した。戦極ボーズTシャツを着て、抜群のかっこ良さを発揮している左端の男がラドウィッグだ。



世界の格闘技を支配するのはUFCじゃない!?

未来のMMA版ワールドカップ

M-1チャレンジ発進!



皇帝ヒョードルの行方、そしてUFCへの意外な思いまで吐露！

M―1チャレンジに抱く壮大な野望

M－1グローバル代表

ワジム・フィンケルシュタイン

Vadim Finkelstein

聞き手／松下ミワ

世界のMMAシーンを巻き込むM―1グローバルの野望がついに本格始動！

6月5日、『DREAM・5』山本〝KID〟徳郁参戦発表記者会見と併わせて行なわれたM―1グローバルの会見では、ここに登場するワジム・フィンケルシュタイン代表によって二つの野望が発表された。

一つは、MMA界の最注目選手であるエメリヤーエンコ・ヒョードルに関するもの。すでに話題に上がっているとおり、7月19日、『アフリクション』において元UFC王者であるティム・シルビアと対戦することがワジム氏の口から語られたのだ。

本大会はヒョードルのほか、ジョシュ・バーネットやマット・リンドランドら、大物ファイターが多数参戦することで注目を集めているが、この試合はアメリカではFOXTVが、ロシアではPPV放送されることが発表され、また日本でも放送の可能性を探っているという。旗揚げ戦とはいえ、テレビまでガッツリ準備してくるこの気合いの入りよう、同じアメリカを〝牛耳っている〟UFCも「Tシャツ屋に何ができる！」なんて言ってられないかも!?

そしてもう一つは、ワジム氏が自信を持って企画している国別対抗戦イベント・M―1チャレンジである！　このM―1チャレンジとは世界9カ国10チームが参加し、1チーム5人が国を代表して闘うリーグ形式の大会で、最終的にはAグループ、Bグループの1位同士が優勝を競うというもの。日本選抜チームも参加しており、なんとその日本代表総監督には我らが佐伯繁氏が就任しているのだ！

現段階では9カ国10チームの参加だが、このM―1チャレンジにはワールドカップ並みの壮大な夢が託されているという。〝ロシアMMA界のボス〟ワジム氏が抱くその素晴らしき野望の全貌とはいかなるものなのか？

写真の眼力で淡々と、そして延々とM−1チャレンジを語るワジム氏を想像しながら、以下、インタビューをお読みください！

——今日の会見を拝見して、M−1グローバルとDREAMとの関係が非常に友好的だというのを感じたんですが、まず、今回の会見を行なうに至った経緯を教えてもらえますか？

ワジム ああ。なんといっても、この会見ができた重要な理由の一つは、我々はUFCとはまったく違って、選手を囲ったりはしないオープンな組織だから、ということだ。

——なるほど！ 確かに、DREAMと協力関係にあるからこそできた会見であり、プロジェクトですね（笑）。

ワジム そう。最強の選手たちと試合ができる環境を作るためには、いろんな組織と一緒にやっていかないといけない。UFCは、なんだかアメリカではナンバーワンということになっているが、よく考えてほしい。UFCはナンバーワンの選手を囲えてはいないんだよ。

——つまり、〝60億分の1〟エメリヤーエンコ・ヒョードルはオクタゴンに上がってはいないじゃないか、と。

ワジム そのとおり！ 今回、我々は『アフリクション』と一緒にM−1グローバルの計画、つまりヒョードルvsティム・シルビア戦という目標を達成したわけだが、現在のUFCヘビー級暫定王者アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラは、誰もが知ってるようにヒョードルと3回対戦して、1回も勝利を得ていない。その結果から考えても、とにかくUFCが「自分たちがトップだ」と言いう権利はどこにもないんだよ。

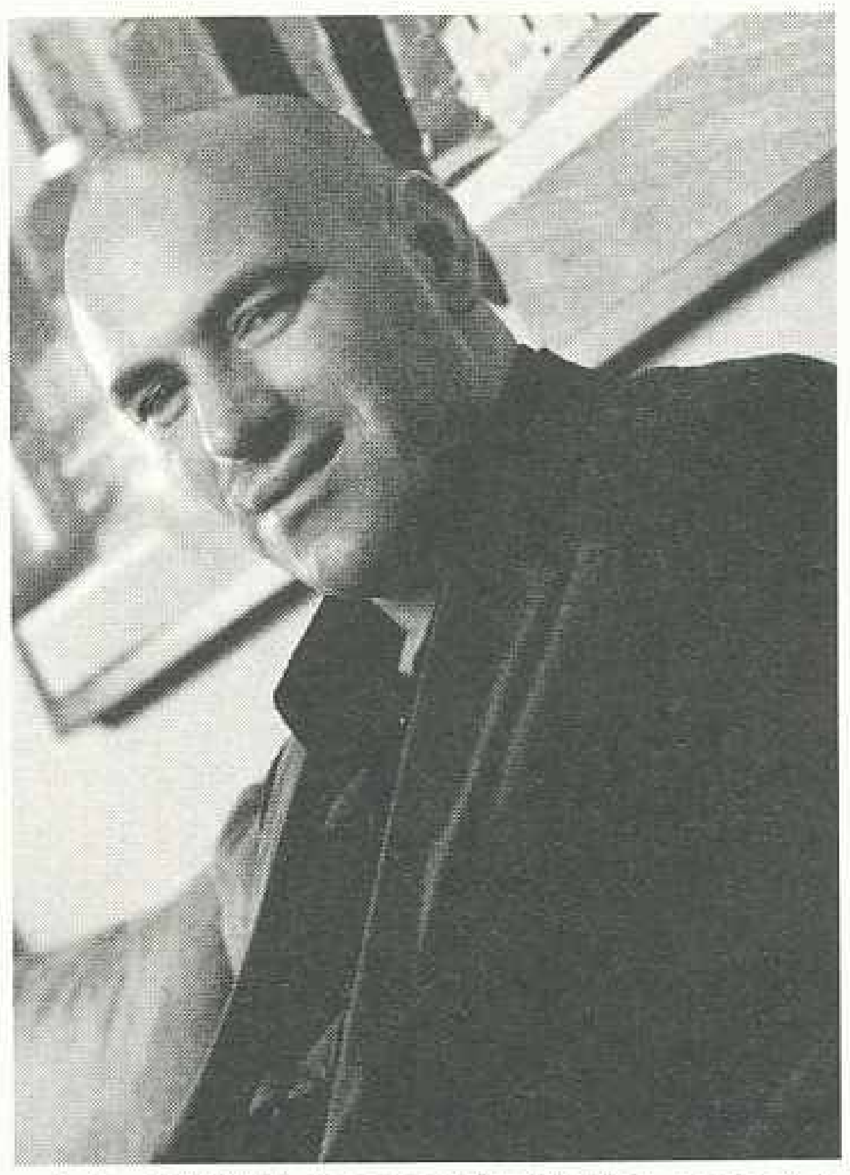
——ワジムさんにそう言われると、なぜかそういう感じもしてきました（笑）。

ワジム で、今回こうして日本でも会見を開けたわけだが、DREAMスタッフ、言うなれば旧PRIDEスタッフとの関係はとにかく友好で、我々の選手であるゲガール・ムサシも『DREAM・2』で活躍してくれた。そんなふうに、我々はまったく敷居を設けていないから旧PRIDEスタッフとともにかくうまくやれているんだ。

——PRIDE時代の友好関係が継続しているわけですね。

ワジム それに私自身、彼らのことは凄く尊敬している。伝説を作り上げたあのPRIDEのスタッフがDREAMに参加しているのなら、そこに協力しない理由などない。我々にとってDREAMと仕事ができているというのは大きな名誉だよ。

——これまで世界各国の方々といろんな交渉をされてると思うんですけど、旧PRIDEスタッフの優秀な部分というのはどういうところでしょう？



これまで閉鎖的なUFCのやり方に噛みついてきたワジム氏だが、ここまでUFCを大きくしたダナの手腕には一目置いている様子。しかし、こういう発言が出るのは、裏を返せばM-1チャレンジによほどの自信があるからと思えなくもない。

日本でもヨーロッパでもアメリカでもいいパートナーを見つけるのがすべて

Vadim Finkelstein

ワジム まず、プロフェッショナリズムの高さだ。日本の審判団の素晴らしさ、組織力、そして何よりあんなショーを行なえるチームというのは世界中探しても見当たらない。今後、彼らと一緒にやっていくということは、M−1チャレンジの将来性にも大きくつながっていく。もはや、旧PRIDEスタッフは本当にMMAの業界ではナンバーワン、彼らが作ってるチームはもちろん最強のチームだ！

——その旧PRIDEのスタッフが『PRIDE・32』『PRIDE・33』で二度ほどアメリカに進出したのはご存知だと思いますが、そんな彼らでもアメリカという国には大苦戦したと聞きます。ワジムさんから見て、アメリカでのビジネスのやりにくさというのはどんな部分だと思いますか？

ワジム まず、日本でもヨーロッパでも同じだが、何をするにもいいパートナーを見つけるのがすべて。いま、アメリカは我々は『アフリクション』という新しいパートナーを見つけたが、このパートナーシップがうまくいけば我々もアメリカでも成功する可能性はあると思っているよ。

——今回、ヒョードルをはじめ、シルビアやジョシュらビッグネームが続々と参戦する話題の大会は7月に開催されますが、それ以降の予定もすでに決まってたりするんですか？

ワジム ああ。いまのところ、7月の大会を含めて3回は開催することになっている。日本ではよく知られてないかもしれないが、『アフリクション』という組織は行動力もあるし将来性の高い会社で、まだ設立から2年半しか経っていないが、そのあいだにとんでもない躍進を遂げている。その功績には目を見張るものがあると感心しているところだ。その敬意を表して、今日、私も「アフリクション」のTシャツを着させてもらっているからね（ジャケットをめくってTシャツを披露）。

——ホントだ!! とてもお似合いです。

ワジム そうかね？ ふふん（誇らしげに）。

——ちなみに、ワジムさん的に「アフリクション」のTシャツのデザインはどう評価されているのでしょうか？

M-1チャレンジ2008年度日程表

日 付	大 会	Aグループ	Bグループ
3月 2日	オランダ大会	ロシアレッドデビルvsフランス	オランダvs欧州選抜
4月 2日	ロシア大会	韓国vsフランス	日本vsロシアレギオン
5月31日	スペイン大会	フィンランドvsアメリカ	オランダvsスペイン
6月27日	ロシア大会	ロシアレッドデビルvsフィンランド	ロシアレギオンvsスペイン
7月17日	日本大会	フランスvsアメリカ	日本vsオランダ
8月28日	韓国大会	韓国vsアメリカ	日本vs欧州選抜
9月25日	ロシア大会	ロシアレッドデビルvsアメリカ	欧州選抜vsロシアレギオン
10月11日	フランス大会	フランスvs韓国	日本vsスペイン
10月17日	ロシア大会	ロシアレッドデビルvs韓国	ロシアレギオンvsオランダ
11月	フィンランド大会	フィンランドvsフランス	スペインvs欧州選抜
12月	決勝戦	Aグループ1位vsBグループ1位	

日本人選手

70キロ	中村大介（U-File CAMP.com）
76キロ	濱村健（CMA京都成蹊館）
84キロ	渡辺悠太（ALLIANCE）
93キロ	桜木裕司（掣圏会館）
93kg超	藤井克久（CORE）

『DEEP M-1チャレンジ5 in Tokyo』
東京・後楽園ホール
7月17日（木）開始17:30

対戦カード
Aグループ=フランスvsアメリカ5試合
Bグループ=日本vsオランダ5試合

問い合わせ
DEEP事務局／TEL.052-339-0303

ワジム　そうだなあ。一番最初に「アフリクション」のTシャツを見たときは、あまりにも骸骨が全面に出ていて「どうなんだ？　このデザインは」と思ってたんだ（笑）。

――ハハハハ。まあ、若者向けですよね。

ワジム　最近はこれも一つの流行なのかなと思い始めている。彼らは非常に高いブランドも扱っているような組織なので、まあ、総合してこのデザインもいいのかなという結論だ。

――ワジムさんが若者文化に理解のある方でよかったです。

ワジム　それに、ヒョードルも喜んでTシャツを来ているしな。

――そうなんですか！　そういえば、すでにヒョードルのオリジナルTシャツもできてるんですよね？

ワジム　そうだ。ロシアのシンボルである鷹をイメージしたもので、やはり骸骨が中央にデザインされている。

――あ、骸骨は付きものなんですね（笑）。

ワジム　そこはアフリクションスタイルとでも言うべきかもしれないが、その上には「ヒョードルは最後の皇帝である」というメッセージが書いてあるんだ。

――丁寧なご説明ありがとうございます（笑）。ちなみに、ヒョードルは似合ってましたか？

ワジム　ああ、似合う。まさに、彼のTシャツという感じだ。

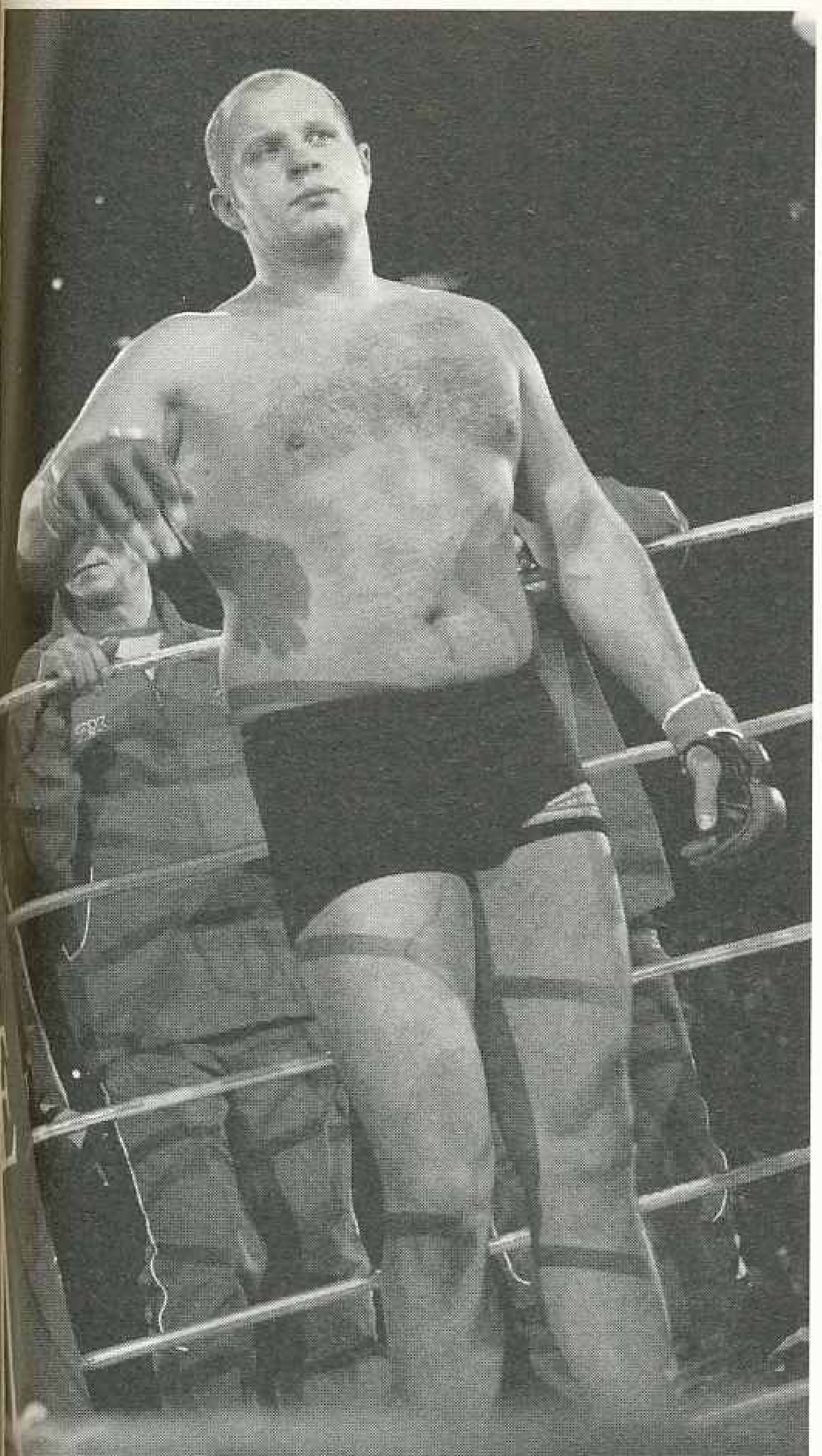
――ちょっと脱線してしまいましたが、その「アフリクション」をはじめとする他業種の資産家たちが、これまでMMA業界に多数参入してきましたが、なかなか大成に至らないのはなぜだと思いますか？

ワジム　やっぱりちゃんとしたプロがプロモートしてこなかったからじゃないか。その点、我々はすべての大会において非常に慎重にことを進めようとしているんだ。

――今回の『アフリクション』やM－1チャレンジにしてもそうだ、と？

ワジム　私自身、この世界に入って10年間の経験があるが、そのあいだに日本、オランダ、フランス、フィンランドなど、各国とさまざまなコネクションができた。だから、誰かみたいに「自分たちはこの業界でのナンバーワンだ！」とか、そういったことを大声で叫ぶのではなく、いろんな団体とともにMMA業界自体を盛り上げていきたいと思っている。

――競争しつつも共存するというのは可能なことですもんね。ただ、先ほどワジムさん


今年の年末も“60億分の1”ヒョードルはやってくるのか!?　ワジム氏の言葉からは「M-1はヒョードルだけじゃない!」というニュアンスが伝わってくるが、やっぱり世界最強の行方は気になるのがあたりまえなのだ。

Vadim Finkelstein

UFCのアグレッシブな方針はどうしても受け入れられない

がおっしゃったようにUFCに関しては、正直、囲い込み運動が激しいですよねえ。

ワジム　いまUFCが高慢でいられるのは、やはりそれなりの歴史もあるし経験もあるしファン層も厚い。それは事実。ただ、いまそうかもしれないが、じきにほかの団体が成長してUFCと同じようなレベルになってしまうんじゃないかと、私はそう思っている。

――UFCの天下もそう長くは続かないんじゃないか、と。

ワジム　現に、彼らはすでに強い選手たちを失なっているからね。ティム・シルビア、マット・リンドランド、ジョシュ・バーネット……。その現実が彼らの未来を示唆しているんじゃないのか？

――確かに、そう考えるとUFCは大物ファイターを逃してますね。

ワジム　MMAファンたちがネット上で勝手に決めているランキングみたいなものもあるようだけど、UFCの選手はその中でも一人か二人入ればいいくらいじゃないか？　もし彼らがもう少しオープンで、選手の交流を盛んに行なえばもう少し公平な目で見られるかもしれないけど、現状はまったくそんな感じではないからな。

――とはいえ、UFCを盛り上げることで、ここまでアメリカにMMAを認知させたダナ・ホワイトの手腕についてはどう思いますか？

ワジム　ああ、ちょっと誤解があるかもしれないが、私自身、基本的にUFCのことは尊敬しているんだ。彼らには歴史、人力、財力があって、MMAをこれだけ親しみのあるものに作り上げた。ただ、やっぱり彼らのアグレッシブな方針というのはどうしても受け入れられない。PRIDEを買収したのもその一つ。彼らはUFCよりもPRIDEが優れていたことを感じて買収し、潰してしまった。

――確かに、それは残念の一言ですねえ。

ワジム　だが、我々が計画しているM－1チャレンジはUFCを脅かす材料になるかもしれないな。そのくらい可能性のあるプロジェクトだと確信している。今年はたったの9カ国10チーム（ロシアから2チーム参加）でしかないが、来年は16カ国の参加を予定している。

――16カ国！　WBC（ワールドベースボールクラシック）並みですよ！

ワジム　最終的にはサッカーやバレーボールの世界対抗戦みたいなものをイメージしてもらえるとちょうどいいかもしれない。

――まさにMMA版ワールドカップって感じですね。

ワジム　そのとおりだ。それに世界各国のプロモーターも国対抗となれば、それにふさわしい選手を出して必死になるに違いないからね。それに、いずれはM－1チャレンジに参加するための予選なんかも行なわれるかもしれないし、数年後にはほぼすべての国がM－1チャレンジに参加してチャンピオンを目指すという構造ができあがってるかもしれない。

――MMAの競技化という点でも、その形式には可能性を感じますね。

ワジム　それに、M－1チャレンジに出ている若手の選手自身にも、ここに参加することによって可能性が広がるだろう。ここからM－1グローバルに出るのもいいし、

DREAMやK―1に出るのもいい。それに我々としてはUFCという道を選んでもらってもかまわないんだ。それから、メディアにおいても可能性がある。これまで3回大会が行なわれているが、9月にはそれを含めた全6回ぶんの映像資料が我々のもとに届くことになっている。これを、誰にも売ったり渡したりせず、近い将来、テレビ局に掛け合って毎週のテレビ番組として少しずつ提供していこうかと、そんなプランもあるんだ！（一気にまくしたてて）。

――ぜひウチ（kamipro.com）の動画にもお願いします（笑）。

ワジム　（無視して）視聴者たちはその試合を観て、「この国の選手は寝技が強いぞ」とか「この国は打撃だ！」とか考えるはずだ。そうしながら対抗戦を行なって、最終的にはAグループ、Bグループの1位同士を大晦日に闘わせて優勝チームを決めよう思っている。ぜひさいたまスーパーアリーナでやりたいと思っている。

――日本でやるんですか!?（笑）。

ワジム　それが私の最大の希望だ。あの大晦日の素晴らしい空間で試合ができれば、勝ち上がった国には最高に栄誉なことだろう。そのためにも、いま各国で行なわれている予選大会を盛り上げねばな。

――ちなみに、M―1チャレンジについて一つ疑問があるんですが、日本チームの総監督が佐伯さんになったのはどうしてなんでしょう？

ワジム　それは彼にもそれなりの功績があるということなんじゃないのか？　相当な目利きと聞いたぞ。

――我々も、グルメに関しては相当な目利きと聞いています（笑）。

ワジム　でも、日本も本当にいいチームを作ってくれた。サンクトペテルブルグ大会でも3対2でロシアのチームに勝ったし、充分認めるべきものはあると思う。とにかく、この生まれたばかりのプロジェクトは、10年前にMMAが誕生したときと同じような状態にある。1年後、2年後、どんなふうに変貌を遂げるか、私自身、非常に楽しみにしているんだ。

――ところで、先ほどM―1チャレンジの決勝をさいたまスーパーアリーナで行ないたいと言われましたが、毎年恒例となっているヒョードル選手の試合を観ることもできるんでしょうか？

ワジム　たとえばだね、M―1チャレンジの決勝戦が大晦日にさいたまであるとすれば、スーパーマッチとしてヒョードルが試合をする可能性もアリだ。というのも、M―1チャレンジの全大会には本戦とは別にスーパーマッチというのを組んでいるからだ。サンクトペテルブルグ大会では（エメリヤーエンコ・）アレキサンダーが試合をしているしね。ヒョードルだけではなく、ほかにもいろんな可能性を考えているよ。

――なるほど。

ワジム　とにかく、いまはM―1チャレンジに注目してほしいというのが私の一番言いたいことだ。過去の大会は試合内容も非常に素晴らしいものになっている。キミが観ても、きっと口をポカーンと開けて観てしまうほどおもしろい試合ばかりだと思うよ。

――わかりました（笑）。口をポカーンと開けさせていただきます！　今日は、M―1チャレンジに夢中のワジムさんにお話をうかがいました！

【08年6月3日／都内・某所にて収録】

数年後にはほぼすべての国がM―1チャレンジに参加する構造ができるかも



アフリクションのTシャツを来て超ご満悦のワジム氏。今後のヒョードル、そしてM-1チャレンジによる"世界侵略"のカギはこの男が握っているのである。

『M-1 Global & Affliction Banned』

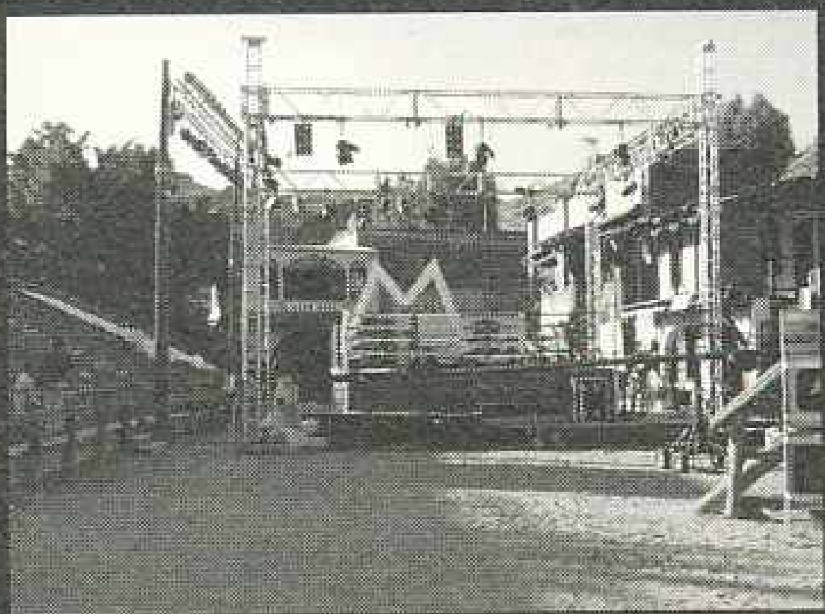
米国カリフォルニア州 アナハイム ホンダセンター
7月19日（土）現地時間

対戦カード

エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ティム・シルビア
ジョシュ・バーネット vs ペドロ・ヒーゾ
ベン・ロズウェル vs アンドレイ・アルロフスキー
レナート・ババル vs マイク・ホワイトヘッド
マット・リンドランド vs ファビオ・ネガオ
エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs ポール・ブエンテロ
マイク・パイル vs ブレット・クーパー

カナリア諸島の風を感じる

5.31M-1チャレンジ・スペイン大会をピックアップ！



かつてのボードッグ・コスタリカ大会を思わせるリングの設営風景。スペイン大会の会場になったのは、屋外＆砂地という、特殊な場所となったのだった。



次ページに登場する野口レフェリーにも「優勝候補ではないか」と目されているフィンランドチーム。日本ではあまりピンと来ないが、M-1チャレンジはこうやって未開拓の国の選手が活躍＆発掘される場でもあるのだ。



カナリア諸島にこんなにMMAファンがいるのか!?と思うくらい多くの観衆が足を運んだこの大会。スペインチームの試合だったということもあるが、写真から想像するに、かなりの盛り上がりである。



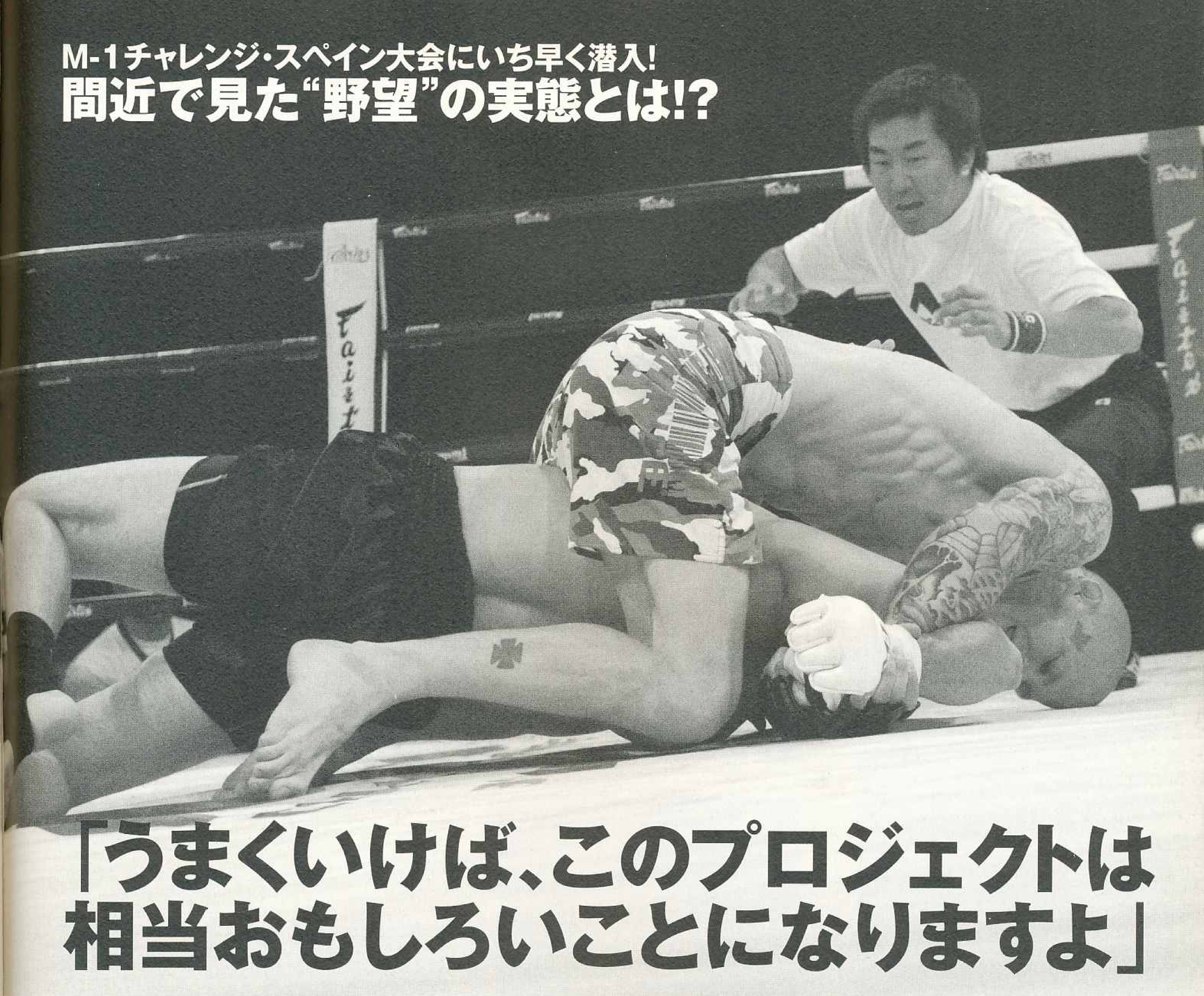
砂地に設置された花道がコチラ。Mのゲートはもちろん M-1チャレンジの「M」を意味するものである！ この風景は三谷幸喜の映画『ザ・マジックアワー』の撮影現場にも見えるのは気のせいか。



炎天下の中、集合するファイターたち。モノクロページでは伝わりづらいが、すでに肌が赤みを帯びている選手も多数。沖縄とほぼ同じ緯度であるカナリア諸島の環境はファイターにとって想像するだけでしんどそう。



M-1チャレンジ・スペイン大会にいち早く潜入!
間近で見た"野望"の実態とは!?



「うまくいけば、このプロジェクトは相当おもしろいことになりますよ」

DREAM公式レフェリー／島田裕二イズム最初で最後の継承者

野口大輔



Daisuke Noguchi

聞き手／ジャン斉藤

ワジム氏が熱弁するM―1チャレンジにいち早く潜入した男がいる。その男こそ、ここで登場する島田裕二DNAこと野口大輔レフェリーだ。5月末に行なわれたM―1チャレンジ・スペイン大会にレフェリーとして呼ばれ、大会が行なわれたカナリア諸島まで飛んだ野口レフェリーだが、そこではいったいどんな光景が広がっていたのか。M―1チャレンジの実態をさっそく直撃!

――今日はM―1チャレンジ・スペイン大会に足を運んだという野口大輔レフェリーに、〝目撃者〟としてお話をうかがいたいと思います。

野口　カナリア諸島まで行ってきましたからね。もう一生行かないんじゃないかと思ってますけど（笑）。

――そもそも今回はなぜカナリア諸島の開催だったんでしょうか?

野口　いや、僕もわからないんですよ!（キッパリ）。最初はポーランドだったという話もあったみたいで。

――開催地からしてミステリー!　難しいインタビューになりそうだ（笑）。

野口　まあ、スペインチームが出たからなんでしょうけど、ぶっちゃけた話、どこにあるかもわからなかったですもん、カナリア諸島。で「どんなところなんだろう?」ってインターネットとかで調べてみたら、数百年続いている「ルチャカナリア」というレスリングみたいな競技があったりして、格闘技に対する関心や土壌はあるんでしょうけど、本当にリゾート地なんですよね。

――でもやっぱり、スペインとMMAってなかなか連想しづらいんですけど、現地では盛んなんでしょうか?

野口　いや、本国のほうでは広まりつつあるって聞きました。なので選手はいる

とは思いますけど、自分で興行を打ったりする人は少ないんじゃないですかね。だから、海外からこんなに選手を呼んでやるというのは今回が初めてだったんじゃないですか。

——現地はどんなムードでした？

野口　ムード？　それはもうビーチですよ、完全に。

——まあ、そうなんでしょうけど（笑）。

野口　これがロシアとかだったら、町中にヒョードルのポスターが貼ってあったりすると思うんですけど、そういうのはほとんどないですし。僕らが泊まってるホテルも、選手や関係者以外はバカンスに訪れた老夫婦ばっかりですもん。

——う〜ん、「カナリア諸島の皆に問う！　M-1チャレンジは誰か？」って感じですかね（笑）。

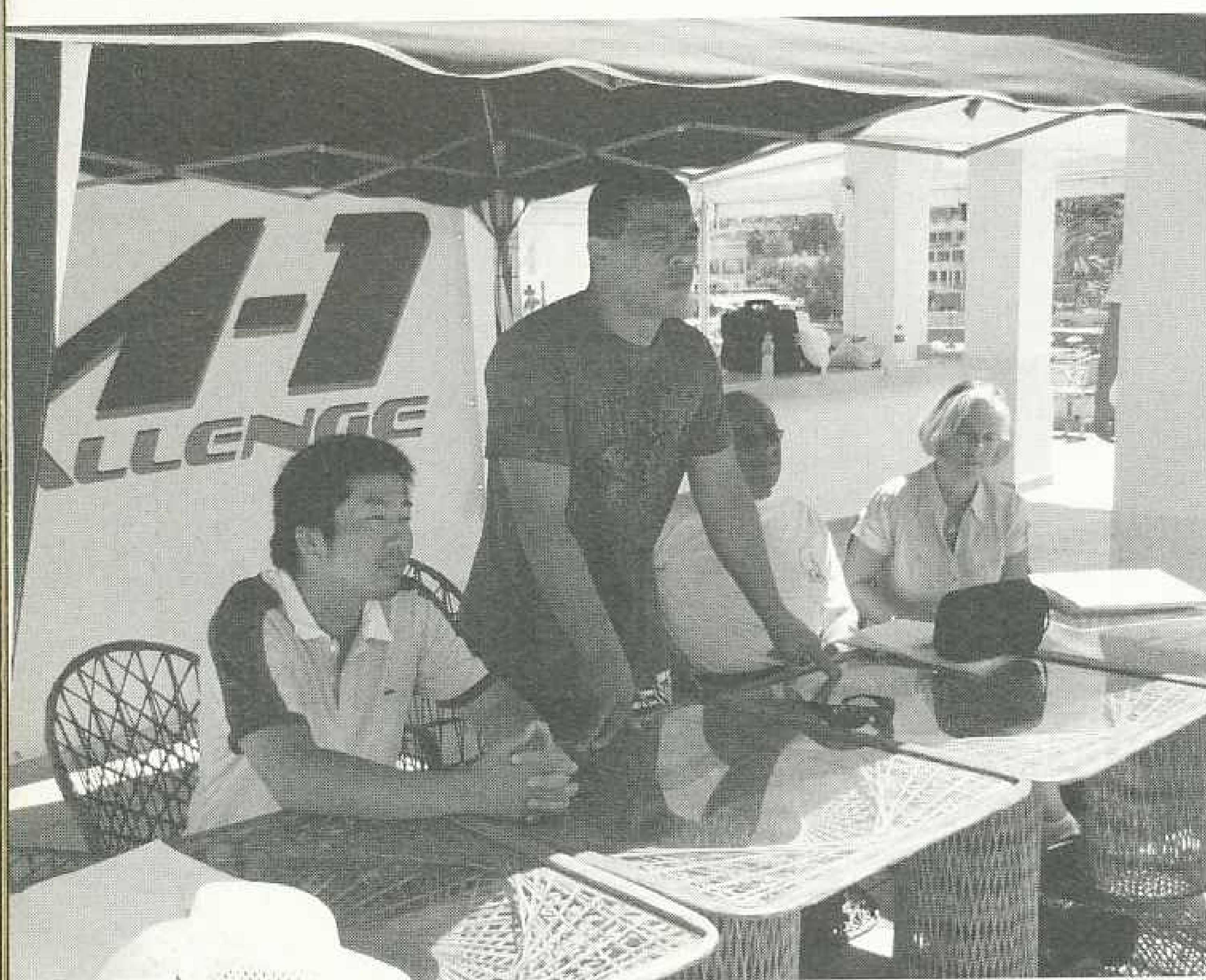
野口　僕らも現地のことはよくわかってなかったんですよ。着くまで会場の場所さえわからなかったんですから。

——新手のドッキリですよ、それ！

野口　いや、そもそも場所の名前を聞いてもわからないし。それに、僕らだけじゃなくて、選手たちもたいへんなんですよ。会場に着いたら着いたで、選手はみんなほったらかしだから、「どこでアップする？」みたいな感じになっちゃって。フィンランドの選手なんか、教会の中でアップしたりしてましたからね。

——教会でアップ！　凄く絵になりますね（笑）。

野口　っていうのも、カナリア諸島ってとにかく日差しが強くて熱いというか、痛いんですよ。だから、屋内じゃないと身体がしんどいんですよね。……でも、計量とかはそんな炎天下の中でやってましたけど（笑）。





これが野口レフェリーが語る計量の様子。関係者にはテントが用意されているが、選手は身体を火照らせて、炎天下の中、待機。これもカナリア諸島ならではのことなのか。

——計量って普通ホテルの中とかでやるもんなんじゃないんですか？

野口　いや、ホテルはホテルなんですけど、なぜかホテルの屋上なんですよ！　選手も汗ダラッダラなんですよね（笑）。

——ダハハハ！　それじゃ公開減量ですよ！

野口　で、ホテルから会場へはバスで50分ぐらいかかるんですけど、これが全選手を1台のバスに乗っけて連れていくんですよ。護送車みたいに（笑）。で、着いたと思ったら、なんと会場はウェスタン村みたいなところなんです。

——なぜウェスタン村（笑）。

野口　凄いですよ（笑）。そのウェスタン村もけっこう広いんで、「どこでやるんだろうなあ……？」とか思ってたら、奥にリングがぽつんと立ってて。

——それはさすがに屋内なんですよね？

野口　いえ、もちろん屋外ですよ！

——ジャングルファイトを超えてますよ！（笑）。話だけ聞いてると、巨大な村おこしイベントみたいですね。

野口　ドリフのセットみたいなんです（笑）。その前にリングが立ってて、その奥に木で作られたスタンド席があるみたいな感じで。

——一番気になるのは、お客さんはちゃんと入ったのか？　ってことなんですけど、どうなんでしょう。

野口　それが不思議なことに、カナリア諸島でMMAイベントを観に来る人ってどんだけいるんだろう？　って思ってたんですけど、これがわりと来るんですよ。僕らの感覚で「ああ、後楽園ホールの南側、けっこう埋まってるなあ」ってぐらいいましたね。

——ということは、○○○の実券よりは売れた、と（笑）。

野口　ハハハ！　で、やっぱりスペインの人たちなんで、MMAに興味があるのかどうかはわからないんですけど、試合になると熱狂的なんですよ。とくにこの大会にはスペインチームが出てたんで。で、スペインチームの選手がマウント取ったり、いいパンチを入れたりすると湧くんですよ。けっこうMMAの見方を知ってって驚きましたね。

——今回はスペインvsオランダ、アメリカvsフィンランドが闘ったんですよね。でも、おもしろいですよね、スペインだったりフィンランドだったり、日本ではあまりなじみがない国の選手同士が闘ってる光景というのは。

野口　そうなんです。しかも、アメリカやらオランダやらは格闘技大国のイメージじゃないですか。でも、結果的にはスペインとフィンランドが勝ちましたからね。スペインチームの84キロの選手だったかな。あれがいい選手だったんですよ。

——でも、スペインの選手って何をバックボーンにしてるのかイメージがわかないですね（笑）。

野口　その選手はね、寝技がよかったです。タックルがきれいだし、けっこう強い。あの選手は日本でもDEEPに出た

フィンランドの選手なんか、教会の中でアップしてたりしましたから

らおもしろいんじゃないかなと思いますね。ただ、佐伯（繁・DEEP代表）さんは渋るだろうなあ、スペインからの航空券代がバカにならないから（笑）。

――間違いないですね（笑）。

野口　まあ、いずれ日本でも観られるかもしれませんね。次回のロシアで来月は日本、そのあとに韓国でもやります。あとパリの予定もありますし。

――パリでMMA！　いい響きだなあ。

野口　実際、こういったM―1チャレンジの試みというのは、凄くいいことだと思いますよ。うまくいけば、このプロジェクトは相当おもしろいことになると思いますし。さっきも言ったように、そのスペイン大会ではいわゆる格闘技大国と言われる国が負けてるんで、いままで誰も知らなかった国から新たに選手を発掘できると思いますし、格闘技の裾野を世界に広げることができるんじゃないかと思います。

――MMAを競技化しようって動きもありますが、M―1チャレンジのやり方で定着させられる可能性もありますよね。

野口　いまのところ選手のレベルは国によってマチマチですけど、でもこのプロジェクト自体は凄くいいと思いますね。やっぱりワジムも格闘技というものを自分できちんと整備して、それからもっと大きなプロジェクトを進めたいというのがあるんでしょうね。だって、それこそヒョードル一人出せばお客さんは埋まるじゃないですか。でも、各国の現地の人間がちゃんと自分でプロデュースできるようにしよう！　ってことで、こうやっていろいろ伝播に努めてると思うんですよ。

――スペイン大会はいろいろ大変だったみたいですけど、そこも徐々に整備していけばいいわけですからね。

野口　僕みたいなレフェリーもそうですし、ドクターも、今回は町のお医者さんみたいな感じでしたけど、ちゃんとリングドクターを育成していける。そういう部分が世界中で教育できるシステムにはなってますよ。

――今回のM―1チャレンジは9ヵ国10チームで開催されてますが、来年からはもっと参加国を増やすという話も出てますよね。

野口　そういう意味では、いろんな国を見ることができるんで楽しいですよね。「ドイツの選手ってどんなヤツらなんだろう」みたいな。

――それに国別対抗戦ということだったら、いろいろプロデュースできますよね。もの凄くベタですけど、入場式はその国の民族衣装で登場してもらうとか。

野口　そういうのは絶対にいいと思いますよ！　日本は和服で出てくるとかですよね？　ロシアはみんなマトリョーシカから出てくるとかでもいいと思いますし。フィンランドだと、湖のほとりにリングがあって、お客さんはティーを飲みながら観戦する、と。たぶんもの凄く間違ったイメージだと思いますけど（笑）。

――日本でも間違った和のテイストを演出してほしいですよね。富士山と東京タワーと金閣寺が一緒に描いてある外国人向けお土産のペナントのイメージで（笑）。

野口　ラウンドガールが全員芸者で、ゴングも和太鼓にしてほしい（笑）。だから、将来的には国の中でM―1チャレンジに出るためのチャレンジとかが行なわれるようになったりするんじゃないですか？……あ、ただ、一つ心配なのが、日本は監督の人選を間違えたってことですね！

――ダハハハハ！　佐伯日本代表総監督ですね。

野口　日本の総監督はですね、ロシアで道に迷うんですよ。しかもマックを探してですからね（笑）。

――どこに行っても変わらない（笑）。

野口　まあ、真面目な話、やっぱり日本の選手って恵まれてるじゃないですか。控室はあって、シャワーはあって、時間になったらスタッフに呼びにきてもらって。でも、海外のイベントはそんなの一切ないのがあたりまえですからね。そういうところから育成されるのもアリですよ。

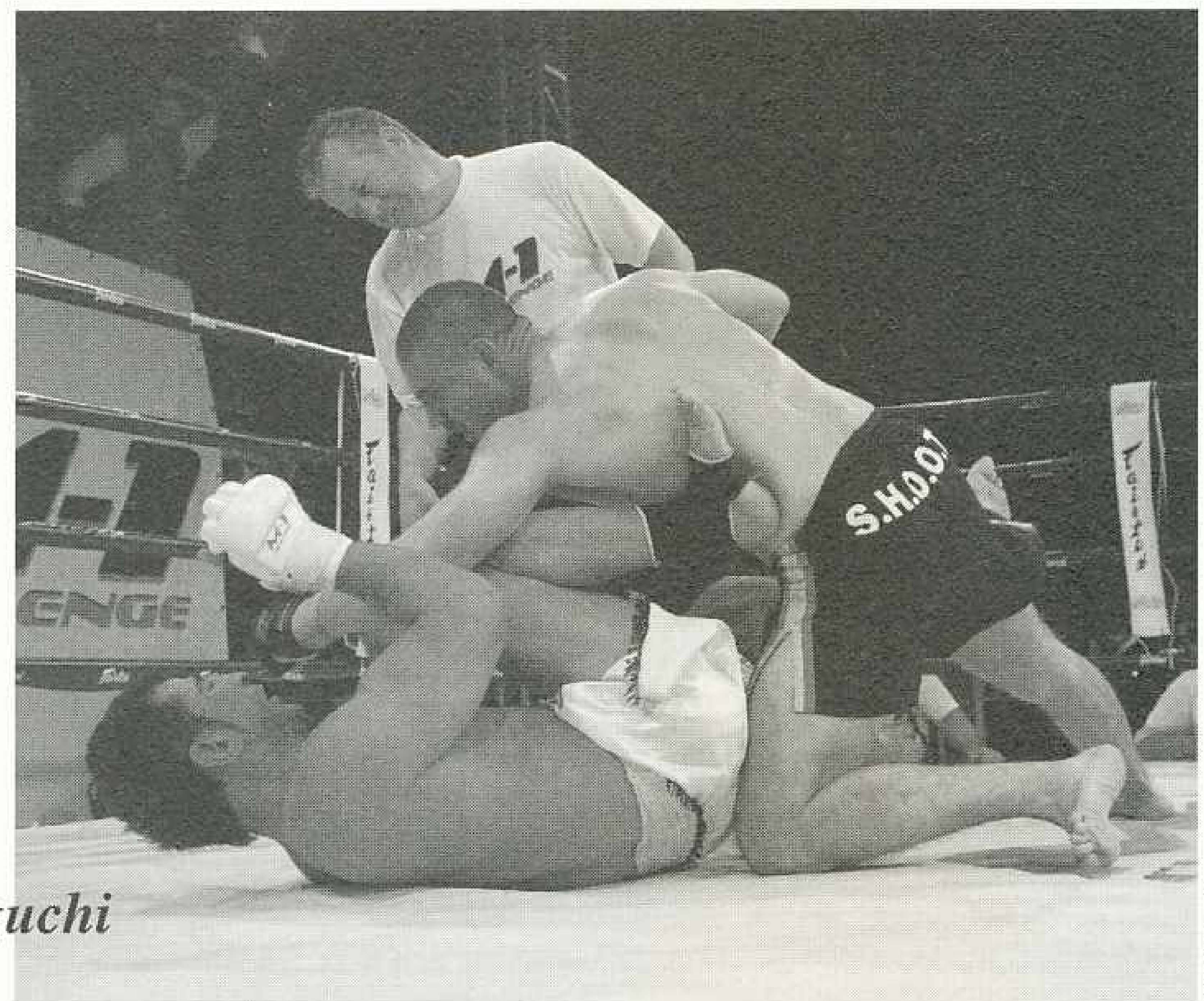
――そのへん日本はUFCより待遇がいいですから。

野口　だから日本の若手の選手は武者修行だと思ってチャレンジしてほしい。そこから進化していくのも楽しいんで、僕は凄く期待してるんですけどね。

――わかりました。今後もM―1チャレンジ発展のためと、佐伯さんが迷子にならないように頑張ってください！（笑）。

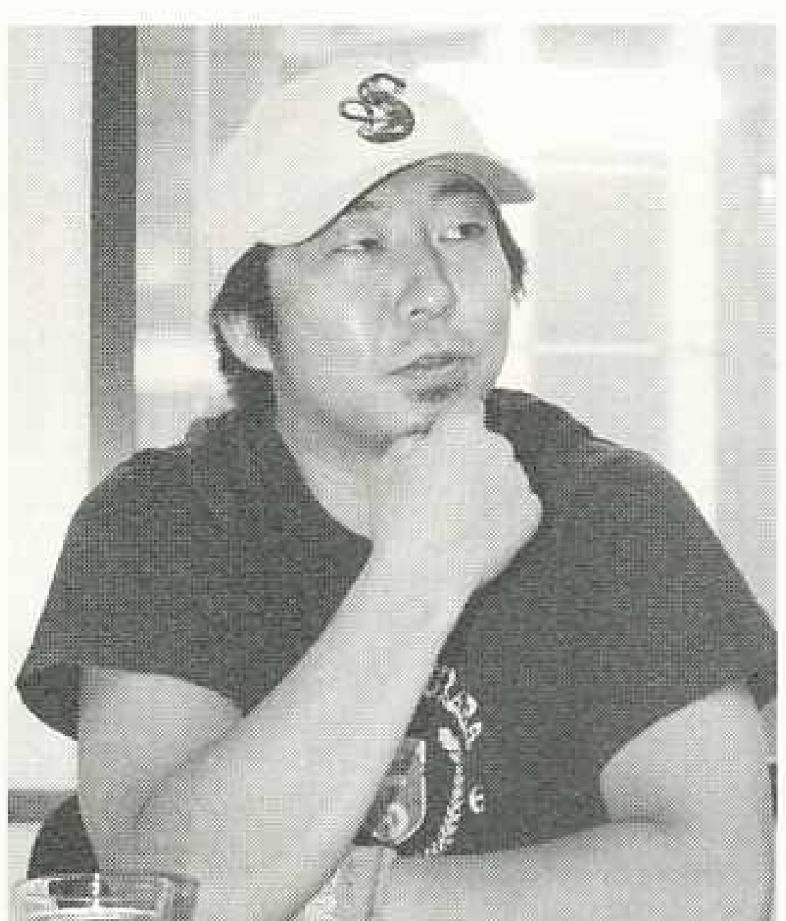
【08年6月11日／リアルエンターテインメントにて収録】

今大会ではいわゆる格闘技大国と言われる国が負けてるんですよ

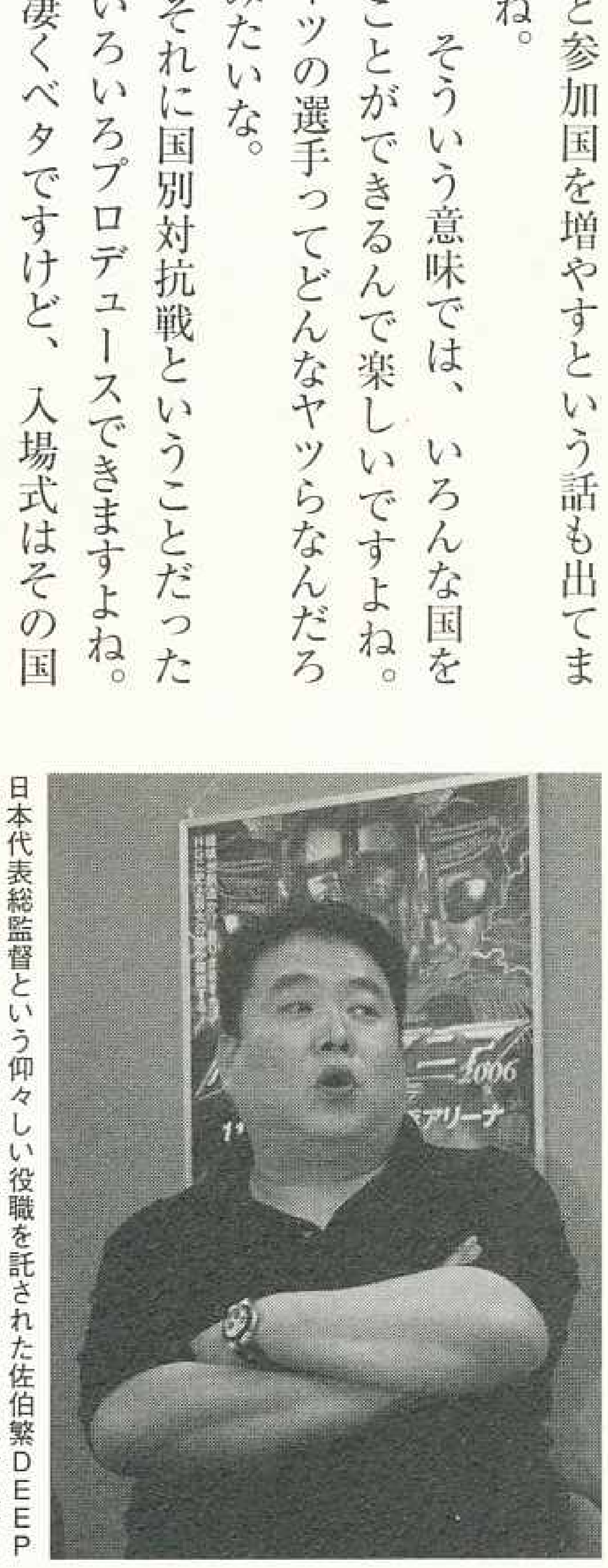


チームは階級の違う5名によって編成される。比較的体重の軽い日本人にとって軽量級は有利と思われるが、パワフルな外国人選手が相手となる重量級はちょっと苦戦する感も。

Daisuke Noguchi



のぐち・だいすけ■1976年10月28日、栃木県出身。相撲、空手、柔術の経験を持ち、01年にレフェリーデビュー。DREAM、『ハッスル』、キックボクシングなどの試合をさばく敏腕レフェリーであり、かつてPRIDEでレフェリーをしていたときの映像が、いまUFCの会場でバンバン映し出されている有名レフェリーでもある。



日本代表総監督という仰々しい役職を託された佐伯繁DEEP代表。日本代表チームの活躍に期待するとともに、海外で迷子にならないように気をつけてほしいものである。

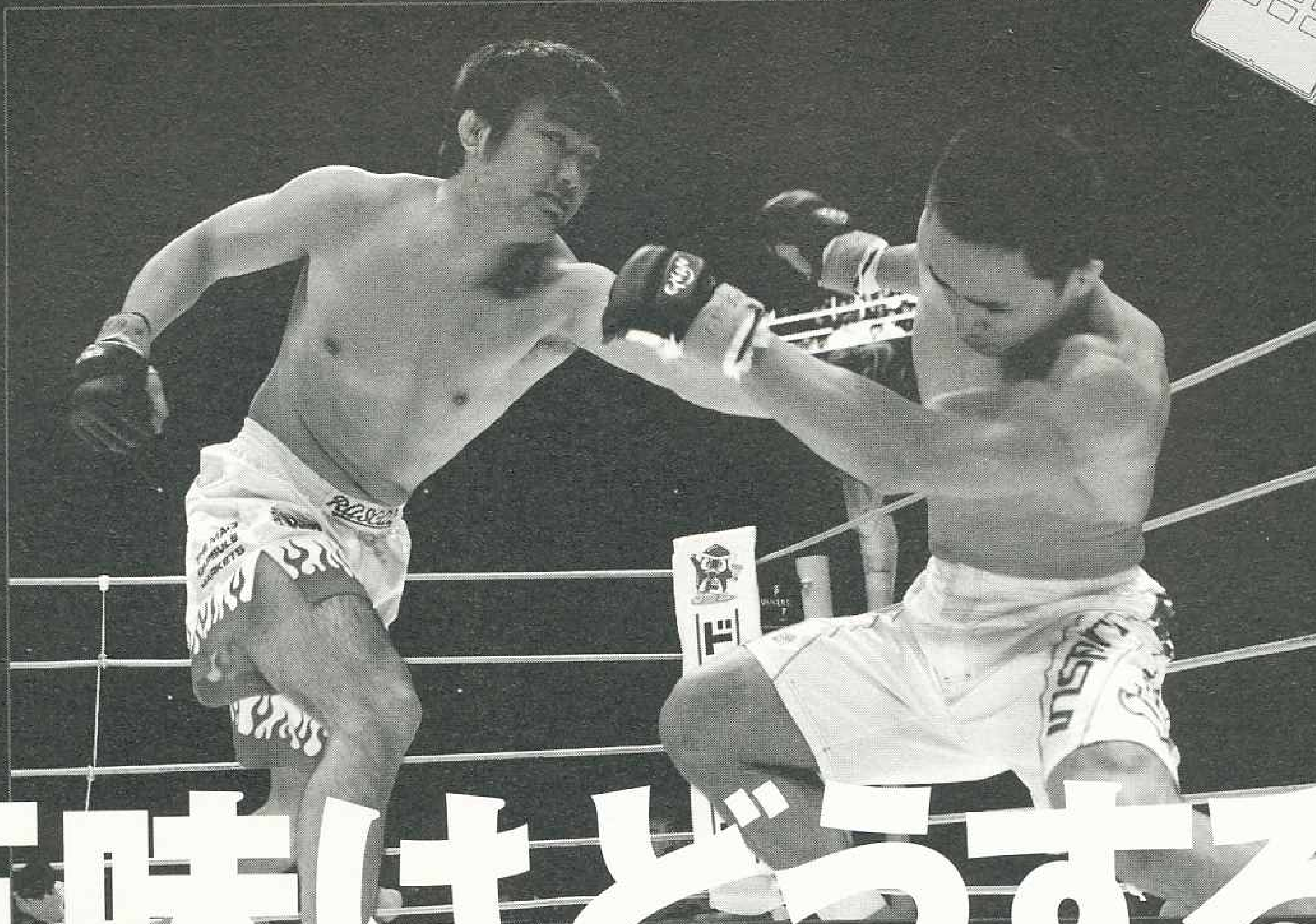
kamiproの携帯サイト

kamipro Hand



ニュース、コラムを毎日配信

マニア格闘技の神髄を読め！ その一部をちょっと公開!!



五味はどうする？

水曜コラム ［橋本宗洋の『格闘裏グルメ』］(6月11日更新分より)

試合に意味を持たせるという点で注目なのは、8月から始まるライト級トーナメントだ。現在5人の出場メンバーが発表されているが、ここにどんな選手が加わるか、どんな闘いが展開されるかで、今後の『戦極』そのものが大きく変わってくる可能性がある。

ただし、ちょっと疑問に思うことがないわけじゃない。ご存知のように、このトーナメントは五味隆典との対戦権をかけて争われるものだ。一方、このトーナメントが始まる8月大会には、五味自身も出場を予定している。ということは、トーナメントに勝たずして五味と闘える選手が出てくるわけで……。このへん、“線”としてのストーリー作りと“点”としての興行単発での盛り上げのすり合わせが難しいところ。もしかすると、8月の五味の相手には超ド級の“隠し玉”がいたりするんだろうか。

これはあくまで個人的な考えなんだが、どうせなら五味もトーナメントに出ちゃえばいいと思うのである。(続く) ［文/橋本宗洋］

編集部員によるkamiblogも読み応え充分！
いますぐkamipro Handへアクセス!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
	※もしくは「kamipro」で一発検索			
au	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

［QRコード］

［お問い合わせ］(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1795



「やっとみんな目が覚めたのかよって!!」

こそ猪木の出番!!

環境問題や資源問題、エコライフが叫ばれて久しいが、
だからこそ“攻めるエコライフ”を掲げるアントン総帥の存在は一際輝いているのである。
それは、もはやエコというよりエゴと断言してもかまわないその執着ぶり。
世の中が乱れたときこそ俺の出番！というわけで、
「なんで猪木が環境保全なの？」という疑問は横に置いて楽しんでほしいのであります。

聞き手／小松伸太郎　構成／イノキデンキ仮面



マット界のエネルギー博士が大放談!!

石油危機のときこ

—猪木さん、このあいだは中国の四川省で大地震が起きたり、ミャンマーではサイクロンによる大きな災害が出たりと、地球規模で大きな被害が相次いでいます。プロレス界の危機的状況が叫ばれて久しいですが、そうしているあいだにも地球の危機も進み始めているのではないかと思い、昔から環境問題にも取り組まれている猪木さんにご意見をおうかがいしたいんですよ。

猪木 まあ、災害はね、なんと言ったらいいかわからないんだけど、人間が汚してしまった部分はありますね。大気汚染とか、サンゴのこともそうですけど、やっぱりこの40～50年のあいだの産業革命というかね、そこで川が汚れましたよね。

—高度成長期には各地で公害が問題になりましたよね。

猪木 まあ、俺が育った横浜の鶴見川っていうところはね、子どものときは泳げたんだよね。それから何年もしないうちに、ピカピカだった川が真っ黒けになってね。砂地になってるところにはカニもいたんだけど、それすらいなくなったというね。それは俺が子どものときに起こったことなんですよ。あと議員になってから世界中のいろんな湖、あるいは川を視察に行きましてね、リオの港とか、いまだに汚れてますよね。日本はラッキーなことに、そのときに経済成長があって、まだ完璧じゃないけども環境にお金を投資できたんで。それでも、批判されるような、ひでえ川があるけれども、やっぱり20年かけて汚したものは、きれいにするのも20年かかる！

—元に戻すには汚した年数だけかかるわけですね。

猪木 そういうことがまず一つ。それから結局、海の汚染にしてもね、いまいろんなプランクトンが少なくなってきて、それを食ってるイワシやなんかが減ってきてる。イワシが減ると、イワシを食うカツオが減る。で、またカツオを食っているような大きな魚が減る……海の中も危機的な状況なんですね。

—イワシやカツオも減ってましたか。

猪木 まあ、アマゾンの森林破壊とかは世界的な問題になったけど、サンゴなんかに対しては全然そういう危機感がねえでしょ？　やっと、テレビやなんかでやるようになったけど、自分の生活と密接してねえから、「あ、大変なんだ」ってだけで終わっちゃうじゃん。そこで何か「自分なりにやりましょう」っていう意識にはならない。そこに俺なんかは、とにかく一歩踏み出す勇気というか、アクションを起こさせる運動をね、もっともっと積極

的にやるべきだなとは思ってるね。
——環境に対する意識を変えさせないといけないわけですね。
猪木　だから、俺なりに「こういうことができました」ってことを立証しないといけない。じゃないと説得力がないんでね。だから、いまでは植えたサンゴが見事に繁殖してますから、見てもらえばわかりますよ。そういう意味ではね、災害なんかがあったときに、ボランティアをしに行く人がいますけど……まあ、一生懸命やってる人には申し訳ないけど、なんにもできないんだって！
——なんにもできない！
猪木　ズバリ言っておくけど、パフォーマンスかもしれないんだよね。やったことはいいと思うんだよ？　でも、現実的にはそんなもの、なんにもできないんだって！
——手厳しいですね。
猪木　まず、現地の言葉がわかんないとかね。だから、それこそ自衛隊をね、もう地球防衛隊って名前に変えりゃいいわけですよ！
——地球防衛隊！　壮大で格好いい名前ですねぇ（笑）。
猪木　アマゾンの森林なんか、毎年、東京都の10倍ぐらい領域が消滅してくわけですよ。空から見てチェックすればわかるんです、そこに煙が立つから。いま衛星からも広範囲でチェックできるしね。そういう場所には、武器を持った人じゃないと入れねえんですよ。相手も鉄砲持ってますしね、命の危険っていうものがあったりする。だから、軍隊のように戦争に参加する組織じゃなく、自衛隊が名前を変えてさ、世界的な環境問題に取り組んでいく。それでいいじゃないですか！

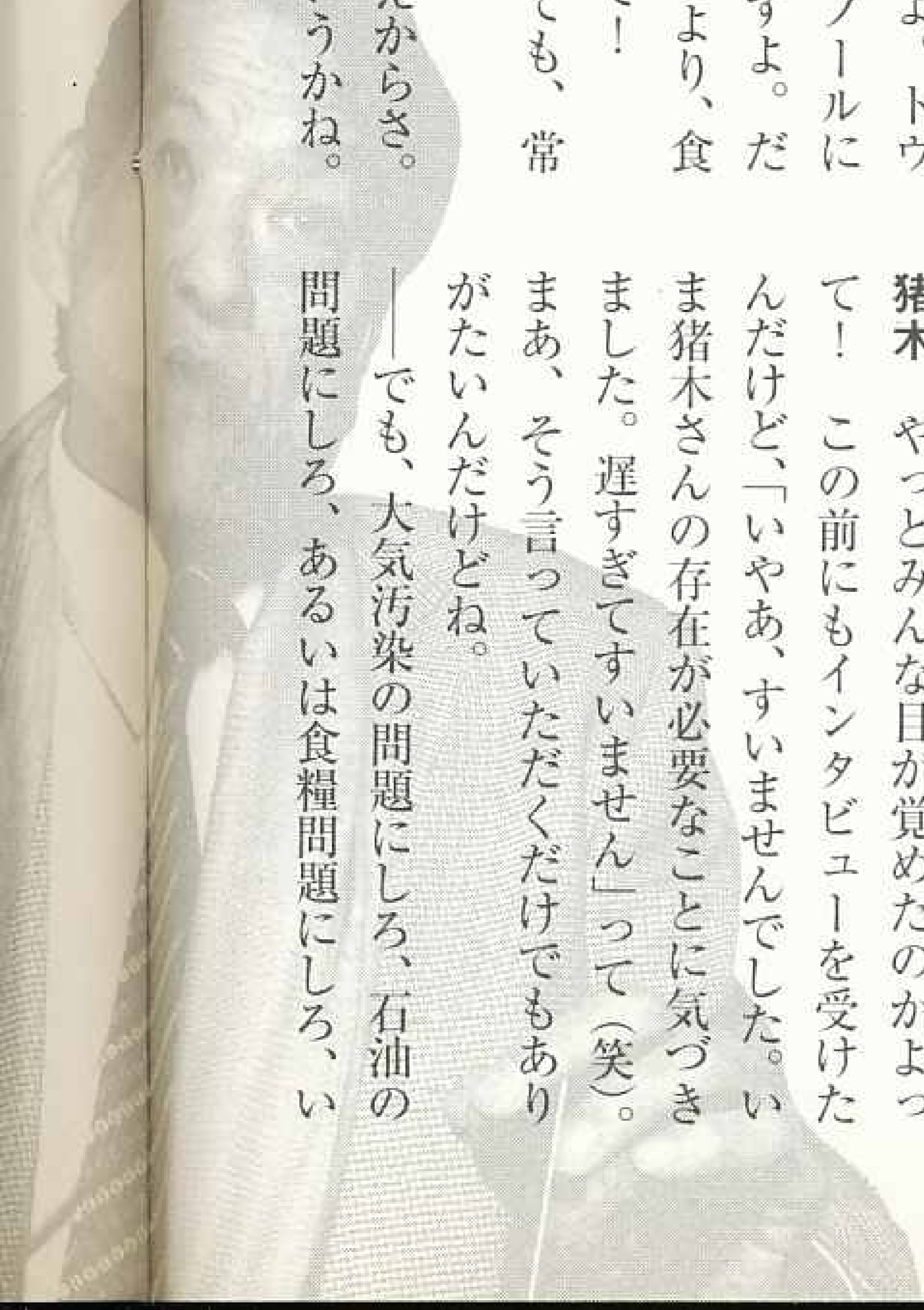
——ただ、いまの日本だと実現は難しそうですね。
猪木　法律を変えないといけないだろうしね。いま政治がね、自民党と野党が小せえことで押し問答してるけど、そんなことよりもっと大きな問題が生じてるよ、と！　もっと日本的なこと言えば、沖ノ鳥島なんて沈んじゃってんだよ！
——日本政府も沈まないように護岸工事をしていますよね。
猪木　200海里の問題がありますからね。それを日本の領土だって主張してるけど、沈んでんだよ。いま、ウチの仲間の中では、もっと環礁を広げて、領土として認めてもらえるようにしましょうって話も持ち上がっていますよ。それはある財団がやってます。



「アントニオ猪木酒場」が歌舞伎町に進出ダー!!　ご覧のように、ずいぶんとゴキゲンな内装で“変態”たちを出迎えてくれる。永久電機の話題で熱くなっても白い目で見られないのはこの店だけだ。場所？　テメエで見つけろっ!!（ヨダレ）。

日本には200海里問題もありますからね 沖ノ鳥島の保護にも取り組んでいるんです

——沖ノ鳥島の保護にも取り組んでおられましたか！
猪木　俺はいろんなことを世に出す役割だと思ってますからね。今度は油の精製とか、電機の問題とかも成功しますから、そうなると少なからずCO_2削減の問題とかには貢献できますよ。
——いま石油のお話が出ましたけど、原油が高騰してしまって、ガソリン代や紙代が値上がったり、大変なことになってますね。
猪木　全部上がってるよ！　石油もそうだけど、トウモロコシをバイオでエタノールにするって話があって、「いやあ、凄いことだ！」って言ってるヤツがいるんだけど、バカ言ってんじゃねえよ！
——え？　それはダメなんですか？
猪木　食うもの食ったほうがいいんだって！　これはいまになってしゃべってることじゃねえんだよ。俺は昔、サトウキビの絞りカスを牛の餌にするということに取り組んだんだから。
——アントンハイセル事業ですね。
猪木　そう。それによって、もっと世界のタンパク源というか、肉の事情をよくしようっていう発想だったんですよ。トウモロコシのような食い物をエタノールに変えるっていうのとは違うんですよ。だから、無理にアルコールに変えるより、食うもの食ったほうがいいんだって！
——猪木さんは環境問題に関しても、常に人の先を行かれてますね。
猪木　べつに俺も専門家じゃねえからさ。ただ、やっぱり自分の体験っていうかね。



子どものときにブラジルに行って、野草を食べたり、ホントに無農薬のものとかを食した体験がありますから。もう一つはかつて入植したコーヒー園が、何年かしてそこに行ったときに、コーヒーの木が抜かれて、荒廃していたんですよ。日本の農業っていうのは何百年という単位でずっと同じ土地を活かしながらやりますけど、ブラジルは焼畑農業ですからね。まあ、土の質も違うんだけど、それによって、ドンドン土地が荒れていってしまう。そういうのを目の当たりにした体験がベースにあるんで、俺なんかは環境問題には目が向くんだけど、いままではプロレスラーが環境問題なんて言ったって、みんなソッポ向いてたろ？
——残念ながら、なかなか耳を傾けてくれませんでしたよね。
猪木　俺が「いや、油だよ！」、「石油がこうだよ！」って言っても、本気で聞いてくれなかったじゃん。やっといまになって……だから今日はありがたいよ、そういう質問をしてくれてさ（笑）。
——猪木さんにそう言っていただけると、こちらも嬉しいです（笑）。
猪木　やっとみんな目が覚めたのかよって！　この前にもインタビューを受けたんだけど、「いやあ、すいませんでした。いま猪木さんの存在が必要なことに気づきました。遅すぎてすいません」って（笑）。まあ、そう言っていただくだけでもありがたいんだけどね。
——でも、大気汚染の問題にしろ、石油の問題にしろ、あるいは食糧問題にしろ、い

まになって世間が大騒ぎしてるっていう中で、何十年も前から猪木さんは取り組んでこられたわけですからね。

猪木　だから、南極のイベントもね、やらなくたっていいんだけど。でも言ってしまえば、みんなが「猪木さん、南極はどうするんですか?」って言うから、「うん、やるよ」と言っているだけでね。

――やっぱり、猪木さんが言った以上はみんな期待しちゃいますよね。

猪木　ただし時期を待たないといけないんだけどね。俺だって金がありゃ、すぐにでもやるけどさ。選手には呼びかけをもうちょっとしてね、ぜひこれは実現しようと思ってます。俺も南極には行ってみたいというかね。

――猪木さんが南極でやる以上は、何か環境問題的なテーマも考えてのことなんですよね?

猪木　うん、それはね、南極条約に加盟してる国が28カ国あるんですよ。

――南極地域の平和的利用を定めた条約ですね。

猪木　そこの許可をもらわないとできねえんですよ。まあ、いまいろいろ話をしてる最中です。1国でも反対したらダメですからね。ただ、器物を持ち込んじゃいけないとか、いろいろ制約があるんでね。器物ったって、リング持ってったとしたらね、そういうふうになってしまうし。あと季節の問題、船をどこに着けるのかっていう問題。まあ、いろいろあるんですよ。

――そういう部分では猪木さんとIGFがプロレス界と地球をまとめて救ってくれるんじゃないかって、期待を抱いちゃうんですよ。次の北海道のシリーズも何か大きな仕掛けを考えていらっしゃるんでしょうか?

小川が出るって言って客が入るんだったら俺は頭下げてでもね、「出てくれ」って言う

猪木　いやあ、なんかアイデア持ってきてよ、ダッハハハハ!　まあ、地方地方によってね、違うんですよね、ファンの反応がね。大阪なんかは昔からメチャクチャ熱くてね、体育館ぶっ壊されたり、大阪城ホールのカーテン燃やされちゃって、2000万罰金払ったりとかね。札幌の場合はわりと静かなんですね。だから、札幌の客が最後にグワーッと発散できるような試合ができればいいな、と。

――ただ、最初の参戦選手発表のときはまた小川(直也)さんの名前がありませんでしたね。

猪木　またゴチャゴチャやってんだよ。どっちでもいいんですよ!

――どっちでもいいですか(笑)。

猪木　だからさあ、小川が出るって言って客入るんだったらさ、俺は頭下げてでもね、「出てくれ」って言うよ。ジョシュ・バーネットでもなんでもいいんですよ。でも、客入りに関係ねえんだもん!

――出ようが出まいが関係ない(笑)。

猪木　だから、そういう場を俺は作ってるんだから、その場を利用して天下を獲れよって。べつに選手は誰だっていいんですよ。これはべつに札幌をバカにしてるわけでもなんでもなくてね、6000人から入る会場でやるわけですからね。

――そこで天下を獲ってやろうという野心を持った選手に出てきてほしい、と。

――それで、8月15日の両国大会も発表されました。これは新日本プロレスのG1の両国2連戦の前日なんですけど、あえてぶつけたんですか?

猪木　いや、その日しか空いてなかったんですよ。いま両国いっぱいなんでね。それで、たまたまその日しか空いてなかったのと同時に、ぶつけてもおもしれえな、と。



あんとにお・いのき■1943年2月20日、横浜市鶴見区出身。現在はIGFのオーナー。古いファンなら昭和プロレス史にその名がさん然と輝くスーパースター!!……扱いなのだが、本誌読者的には永久電機やイルカ牧場、サンゴの養殖に南極大陸イベントなど、闘魂があふれ出して止まらない"実業家"として大人気! 今後もホッペをつねりたくなるビッグプロジェクトに挑戦し続けてほしいものである。ムフ!!

――僕らはおもしろいですけど、猪木さん的にも一番燃えるシチュエーションなんじゃないですか?

猪木　いや、べつに俺たちは俺たちのペースがありますから。いまは新日本のペースが変わったかもしれないから、そのペースで。まあ、いいじゃないですか。一つの波が立つことによってね、渦が起きればいいっていう。アイツらに「頑張ってよ」と言う器量はないと思うよ。俺は「おまえら頑張れよ!」って言えるけど、ンムフフフ。

――あえてエールは送ってやるというか。

猪木　うん。だって選手が食えなくなっちゃうもん。毎年リストラしてるわけでしょ?「おまえら、こんな金でよくやってるな」っていう話も聞いてますからね。まあ、オカマ掘ってるようなレスラーは俺は面倒見るつもりねえけどよ。それなりにプロレスを愛してるとかって言うんであればね、そういう人たちにはなんとか飯が食えるようになってくれたらいいな、と。

――そう言ってくれる猪木さんに、やっぱりファンは期待しちゃうんですよね。

猪木　ありがたいことで、「IGFしか変えてくれない」とかって、みんな言ってくれてますよ。まあ、お世辞かどうか知らないけどね、ダッハハハハ!

――いえいえ、やっぱり猪木さんにプロレス界と地球を救ってもらうしかありません!　ということで、今日はありがとうございました!

猪木　どうもッ!

【2008年5月26日／都内・新宿『アントニオ猪木酒場』にて収録】

発言から読み解く本音&変節

語録で振り返る一カ月

今月もマット界の住人が発した、ファンなら狂喜乱舞するようなしびれる名言からファンじゃなければタワゴトな迷言までを徹底チェック！　それでは懲りずにいきますか～！　一、十、百、センゴロック！　センゴロックッ！（苦しまぎれ）。

ジョシュが「なんとか、なんとか！」ってやったけど、それとは別です（高橋和生）

▼5月23日（金）『戦極～第三陣～』記者発表会見

「明るく、楽しく、激しい総合格闘技を見せたい」と、ジャイアント馬場が健在だった往年の全日本プロレスのキャッチコピーを拝借した高橋。ジョシュの戦極ポーズは完璧に拒否する姿勢を見せたが、第1試合でファビオ・シウバに壮絶KO負け。激しい試合ではあったが、「明るく、楽しく」の部分はどこへ？　そう考えると入場時に戦極ポーズを一発決めておけば「明るく、楽しく、激しい総合格闘技」だったのではないだろうか？

普段「もうDEEP売りたい。金持ち知らない？」って言ってるのと、同じようなこと言わないでくださいよ！（お宮の松）

▼5月24日（土）DEEP七周年記念パーティ

DEEP七周年記念パーティの席上、佐伯繁社長は来場した関係者に感謝の辞を述べ、さらに「いままでDEEPをやっていて二回ぐらい潰れそうになったことがある」と、ぶっちゃけ話を披露。すると司会を務めた芸人のお宮の松が、すかさず見出しのツッコミ。DEEPは試合数も多く、後楽園ホール大会では使用延滞料を払うこともしばしば……佐伯社長にしてみれば「中小企業経営者はつらいよ！」といったところか。ちなみにDEEPが潰れる前に、この日のエキシビションマッチで青木真也とタッグを組んで、佐伯社長&公武堂・長谷川匡紀社長と対戦したしなしさとこ（人妻）は、のしかかってきた佐伯さんの下で潰れていた。合掌。



このままだと落第です（平田竹男・早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授）

▼5月24日（土）早稲田大学

5月27日付の『東スポ』によると、4月から母校・早稲田大学の大学院スポーツ科学研究科で「トップスポーツマネジメント」を学んでいるケンドー・カシンが覆面姿で研究発表に臨んだとか。その内容はズバリ「中西（学）はなぜバカなのか2！　身近なバカから見るプロレスの問題点」というトンデモなテーマ！　さらにカシンはWWF（ワセダ・レスリング・フェデレーション）の設立、早大キャンパスでの旗揚げ戦開催を主張……やりたい放題か！　このあまりにあんまりな発表に対して、師事する平田教授は冷静に見出しの言葉でバッサリ。しかし、〝マット界の愉快犯〟カシンだけに次なる一手が気になるところ。そして「中西（学）はなぜバカなのか1！」も気になるところだ。

10カラットくらいのダイヤモンドを預かってる（アントニオ猪木）

▼5月26日（月）6・25IGF「GENKI祭」会見

沈没船から財宝を引き上げたり、財宝ラッシュが続くIGFにまたまたお宝が登場！　なんとアントン総帥が見出しの仰天発言！　そのダイヤを埋め込んだ新ベルト制作をぶち挙げたのだ！　ベルトの価値はIGF関係者によると時価10億円！　ところで、沈没船から引き上げたという3000年前の刀は本物だったのだろうか……。



インリン様は死んだのでリングには上がらないです（インリン・オブ・ジョイトイ）

▼5月26日（月）アメーバスタジオ特別番組

感動の引退試合後、ヒマでモテないプロレスファンがビビってたじろぐ衝撃のコメント！　カーテンコールで誰もが〝インリン様ネバーダイ〟を確信したのもつかの間、アッサリ死亡宣言ッ!!　その後も結婚をほのめかすなど『ハッスル』後の人生をエンジョイしまくりのインリンさん。それでも「インリン、オレはまだ待ってるぞ!!」（ヴァンダレイ・シウバ調）。

あんな態度は良くない（秋山成勲）

▼5月27日（火）『週刊朝日』6月6日号より

魔王とキング・カズが一触即発!?　『週刊朝日』によると5月18日の夜、ともに仲間内で楽しんでいた秋山成勲とサッカー選手の三浦知良がカラオケで遭遇、ささいなきっかけで険悪ムードに発展したとか。サッカーボールキックにヤな思い出がある魔王、柔道vsサッカーの異種格闘技戦勃発か!?　しかし、魔王が「サッカー最高！」といったからかどうか、事態は沈静化。その後、魔王は自分の取り巻きに見出しのように説教したとか。魔王は歌が上手なだけじゃなくイザコザ回避も上手？

ママ～（チェ・ホンマン）

▼5月28日（水）『朝鮮日報』より

傷心のホンマンにボーイズラブ疑惑浮上？　今年2月に、芸能人の女性と失恋したことを告白したホンマンが、今度はイケメン男優、キム・ジョンウクと同棲（？）を発表！　なんでもホンマンは料理上手なジョンウクにベタ惚れのようで、お腹がすくと「ママ～」と甘えるのだとか。兵役免除確定で韓国内で大バッシングを受けているホンマン。いま頃は家にこもってジョンウクのヒザを枕にして「ママ～」と泣いているのかも!?　んあ～。

中西（学）はハッスルじゃなきゃ光らない（坂田亘）

▼5月29日（木）坂田亘緊急会見

ボブ・サップに勝利、さらに結婚披露宴のTV中継も決まって意気揚々の坂田が蝶野、中西、永田らに『ハッスルGP』への参戦を要求！　しかし、残念ながらリアクションはなし。ちなみに坂田はアホ枠代表となってGPの予選トーナメントを通過。もし〝バカの中西〟と坂田の対戦が実現していたら、どこまで坂田がアホになれるか注目だったが……惜しい！


山本"KID"徳郁

そのへんのが「KIDとやりてぇ」って言っても、「そんな時間ねぇよ」って感じ（山本"KID"徳郁）

▼**6月3日（火）『DREAM・5』記者会見**
「KIDとやりてぇ」と言った選手にとってはビビってたじろぐこの一言。KIDといえども、もはや30歳になってしまったいま、やはり自分より格上の相手と勝負して、選手生活を有効にすごしたい！ というのは普通の感情である。だから「そんな時間ねぇよ」なのだ。ちなみに、6月11日は兄弟3人で『はなまるマーケット』に出演済み。忙しいのである。

でっかい家を買えるぐらい賞金をせしめないと（永田裕志）

▼**6月3日（火）永田克彦公開練習**
いつ何時でも、前向きにポジティブなアドバイスを送る"ミスターIWGP"こと"青い正義"永田裕志。弟思いの兄は1回戦のときも「結婚と同じで前に前に攻めないと！」とアドバイスを送り、見事に勝利を収めている。今回のアドバイスは抽象的というか、具体性には乏しいが弟の胸にはビンビンと響いてるはず！ ところで賞金総額は公表されていないのだが、家が買えるぐらいの金額なのだろうか？

ドバイワールドCと同時期にK−1ドバイ大会を開催したい（山本英俊フィールズ株式会社代表取締役会長）

▼**6月4日（水）『日刊スポーツ』より**
K−1を協賛するフィールズの山本会長が、なんでも自身が保有するカジノドライブという競走馬を、世界最高賞金レース（賞金総額6000万ドル！）であるドバイワールドCに遠征させるとか。そしてそのついでにK−1ドバイ大会の開催も考えているらしい。……金持ちの考えることはスケールが大きすぎてよくわからない。ちなみにドバイワールドCの優勝賞金は360万ドルでK−1ワールドGPは40万ドル、馬のほうが何倍も高いなんて……。きっと、もっと馬のように働けということであろう。

地元なんでブーイングが少ないんじゃないかな（秋山成勲）

▼**6月5日（木）『DREAM・5』記者会見**
"魔王"秋山成勲のDREAM初参戦がついに決定！ 7・21『DREAM・5』への出場が正式に発表された。白いシャツの上に水色のカーディガンという爽やかな服装で会見に現われた魔王は「地元大阪なんで、ブーイングが少ないんじゃないかな」とニヤリ。ただ、大阪といえば地元であると同時に、ヌルヌル事件が起きた事件現場でもあるのだが……。そんなことはまったく意に介してない魔王、さすがだ！

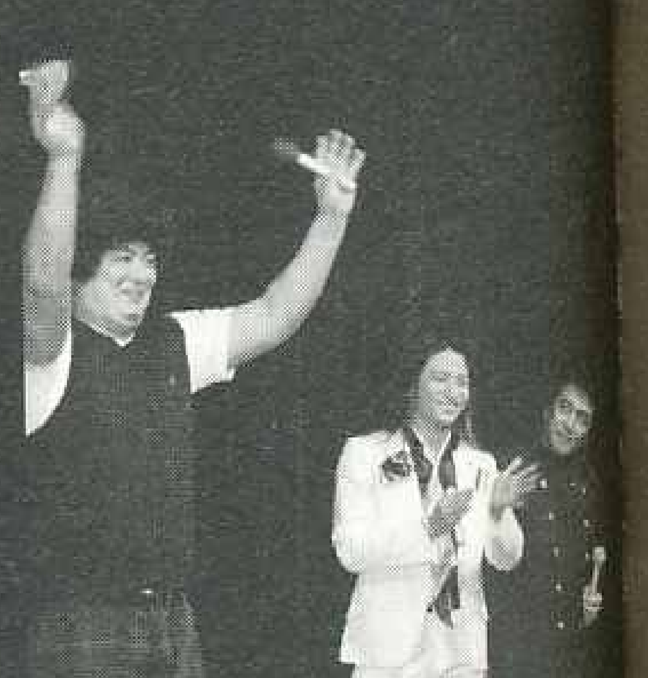


年内に"○起"します（藤原喜明）

▼**6月5日（木）サムライスペシャル『Versus』**
胃ガンを克服し、5月の『昭和プロレス』で木戸修相手に復帰戦を予定していた組長。その際はドクターストップがかかりエキシビション程度の動きを披露しただけに終わったが、この日の対談では、かつての弟子を前に年内"復帰"ならぬ年内"○起"宣言。下ネタ好きの組長なりのジョークかと思いきや、ガンになってから下半身も元気がなくなってしまったのは事実とのこと。リング復帰はもちろん、組長はおへその下も完全復活なるか!?

ライバルは三谷幸喜さんの『マジックアワー』です（マッスル坂井）

▼**6月7日（土）『シルバーホストG』舞台挨拶**
「ファーストクラスでカンヌかぁ……」。"鬼才"マッスル坂井が大風呂敷！ マット界随一の文系レスラーが吉本興業の短編映画プロジェクトのショートムービーで映画初監督を務めた。上映中は笑いが起きまくり、終盤ではおもしろすぎて拍手喝采、と映画を超えた異常事態も発生！ 舞台挨拶では三谷氏の新作映画も意識する鼻高々ぶりであった。ぜひともその異才で、本人も熱望している『戦極』の煽りVを手がけてほしいものだ。発動するマッスル？ マッスルの『戦極』、いざ？



（挨拶を行なったが通訳が行われず不明）（ホドリゴ・ダム）

▼**6月8日（日）『戦極〜第三陣〜』**
残り10秒前告知音の「シャキーン！」をはじめ、佐藤大輔チックな煽りVなど、まるで「どうぞツッコんでください」という但し書きがあるかのような演出が見どころ（？）の『戦極』。この日はライト級トーナメント出場者が発表され、リング上でそれぞれが意気込みをマイクで述べるも、ホドリゴ・ダムのコメントは日本語に訳さずそのままスルー！ はたして進行上のミスなのか？ その場にポルトガル語の通訳がいなかったのか？ 一、十、百、ズンドコ、ズンドコ！

僕の試合もこれぐらい入ればなぁ（笑）（内藤大助）

▼**6月8日（日）『戦極〜第三陣〜』**
ときに摩訶不思議な進行で試合よりも観客をハラハラさせてくれるのも見どころ（？）の『戦極』。この日はWBC世界フライ級王者の内藤大助が、第5試合の勝利者賞のプレゼンターとして登場。見出しのマイクで場内からは歓迎されるも、勝利者賞を渡された肝心のニック・トンプソンは内藤のことを知らなかったとか。また、エンディング恒例の選手コメントでは、なぜか敗北者のチェ・ム・べにマイクが渡る始末。三崎がいなくても『戦極』のマイク絡みはおもしろい！ 一、十、百、ズンドコ、ズンドコ！



彼は腹立つぐらい歌がうまいんだよなぁ（谷川貞治イベントプロデューサー）

▼**6月9日（月）『K−1 WORLD GP 2008 in FUKUOKA』記者会見**
ケガでDREAMミドル級GPを欠場した魔王は、韓国で芸能活動に大忙し！ 6月7日にはソウルで観衆5万人の『ドリーム・コンサート』で堂々たる歌声を披露。その勢いで魔王のシングルもチャート1位！ この情報を聞いた谷川EPはK−1GPの会見なのに、大会そっちのけで「彼は絶対緊張しないんだよなぁ〜」と感心しきり。記者から「DREAMで歌わせれば？」と提案されると、「大ヒンシュクでしょ！」と言いながらも、まんざらでもない黒魔術な笑顔を垣間見せたのであった。

なにがKIDだ！（佐伯繁DEEP代表）

▼**6月9日（月）『DREAM・4』青木真也公開練習**
恒例の青木の座禅特訓。おなじみの赤ジャージ姿の佐伯代表は、DREAMで山本KID戦が期待されていたにもかかわらず、三島に敗れてしまった今成を見ると、「イチからやり直せ！ なにがKIDだ！」と叱咤！ さらに「試合前は来てた記者も負けたあとは来ないじゃないか！」と、おもしろツッコミ。常にシャレっ気を忘れない佐伯代表はさすがだ、ウシシシシッ！

kamipro SHOPPING

Back Number

[RADICAL特選劇場]

宇野薫はMMAだけじゃない!!
プロレスラー宇野はここで読め!!



No.34 宇野薫インタビュー

2000年12月に修斗のベルトを返上し、大晦日に『猪木祭り』でプロレスに初挑戦した宇野を直撃！ インタビューでは宇野の試合を観た猪木が「こんな試合を組んだ覚えはない！」と激怒したことを知らされ、宇野は絶句！ ひるみながらもプロレス愛を存分に語った。



No.87 宇野薫×船木誠勝対談!

2005年には、UWFマニアの宇野が憧れていた船木誠勝との対談が実現！ 対談では、船木に"宇野カオル"への改名を勧められたり、試合での心構えを聞くと「相手を殺しちゃっていいよ！」と、船木節全開でキラーなアドバイスを送られるなど、宇野もタジタジの内容。

宇野薫のプロレス挑戦はRADICALでチェック!!

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

[販売元]㈱ダブルクロス(平日13:00〜19:00)

注 No.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp
でお買い求めください。



元祖! 紙のプロレス Back Number

すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

[redacted] ~~1260yen~~⇨630yen
パンクラス公式読本「矛」「盾」
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16→No.87

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
"新"プロレスとは何か?
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)]ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:髙田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木]蘇れ！ Uインター&キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
"最後の黒船"WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.46 2002.01 880yen
田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
[表紙:田村潔司]さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！ エル・カネック／キラー・カーン

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志]奇跡のメガトン対談！ 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談！ 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也]両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.54 2002.08 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志]"異次元格闘技戦戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川]出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る!／紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志]小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統]キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／ 草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ]04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ]"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶「kamipro Hand」で注文 ❷電話注文⇨03-5368-1797 ❸メール注文⇨kapra@kamipro.com

※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。





略して
ノミシン

キャリア12年の"ノミの心臓"と呼ばれた男が語る

パンクラス愛

LOVE



GRABAKA
KEI山宮

昨年12月にパンクラスに里帰りをはたし、川村亮戦を皮切りに近藤有己戦、金原弘光戦と目下3連勝で波に乗っているKEI山宮が本誌初登場！ 選手生活はパンクラス入門から早12年を数え、日本総合格闘技の発展とともにそのキャリアを重ねてきた山宮。決して派手ではないが、味わい深い存在感でGRABAKAには欠かせない絶倫王(『東スポ』命名)が、愛猫の「道夫」Tシャツを着込んで、その半生を振り返った！

聞き手／阿修羅チョロ

——ここ最近、古巣のパンクラスに里帰りしてから3連勝と絶好調の山宮さんですが、気づけば、すでにデビューから12年も経つんですね。

山宮 そうですねぇ。キャリアだけは積んでしまって（苦笑）。

——いやいや、川村戦から3試合は毎回メインですし、いまや実質的なパンクラスのエースじゃないですか。

山宮 いえいえ（苦笑）。勝ってるっていっても結果だけですから……。

——内容的に満足いってないと？

山宮 試合が終わってから「ああすればよかった」っていうのがいっぱい出てくるんですよ。現役中は満足することはないんじゃないですか。

——は～、イメージどおりに謙虚ですね。金原戦は、パンクラスvsリングスとして、一部のU系ファンには注目度が高かったと思うんですが。

山宮 ホントに一部でしょうね。いまの格闘技界の流れとはまったく逆行してるようなカードというか。

——いやいや、『DREAM・2』でも船木誠勝vs田村潔司戦が実現してますから。

山宮 まぁ、30代以上のUWFファンのためのカードっていうか、僕と金原さんにしかできない役割があったと思うんで、あれはあれで凄いよかったと思います。

——そうですね。今日は初期パンクラスに入門し、その後GRABAKAに移籍、その間にUFCやDEEPなどにも参戦するなど、黎明期のMMA界とともに歩んできた感のある山宮さんの半生を振り返っていただければと思っています！

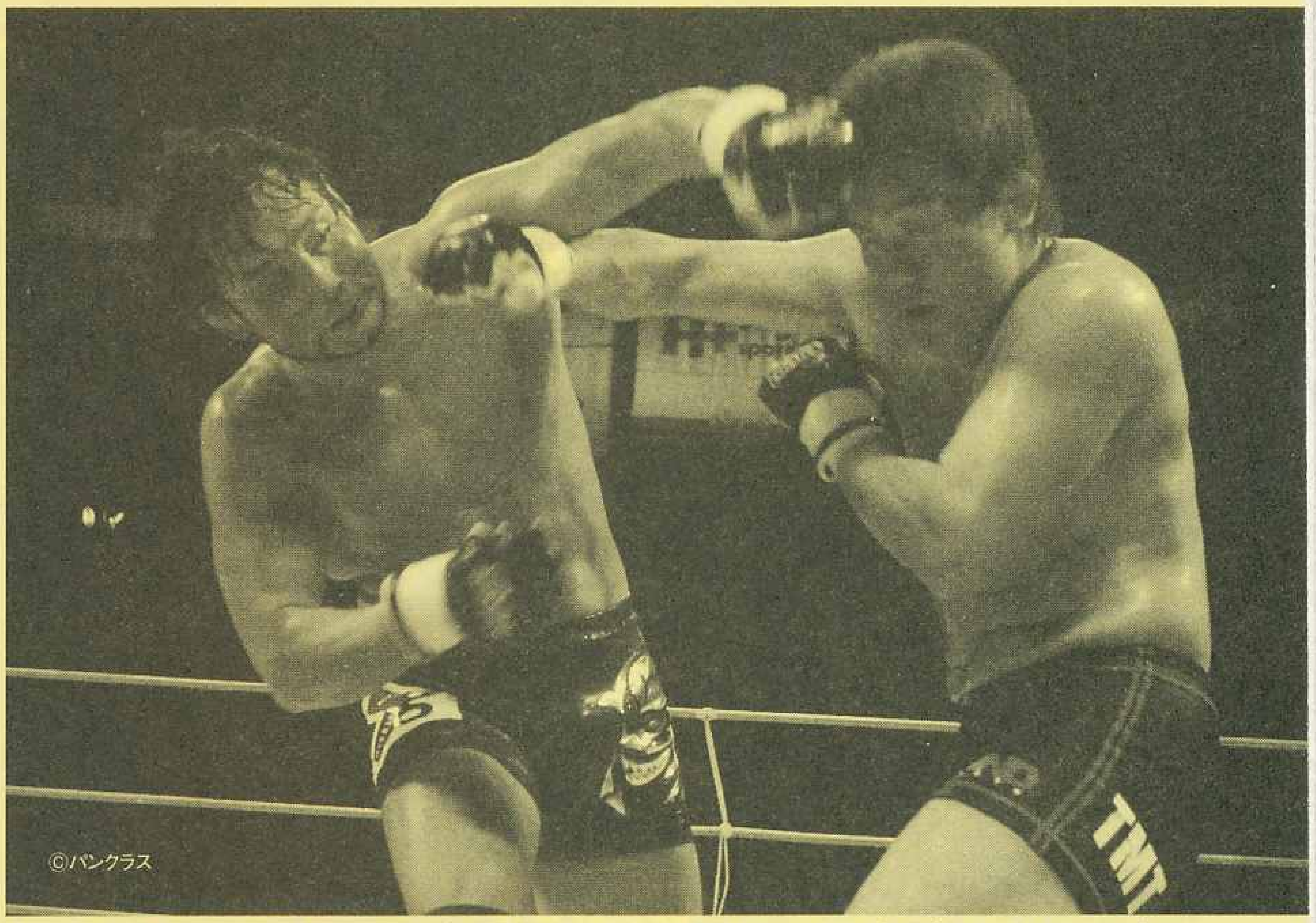
山宮 はい、よろしくお願いします。

——そもそも山宮さんって、パンクラス入り前は熱心なプロレスファンだったみたいですね？

山宮 はい、もう熱狂的ファンでしたね。小学校3年生のときにアニメの『タイガーマスク2世』にハマッて。それから雑誌で「本物がいるぞ」っていう記事を読んで、金曜8時のプロレス中継を観始めてから完全にとりこになりましたね。

——そこからずっとファンで？

パンクラスの試合は観た瞬間に〝リアルファイト〟ってわかりました



今年4月に近藤と10年ぶりに再戦した山宮。「いま思えばあの日の対近藤戦ためにこれまで格闘技をやってきたような気がします」と言うくらいの思い入れでこの一戦に臨んだ山宮が、判定勝ちを収めて初の近藤越え！

山宮 そうですね。小中学校時代はサッカー部だったんですけど、将来プロレスラーになりたいって気持ちはあったんで、何か格闘技をやりたかったんですね。で、進学した茅ヶ崎高校に、たまたまその年からレスリング部ができたので、すぐ入部したんです。その頃にUWFが誕生して、あのファイトスタイルに興味が湧いてきて。

——年代的にはそれぐらいの時期ですよね。

山宮 はい。で、茅ヶ崎高校は神奈川県なんですけど、県の高校のレスリング部は夏休みに合同練習で横浜高校に集まるんですよ。

——鈴木みのる選手とか宇野薫選手の出身校ですね。

山宮 そうです。で、鈴木さんがちょうどプロデビューした頃で、横浜高校に行くと記事が貼ってあるんですね。そういうのを見て、なおさらプロレスに親近感が湧いて。でも、卒業の頃になってくるともうちょっとレスリングを続けたくなってきたんですよ。そのときに高校の先生が国士舘大学を薦めてくれて。

——当時はまだプロ入りは考えてなかったんですね？

山宮 そうですね。「まあ、もうちょっとレスリングやってから考えるか」みたいな感じで。当時は身体もちっちゃかったんですね。いまみたいに階級がないですし、入門試験の基準は180センチ以上の85キロ以上とかだったんで。

——高校ぐらいで格闘技に本格的にハマると、プロレスから離れてく人も中にはいますよね？

山宮 確かにいますね。もちろん、レスリングを始めていろいろわかってしまったことはあるんですけど、基本的にプロレスを楽しめる感覚を自分で持ち合わせてると思うんで。プロレスを嫌いになったことはないんですよね。

——なるほど。ブログを見たらアメプロのことも書かれてましたね。

山宮 ああ、もう大好きで！ 2～3年前がピークでしたね、『RAW』って番組を毎週欠かさず観てて。日本公演も、たまたまチケットをもらって代々木に観に行ったことがあるんですけど。そのときにオープニングでステイシー・キーブラーが出てきて一目惚れしまして（笑）。

——ガハハハ！ 金髪美女に一目惚れ！（笑）。

山宮 当時は予備知識もなく観に行ったんですけど、ステイシーを観た瞬間に「え、何このヒト!?」みたいな（笑）。それ以来、ステイシーにハマッてアメプロを観始めましたね。

——きっかけはステイシーだった、と（笑）。話を戻しますが、大学の同期でプロになった選手は？

山宮 同級生だと藤井克也と中尾〝KISS〟芳広ですね。中尾とは3回ほどレスリングで試合してるんですよ、僕が全敗なんですけど。当時はお互い74キロ級で。

——中尾選手が74キロ級！

山宮 いまはあんなバケモノみたいですけど、当時はモデルみたいな感じで細かったんですよ。僕は沖縄の人かハーフだと思ってましたから。

——顔は濃いですからね。いまの中尾さんのキャラってどうですか？



00年のライトヘビー級王者決定トーナメントで後輩の美濃輪育久（現・ミノワマン）を破って初代王者となった山宮。現在は空位となっている同王座だが、山宮は階級1位にランクイン中。この勢いで王座返り咲きを狙うか？



山宮　いやぁ……あんな感じじゃなかったんですけど、大晦日の一件が彼を変えましたね（笑）。

——そうかもしれません（笑）。大学を卒業されたあとは？

山宮　ぼんやりとプロレスラーになりたい気持ちはあったんですけど、そういうことを言うのが恥ずかしい年頃で。体育学部だったんで流れとして体育教諭を目指すんですよね。教育実習も行ったたし、教員採用試験も受けたし。まぁ試験は落ちたんですが（笑）。その時期にたまたま先輩が「ウチいま一人空いてるから来いよ」って、地元の体育館の仕事に誘ってくれたんです。

——インストラクターみたいなお仕事ですかね。

山宮　はい。でも、やっぱり学生時代と比べるとまったく刺激がなかったんですよ。で、もう23歳で年齢的にもギリギリかなと思ってたときに、たまたま『週プロ』を見てたらパンクラスの新弟子募集の記事があって。パンクラスは旗揚げからずっと気になってたんですよね。

——それはどういった意味で？

山宮　この言い方が正しいかは別として、観た瞬間に〝リアルファイト〟ってわかったんですよ。それまでU系って打撃から入って、なんとなく組みついていくっていう印象だったんですけど、パンクラスは打撃をかいくぐってタックルにいくっていう攻防があって。タックルってプロレスだと普通あんまり見られないというか。

——それこそショルダータックルとかですね（笑）。

山宮　あとはやっぱり身体ですね。

——ミノワマン選手とかもそうですけど、あの研ぎ澄まされた身体に憧れた人って少なくないですよね。

山宮　高橋（和生）さんが大学レスリング界の先輩なんですけど、当時は、ぽっちゃり系の体格だったんですね。でも旗上げ戦を観たら凄い身体に仕上げてて。これは完全に闘うためになんだなって感じましたね！

——当時は凄くインパクトがあり

キャリア12年はダテじゃない！ KEI山宮全戦績

2008.6.01　後楽園ホール
○vs金原弘光（3R終了 判定3-0）

2007.8.16　ディファ有明　K-1 TRYOUT 2007 SURVIVAL（キックルール）
×vs洪 太星（3R終了 判定0-3）

2008.4.27　ディファ有明
○vs近藤有己（3R終了 判定2-0）

2007.12.22　ディファ有明
○vs川村 亮（3R終了 判定3-0）

2007.8.16 ディファ有明 K-1 TRYOUT 2007 SURVIVAL
×vs洪太星（3R終了 判定0-3）

2006.12.22 横浜文化体育館 MARS
△vsカルロス・トヨタ（2R終了 判定1-0）

2006.11.12　後楽園ホール　全日本キックボクシング連盟（キックルール）
○vs安部康博（3R 2分26秒 KO）

2006.7.23　後楽園ホール　全日本キックボクシング連盟キックルール
○vsジミー明成（3R終了 判定3-0）

2006.3.25　Fight Festival 17 フィンランド・ヘルシンキ
×vsミッコ・ルッポネン（3R終了 判定0-3）

2006.3.10　後楽園ホール　リアルジャパンプロレス（キックルール）
○vs桜木裕司（3R終了 判定2-0）

2006.1.22　後楽園ホール　MA日本キックボクシング連盟（キックルール）
○vs昇竜（3R終了 判定3-0）

2005.7.16　ディファ有明新・格闘技の祭典2005（ミックスルール）
×vsキム・デウォン（3R終了 判定0-3）

2005.3.06　横浜文化体育館
×vsニルソン・デ・カストロ（3R終了 判定0-3）

2004.11.26　後楽園ホール
○vsグスタボ・シム（3R 1分20秒 ヒールホールド）

2004.7.15　後楽園ホール（夜）パンクラス（ネオブラ優勝者選抜チーム）vs チーム・クエスト［3vs3中堅戦］
○vsチェール・シェノン（3R終了 判定2-0）

2004.5.28後楽園ホール
○vs瓜田幸造（3R終了 判定3-0）

2003.12.21　ディファ有明
△vsブレッド・ブレグマーク（3R終了 判定1-0）

2003.10.04　グランキューブ大阪
△vsキース・ジャーディン（2R終了 判定0-0）

2003.7.27　後楽園ホール（夜）
○vsネイサン・マーコート（3R終了 判定3-0）

2003.6.07　ディファ有明
×vsニルソン・デ・カストロ（1R 4分00秒 TKO）

2003.4.12　後楽園ホール
△vs栗原強（2R終了 判定1-0）

2002.12.21　ディファ有明
×vs郷野聡寛（3R 3分49秒 レフェリーストップ）

2002.9.29　横浜文化体育館
○vs石川英司（3R終了 判定2-0）

2002.7.28　後楽園ホール（夜）
○vs佐藤光芳（3R 2分52秒 レフェリーストップ）

2002.7.07　横浜赤レンガ倉庫　G.C.M The CONTENDERS 7 NEXT（グラップリングルール）
○vs矢野倍達（2R終了 40-39）

2002.5.11　梅田ステラホール
○vs金井一朗（1R 3分51秒 TKO）

2002.3.25　後楽園ホール
○vs小谷野澄雄（1R 0分31秒 KO）

2002.1.27　後楽園ホール
×vs佐々木有生（1R 4分29秒 腕ひしぎ十字固め）

2001.10.30　後楽園ホール　東京・横浜vsGRABAKA対抗戦:大将戦
×vs郷野聡寛（3R終了 0-3）

2001.8.30　日本武道館　真撃第II章
○vs佐藤光留（2R終了 判定20-18）

2001.8.25　梅田ステラホール（キャッチレスリングルール）
△vs鈴木みのる（1R終了 判定0-0）

2001.7.29　後楽園ホール（夜）
○vs河崎義範（1R 4分04秒 KO）

2001.1.08　愛知県体育館　DEEP2001
×vsパウロ・フィリォ（2R 0分29秒 KO）

2000.12.04　日本武道館
○vsデニス・ケイン（延長R　判定2-0）

2000.9.24　横浜文化体育館　ライトヘビー級ランキングトーナメント決勝
○vs美濃輪育久（延長R　判定3-0）

2000.9.24　横浜文化体育館
○vsオマー・ブイシェ（1R 6分46秒 ギブアップ）

2000.6.26　後楽園ホール　ライトヘビー級ランキングトーナメント準々決勝
○vs窪田幸生（1R終了 判定2-0）

2000.6.26　後楽園ホール　ライトヘビー級ランキングトーナメント1回戦
○vs河村尚久（1R終了 判定3-0）

2000.1.23　後楽園ホール
○vsクリス・ライトル（1R終了 判定3-0）

1999.11.14　東京ベイNKホール　UFC-JAPAN
×vsユージン・ジャクソン（3R　3分12秒 TKO）

1999.7.06　後楽園ホール　ランキング戦
○vsリオン・ダイク（1R 2分05秒 TKO）

1999.5.23　名古屋千種　ランキング戦
×vs國奥麒樹真（1R終了 判定ロストポイント差）

1999.3.09　後楽園ホール　ノールール系スペシャルマッチ
○vs佐野友飛（1R 10分43秒 KO）

1998.12.19　東京ベイNKホール　ノールール系スペシャルマッチ
△vsジェレミー・ホーン（1R終了 時間切れ引き分け）

1998.10.26　後楽園ホール　ランキング戦
○vsジェイソン・デルーシア（1R終了 判定ロストポイント差）

1998.7.26　青森県営体育館
○vs長谷川悟史（1R終了 判定2-0）

1998.7.07　後楽園ホール　ランキング戦
×vs渋谷修身（1R終了 判定0-3）

1998.6.21　神戸ファッションマート　東京・横浜道場対抗戦:大将戦
△vs柳澤龍志（延長R　判定1-0）

1998.5.12　後楽園ホール
○vs伊藤崇文（延長R 1分35秒 TKO）

1998.4.26　横浜文化体育館　ランキング戦
×vs近藤有己（1R終了 判定0-2）

1998.3.01　神戸ファッションマート　ランキング戦
○vs鈴木みのる（1R終了 判定2-0）

1998.2.06　横浜文化体育館
△vs柳澤龍志（延長R　判定0-0）

1998.1.16　後楽園ホール　ランキング戦
×vs渋谷修身（1R 17分31秒 アンクルホールド）

1997.12.20　横浜文化体育館　ランキング戦
×vsバス・ルッテン（1R 4分58秒 ギブアップ）

1997.11.16　神戸ファッションマート
○vs伊藤崇文（延長R　判定2-0）

1997.10.29　後楽園ホール
△vsトレイ・テリグマン（延長R 判定1-1）

1997.9.06　東京ベイNKホール　ランキング戦
○vs鈴木みのる（1R終了 判定ロストポイント差）

1997.8.09　梅田ステラホール
○vs渋谷修身（延長R　判定3-0）

1997.7.20　後楽園ホール（夜）　ネオブラッドトーナメント決勝
○vs長谷川悟史（1R 5分50秒 TKO）

1997.7.20　後楽園ホール（夜）　ネオブラッドトーナメント準決勝
○vs窪田幸生（1R終了 判定ロストポイント差）

1997.7.20　後楽園ホール（昼）　ネオブラッドトーナメント1回戦
○vsレス・ジョンストン（1R 4分07秒 フロントスリーパー）

1997.6.30　博多スターレーン
×vsガイ・メッツァー（1R終了 判定ロストポイント差）

1997.5.24　神戸ファッションマート
△vs國奥麒樹真（1R終了 0-1/判定）

1997.4.27　東京ベイNKホール
○vsTAKAみちのく（1R 7分36秒 アームロック）

1997.3.22　露橋スポーツセンター
×vs柳澤龍志（1R終了 判定ロストポイント差）

1997.2.22　東京ベイNKホール
○vs伊藤崇文（1R終了 判定ロストポイント差）

1997.1.17後楽園ホール
○vsブライアン・ガサウェイ（1R終了 判定ロストポイント差）

1996.12.15　日本武道館
○vsウェスリー・ガサウェイ（1R終了 判定3-0）

1996.11.09　神戸ファッションマート
×vs高橋義生（1R 7分12秒 フロントチョークスリーパー）

1996.10.22　後楽園ホール
×vs國奥麒樹真（1R 1分38秒 腕ひしぎ逆十字固め）

1996.9.07　東京ベイNKホール
×vs稲垣克臣（1R終了 判定0-2）

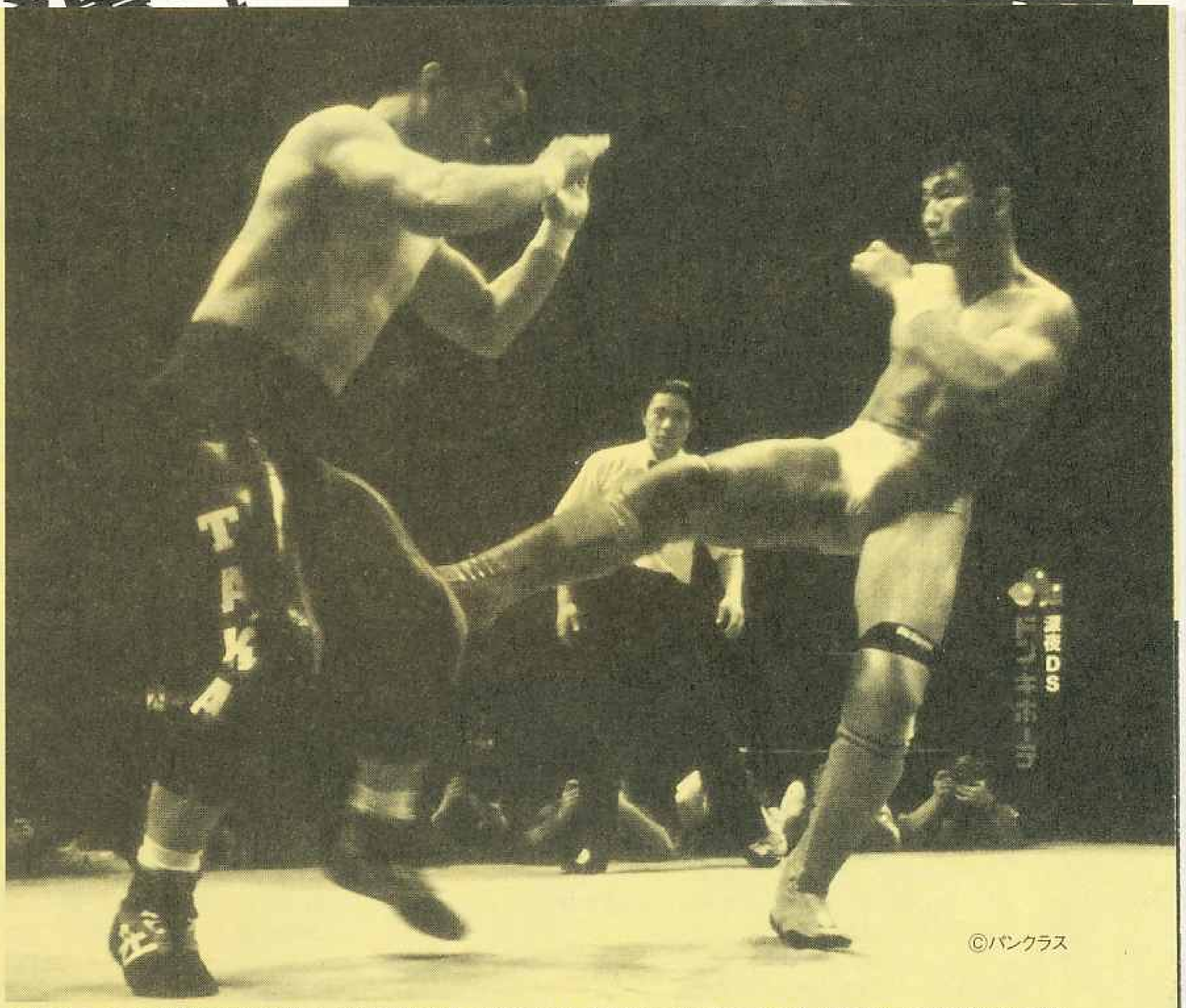
1996.7.23　後楽園ホール　ネオブラッドトーナメント3位決定戦
×vs渋谷修身（1R 6分48秒 アンクルホールド）

1996.7.23　後楽園ホール　ネオブラッドトーナメント準決勝
×vs近藤有己（1R 6分16秒 TKO）

1996.7.22　後楽園ホール　ネオブラッドトーナメント1回戦
○vs長谷川悟史（判定3-0）

【総合】66戦35勝22敗【K-1】1戦1敗【キック】5戦4勝1敗【ミックス】1戦1敗【グラップリング】2戦1勝1分

ましたよね。
山宮　そうですね。で、「これはもう最後のチャンスだな」みたいな感じでテスト志願しました。
――そのときのテストって何人ぐらい受けてたんですか？
山宮　僕のときは第5回入門テストなんですけど、30人弱はいたんじゃないですかね。正直、周りを見たときに「あ、受かるの俺しかいないな」って思ったんですよ。
――ほぉ、自信があったんですね。
山宮　実際、受かったのは僕だけだったんですけど、数年後に雑誌に載っていた船木さんのインタビューを読んだら「山宮の入門テストのときは全員ダメだったんだけど、一人ぐらい採っとかなきゃと思って仕方なく採った」みたいなことが書いてあって（笑）。
――それを誌面で知るのはショックでしょうね。船木さんなら言いそうですけど（笑）。
山宮　僕も「えぇっ！」ってなって（笑）。あのときはこたえましたねぇ……（しみじみと）。
――で、合格して入寮するわけですが、当時の雰囲気はどうでした？
山宮　その頃は横浜じゃなくて港北区の山奥に道場があったんですね。その中にコンテナがあって、そこに練習生が6人ぐらいで住んで。



©パンクラス

これぞプロレス内異種格闘技戦!?　当時話題を呼んだTAKAみちのくのパンクラス参戦、迎え撃ったのは当時わずかデビュー9ヵ月の山宮！　試合は山宮がアームロックで勝利するも、アマレス出身のTAKAの健闘が光った一戦であった。

若い頃は近藤さんも不動心じゃなく練習では感情むき出しにしてました

――練習は予想してた以上に厳しかったですか？
山宮　まあ、それはあたりまえと思ってたんで。僕の場合、大学時代の上下関係が凄まじかったんですよ。
――免疫はあったわけですね。
山宮　「奴隷の1年、平民2年、3年天皇、4年の神様」みたいな感じで。なので、新弟子時代っていうのは、そのときの経験を活かして切り抜けましたね。
――当時のパンクラスというと、船木さんや鈴木さん含め、みんな若くて血気盛んだし、怖い先輩が多かったんじゃないですか？
山宮　基本的に新弟子や若手を指導するのは鈴木さんだったんですよ。そういう意味では鈴木さんが一番怖い存在でしたね。高橋さんはレスリングつながりということもあって、けっこう僕のことを面倒見てくださって。船木さんは当時デビューしていた渋谷修身さんとか近藤さんをマンツーマンで見ていた感じで。
――その二人は体型から何から船木色が濃かったですよね。
山宮　はい。で、船木さんは鈴木さんみたいにガーッて怒るタイプじゃなくて、普段は静かにしてるんですけど、一度キレると半端じゃなかったですね。僕も2回ぐらいしか見たことないんですけど。
――須藤元気さんをバットで追い回した話とか、キレたら凄いっていうのは有名ですよね（笑）。
山宮　普段怒らないぶん、怒ったときは……ホント怖かったですね。具体的な内容はちょっと……（笑）。
――それほど怖かった、と（笑）。山宮さんはレスリング経験もあってタックルとかは通用したと思うんですが、まったく歯が立たない部分もありました？
山宮　やっぱり打撃ですね、免疫がなかったんで。初めての打撃のスパーリングは冨宅（飛駈）さんと近藤さんとやったんですけど、「この人たち殺す気か！」と思いましたね。逃げ回ってサンドバッグのうしろに隠れたら「スパーになんねえよ！」って怒られた覚えもありますし。
――当時は近藤選手も"不動心"じゃなかったわけですね（笑）。
山宮　そうですね（苦笑）。若い頃は、やっぱり感情むき出しで、一発もらうとカッとなってましたね。そういう感情で自分のリズムが乱れるのを抑えるために"不動心"って打ち出したんだと思うんですよ。
――なるほど。そのほうが試合の結果につながると。
山宮　当時は近藤さんが要領だけがいい練習生にブチギレてボコボコにしたこともありましたね。そういうのをよしとしない人なんで。
――へ～、想像もできないですね。
山宮　でも、近藤さんは僕が若手の頃はホントに仲よくしてくれたんですよ。僕のほうが年齢は上なんですけど、そういうのを抜きにして気持ちよく接してくれて。
――山宮さんは試合でキレて感情のコントロールが利かなくなったみたいなことは？
山宮　いや……、僕はないかなあ？（苦笑）。
――山宮さんは勝っても喜びを爆発させるっていうよりは、反省してるイメージがあるんですよね（笑）。
山宮　なんかね……気がちっちゃいんですよね。昔からノミの心臓と言われてましたから。大学のときも「ノミシン、ノミシン」と言われて（笑）。
――ノミの心臓、略してノミシン！（笑）。
山宮　ほかのノミシンのヤツとノミシン同盟とか作ったり（笑）。ちっちゃいことをよく気にしてたんですよね。試合に勝って喜びたいんだけど、「何そんなことで喜んでんだよ」って周りに言われるんじゃないかとか。幼少の頃からそんな性格でしたけどね。
――なるほど、筋金入り、と。山宮さんがデビューして最初のターニングポイントとなった試合は？
山宮　TAKAみちのく戦（1997年4月27日）ですかね。ある日、道場で船木さんに呼ばれて、「TAKAみちのくって知ってる？　試合する？」って言われたんですよ。もちろん冗談だと思ったんで「はい、ぜひ」って答えて。で、数日経ったらファックスがカタカタカタッてきて「TAKAみちのくvs山宮恵一郎戦決定」ってリリースが（笑）。
――知らぬ間に正式決定、と（笑）。プロレス団体とかよくあるっていいますよね、専門誌とか見て「あれ、俺の試合決まってる！」みたいな（笑）。
山宮　あの試合は「これは負けたら



パンクラスにいられないんじゃないかな」みたいな気持ちになりましたね。僕が負けたらTAKA選手が「次は船木、鈴木、勝負だ！」ってアピールするんじゃないかと思って（笑）。

——可能性は充分ありますよね。

山宮　で、資料としてTAKA選手のビデオを観たんですけど、場外に飛びまくってるんですね。僕からすると凄い運動神経なんですよ。僕も夜中、先輩とかがみんな帰ったあとに音が出ないようにロープワークしたりとか、トップロープに上がったりしてたからわかるんですけど。

——プロレスごっこ的な（笑）。

山宮　あの細いロープに乗っかってビョーンて飛んでくっていうのは考えられなくて。それを軽々とやってる映像を観たんで、この人は凄い運動神経なんじゃないかって恐れをなして。そこでもノミシンが発生しましたね（笑）。

——負けたらもう居場所がないぐらいの切羽詰まった状況で。

山宮　試合も力が入りすぎちゃって、2〜3分でバテちゃったんですよ。で、引っくり返されてマウントも取られて。全然いいところがなくて恥ずかしかったですね。

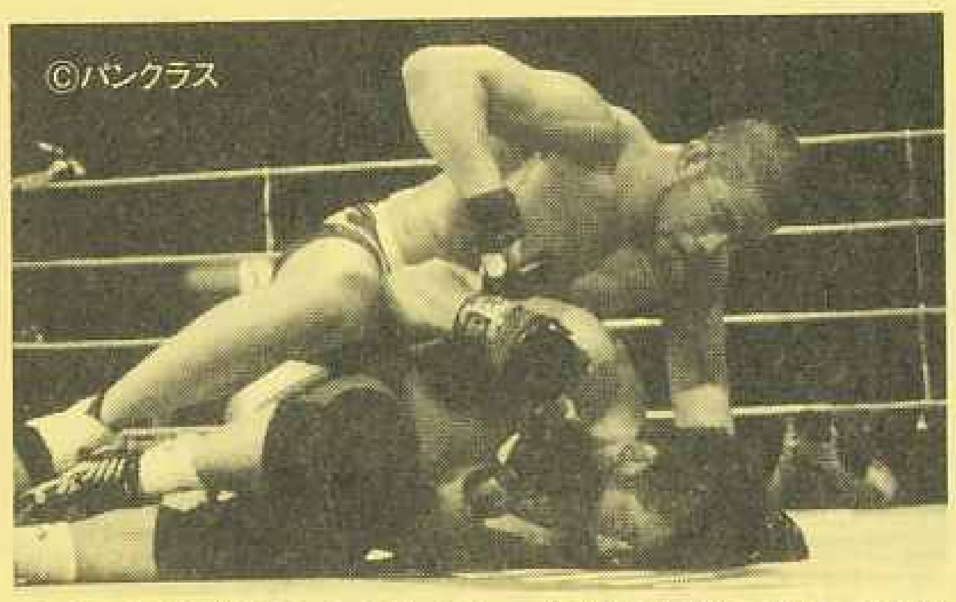
——試合後、先輩からの声は？

山宮　後日、鈴木さんには「あの日のおまえはダメだった。言わなくてもわかってるだろ」、「ホントはぶっ潰すつもりでやらなきゃいけないのに、おまえは普通の試合をやろうとした」って言われましたね。

——当時のパンクラスは鈴木選手が「本当のプロレスラーは俺だ」ぐらいのことを言ったり、その影響か山宮さんもインタビューを見ると「職業を聞かれたらプロレスラーと答える」って言ってましたけど、いまはそういう意識は変わりました？

山宮　多少、歳を取ってきて、変わってきた部分はありますね。単純にいまはプロレスラーと総合格闘家が別ものになってるじゃないですか。当時はパンクラスはUWFのリアルファイト版みたいな感覚で。でもいまは完全にカテゴリーとしては総合格闘技だと思いますから。

——GRABAKAという環境は練習生も含めて、プロレスラーに憧れてる人は少なそうですね。



山宮の運命を変えることになった郷野との二度に渡る対戦。とくに02年12月の二戦目は、郷野自身もターニングポイントになった試合と語り、山宮が自分にとって"強敵"と書いて『とも』と呼ぶ存在になったとか。

山宮　そうですね、GRABAKAは完全な格闘技軍団ですから。ただ、GRABAKAの30代の会員さんってプロレスファンが多いんですよ。やっぱり昔のプロレス話をするのって楽しいみたいで。

——パンクラスでデビューしてから、いわゆるプロレス的なものをやりたいと思ったことは？

山宮　その当時はなかったんですよ、パンクラスで精一杯で。むしろいまのほうが一回ぐらいはっていうのがありますね、現実的には難しいですけど。まあ、昔は頭も固かったでしょうし。とくにパンクラスにもグローブが導入されて、総合格闘技の流れになっていくと、単純に強さだけが求められるようになってきたんですよね。外部の選手と試合するようになると負けるわけにいかないですから。

——とにかく強くならなきゃいけないと。

山宮　やっぱりスタートの時点で格闘家の人たちっていうのは、単純に強さだけを求めてきてるわけじゃないですか。僕を含めてその当時のパンクラスの選手は、強さプラス、パフォーマンス的というか。

——プロとして楽しませなきゃっていうのが刷り込まれてた、と。

山宮　はい。だから、もしかしたらその部分で差があったのか、最初は対抗戦でも負け続けた時期がありましたし。で、いざ負ける悔しくて、そのへんからホントに強さに目覚めたかもしれないです。

——当時って同じU系としてリングスやUインターと比較されてましたが、実際にはほかの団体をどうご覧になってました？

山宮　う〜ん……日本人選手はなんだかんだで意識してましたね。当時、高阪（剛）さんの試合を観て「この人は強いな」って思ったし。Uインターとかでも、金原さんとか垣原（賢人）さんとか、あと桜庭（和志）さんも強いんだろうなとか。

——いまとなっては、高田延彦さんが著書でUインターの試合の仕組みを語ったり、リングスもKOK以前の試合の裏側について語ってる

KY山宮が空気を読まずに激白!? GRABAKAメンバーの素顔


菊田早苗

年齢は僕より一つ上なんですよね。いわゆる〝ボス〟って感じです。基本的につねに落ち着いてるし、やっぱり面倒見もいいので、いざというときに頼りになる存在ですね。イメージとしてはみんなが安心する〝クマの抱き枕〟のような印象ですね。表現が合ってるかわからないですけど（笑）。だからみんな菊田さんの周りに寄ってくるんじゃないですかね。


郷野聡寛

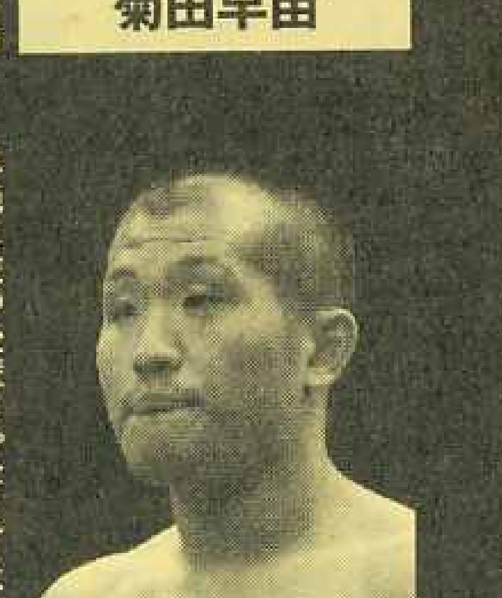
僕の恩人ですね。でも郷野さんは一人GRABAKAっていうか、独自の道を行ってるイメージです。はみ出てるような感じで（笑）。僕がいま一番参考にしてる試合は郷野さんのヘクター・ロンバード戦とゲガール・ムサシ戦なんです。昔は打撃って気合いだと思ってたんですけど、それだけじゃなく、いろんな駆け引きや技術があるんだっていうこと体現した試合なんで。


三崎和雄

三崎さんはブレイクすべくしてしたと思います。練習を見てると追い込み方が尋常じゃないし。気持ちの作り方が獣のような人ですよね。野性動物ってあんな感じなんだろうなって（笑）。どっちかっていったら、いまの日本人はほとんど飼われてる動物に近いと思うんですけど、あの人は違うなって感じがしますね。三崎さんの2回目のダン・ヘンダーソン戦も試合として理想型ですね。


佐々木有生

一見おとなしそうというか、普段はボーッとしてる感じに見えるんですけど、けっこう佐々木さんも野性動物的なとこがあるんですよね。もちろんプライベートじゃなく格闘技をやってるときですよ（笑）。指導力は一番って言われてますね。細かい技術をいっぱい知ってますし。人あたりがいい人なんで、GRABAKAの会員さんも接しやすいんじゃないですかね。


横田一則

単純に彼の後輩じゃなくてよかったなと思いますね。僕が後輩だったら間違いなく辞めてます（笑）。リアル・ジャイアンというか、上下関係に厳しい体育会系のコンコンチキって感じですね。技術的にはオールラウンドですよね。寝ても立っても万能で。試合前のテンションの上げ方も、周りに聞こえるくらいに「俺は強い。俺は強い！」ってブツブツ言ってて尋常じゃないです（笑）。


石川英司

僕のブログに〝エロ川エロ司〟としてよく登場するんですけど……どんな人間かはそちらをご参照いただければ（笑）。とにかく深夜の迷惑メールだけは勘弁してほしいですね！　GRABAKA移籍当初は親切でいい人だなと思ったんですけど……だんだんと「これはこっちを完全にナメきってんな」と（笑）。年齢もキャリアも僕のほうが上なんですけどね。まあ、いいんですけど。


山崎 剛

山崎さんがいるからGRABAKAジムは成り立ってるんじゃないかっていうぐらいの人ですね。GRABAKAのお母さん的な存在というか。会員さんが出場する柔術の大会におにぎりを作って応援に行くようなマメな人ですし。会員さんは困ったことがあったらまず山崎さんに聞くんじゃないですかね。菊田さんがクマなら山崎さんはヒツジの抱き枕みたいな感じです（笑）。


福田 力

彼は一言で表わすと〝恐竜〟って感じです、レッドキングみたいな（笑）。見た目どおり、フィジカル面は半端じゃないんですけど、凄い繊細な感じなんですよね。だからまだポテンシャルを発揮できてないというか。練習での力が出たら天下獲るんじゃないかっていうぐらい思いますけどね。もともとはWJ出身なのに、本人はあんまりプロレスファンじゃなかったみたいですね（笑）。

ほかのU系と「俺らは違う!」って気持ちが当時はちょっとありました

選手もいますが、山宮さんは自分たちがやってるのは違うぞっていうプライドはありました?

山宮　そのときはちょっとありましたね。「ルールが違うじゃん」って正直思ったりとか。

――当時は観てる側も同じものと思ってる人も多かったでしょうし。

山宮　そうですね。だからって周りに言ったりはしなかったですけど、心の中ではやっぱ「俺らは違う!」みたいなところはありましたね。いまは全然思ってないですけど。若いときはへんに意固地になる部分があるんで（苦笑）。

――のちにパンクラスも含めて、どのイベントもほぼ共通のMMAルールに変わっていきましたが、時代の波のようなものは感じました?

山宮　団体やイベントは違ってもやってることが一緒になってきてるなっていうのはありましたね。KOKも単純に参加してるメンバーは凄かったですよね、有名な選手をバンバン呼んで。僕、キングダムも好きでしたよ。グローブを着けてレガースしてるのがカッコよかったし。垣原さんとかホント好きでしたね、もしかしたらUインターに入ってたかもしれないですし。

――時期が違ってたら、と。あと山宮さんは初期UFCにも行かれてるんですよね?

山宮　高橋さんのセコンドとして現地に行きましたけど……ひどい環境でしたね。だって相手の（ヴァリッジ）・イズマイウは素手ですからね! 高橋さんは自分の拳を痛めないようにグローブ買ってきて。

――いまでは考えられないですね!

山宮　金網はつかんでもOKで、目潰しと噛みつきがダメで。高橋さんはイズマイウのタックル切るために、ファールカップをガシッとつかんで動けなくする戦法をとってましたし。会場もいまみたいに華やかじゃなくて。

――場末の地下格闘技みたいな。

山宮　高橋さんが入場しただけでブーイングとか、ビールが飛んできたり。凄い怖かったですよね。

――いまより全然なんでもありって感じですよね。

山宮　試合が終わっても油断できなかったですね。たしかイズマイウと仲よかったかなんかで、アラン・ゴエスが会場に来てたんですよ。ゴエスは高橋さんと一回試合が流れたんですよね。

――なんかパンクラスでドタキャン騒動がありましたね。

山宮　そういうのがあったんで試合後に「ゴエスが高橋さんを探してる」みたいな情報があって。で、「やべえ、俺がなんとかしなきゃ!」って感じで、気を張ってましたね。

――「高橋さんを守らなきゃ!」、と。

山宮　結局ガセネタだったみたいで。僕、アメリカ行ってガリガリになって帰ってきましたからね。

――試合もしてないのに（笑）。あと山宮さんにとって重要な転機になったことっていうと……。

山宮　やっぱりGRABAKA移籍ですよね。あのときはちょうど郷野（聡寛）さんに対抗戦で二敗して、とにかく自分に強さが足りないっていうことを実感して……。

――このままじゃダメだと。

山宮　やっぱりパンクラスに愛着があるし、なんとか守りたいのもあったんですけど、なかなか結果が出せなくて。で、当然会社としても僕が活躍できてないから、重要なマッチメイクからは外すわけですよ。そういうのも自分の中では寂しい気持ちもあったし。練習環境なのかな、自分の性格なのかなとか、もう鬱病に近い感じで悩んで。

――その前後でパンクラスの退団者って少なくなかったじゃないですか。尾崎（允実）社長は「円満退団」と強調してましたけど（笑）。そういう意味で、過渡期なのかなっていうのは傍から見てても思いましたね。

山宮　僕は辞めようとは思わなかったですね。パンクラスで引退試合をやりたいっていうのはずっとありましたから、辞めるっていう気持ちがないからこそ、なんとかしなきゃっていうのがあって。それを郷野さんが人づてに伝え聞いたのかわかんないですけど、後楽園ホールの試合前に僕が一人でボーッと客席に座ってたんですよ。そしたら郷野さんが来ていろいろ世間話をして、最後に「ウチでやりません?」みたいに誘ってくれて。「上を目指すんであればウチでやろうよ」って感じで。それでもGRABAKAに行くことは悩みましたけどね。当時まだ敵対してましたし。

――GRABAKA vs パンクラスismは興行的にも盛り上がってましたからね。

山宮　その頃はだいぶGRABAKAとismの選手もプライベートでは話をするようになってましたけど、やっぱり試合するわけですから最後の一線みたいなものは越えない関係だったんですけど。

――一戦を越えた、と。GRABAKAに入ってみていかがでした?

山宮　単純にみんな強かったです、いままでなんとかなったものがならない環境で。みんなの速くて複雑な動きについていけなくて、たしか練習に参加して10日目ぐらいで肋軟骨が折れたんです。そのあとにすぐGRABAKA移籍後の第一戦があったんで、凄い焦った覚えがありますね。

――移籍のときはパンクラスのほ



全日本キックをはじめ、立ち技のリングにも積極的に参戦している山宮。07年2月にはK-1の日本人戦士育成プロジェクト「K-1 JAPAN TRYOUT」に参加し、同年8月には『K-1 TRYOUT 2007 SURVIVAL』で極真会館の洪太星と対戦(結果は判定負け)。



改名のきっかけは船木さんです「山宮は何を殺したいの?」って(笑)

かの選手に相談とかは？

山宮　できなかったですね。完全に行くって決めた事後報告で。高橋さんにはやっぱりお世話になったんで、報告するときに「なんだよ、裏切るのか！」って言われるんじゃないかとビクビクしたんですけど。

――実際の反応は？

山宮　「そうか、頑張れ」みたいな感じで気持ちよく送り出してくれましたね、ありがたかったです。

――そう言ってもらえるのも山宮さんの人柄なんでしょうね。その後、かつての師である船木さんがGRABAKAで練習するようになりましたけど、複雑なところがあったんじゃないですか？

山宮　いや、単純に嬉しかったですね。だって二度と一緒にやることはないと思ってたし。

――船木さんは復帰後、結果が出せてないですけど、菊田さんとかは「もっとできるはず」と言ってましたが、昔から間近で船木さんを見ている山宮さんとしては？

山宮　ここ2試合観た感想としては、ちょっと硬いなって気がします。いまの船木さんは本領発揮どころか、なんにもできてない状態だと思うんですよね。

――もっとやれるはずだ、と。

山宮　単純にブランクだと思います。いくら練習で調子よくても試合は別ものなんで。やっぱ慣れですね。

――船木さんが引退してからも連絡は取り合ってたんですか？

山宮　いやいや、ノミシンですからできませんよ！　やっぱり先輩には「はい！　いいえ！　失礼します！」ぐらいしか言えないんで(笑)。

――その関係は変わらず？

山宮　そうですね。ただ僕がパンクラスに昨年12月に復帰するっていうときには一応挨拶しようと思って鈴木さんに電話したんですよ。そのときもなかなか携帯をピッと押すのが時間かかりましたね(苦笑)。

――なんとなく気持ちはわかります。

山宮　電話する前は鈴木さんをいかに柔らかくするか考えて、「『ジョシデカ！』(鈴木が出演していたTVドラマ)観てますよ」って言ったんですよ。そしたらノッてくれたんで、「よし！」と思って(笑)。



山宮がライフワークと語るのが、地元茅ヶ崎で主催している格闘技大会「湘南魂」。パンクラス時代に技術講座で教えていたメンバーを中心に行なわれるグラップリングの"運動会"だ。主催者である山宮いわく「やってる内容は格闘技なんですけど、大人のプロレスごっこ」とのこと。参加者は随時募集中、詳細はHPで！　http://syounanjin.gozaru.jp/

――なるほど(笑)。それと山宮さんはパンクラス復帰にあたって、また「KEI山宮」に戻しましたよね。もともと最初にこのリングネームに改名したのは？

山宮　きっかけは船木さんなんです。たしか『UFC-J』か何かの前の練習日の朝、僕が普通に準備してたんです。そしたら船木さんが道場に来たんですが、荷物も置かずにいきなり一直線に僕のところに向かってくるんですよ。

――うわっ、それは怖い(笑)。

山宮　どうしたのかなと思ったら、いきなり「山宮、名前変えよう！」って言い出して(笑)。それで戸惑ってたら、「俺もリングネームだから。試合とプライベートは名前を分けたほうがいい」って言われて。僕はそれでも「いや……」って躊躇してたんですけど、「何にしようか？」って、もう変える前提で話をしてくるんですよ。

――有無を言わさず(笑)。

山宮　当時、高橋さんが「虎を殺したい、虎殺しだ」とか言ってたんですね。謙吾は謙吾で「俺はライオンを殺したい、ライオン殺しだ」って言って背中にライオンのタトゥーを入れたり。それもあってなのか、船木さんが「山宮は何を殺したいの？」って聞いてきて(笑)。

――ガハハハハ！　船木さんらしいですね(笑)。

山宮　で、「いや、殺したい動物はいないですけど……」って返事をしたら、船木さんが「いままでに飼ったことある動物はいるか？」って聞いてきたんです。それで「カブトムシとかハムスターとか」って正直に答えたら、「じゃあ、『ハムスター山宮』はどう？」って真剣な顔で言うんですよ(笑)。で、さすがに「いや、ちょっとそれは……」ってやんわり断ったら、「じゃあどうすんだよ!?」って怒りだしてきて(笑)。

――さすが、マッドネス！(笑)。

山宮　「好きな言葉とかないのか!?」とか追求が止まらないんですよ(笑)。「好きな言葉、う～ん……」て悩みながら、頭の中では「棚からぼた餅」とかそういう怠けた言葉が浮かんでたんですけど、この状況じゃちょっと……。

――とても言えないですよね(笑)。

山宮　だから「ちょっとわかんないです」って答えたんです。そうしたら「おまえはなんのために練習してるんだ？」って聞かれたので、「試合に勝つためです」と。「試合に勝つためには何が必要だ？」、「練習と努力です」、「……じゃあ『努力・山宮』でいこうか」って(笑)。

――それはコールされるのがツライリングネームですね(笑)。

山宮　こうなってくると、「あ、この人マジだ！」ってこっちも焦ってきて(笑)。「これはホントにちゃんと決めなきゃヤバい」と思って、パッと浮かんだのがヒロ斉藤、マサ斎藤っていうプロレスラーらしいネーミングだったんですよ。で、「ケイ山宮っていうのはどうですか？」って提案したんです。

――あ、一応自分発信なんですね。

山宮　はい。そうしたら一瞬の間があってから、船木さんが「……いいよ、それ。ビビッときた！」って言って。当時、松田聖子の再婚会見でそのフレーズが流行ったときだったんですよ。それで船木さんが「表記はローマ字で『KEI山宮』でいこう」って決めると、すぐに2階の事務所に上がって、またリリースがカタカタカタッて(笑)。

――TAKAみちのく戦と同じように(笑)。いろいろ話を聞いてるとやっぱり山宮さんはパンクラスとは切っても切り離せない関係みたいですね。

山宮　自分の故郷ですから、帰るべくして帰ったという感じなんですかね。ちっぽけなノミシンながらも、パンクラスをはじめ日本の総合格闘技が盛り上がるように頑張っていきたいです(笑)。

――これからのご活躍も期待しています！

【08年6月7日／都内・GRABAKAジムにて収録】



けい・やまみや■本名・山宮総一郎。1972年7月12日、神奈川県出身。96年7月プロデビュー。96年、ネオブラッドトーナメント優勝。その後、『UFC-J』や『DEEP 2001』など他団体にも参戦、00年9月には初代パンクラスライトヘビー級王者に君臨。2003年11月からはライバルチームであったGRABAKAに衝撃の移籍をはたす。現在は古巣であるパンクラスのリングを中心に活躍中。177センチ、90キロ。

kamipro SHOPPING

[RADICAL特選劇場]

野蛮の

Back Number

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ!
kamipro インタビューの
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作!

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)




泣けて笑える
トンパチエピソード満載!
またまた時は来た!
橋本真也三回忌追善本

★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳浩★スティーブ・コリノ★田中秀和★田山正雄★ライガー夫人★折鶴兄弟★AYAMI★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦　ほか

破壊王本第二弾!!"愛すべき馬鹿"橋本真也を多くの"証言者"が語り尽くす! 破壊王の原点とも言うべき新日本プロレスの選手・関係者や破壊王ファミリーらが、いまだ知られざる破壊王のバカネタを大放出した珠玉の一冊!!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/



こいつらマジ、やべえ!

“KID級”

バンタム&フェザー級世界大戦はすでに始まっている!

WEC

WORLD EXTREME CAGEFIGHTING

MIGUEL TORRES
WEC BANTAM WEIGHT CHAMPION

URIJAH FABER
WEC FEATHER WEIGHT CHAMPION

7.21『DREAM.5』に山本“KID”徳郁の出場が決定し、ついにスタートするライト級以下の通称“KID級”。それより一足先に、アメリカではフェザー級&バンタム級を中心とする団体WECが大ブレイク! 今後、KID級が世界的に盛り上がる兆しが見えてきた中、本誌は6.1『WEC34』を徹底取材。7ページたっぷりとお届けします!

構成／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges



一足先にアメリカで大ブレイク!!

6.1 WEC34 FABER VS PULVER　SACRAMENTO ARCO ARENA

構成／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges

UFC並みの大観衆を動員！
軽量級王国WECを見逃すな!!

海の向こうで〝KID級〟がついにブレイクした！

これまで日本でもアメリカでも、PRIDEやUFCといったメジャーな舞台では階級すら設定されていなかったライト級（70キロ）以下の軽量級。

日本では山本〝KID〟徳郁が新階級設立をアピールしてから、ようやく注目され始めてきたが、アメリカでは、UFCの兄弟団体であるWECが、そのフェザー級やバンタム級中心でイベントを行なってきた。

そのWECが、去る6月1日、カリフォルニア州サクラメントにある大会場ARCOアリーナで、ビッグイベントを開催。フェザー級世界王者ユライヤ・フェイバーvsジェンス・パルヴァー、バンタム級世界王者ミゲール・トーレスvs前田吉朗の二大タイトルマッチをダブルメイン的に据えたこの大会は、1万2000人以上の観衆を動員し超満員！

会場となったARCOアリーナは、昨年7月、ノゲイラのUFCデビュー戦で使われた場所。WECがそのビッグアリーナでUFCと同等の大観衆を集めることに成功したのだ。

これは日本に置き換えると、05年9月、五味隆典vs川尻達也戦が実現した『PRIDE武士道ー其の九ー』で、有明コロシアムを満員にして、ついにライト級がブレイクしたときと似ている。

WECのブレイクを感じさせるのは観客動員だけではない。6・1『WEC34』はケーブルTV『ヴァーサス』で放映され



[6.1 WEC34 FABER vs PULVER]
米国カリフォルニア州サクラメント ARCOアリーナ
WEC世界バンタム級タイトルマッチ

○ミゲール・トーレス vs 前田吉朗×
(3R終了 TKO)

KIDが対戦を希望するWEC世界バンタム級王者トーレスに、稲垣組の前田吉朗が挑戦。前田は序盤から打撃で王者と互角に渡り合い、足関節を極めかけるなど大健闘を見せたが、抜群のスタミナを誇るトーレスが後半逆襲。3R終了後、TKOで王者が防衛に成功した。



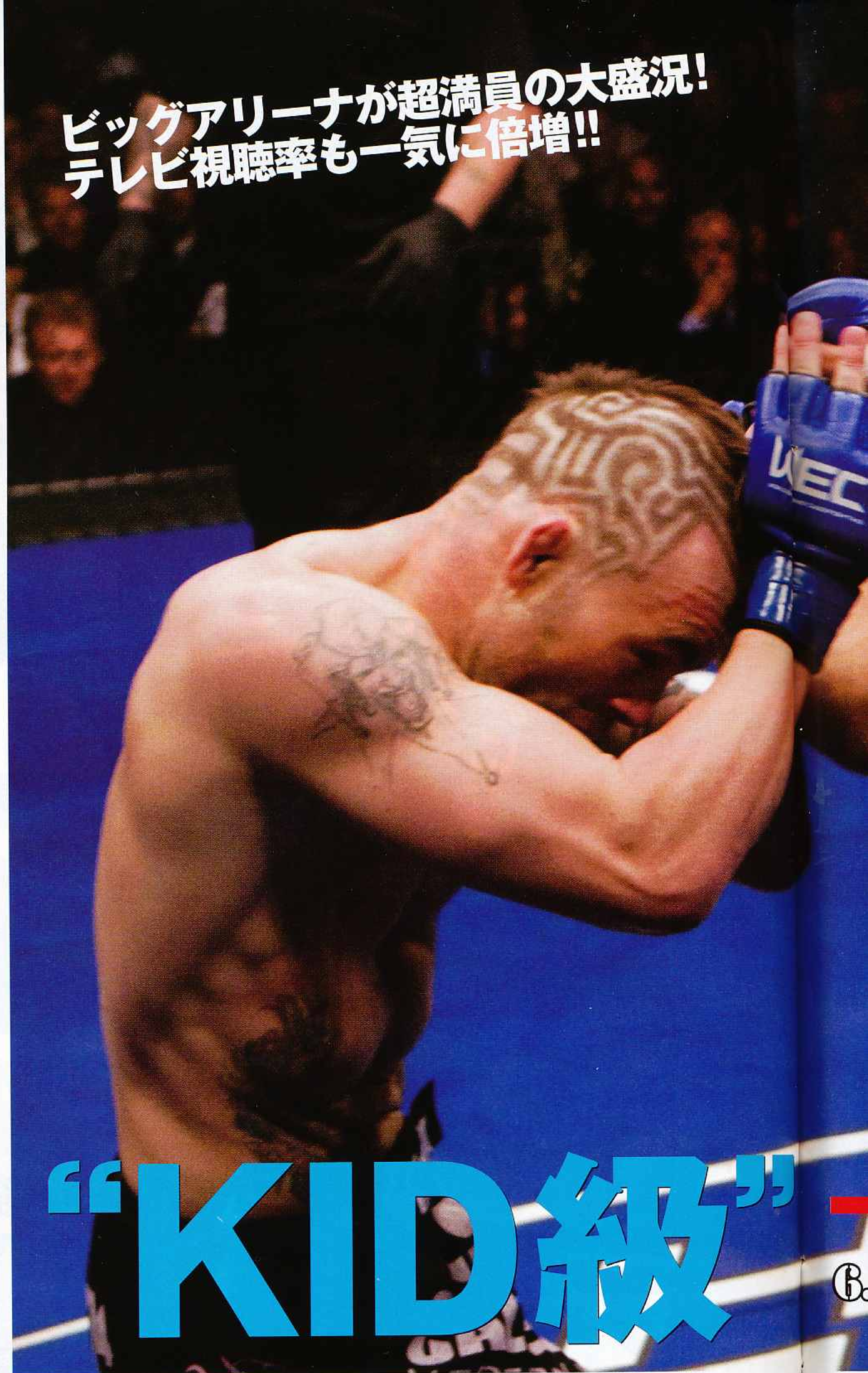
[6.1 WEC34 FABER vs PULVER]
米国カリフォルニア州サクラメント ARCOアリーナ
WEC世界フェザー級タイトルマッチ

○ユライヤ・フェイバー vs ジェンス・パルヴァー×
(5R終了 判定 3−0)

WECのエースであるユライヤが、元UFCライト級王者であるジェンス・パルヴァーを迎え撃ったフェザー級タイトルマッチ。本来グラップラーのユライヤがBJペンをも下したことがあるストライカーのパルヴァーと堂々打ち合い、判定勝ち。ユライヤは試合後、顔に傷一つ残さない完勝だった。

ビッグアリーナが超満員の大盛況！ テレビ視聴率も一気に倍増!!

"KID級"



たが、視聴率はこれまでの平均値の倍以上で、約150万人が視聴。同時間帯での成人男性の視聴者数は、全ケーブルテレビ局で首位を奪取！　これはWECのブレイクというだけにとどまらず、アメリカMMA界でフェザー級とバンタム級の夜明けを迎えたと言っていいだろう。

この盛り上がりを受けて、試合も熱戦に次ぐ熱戦だった。

とくにセミで組まれたミゲール・トーレスvs前田吉朗は、一進一退の凄まじい打撃戦となり、軽量級史上に残るベストバウトとして絶賛されたのだ。

前田は3ラウンド終了後、ミゲールの左ジャブで右目が腫れ上がりストップがかかってしまったが、王者トーレスと互角に渡り合ったことで、アメリカでの評価はうなぎ上り。今後も継続参戦のオファーが来ることは確実だろう。

そしてミゲール・トーレス。山本KIDが対戦を熱望する、このKIDと同階級、バンタム級の世界王者は、今回の勝利で通算戦績34勝1敗という凄まじい戦績となった。立ってよし、寝てよしというだけでなく、メキシカンボクサー的なそのタフネスぶりは飛び抜けている。


ボクシングの世界では、中軽量級選手はメキシコ勢が中心となっているが、このトーレスを見ていると、MMAも近い将来、そうなるような予感をさせるものがあった。この男とKIDの対戦が実現したら、まさにスーパーファイトとなるだろう。

またメインイベントのユライヤvsパルヴァーも激戦だった。

WECのエースにして、軽量級MMAのアイコン的存在であるユライヤ・フェイバー。そのスーパースター候補が、最強の挑戦者ジェンス・パルヴァーを迎え撃ったこの一戦は、これまで打撃が"穴"だと言われていたユライヤが、ストライカーであるパルヴァーを打撃で終始圧倒。フルマークの判定で、強敵の挑戦を退け、王座防衛に成功した。

この勝利でフェザー級の絶対王者的な地位についたユライヤもまた、KIDとの対戦を熱望。

ユライヤ・フェイバー、ミゲール・トーレス、そして山本"KID"徳郁。この男たちによって、フェザー&バンタム級は世界的な盛り上がりを見せようとしているのだ。



格闘技の原点はガレージで親父に習ったボクシング。俺は〝MMAのチャベス〟になる！

WEC世界バンタム級王者

MIGUEL TORRES

ミゲール・トーレス

「KIDと闘えば、間違いなく俺が勝つ！」

構成／堀江ガンツ、石井史彦　試合写真／Josh Hedges

生まれ育ったところは貧民街だったから強くなければ生きていけなかったんだ!!

「WECのトップ、ミゲール・トーレスなんかとやりたい」

本誌のインタビューで山本“KID”徳郁が「闘いたい相手」としてその名を挙げてから、が然注目度が増したミゲール・トーレス。

この男こそ軽量級MMAの最高峰、WECの世界バンタム級王者。よくKIDと比較されるユライヤ・フェイバーはフェザー級（65キロ以下）の世界王者で、トーレスは一階級下のバンタム級（61・5キロ以下）。まさにKIDがこれから闘おうとしている階級で、世界の頂点に立っているのが、このミゲール・トーレスなのだ。

これまでライト級より下の階級は、日本でもアメリカでも比較的注目度が低かったので、まだ日本での知名度は低いが、すでにMMAのキャリアは8年。戦績も35戦34勝1敗という、恐るべき戦績を残しているトーレス。この“バンタム級の絶対王者”とも言うべき男は、どんなファイターなのか？　6・1『WEC34』サクラメント大会の前日、トーレスを独占直撃した！

――トーレス選手、はじめまして。日本のMMA雑誌『kamipro』といいます。今日はバンタム級世界最強の男はどんなファイターなのかを取材するためにやってきたんですよ。

トーレス　日本は大好きだよ。俺が日本の雑誌に載るのかい？　それは嬉しいね。なんでも聞いてくれ！

――まず生いたちを教えてください。

トーレス　生まれ育ったのはインディアナ州イーストシカゴの貧民街。両親はメキシコ生まれで、メキシコにいる家族の生活費を稼ぐため、よりお金が稼げるということでアメリカに移民してきたらしい。いまは自分が両親に代わって、メキシコの家族に送金してあげているんだ。

――両親の家族にまで送金というのは大変ですね。

トーレス　でも、メキシコの家族のサポートをしなくてはいけないということも、MMAの世界で頑張るモチベーションになってるんだよ。

――まさに「ミゲール・トーレスには負けられない理由がある」というやつですね（笑）。スポーツ歴も教えていただけますか？

トーレス　最初に格闘技を始めたのは7歳の時。松濤館空手を始めたんだけど、練習費用が払えなくて2年で辞めざるをえなかった。生活が苦しかったからね。でも、10歳になる前から、ボクシング好きの父親がトレーナー代わりになって、近所のガレージでボクシングの練習をしていたんだ。俺は身体が小さかったし、生まれ育ったところは貧民街だから強くなければ生きていけなかったんだ。

――原点は父親に習ったボクシングですか。

トーレス　そのほかには、子どもの頃からサッカー、フットボール、バスケットボールとか、何かしらのスポーツは常にやっていた。家にお金があって、やりたいスポーツを自由に選べたら、間違いなく格闘技だけをやっていたんだろうけど、お金がなかったからね。

――格闘技を本格的に再開させたのは、いつ頃ですか？

トーレス　14歳のとき、昔から興味のあったテコンドーを始めて、それがきっかけでキックボクシングも始めたんだ。そこは柔術も学べたんで、しばらくしてから柔術も始めて、MMAの世界へと入っていったんだ。



6.1『WEC34』でミゲール・トーレスの持つWECバンタム級王座にパンクラス稲垣組の前田吉朗が挑戦。激闘を繰り広げた両者の試合はバンタム級史上最高の試合と称されるほどのハイレベルな闘いだった。

――最初にMMAに興味を持ったのはいつですか？

トーレス　たしか13歳か14歳の頃だったと思うけど、最初のUFCを観る機会があって、そこでホイス・グレイシーの虜になってしまったんだ。自分も身体が小さかったから、身体が細くて小柄なのに大きな相手をどんどん倒すところに憧れたんだ。柔術との出会いもそのときだね。

――では、もっとも影響を受けた格闘家もホイスですか？

トーレス　当時はもちろんそうだね。ほかにはメキシカンボクサーたち、フリオ・セサール・チャベスやサルバドル・サンチェスらの影響も受けているよ。子どもの頃はボクサーになるのが夢だったんだ。ただ、生まれ育ったところにボクシングジムがなかったので、キックボクシングの練習を始めて、そこで柔術の練習もすることでMMAファイターになったんだよ。

――あなたにとってMMAの原点がホイスだとすると、MMAのアイドルは誰になりますか？

トーレス　何人かいるけど、GSP（ジョルジュ・サンピエール）かな。もちろんBJペンも尊敬している。それから日本人のアオキ（青木真也）は大好きだよ。素晴らしい柔術を見せてくれるからね。

――ほう、青木選手ですか！

トーレス　GSP、BJペン、アオキは、多才多芸なコンプリートファイター。アイドルというより見習おうとしているファイターだね。

――日本のMMAもかなり観てるんですか？

トーレス　もちろん！　PRIDEは本当に素晴らしかったよ。いままでも友だちと話すんだけど、PRIDEはエンターテインメントとして最高だった。UFCは試合だけさ。ショーとしてのレベルはPRIDEとは比べ物にならない。でも、自分にはそれが合ってるんだけどね。

――では、PRIDEに上がりたいと思っていたこともありましたか？

トーレス　もちろんだよ！　PRIDEで試合することは、俺の夢だった。でも、自分にとって一番重要なのは、家族の将来のことなんだ。俺はプロのファイター、一番いいオファーをもらえるところを優先に考えるよ。俺もプロになって8年。いままでは自分のことだけで精一杯で余裕がなかったけど、これからは家族のことを中心に考えていきたいんだ。両親の代わりに、（一族）みんなをサポートしていかないといけないし。周りにいるたくさんの人が、自分の成功に依存しているからね。自分だけのことを考えることはできないんだ。

――一族の生活を背負って闘っているわけですね。これまでPRIDE、UFC等メジャーな舞台であなたの階級（バンタム級）はありませんでしたが、軽量級の不遇ぶりをどう感じていましたか？

トーレス　いずれ軽量級が注目されるときがくるって信じていたよ。動きも速いし、テクニックも見逃せない。MMAにおいてもエキサイティングな試合は、せいぜいウェルター

俺もKIDとはぜひ闘ってみたいよ。MMA界にバンタム級を定着させるためにも実現させたい

級以下だろう？ ライトヘビー級やヘビー級になると、ラウンドを重ねると動きが悪くなったり、技術も雑になってくるから、観ていてもそんなにおもしろくないんじゃないかな。まあ、その中でヒョードルだけは、飛び抜けて別格だけど、彼に相当する対戦相手がいないのが現状だろう？ 軽量級にはいいファイターがたくさんいるし、いろんな技術も観ることができるんだから、絶対におもしろいはずだよ！

——実際、軽量級が充実したWECは、非常に盛り上がってきましたね。

トーレス そうだろ？ このMMAシーンにおいて、1年前とは比べ物にならないぐらい大きな存在になってきている。自分のウェートクラスにとってもいいことだし、エキサイティングだね。とくに今回のイベントは凄いね。135ポンド（バンタム級）クラスのイベントでは、MMA史上最大のイベントになるよ。

——日本の山本KID選手は本来バンタム級の身体ながら、ライト級（70キロ）で闘っていました。あなたも階級を上げて、UFCやPRIDEのライト級に上がりたいとは思いませんでしたか？

トーレス じつはここ10年間、体重を上げようとしてたくさん食べたりしたんだけど、俺は体質的にメタボリズム（代謝）が早く、いくら食べても太らない体質らしいんだ。これはおそらく遺伝で、俺の家族はみんな痩せている。家族の中で一番大きな父親でさえ、60歳になるのに70キロないんだよ。毎日ちゃんと食事を摂っていてエクササイズもしないのにだよ、理解できるかい？

——歳を取ると太る人が多いメキシコ人とは思えないですね。

トーレス 俺も、もう少し歳を取れば代謝が遅くなるだろうから、そうしたら少し体重を増やせると思うけどね。まあ、俺のファイトはスタンディングでもグラップリングでも常に動いて、「クイック、エフェクティブ、テクニック」というスタイルなんだ。だから、自分より大きな相手でも倒す自信はあるよ。

——そのへんの姿勢はKIDと同じですね。

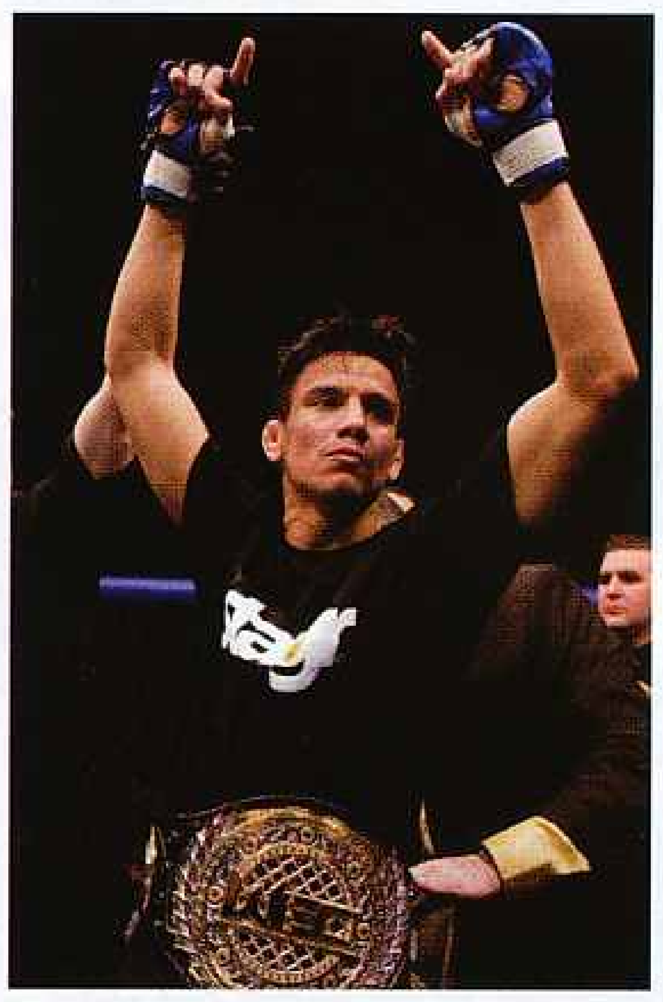
トーレス KIDは本当に素晴らしいファイターだよ。柔術の技術はまあまあといった感じだけど、優れたスタンディングとレスリングスキルを持っているよね。近い将来、必ず試合をするようになると思うし、MMAにバンタム級を定着させるためにも実現しなければいけないスーパーカードだね。

——KID選手自身もトーレス選手との対戦を熱望しているんですよ。

トーレス 俺もぜひ闘ってみたいよ。もちろん、金銭的にもそれに見合うオファーであることが前提だけどね。

——闘うとしたら日本のDREAMでもかまいませんか？ それともやはりWECがいいですか？

トーレス 条件が許せばどこでも問題はないよ。日本で試合をするのであれば、まずWECとの契約を含め確認しないといけないことがあるけど、実現することを祈っているよ。



MIGUEL TORRES■1981年1月18日、米国インディアナ州出身。シカゴでジムを持っていたカーウソン・グレイシーのもとで5年間トレーニングを積んでおり、打撃もサブミッションも得意とするトータルファイターである。175センチ、61キロ。

MIGUEL TORRES

——KIDと闘った場合、勝つ自信はありますか？

トーレス 間違いなく勝つのは俺だね（キッパリ）。おそらくKIDはスタンドアップで距離をキープして、テイクダウンを狙ってくると思うけど、テイクダウンされても自分の柔術テクニックはMMAのために生み出されたものだからね。レスラーからのアタックやグラウンド&パウンドのディフェンスも練習してるし問題ないよ。KIDは素晴らしいストライカーだけど、ボクシングテクニックでは間違いなく俺のほうが上。身長の低い選手に対してのゲームプランも完成しているから、問題ないね。

——自信満々ですねえ。KID選手以外に闘ってみたい日本人選手はいますか？ たとえば所英男選手や今成正和選手は知っていますか？

トーレス トコロ？ ホイス・グレイシーと試合したヤツかい？

——そうです。2〜3階級上のホイスと互角以上の闘いをしたんです。

トーレス ただ、あの試合はトコロがどうこうというより、ホイスのプライムタイムが過ぎたということだよ。多くのファイターが、プライムタイムを過ぎてもファイトし続けているけど、本当はキッパリと辞めるべきなんだ。一生ファイターではいられないんだからね。ちゃんと現役時代からファイターを辞めたあと、トレーナーになるとか、ほかのことを考えるべきだよ。

——今成選手はどうですか？

トーレス イマナリはトリッキーでいいファイターだね！ ああいう（トリッキーな）ファイトスタイルは好きじゃないというファイターもいるけど、俺は好きだな。だいたいトリッキーを嫌うヤツは、自分が勝てないからそう言うんだよ。LYOTOなんかも同じで、彼のトリッキーなファイトをほとんどの選手がイヤがってるよね。でも、それはLYOTO相手にどう闘っていいかわからないからイヤがっているんだよ。

——そうかもしれませんね。

トーレス 自分はそういうトリッキーな動きは好きだし、いいゲームプランだと思っているけどね。

——WECフェザー級王者のユライヤ・フェイバーはどう思いますか？ 彼は「ミゲール・トーレスは自分に比べて技術が未熟なので、階級を下げたら二階級制覇できる」と語っていましたが。

トーレス どんなMMAファイターでも未熟な部分はあるよ。たとえばユライヤのパンチは全然よくないし、彼の試合を観ると、いつも1ラウンド目にミスを犯して、バックを取られたりしているだろう？ 問題は対戦相手を過大または過小評価したりすることなんだ。

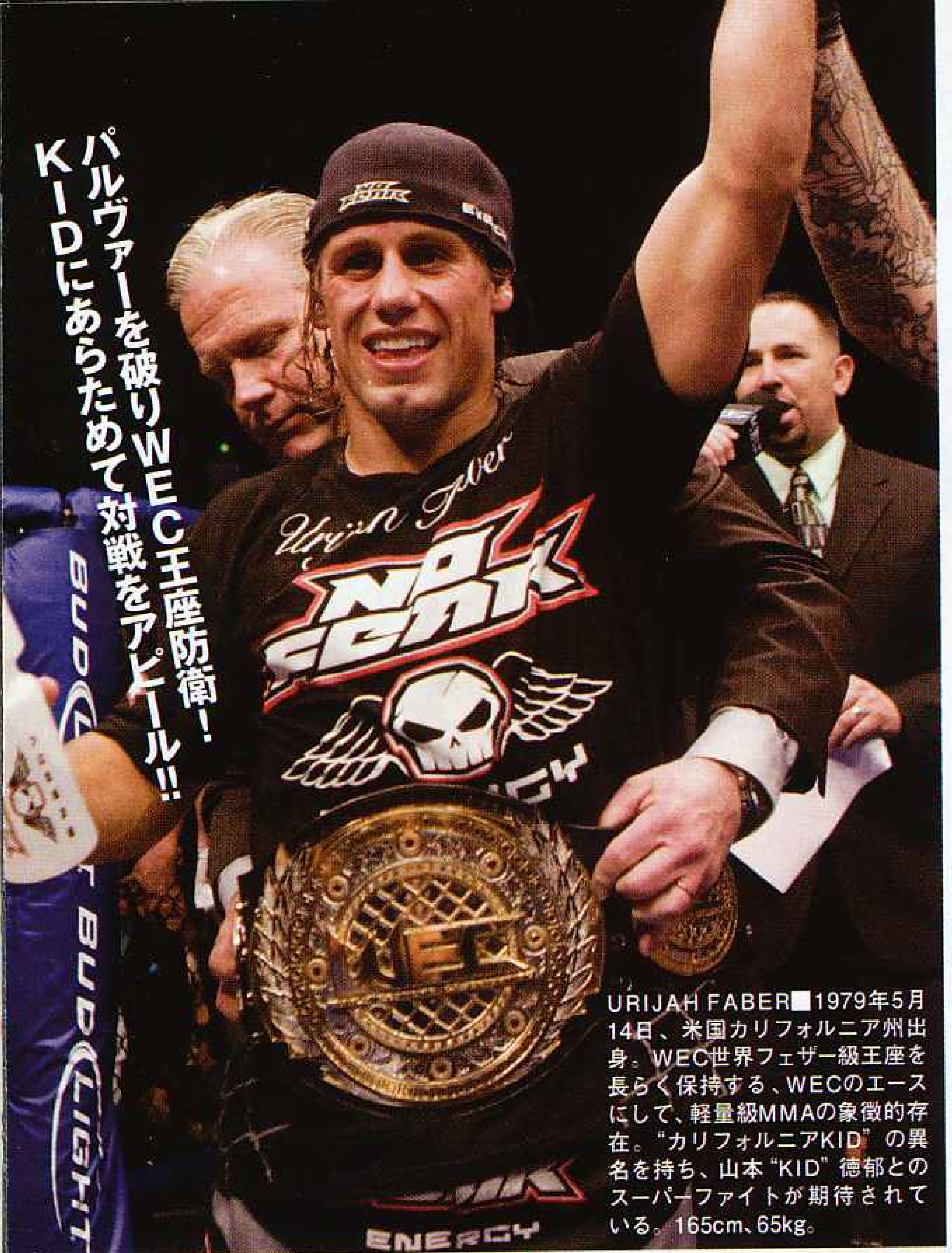
——俺を甘く見たら痛い目に遭うぞ、と。

トーレス とにかく、KID、トコロ、イマナリ、ユライヤたちとの対戦が、スーパーファイトとして実現すると信じているよ。それぞれ個性のあるファイトスタイルだけど、ミックスト・マーシャル・アーティストとして、すべてのスタイルに対応できるように練習をしなくてはいけないと思っているからね。

——では、最後に日本のファンに一言お願いします。

トーレス ずっとアメリカ国内でしか試合をしてないので、ぜひ近い将来、日本で試合ができたらと思っています。そのときは応援よろしく！

【08年5月31日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】



パルヴァーを破りWEC王座防衛！
KIDにあらためて対戦をアピール!!

URIJAH FABER■1979年5月14日、米国カリフォルニア州出身。WEC世界フェザー級王座を長らく保持する、WECのエースにして、軽量級MMAの象徴的存在。"カリフォルニアKID"の異名を持ち、山本"KID"徳郁とのスーパーファイトが期待されている。165cm、65kg。

"カリフォルニアKID" WEC世界フェザー級王者

URIJAH FABER

ユライヤ・フェイバー

「軽量級を世界的に盛り上げるためにKIDと闘いたいんだ！」

6.1『WEC34』で"最強のチャレンジャー"ジェンス・パルヴァーを破り、見事、WEC世界フェザー級王座を防衛したユライヤを試合後に直撃！　いまや軽量級MMAのアイコンとなった男と山本KIDの夢の闘いは、はたして実現するのか？　"カリフォルニアKID"に今後のプランを聞いてみた。

構成／堀江ガンツ、石井史彦　撮影／Josh Hedges

——WEC世界フェザー級王座防衛おめでとうございます！

ユライヤ　ありがとう！　自分のホームタウンで、こんな凄い闘いができて最高だ！　最高のショーになったし、自分が誇りに持てるいい時間をすごせたよ。

——対戦相手のジェンス・パルヴァーはどうでした？

ユライヤ　ジェンスは真のウォリアーだったよ。これまで闘った中で一番タフな相手だった。そんな相手に勝てて、とにかく満足している。フィール・グレイト！　今日は歴史的なファイトになったと思う。試合に勝ったのは俺だけど、俺とジェンスの二人とも勝者だったと思う。

——ストライカーのパルヴァー相手に打撃で勝ったことに驚きました。最初からスタンドで勝負する作戦だったんですか？

ユライヤ　いや、スタンドで勝負するつもりはなかったよ。でも、スタンドになってしまったら、殴り合いでも自信があった。みんな俺の打撃をよくないと言うけど、毎日、必死に打撃の練習をしてきたんだ。ジェンスをKOしたサクライ（桜井"マッハ"速人）のような身体のデカい選手ともスパーしてきたしね。もうスタンドアップがよくないなんて、言わせないぜ！（笑）。

——最強のチャレンジャーを倒したわけですが、次は誰と闘いたいですか？

ユライヤ　誰でもいいよ。とにかく強い相手と闘いたい。

——日本のファンは山本"KID"徳郁選手との対戦を期待しています。

ユライヤ　もちろん俺もKIDとは闘いたいよ。これは昔から言い続けていることさ。

——KID選手はバンタム級（約61・5キロ以下）で闘いたい希望を持っているようですが。

ユライヤ　バンタムに落とすことはできるよ。アイ・ラブ・トゥ・ファイト、KIDヤマモト。

——現WEC世界バンタム級王者、ミゲール・トーレスのファイトはどうでしたか？

ユライヤ　とにかく素晴らしかった。あらためて心が強くていいファイターだと思ったよ。対戦相手のマエダ（前田吉朗）もウォリアーだった。常に動き回ってエキサイティングだ。彼も真のチャレンジャーと言っていいだろうね。

——逆に155ポンド（ライト級）に上げて、UFCに出場したい気持ちはありますか？

ユライヤ　とくにUFCに上がろうとは思わない。俺はWECを世界一の軽量級団体にしたいんだ。だからWECの代表として、スーパーファイトとしてBJペンと闘うのなら、おもしろいアイデアだね。

——WECにそれだけ愛着とこだわりがある、と。

ユライヤ　WECは自分たちで大きくしてきた団体だからね。ほんの2～3年前までは俺たちの階級がメインで、アリーナを満員にするなんて考えられなかった。今日は大きなショーをやるという夢が実現し、ビッグアリーナが満員になって本当に嬉しい。素晴らしい時間をすごすことができたよ。俺はこれまで、この軽量級を盛り上げるために、ハードなトレーニングとエキサイティングな試合を続けてきたんだからね。

——今日は満員になっただけじゃなく、会場の盛り上がりも凄くて、ついにフェザー級、バンタム級がブレイクした、と思いましたよ。

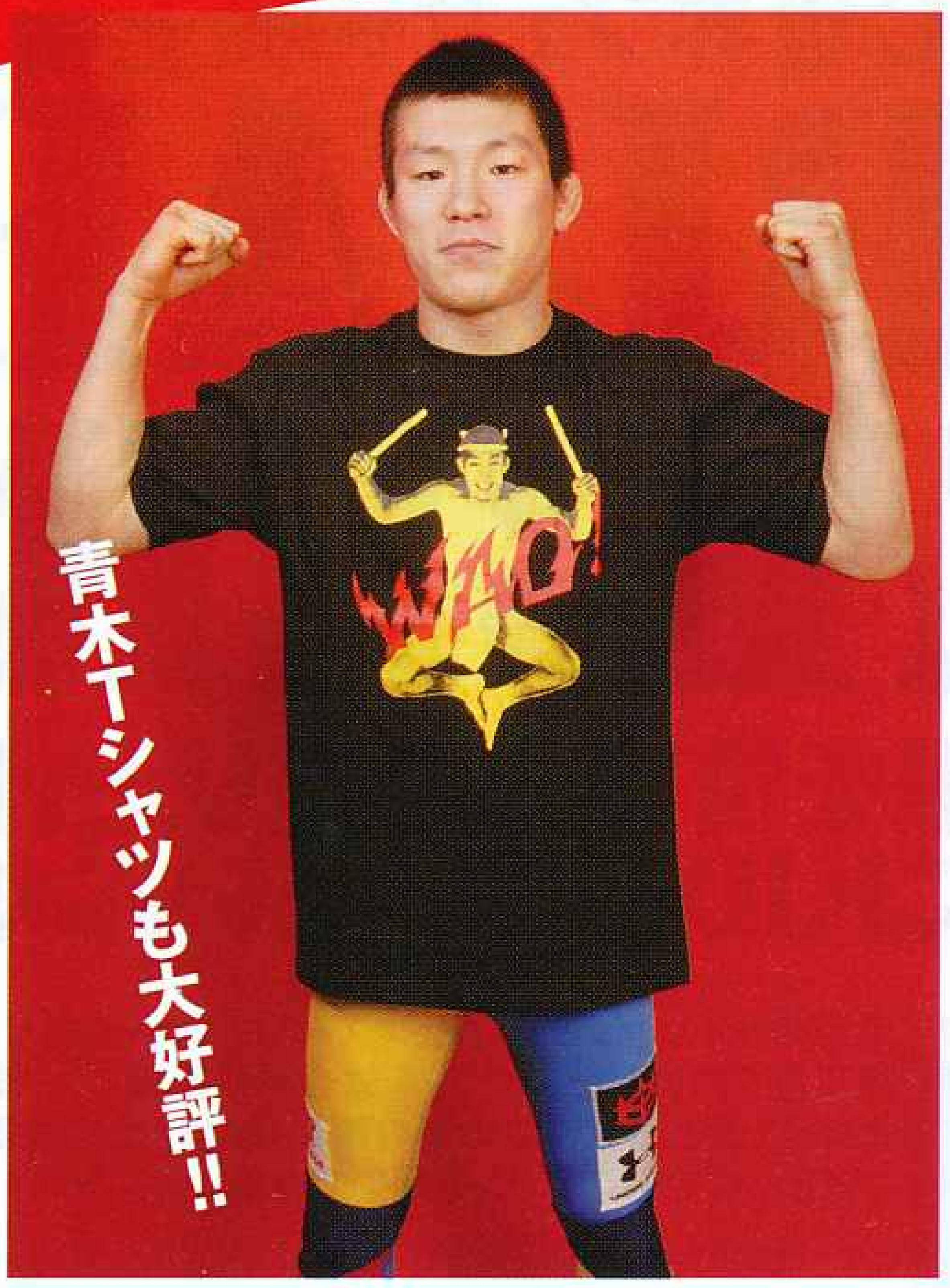
ユライヤ　ありがとう！　こと試合内容だけで言えば、WECはいま世界でベストのオーガニゼーションだと思う。軽量級の強いファイターが揃っているから、とにかくすべての試合がエキサイティングだ。技術的にも重い階級よりずっと高度なことをやっている。今日もミゲール・トーレスの試合は素晴らしかった。ミゲール、ジェンス、そして自分で、このスポーツ、この階級をもっと盛り上げていきたい。それが俺の使命だと思っている。俺がKIDヤマモトと闘いたいのも、この階級を盛り上げたいからなんだ。

——自分のほうが強いことを証明したい、というだけじゃない、と。

ユライヤ　そんなことじゃないよ。今日の俺とジェンスの闘いだってそうさ。トップファイター同士で闘って、この階級を盛り上げたいんだ。正直、軽量級はまだUFCほど認知されていないし、ファイトマネーだってミリオンダラーにはほど遠い。でも、俺とKIDのスーパーファイトが実現したら、世界中のMMAファンが注目してくれる。この階級を世界に知らしめるためにもぜひやりたいんだ。ぜひ、KIDヤマモトにもそう伝えてくれ！

【08年6月1日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】

kamipro SHOPPING



戦極Tシャツ新発売！インリン様Tシャツ売り切れ間近!!

青木Tシャツも大好評!!



青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



KamiproマスクTシャツ[☆]
[S・M・L・XL ホワイト×レッド]¥3,990（税込）



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150（税込）



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M・~~L~~・XL グレー]¥3,990（税込）



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990（税込）



I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990（税込）



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150（税込）



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M・~~L~~・XL ホワイト]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」バッグ[☆]
[ベージュ]¥1,980（税込）



BONOCHAN Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



インリン様vsボノちゃん対戦記念Tシャツ
[KIDS140・Lady's M・M・L・XL ブラック]
¥3,990（税込）



ハッスルFLASHTシャツ
[M・L・XL ブラック]¥5,040（税込）

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください）
- 代引き手数料は315円です。
（代引き金額によって異なります）

[『kamipro Hand』でご注文の場合]
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[電話でご注文の場合]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
（平日13:00～19:00）

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



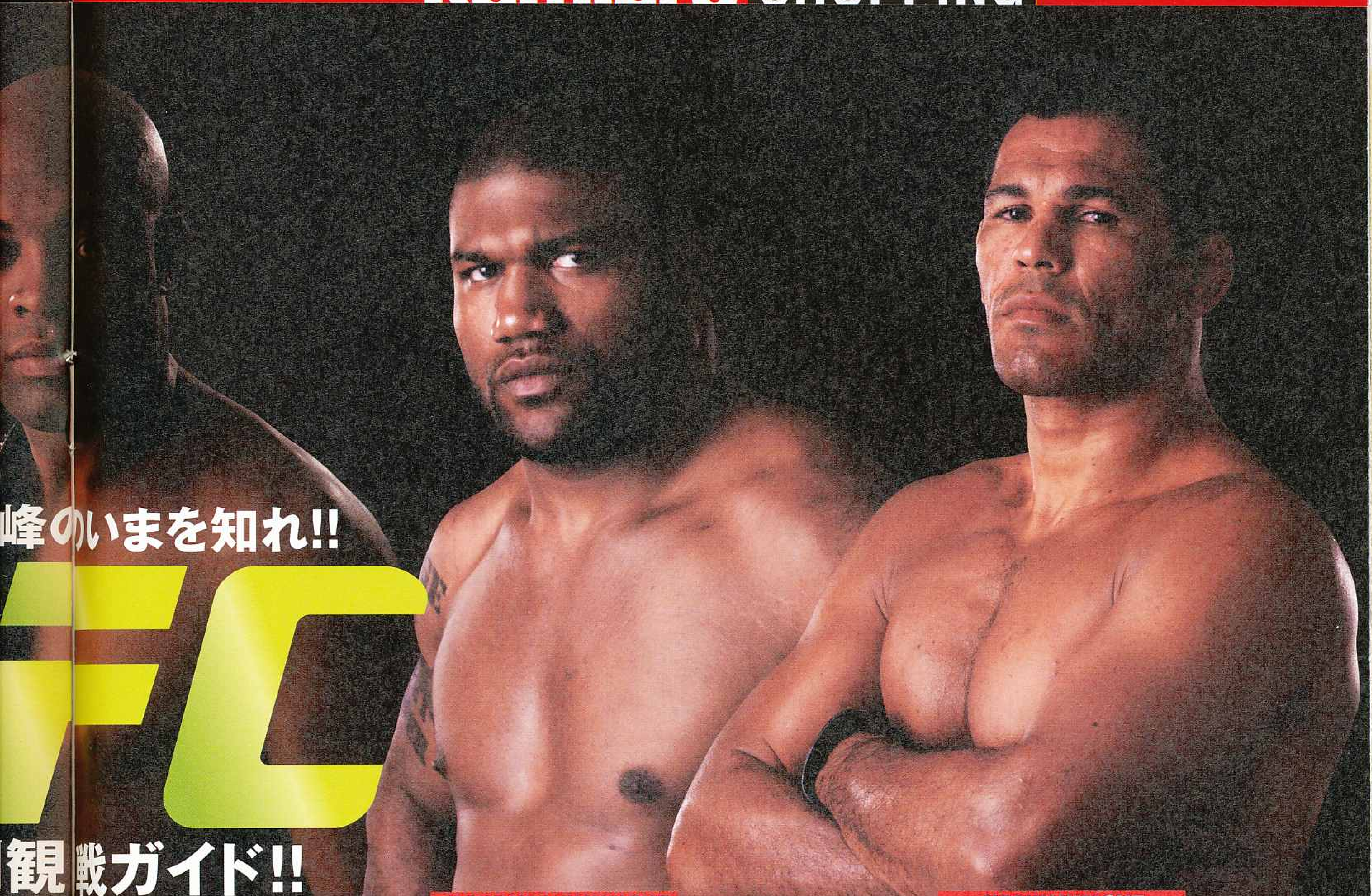
※価格はすべて税込みです



UFC NEW AGE TOP FIGHTER +オヤジ

MMA最前線

ビッグイベントを次々と成功させ、その勢いはとどまることを知らないUFC。
選手層も厚く、新たなスターも次々と生まれているが、ここではいまUFCで
最も旬なファイターをピックアップ。今後、間違いなくMMAの
トップに立つであろう男たち（+オヤジ1名）に、それぞれ単独インタビューを試みた。
これを読まずにMMAのいまは語れない！



峰のいまを知れ!!

FC

観戦ガイド!!

es (UFC)

IDDLE WEIGHT

RSON SILVA

アンデウソン・シウバ

アンデウソンの独占支配!!

岡見勇信

トキーニョ

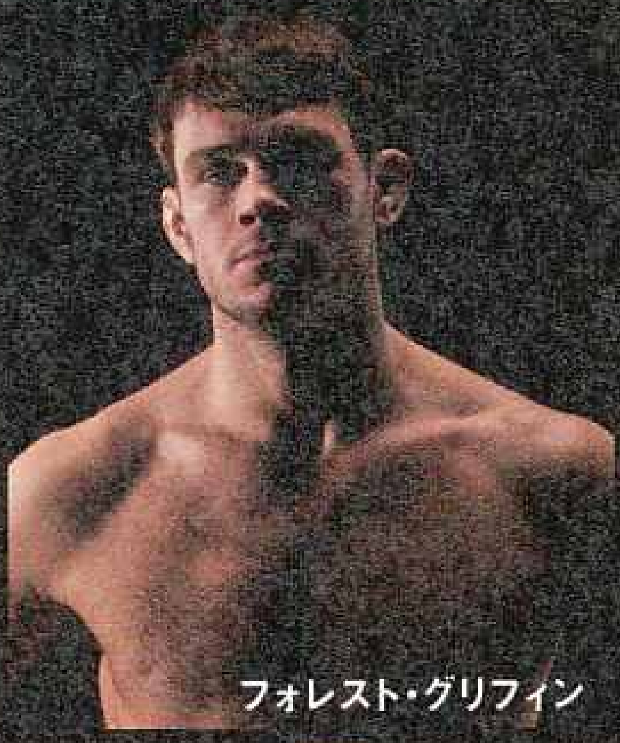
UFCに登場して以来5戦全勝。すべて一本&KO勝ちで挑戦者をあらかたなぎ倒したアンデウソンが絶対王制を敷く階級だ。その強さはTKこと高阪剛をして「勝てるヤツが見当たらない……」と絶句させたほど。実際にUFCも挑戦者選びに苦労しており、アンデウソンがWBC世界ウェルター級王者フロイド・メイウェザーと対戦するプランが浮上したり、ヴァンダレイやサンピエールをミドルで闘わせる案も検討されている。現在はBTTの秘密兵器、ホジマー・トキーニョや『TUFシーズン3』の優勝者マイケル・ビスピングの台頭に期待がかかっている。日本人としては、かつてアンデウソンに反則勝ちした岡見勇信とのタイトル戦をぜひ実現させてほしいところ。

LIGHT HEAVY WEIGHT

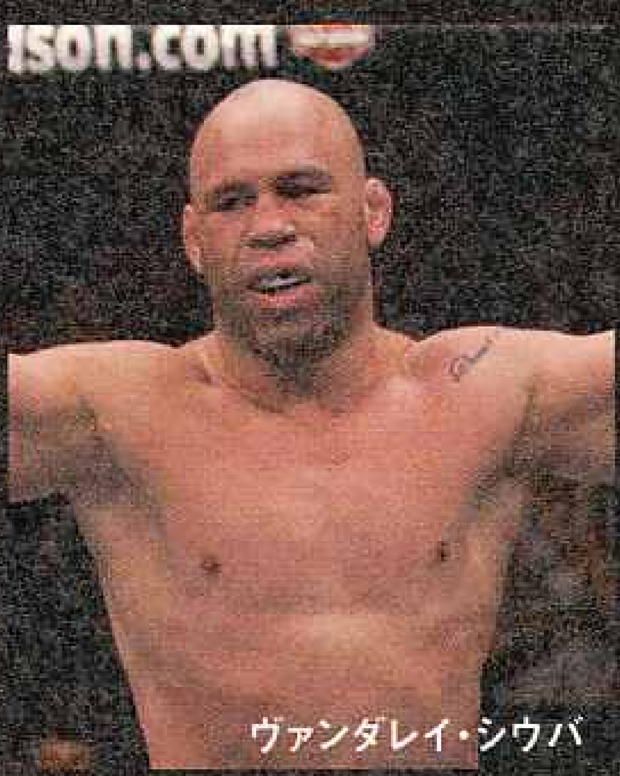
QUINTON RAMPAGE JACKSON

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

PRIDE&UFCの王者が集結!!



フォレスト・グリフィン



ヴァンダレイ・シウバ

ライトヘビー級は、元PRIDEとUFC生え抜きのトップスターが百花繚乱のごとく、ひしめき合う超豪華な階級だ。現在の中心は『TUFシーズン7』のコーチ役を務めるランペイジとグリフィン。UFCとPRIDEのタイトルを統一したランペイジと、ショーグンを倒して勢いに乗るグリフィンが対戦する7.5『UFC86』は、この階級の今年のハイライト。タイトルを狙うトップコンテンダーは、いまだ無敗のLYOTO。リデルに勝ったジャーディンを破り、王者ランペイジをPRIDEで二度下しているヴァンダレイも次期挑戦者有力候補。また、ケガで欠場中のチャック・リデルやマウリシオ・ショーグンらも控えており、UFCの充実度を象徴する"世界最高の選手が集う夢の舞台"だ。

HEAVY WEIGHT

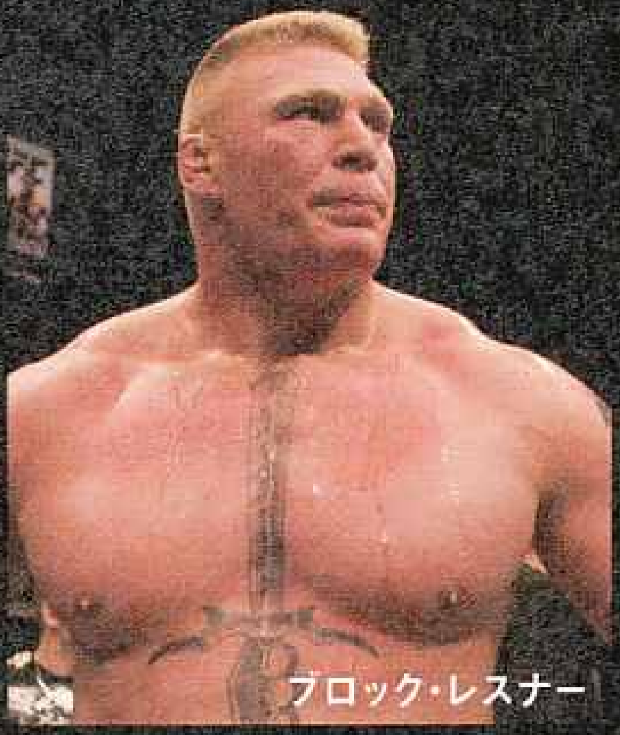
ANTNIO RODRIGO NOGUEIRA

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

シビアな勝負論と幻想との融合!!



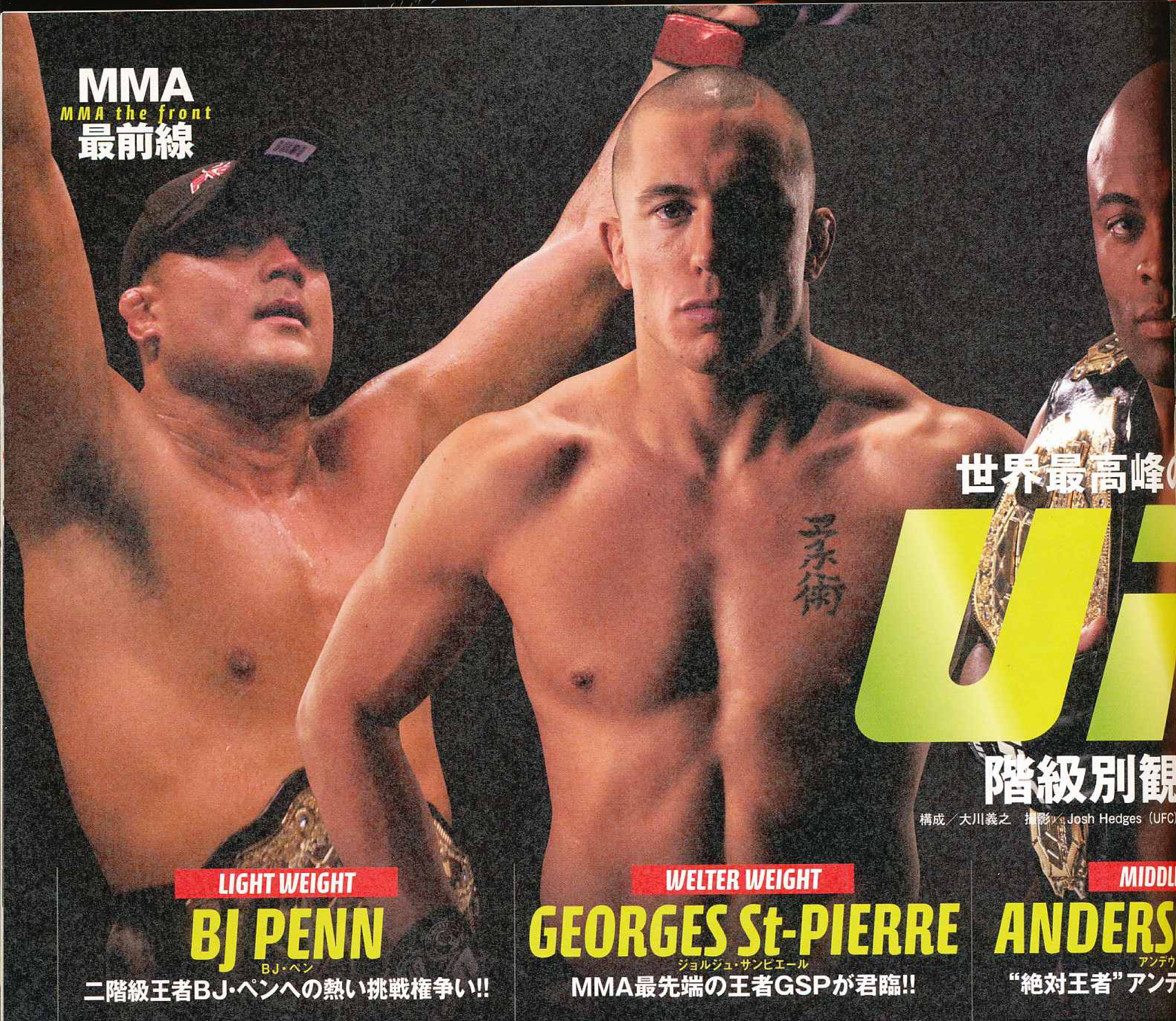
フランク・ミア



ブロック・レスナー

ヘビー級には、珠玉の寝技師が集結! その主役は、今年の9月から始まる『TUFシーズン8』のコーチ役を務める暫定王者のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラと元王者のフランク・ミア。ここに『UFC85』でブランドン・ベラ勝利したファブリシオ・ヴェウドゥムが絡む展開。
そんなタイトル戦とは別に、ヘビー級をド派手に盛り上げるのがブロック・レスナーだ。残念ながらUFC殿堂入りしたコールマンとの試合は流れたものの(コールマンのケガにより、代役はヒース・ヒーリング)、この男がトップに食い込んできたら盛り上がること間違いなし! 超ド級のダイナミズムとテクニックが融合するヘビー級は、UFCで最も実験的な階級だ。



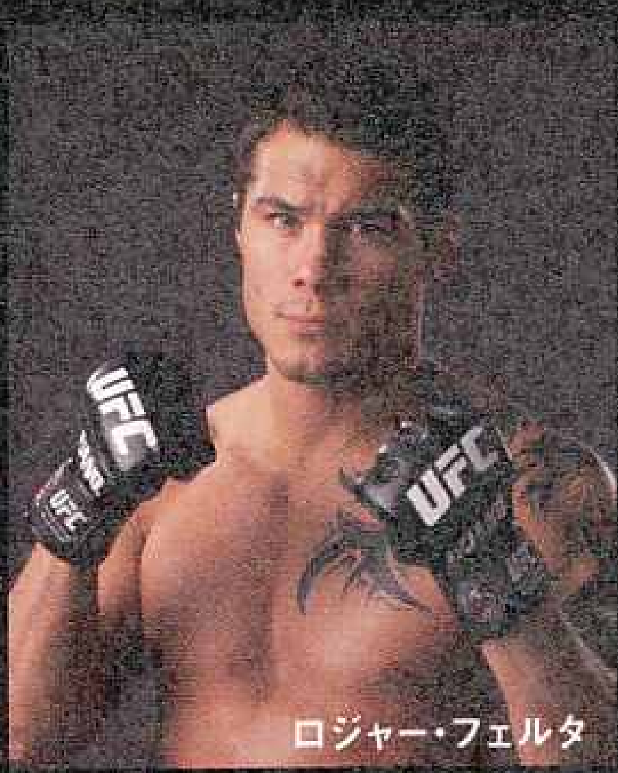


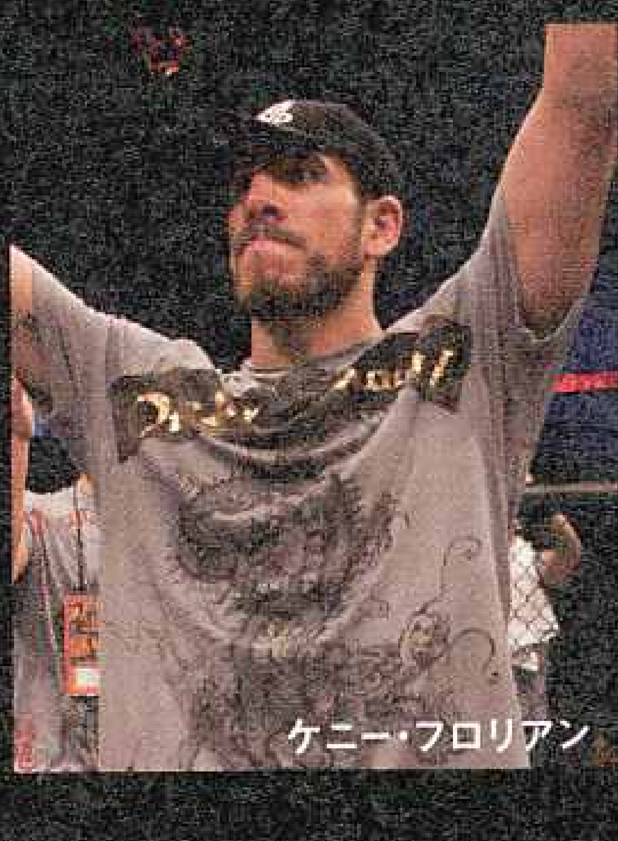
世界最高峰のい
UF
階級別観戦

構成／大川義之　撮影／Josh Hedges（UFC）

LIGHT WEIGHT
BJ PENN
BJ・ペン

二階級王者BJ・ペンへの熱い挑戦権争い!!

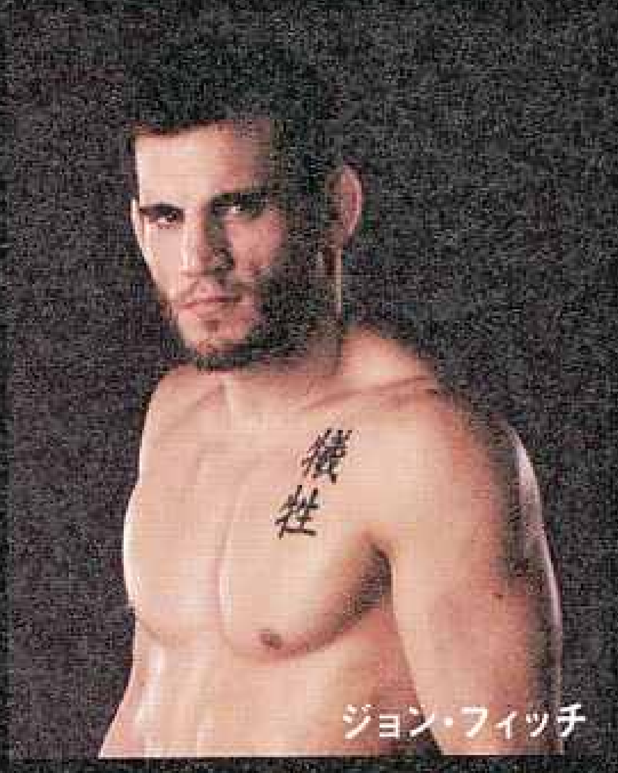

ロジャー・フェルタ

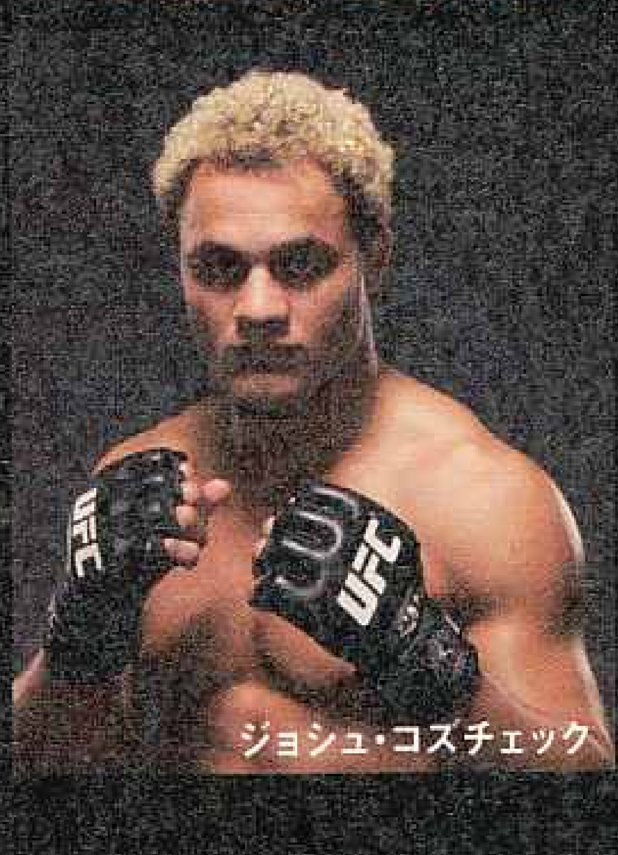

ケニー・フロリアン

この階級で王者として君臨するのが、ウェルター級から減量してきたBJ・ペン。UFCではランディ・クートゥアーに続く二階級制覇を達成。5.24『UFC84』で前王者ショーン・シャーク相手に得意の寝技を封印して打撃のみでKO勝ちするなど、さらに進化した姿を見せつけた。一方、この階級で急成長しているのがロジャー・フェルタとケニー・フロリアン。両者は8.9『UFC87』で激突する。二人ともスタンドや寝技でも一時も止まらず、攻め続けることで評価の高い新世代のファイターだ。唯一日本の格闘技界が太刀打ちできるのがこの階級と言われているが、ユライヤ・フェイバーに唯一土をつけた男、タイソン・グリフィンなど、活きのいい新勢力が台頭中の階級。

WELTER WEIGHT
GEORGES St-PIERRE
ジョルジュ・サンピエール

MMA最先端の王者GSPが君臨!!


ジョン・フィッチ


ジョシュ・コスチェック

ウェルター級で長期政権を敷いていたマット・ヒューズを倒したのが、GSPことジョルジュ・サンピエールだ。ダナ・ホワイトをして「総合格闘技の進歩を10年早めた男」と言わしめ、全局面で高い水準を誇るファイトスタイルは、現在のMMAの最先端。かつて敗戦したヒューズとマット・セラにもリベンジ済みであり、王者として人気・実力ともに不動のものとした。肉体的にも充実した状態にあり、4月のセラ戦のあと、UFCで負けなしの最強の挑戦者、ジョン・フィッチとの対戦も快諾。8.9『UFC87』で防衛戦を行なう。フィッチにも楽勝するようであれば、噂されているように、階級を上げてアンデウソンとの"王者対決"が現実するかも!?

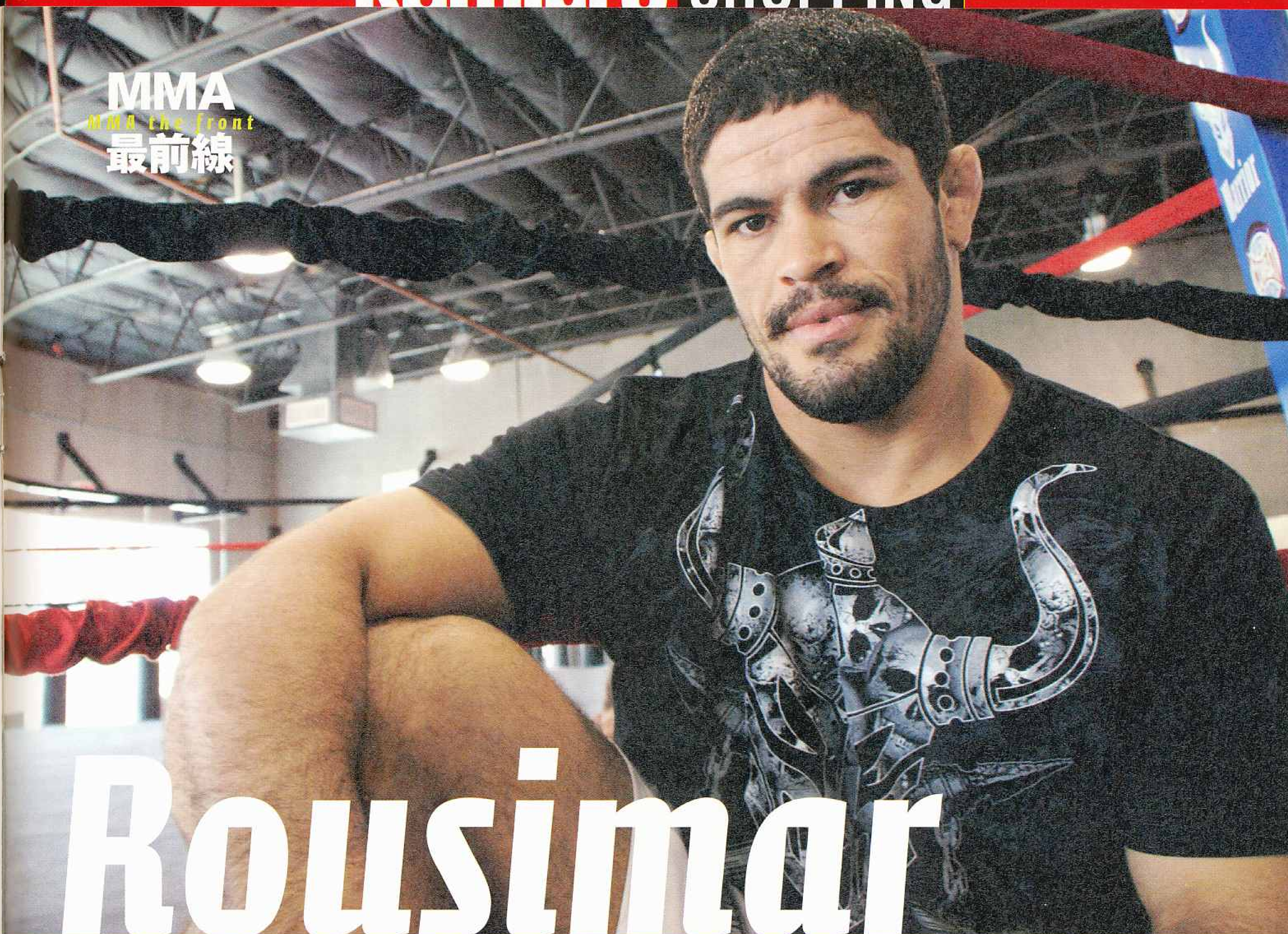
MIDDLE WEIG
ANDERSON
アンデウソン・シウバ

"絶対王者"アンデウソン


岡見勇信


ホジマー・トキーニョ

UFCに
勝。す
挑戦者
たアン
を敷く
TKこと
るヤツ
と絶句
UFCも
ており
世界ウ
イド・
るプラ
ンダレ
ミドル
されて
秘密兵
ニョや
勝者マ
台頭に
日本人
デウン
見勇信
ひ実現



MMA
MMA the front
最前線

Rousimar "Toquinho" Palhares

-84kg
WELTER WEIGHT

UFC衝撃デビューをはたしたBTTの新エース
その知られざる"リアル・あしたのジョー"半生

ホジマー・"トキーニョ"・ハルハレス

「ようやく夢を実現するチャンスをもらえたんだ」

5.24『UFC84』でアイヴァン・サラベリーをパーフェクトな内容で下し、UFC衝撃デビューをはたしたホジマー。"絶対王者"アンデウソンを倒せる可能性のある男として一躍注目されたこの"BTTの新エース"を試合翌日、独占直撃! 貧困を極める家庭で育ち、母親や家族を助けるために格闘家となった男の半生を語ってもらった。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／Josh Hedges(UFC)

父が蒸発してしまって、僕ら10人兄弟を女手一つで育ててくれた母に家を買ってあげたい

──昨日はパーフェクトなUFCデビュー、おめでとうございます!

ホジマー オブリガード(ニッコリ)。

──いきなりですけど、「トキーニョ」というニックネームはどういう意味なんですか?

ホジマー これは(アレッシャンドリ・)カカレコがつけてくれたんだけど、堅い木の切り株のことなんだ。

──切り株ですか(笑)。

ホジマー ガッシリとして頑丈だという意味でつけてくれたんだと思うけど(微笑)。せっかく友だちがつけてくれた名前だから、気軽に呼んでくれていいよ。

──わかりました。では、あらためて、昨日の試合の感想を聞かせてください。さすがに緊張しましたか?

ホジマー いや、全然緊張しなかったよ。UFCという大きな舞台に初めて上がれるのが、楽しみで仕方がなかったんだ。そして、実際にケージの中では凄くリラックスできたし、落ち着いていたよ。もちろん試合に勝てて、とてもハッピーだよ。

──最後のアームバーは、チョーク狙いをエサにして、最初から狙っていた技ですか?

ホジマー 常にその状況において狙える技を狙っていたんだ。最初はバックからのチョークを狙っていて、それを相手が防ごうとしていたので、アームバーに切り替えた。その局面、その局面で最善の動きを考えているよ。

──そして、昨夜はサブミッション・オブ・ザ・ナイトにも選ばれましたね。

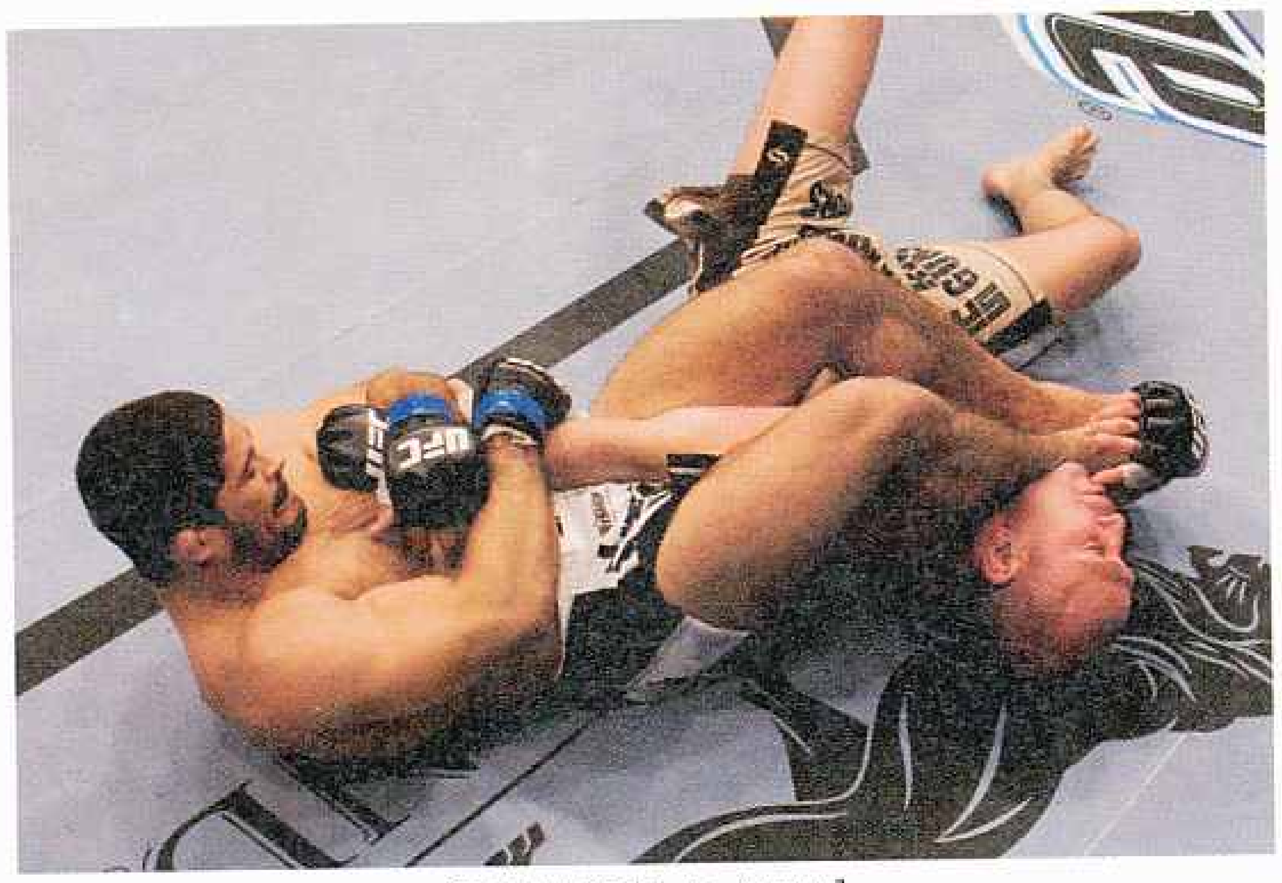
ホジマー (満面の笑みで)とても嬉しいよ。神様に感謝したい。

──賞金は7万5000ドル(約750万円)らしいですけど、これはプロでもらった金額で一番じゃないですか?

ホジマー もちろんそうだよ。これまでとはケタが違う。違いすぎる(笑)。プロとしてのお金というだけでなく、こんな大金を持ったことも初めてでさ。

──どんな使い道を考えていますか?

ホジマー お母さんに家を買いたいね。ずっと苦労続きでボクらを育ててくれたお母さんを喜ばせたいんだ。



[5.24 UFC84 ILL WILL]
米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
○ホジマー・"トキーニョ"・ハルハレス vsアイヴァン・サラベリー×
(1R 2分36秒、腕ひしぎ十字固め)

ホジマーのUFCデビュー戦。ベテラン、サラベリー相手にテイクダウンから、マウント、バックマウントを奪い、チョーク狙いから一気にアームバーで一本勝ち。サブミッション・オブ・ザ・ナイト賞を獲得した。

──素晴らしいですね。ブラジルだと、この賞金だけでも家は買えるんですか?

ホジマー ずっとお母さんに家を買ってあげたくて、プロになってから少しずつお金を貯めていたんだ。その貯金と今回の賞金を合わせれば、家が買える。ホントに嬉しいよ。

──少年時代はかなり生活が苦しかったらしいですね?

ホジマー 子どもの頃だけじゃなく、24歳まで食べるのにも困るような生活だったよ。ボクは10人兄弟の上から3番目なんだけど、父親が蒸発しちゃってね……。お母さんが女手一つでボクたち兄弟みんなを育ててくれたんだ。

──父親が蒸発ですか……。お母さんはどんな仕事をされていたんですか?

ホジマー 農場の労働者として働いていた。朝から晩まで続くキツい仕事だけど、もらえるお金はほんのわずかなものさ。だから、食べるものも買えなかったけれど、お母さんはときには家畜の餌を料理して食べさせてくれた。ボクらにとっては、それさえもおいしく感じられたんだ。

──大変な生活だったんですね……。

ホジマー ボクも24歳までは農場で働いていた。少しでも家族を助けたかったからね。そして仕事をしていない時間は、8歳から始めた柔術の練習をひたすらやっていたよ。

──苦しい生活の中でも柔術の練習だけは欠かさなかったわけですね。『ムンジアル』『コパドムンド』といった柔術のメジャーな大会には参加したことがありますか?

ホジマー 残念ながら一度もない。出るチャンスがなかったんだ。大きな大会はたいてい大都市で行なわれるけど、ボクにはそこに行くお金がなかった。

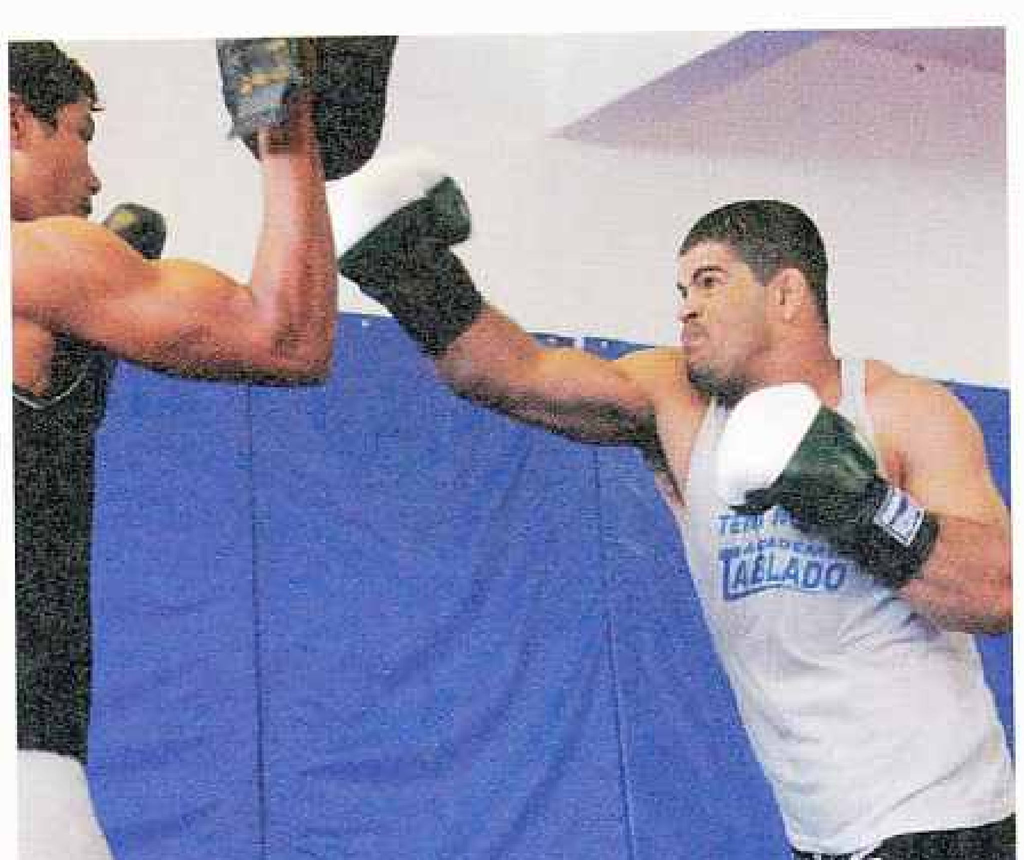
──なるほど……。

ホジマー でも、トレーニングは必死でやってきたし、自信もあった。だから、いまから3年前、24歳のときにプロ格闘家になって家族を助けたいと思ってリオに行ったんだ。

──そしてBTT入りしたわけですよね。いろんなチームがある中で、BTTに入ろうと思ったのはなぜですか?

ホジマー BTTはベストのアカデミー





05年12月、本誌がBTT取材を行なった際のホジマー。まだBTT入りして1年目だったのにも関わらず、ブスタマンチ、スペーヒーが「次期BTTのエース」と太鼓判を押していた逸材だったのだ。

だからね。どうしてもBTTに入りたかったんだ。でも、ボクにはお金がないから、生徒として通うことはできない。だから、なんとかしてチームの一員にさせてもらおうと思って、直接BTTを訪ねたんだよ。

――入門を直談判しましたか。

ホジマー　BTTはレベルが高いチームだから、本来なら突然来た人間をチームに入れるようなことはないんだけど、ムリーロが特別にテストをしてくれて、チームの一員になることができた。本当に感謝しているよ。

――テストをしたとき、ブスタマンチがあなたの才能に驚いたらしいですね。

ホジマー　必死だったからね。リオに来たとき、ボクの全財産は兄弟たちが集めてくれた150ドルしかなかった。帰りのバス代のことも考えると、BTTに入れてもらえなかったら、プロ格闘家になる夢をあきらめざるをえなかったんだ。だから、ムリーロに認めてもらえて、本当に嬉しかったよ。お金がなくて苦しい思いもしたけど、ようやく夢を実現するチャンスをもらえたんだからね。

――BTTに入門してからは、どこに住んでいたんですか？　道場に住み込みとかですか？

ホジマー　じつはリオに来たばかりのときは、お金がなくて橋の下で暮らしていたんだ。

――橋の下ですか！

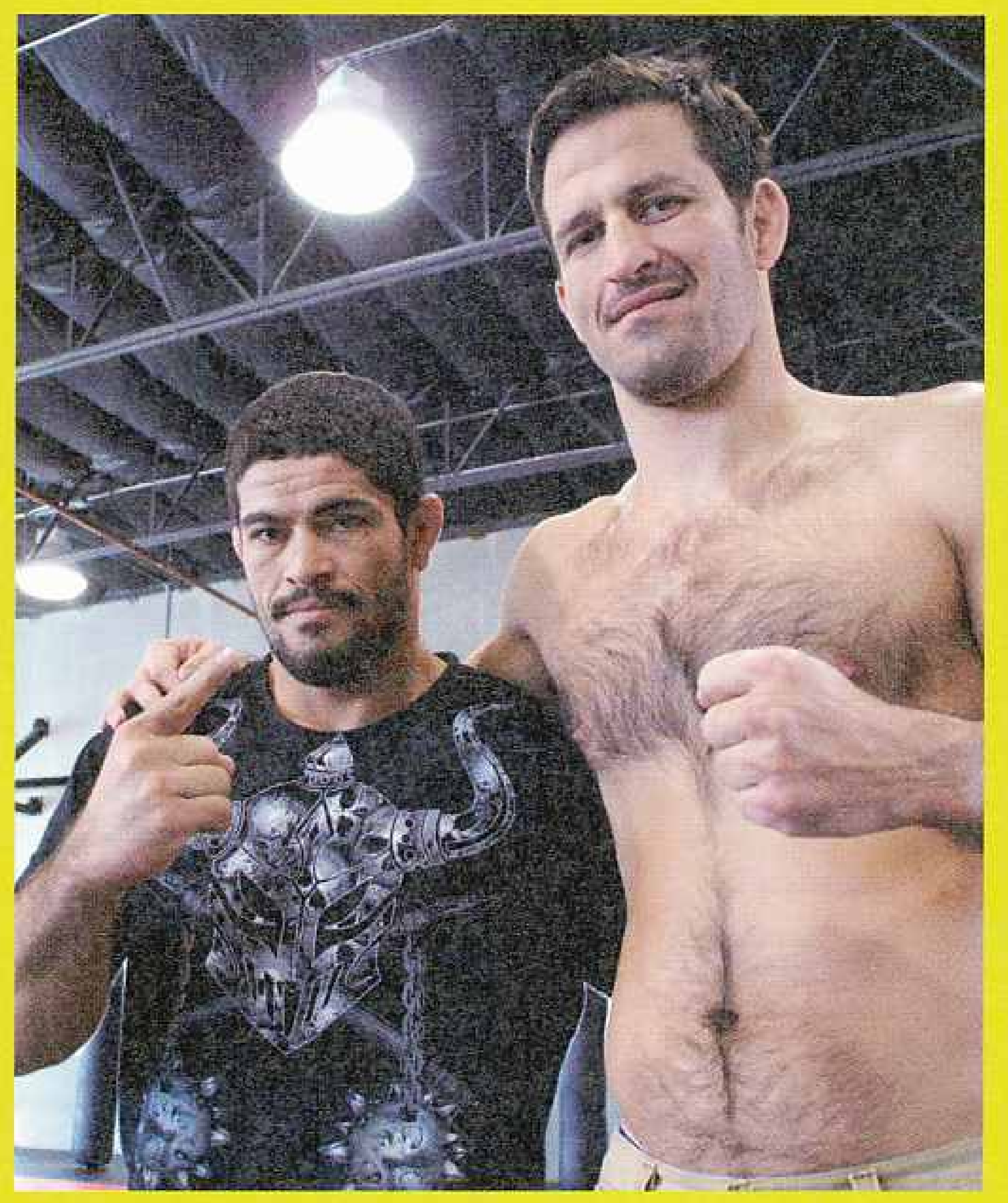
ホジマー　ムリーロに自分の住んでいるところを教えたら驚いちゃってね（笑）。それもあって、入門したあとは、ムリーロがボクを実の息子のようにかわいがってくれて、住む家と食べるものを与えてく

Murilo Bustamante

“第2の父”が語るトキーニョ物語

ムリーロ・ブスタマンチ

「UFCでの勝利で彼の人生は変わる。私のすべてを彼に授けたいと思う」



――トキーニョとの出会いを教えてもらえますか？

ムリーロ　トキーニョが初めてBTTに来たときのことはよく覚えているよ。あれは3年前のある日、金曜日だった。私はたまたまケガをしていたので、自分では練習をせずに、若い選手の練習を見ていた。そしたらジムの傍らに見慣れない顔がいるのに気づいたんだ。

――それがトキーニョだった、と。

ムリーロ　そう。彼はシャイだから何も言い出せずに、ただジムの端に立っていたんだ。だから私は「君は誰だ？　どんな用だい？」と声をかけた。そしたら「BTTに入ってファイターになりたい」と言うんだ。でも、通常BTTは、そんな飛び込みでジムに来た選手に対してテストをしたりすることはない。すでに実績のある選手以外、通常はギ（柔術衣）のクラスの生徒になって、そこから才能のある選手だけ、プロとしてチームに入るテストをするんだよ。

――どこの馬の骨かどうかもわからないわけですもんね。

ムリーロ　だから、「いきなりテストをすることはできない。月曜日にギのクラスがあるから、またそこに来い」と言ったら、彼はもの凄く悲しい顔をしたんだよ。これはあとで聞いて知ったんだけど、彼はもう帰りのバス代しかお金を持っていなかったから、BTTに入れなかったら、その週末に田舎へ帰るしかなかったんだ。

――リオでは橋の下で寝泊まりしてたらしいですもんね。

ムリーロ　それを知って私も驚いた。だから木曜の夜、トキーニョは橋の下で神様に祈ったらしいよ。「BTTに入れますように」とね。彼はそんなことは話さなかったんだけど、凄く悲しそうな顔をしたところに感じるものがあったので、「ショーツはあるか？」と聞いて、特別にテストをさせたんだ。そのときはBTTの黒帯柔術家とギなしでスパーリングさせたんだけど、驚いたよ。まだ、荒削りではあったけど、素晴らしい運動能力とセンスを持っていることがすぐにわかった。それで「月曜日からチームの一員として練習に参加しなさい」と言ったら、子どものように飛び跳ねて喜んでいたよ（笑）。

――まあ、人生がかかってたわけですからね。

ムリーロ　で、そのあとで私は彼の境遇を知ったんだ。本当に貧しい生活をしていて、お金はないし、住むところもないとね。それで私はまず住むところを用意し、食べ物を与えた。そしてBTTの周りのみんなも彼のことを気に入って、生活のサポートをしたんだ。

――そうだったんですか。

ムリーロ　彼は本当にいい性格だからね。そこからはジム生3人と小さなアパートで共同生活。ホジマーは誰よりも熱心に練習したよ。そして、周りのサポートもあって、いまアカデミーでベストなファイターになった。そして、彼自身もいま若い選手のサポートを始めているんだ。

――BTTに入って人生が変わったわけですね。

ムリーロ　そうだね。ただ、それは小さなステップにすぎなかった。でも、昨日のUFCで勝ったことは本当に大きなステップ。人生の転機だ。これからは周りの人間も彼のことをまったく違う目で見るよ。これまで私とホジマーが歩いていたら、ファンは私に話しかけていた。でも、これからは彼がスターだ。ただ、彼はファンサービスをしたり、チヤホヤされるのは苦手なんだけどね（笑）。

――初々しくていいですね（笑）。

ムリーロ　でも、MMAはスポーツでありビジネスなんだから、闘う以外にも大切なことがたくさんあるんだ。私自身、そういうことを知らずに、これまでミステイクを何度も犯している。それを彼が繰り返さないように教えるのも私の仕事だ。たとえば、私がUFCの（ミドル級）チャンピオンになったとき、英語が話せなかった。でも、英語が話せないと、アメリカで本当に成功することは難しいんだ。そういった教育もしてあげないといけない。

――なるほど。

ムリーロ　彼は偉大なファイターになることは間違いないけど、同時にプロフェッショナルにもならなくてはいけない。私は自分が培った技術とプロとしてのさまざまな経験をすべて彼に教えようと思う。それだけの素質をトキーニョは持っているからね。

れたんだ。だからムリーロはボクにとって人生の恩人だし、師匠であり、父親みたいな存在だね。
——ボクは2年前にブラジルに取材に行かせてもらったんですけど、そのときからムリーロは「次のBTTのエースはホジマーだ」と言っていたんですよ。当時は「ホジマーって誰だ？」って思いましたけど（笑）。
ホジマー　とにかく自分を信じていたし、必死でトレーニングしたからね。そのかいあって、いまこうしてUFCにデビューができて、本当に嬉しいよ。
——BTTは昨年、中心選手の大量離脱がありましたけど、どう思いましたか？
ホジマー　もちろん、友だちが離れてしまうのは寂しかったよ。とくにゼ・マリオ（・スペーヒー）にはお世話になったから、彼がいなくなるのは悲しかった。でも、自分はムリーロに拾ってもらった人間。ムリーロがいる限り、ボクがBTTを離れることはないよ。
——いま打撃はどこで練習しているんですか？
ホジマー　BTTのムエタイコーチと、あとはクラウジオ・コエーリオにも習っている。
——ああ、ファベーラ（貧民街）の中にあるボクシングジムですね。
ホジマー　うん。そこには昔の自分のような貧しい子どもたちがたくさんいる。彼らチャンスのない子どもたちに「チャンスはあるんだよ」と教えてあげることも、ボクの夢だね。
——貧しい子どもたちを支援したい、と。
ホジマー　まだまだ自分ができることなんて少ないけど、いまも自分のできることはやっているつもりさ。貧しい子どもたちは、自分たちに貧困から抜け出すチャンスがあることすら知らないんだ。だから、ギャングになって命を落としてしまう人間が次々と生まれてしまう。ボクは自分が貧しかったからこそ、いま子どもたちに何が必要なのか、どういうチャンスが必要なのかわかるから、チャンスを分け与えたいんだ。
——素晴らしい心がけですね。
ホジマー　でも、貧しい子どもたちを支援するには、まず自分自身が成功しなきゃならないから、なんとしてもUFCのチャンピオンになりたい。いまは貧しくても、努力すれば成功できるんだということを見せたいんだ。そして、もちろん自分の家族を助けたい。それがボクの夢であり目標だね。
——わかりました。では、これからの活躍に期待してます！
【08年5月26日／米国ネバダ州ラスベガス、BTTラスベガスにて収録】

僕はムリーロに拾ってもらった人間だから彼がいる限りBTTを離れることはないよ



Rousimar "Toquinho" Palhares

1980年2月26日、ブラジル・ミナスジェライス州出身。8歳より柔術を始め、05年に24歳でBTTに入門。ブラジルのMMAイベント『フィーリーFC』でダニエル・アカーシオを下し、ブラジルMMA界最強の男と呼ばれる。5.24『UFC84』で鮮烈メジャーデビューをはたし、ミドル級の頂点を狙う。175cm、83kg。



MMA
MMA the front
最前線

-70kg
LIGHT WEIGHT

Roger Huerta

UFCの次世代ラテン系スーパースターが
日本MMAライト級戦線を語る

ロジャー・フェルタ

「DREAMライト級ファイターに興味があるよ」

UFC中南米市場を牽引するラテンの次世代スーパースター、それがロジャー・フエルタだ!
昨年は、12.6『TUF6フィナーレ』で行なわれたクレイ・グイダ戦で、
ダナ・ホワイトをして「2007年度ベストバウト」と言わしめ、米国のメジャースポーツ誌
『スポーツイラストレイテッド』の表紙も飾ったロジャー。
今年はライト級王座を狙うこの男が、同じライト級のGP開催中のDREAMや、
憧れの選手だという桜庭和志などについて、熱く語ってくれた!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／Josh Hedges（UFC）

いまのライト級ナンバーワンはＢＪペン。それに続くのがＪＺを破ったアオキだろうね

——はじめまして！『kamipro』という日本の雑誌です！

フエルタ ヨロシク！ いま日本のMMAはどうなの？ 俺はいまUFCファイターだけど、PRIDEが大好きだったから、日本にPRIDEのような熱が戻ってくるのを待ってるんだよ。

——最初はあまりよくありませんでしたけど、ずいぶんよくなりましたよ。

フエルタ 最初はGPでメンバーを確定するのが難しかったらしいね。それは聞いてるよ。じゃあ、DREAMはPRIDEみたいになれそうなのかい？

——まだまだこれからですけど、地上波放送があるので、希望はありますよ。『DREAM・2』と『DREAM・3』は非常にいい大会でしたし。

フエルタ らしいね。シンヤ・アオキがJZ（カルバン）に勝ったんだよね。

——おお、知ってますか！

フエルタ もちろんさ！ 彼はいい選手だね。俺と同じライト級だから、とくに注目しているよ。

——そういえば、今日は五味隆典選手も会場に来てましたよ。

フエルタ へぇ、そうなのかい？ 彼はいまどこで闘ってるの？

——『戦極』というDREAMとほぼ同時期にできた団体です。

フエルタ センゴク……知らないなあ。どういう団体なんだい？

——吉田秀彦、三崎和雄ら、日本人スター選手を数多く抱えた団体ですね。

フエルタ へぇ、そうなんだ。

——ロジャー選手的には、やっぱり自分の階級であるライト級のGPが開催されているDREAMが気になりますか？

フエルタ もちろん、DREAMは気になるよ。魅力的なライト級のファイターがたくさん出場しているからね。それだけじゃなくて、新しいプロモーションが出てくるってことはファンにとっても、俺たちファイターにとっても非常にいいことなんだ。たぶんライト級のベストなファイターは、ほとんどUFCとDREAMに集まってると言えるだろうね。



5.24『UFC84』前日、公開計量前に開かれたフエルタのトークショーには、女性ファンが殺到。甘いマスクを持つ彼は、中南米市場とともに女性ファン獲得も期待されているのだ。

——DREAMのライト級ファイターたちとは闘ってみたいですか？

フエルタ もちろん闘ってみたいよ！ でも、PRIDEのときみたいに、UFCがDREAMを買収するなんてのは見たくないね。ノー・モアさ。あれはよくない判断だったよ。PRIDEという素晴らしい団体がなくなったことは、MMAにとって、とてつもなく大きな損失さ。ただ、DREAMに出場している選手が、もしUFCに来るなら歓迎したいね。

——フエルタ選手がライト級のベストファイターを3人挙げるとすれば誰になりますか？ ご自分以外でお願いします（笑）。

フエルタ 俺抜きかよ（笑）。まあ、いいや！ 俺が選ぶナンバーワンは、やっぱりBJペンだね。次がJZに勝ったシンヤ・アオキ、彼がナンバー2だ。それから、3位圏には何人かいるね。JZもそうだし、ショーン・シャーク、それからケニー・フロリアンやクレイ・グイダもここに入るだろう。

——ということは、クレイ・グイダに勝ったフエルタ選手もここに入ると？（笑）。

フエルタ いや、そうは言ってないよ（笑）。

——では、さっきの質問に戻りますが、先ほどのトップ3で五味選手の名前が挙がりませんでしたが……。

フエルタ いや、もちろんタカノリ・ゴミがPRIDEで闘ってた頃は世界ナンバーワンだったさ。ただ、ここ1年半ぐらい試合をしてないし、しかもニック・ディアスに負けている。いくら2年前に最強だったとしても、試合をしてない選手を現時点での評価に入れられないよ。いまどれぐらい強いのかわからない。彼はディアス戦以来、ずいぶん試合してないだろう？

——いや、今年3月の『戦極』でドゥエイン・ラドウィッグと闘って勝ってます（笑）。

フエルタ その試合を入れたとしても、07年からいままでゴミは2試合しかしていない。いいかい？ 俺たちはずっと闘い続けているんだぜ。俺だけじゃない。UFCライト級トップのBJだって闘い続けてるんだ。ゴミは会場に来てるなら、UFCに上がってほしいな。オクタゴンで最強を証明すればいいことさ。PRIDEの頃の彼は本当に凄かったからね。でも、ゴミが来るなら、俺が闘って名前を上げたいけど（笑）。

——やっぱり、本音はそこですか（笑）。

フエルタ いやいや、まあ、それは冗談としても、これからも俺はずっと闘い続けるし、絶対トップになるから！

——まあ、自信があるってことですね。

フエルタ ああ。ファイターって生き物は、教えてなれるもんじゃない。それはほとんど身体の中に流れる血がそうさせるのさ。俺は生まれてからずっと闘いながら育ってきたし、ハードな人生を送ってきた。〝闘う〟っていう気持ちは教えられないもんなんだよ。

——フエルタさんの育った環境は、かなりハードだったらしいですね？

フエルタ 生まれたのはアメリカなんだけど、小さい頃、両親の都合で内戦真っただ中のエルサルバドルに移り住んでいたんだ。その頃の生活は学校に行くのだって苦労したよ。で、アメリカに戻ったんだけど、オヤジはドラッグ中毒だったし、母親は物心つく頃には家を出てしまって……いま道ですれ違ったとしても絶対に自分の母親だとわからないよ。

——大変な少年時代だったんですね……。

フエルタ でもね、つらい思い出ばかりだけど、あの頃があるからいまの自分が

あるし、周りの人を思いやったり配慮するようになったんだ。

――いまや、MMAのスター選手で、昨年の12月8日『TUF6フィナーレ』でのグイダ戦は、ダナ・ホワイトが「2007年度のMMAベストバウトだ」と大絶賛するまでになったわけですからね。

フエルタ　自分にとってもあれは素晴らしい試合だったよ。いろんな人があの試合でこのスポーツに興味を持ってくれたし、MMAやUFCに少しは貢献できたかな。これからも俺はずっと勝つために一生懸命やるし、もう止まってられないよ！

――あの試合は日本では観られないんですけど、僕はダナから試合のDVDをもらいましたよ（笑）。

フエルタ　ダナがダビングしてくれたのか？　クレイジーだね！（笑）。

――グイダとの試合も素晴らしかったですけど、その前の試合ではバックを取られた際にモニターを見ながらうしろにいる相手にパンチを落としたりしてましたよね？　どこからそういう動きやテクニックを身につけたんですか？

フエルタ　ああいう頭を使いながら動き回ってアグレッシブに攻める試合は、じつはカズシ・サクラバから学んだんだよ。

――本当ですか？

フエルタ　もちろん本当さ。俺はUFCなんかより、ずっとたくさんPRIDEの試合を観てきたんだよ。サクラバは本当に最高だった。俺がPRIDEを観てたとき、彼は"グレイシー・ハンター"って呼ばれていた。まさにアメージングだったよ。俺の試合を観てもらえれば、サクラバのファイトのエッセンスを感じてもらえるはずさ。サクラバはナンバーワンのファイターだった。彼はホイス、ヘンゾ、ホイラーをはじめとするすべてのグレイシーを倒したし、とても芸術的な闘いをするファイター。初期はバイオレンスと言われていたこのスポーツを芸術の域に高めたんだよ。彼はわざとバックを取らせてキムラロックを極めるだろ？　俺は彼のとりこだったから、子どもの頃からその技を何度も練習したもんさ。

――フエルタさんのあのムーブは、サクラバさんの技でしたか！

フエルタ　そのサクラバが、ちょっと前から負けが続くようになったのは、残念だったし、観ていて悲しかったよ。ただ、やっぱりそれは年齢なんだよ。歳を取れば誰にだって起こりうることなんだ……。いま、UFCでは、オーソドックスでもサウスポールでもスイッチできるアンデウソン・シウバのようなストライカー、それからジョルジュ・サンピエールのようなパンチとキックのコンビネーションを進化させたスタイルが席巻していて、このスポーツはどんどん進化しているよ。だけど、このスポーツを進化させた最初の男はサクラバなんだよ。



Roger Huerta

1983年5月20日、米国カリフォルニア州出身。エル・マタドールの異名を持つ、メキシコ系アメリカ人。UFCライト級戦線のトップクラスに位置し、現在は4年間、負けなし。20勝1敗1分という驚異的な戦績を誇る。8.7『UFC87』でケニー・フロリアンと対戦予定。これに勝てば、BJペンの持つライト級王座挑戦が噂される。175cm、70kg。

――ホントに心酔してるんですね。

フエルタ　サクラバから学んだのは技術だけじゃない。試合に対する姿勢さ。俺たちはプロのファイターで、ファンからお金を取って試合を見せてるんだから、ファンが満足するような試合をしないと観てくれなくなる。中には「ただ勝てばいい」と思ってるファイターもいるけど、間違いなくBJペン、GSP、アンデウソン・シウバ、それに自分はファンに喜んでもらう試合をしてると思っている。そして俺をそういう考えにさせてくれたのが、サクラバなんだ。

――なるほど。そういう観客のことを考えているあなただからこそ、ダナ・ホワイトも中南米市場開拓のエースに据えようと考えるわけですね。

フエルタ　やっぱり楽しくないものを観客はお金を払ってまで観ないからね。いまのラテンアメリカは、まだMMAより、ボクシングやプロレスを楽しむ人のほうが多いけど、近い将来、MMAがそれに取って代わると思う。いまのMMAのクレイジーな成長ぶりを見ていると、間違いなくMMAはメジャースポーツになるね。

――その新規市場開拓の一番手であるあなたに、UFCはいい待遇をしてくれていますか？

フエルタ　ノー！（即答）。でも、気にしないさ。昨日もファンに言われたよ。「ロジャー、あんたは過小評価されてるよ」って。俺はただ黙るしかなかった。正直言って、UFCは金銭的な対応を充分にしてくれているとは思えないよ。もうDREAMで闘おうかな。おっと、これはジョーダンさ（笑）。まあ、何かが起こるのを待ってみるよ。それに、いま、俺は次の試合しか考えていないし、ケニーを倒すことしか考えていないんだ。

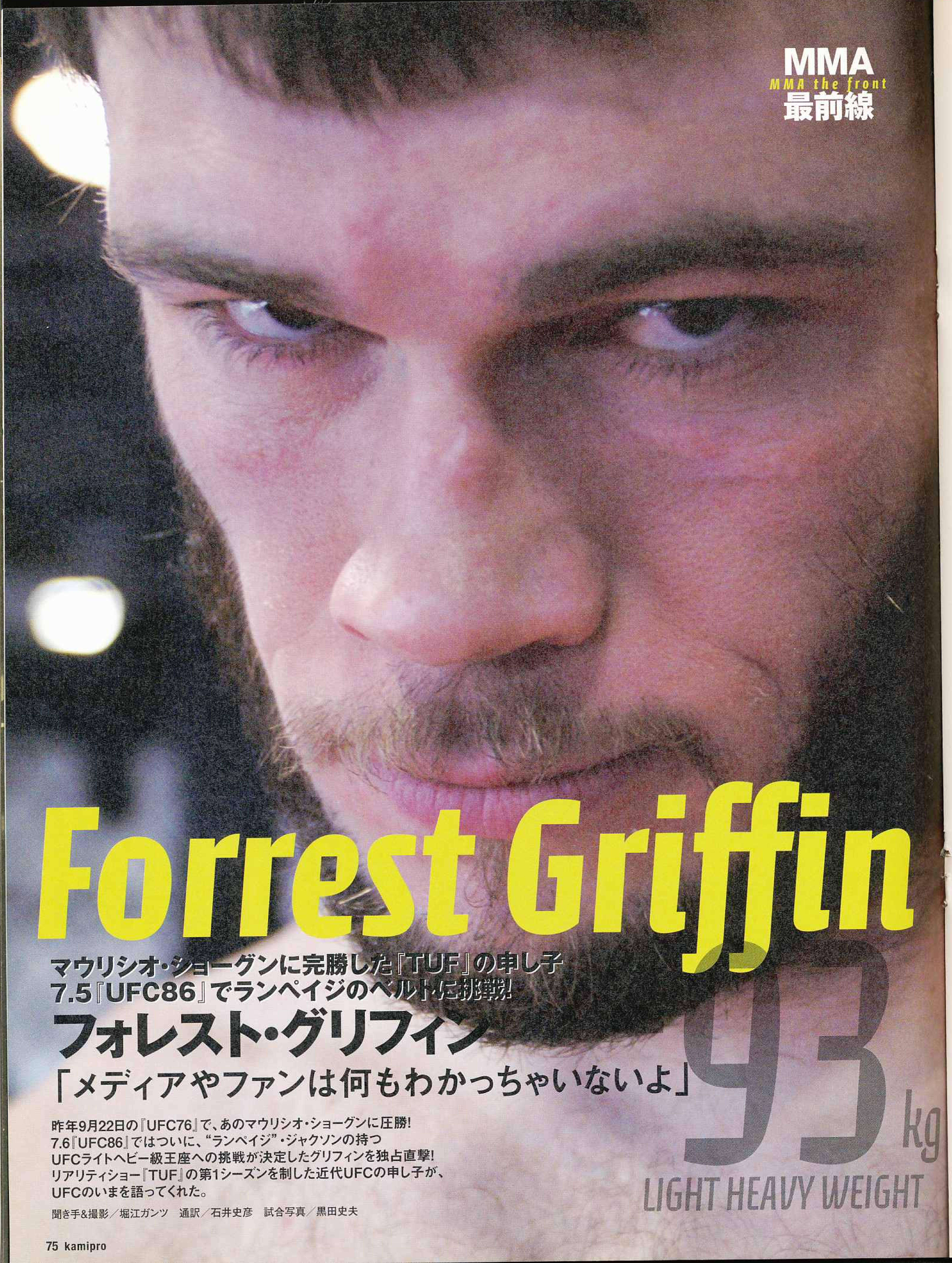
――8・7『UFC87』で実現するケニー・フロリアン戦ですね。これに勝てばいよいよタイトルマッチと言われていますが、どんな試合になりそうですか？

フエルタ　もちろん、いい試合になることは間違いない。そして俺の目標はその試合に勝って、BJペンと歴史的な試合をした上で、チャンピオンになることさ！

――そのときは、ラテンのスーパースターになるでしょうね。フエルタ選手は強くて、しかもイケメンですから（笑）。

フエルタ　ハッハッハ！　いやー、そいつは照れるなぁ。でも、サンキュー。素晴らしい試合を見せようと思ってるから、日本のファンにもよろしく伝えてくれ！

【08年5月24日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランドガーデンアリーナにて収録】



Forrest Griffin

マウリシオ・ショーグンに完勝した『TUF』の申し子
7.5『UFC86』でランペイジのベルトに挑戦!

フォレスト・グリフィン

「メディアやファンは何もわかっちゃいないよ」

93kg
LIGHT HEAVY WEIGHT

昨年9月22日の『UFC76』で、あのマウリシオ・ショーグンに圧勝!
7.6『UFC86』ではついに、“ランペイジ”・ジャクソンの持つ
UFCライトヘビー級王座への挑戦が決定したグリフィンを独占直撃!
リアリティショー『TUF』の第1シーズンを制した近代UFCの申し子が、
UFCのいまを語ってくれた。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／黒田史夫

──グリフィン選手、今日はタイトルマッチを控えて忙しい中、時間を割いてもらってありがとうございます!

グリフィン 一昨年、ザイエンスのジムに取材に来たマガジンだろ? 覚えてるよ。

──ありがとうございます(笑)。いま練習を見させていただきましたけど、日曜日なのにこんなにハードな練習をするんですか?

グリフィン 日曜でもジムは11時から17時までオープンしてるからね。やることはいつもと変わらないよ。フィジカルや心拍数を上げるトレーニングをたっぷりやったあと、激しいスパーリング。それもラウンドごとに新しいパートナーに変えて、フルラウンド全力で闘えるようにトレーニングするのが自分のスタイルだよ。

──こういったハードトレーニングがグリフィン選手のスタミナの秘訣ですかね。

グリフィン オクタゴンでは、常に動き続けなきゃいけないからね。スタミナがないヤツは生き残れないよ。

──昨年のマウリシオ・ショーグン戦でも、PRIDEではスタミナ・モンスターのようだったショーグンが、グリフィン選手との試合では、バテバテになったのにはビックリしましたよ。

グリフィン ショーグンはもうちょっと凄いペースで攻めてくるファイターだと俺も思ってたんだけど、途中で腕が下がって明らかに息切れしてやがったんで、ビックリしたよ(笑)。

──でも、試合前はショーグンが圧倒的有利という下馬評でしたけど、自分がアンダードッグ(噛ませ犬)に見られていることについて、どう思っていました?

グリフィン 周りの声なんてとくに気にしないね。どうせ、そんなことを言ってるのはMMAメディアだとかネットのファンだとか、素人連中だろ?

──まあ、そうなんですけど(笑)。

グリフィン とにかく自分としては、先にケージから出るのはイヤだっていうことだけさ。

──ショーグンはランペイジを秒殺している選手ですから、試合前、強者のイメージは膨らみませんでしたか?

グリフィン タフなファイターだということはわかってたよ。そんな相手と闘っても、少なくともうしろに押されるのはイヤだったんだ。ショーグンは相手にプレッシャーをかけて、どんどん押していくファイトスタイル。そこで引いたら、向こうはどんどん勢いを増してしまう。だから、俺は下がらないことを第一に考え、逆に押し返してグラウンドに持ち込もうと思っていた。

──試合前からグラウンドが穴だと思っていたんですか?

グリフィン とくにそんなことはない。グラウンドでもハードなゲームになるだろうと思っていたよ。でも、自分もグラウンドゲームには自信があるから、負けはしないだろうとは思っていた。

──ショーグン戦は、グリフィン選手にとってエポックとなるビッグチャンスだという認識はありましたか?

グリフィン 俺たちファイターは、おまえさんたちメディアみたいに複雑なことは考えてないよ。俺が試合前に考えることは二つだけだ。一つは試合に対して充分なトレーニングを積むこと、もう一つは試合になったら絶対にあきらめないこと。それだけだよ。

──でも、ショーグンに勝ったあと、王者ランペイジとともに『TUF』のコーチになったり、タイトルマッチが決定したり、あなたにとって転機にはなったんじゃないですか?

グリフィン もちろん、名前があるヤツに勝てば次のレベルに行けることは確かだよ。ただ、名前がなくたって、タフなヤツはいくらでもいる。たとえば、ジェイソン・ランバートはタイトル戦線には絡んでないが、彼と闘うことになったら、レベル的にはチャック・リデルと闘うのと変わりない。ただ、名前があるとPPVに直接つながるから、そういう相手に勝つことは非常に重要だけどね。

──そういうチャンスが巡ってきたときに力が出せるかどうかが、成功できるかどうかの分かれ道だと。

グリフィン もちろんそうだね。だから、どんな試合でもハードには変わりないが、ショーグンはたまたまビッグネームだったから、俺にとってはよかったね。



昨年9月22日の『UFC76』では、鳴り物入りでUFCデビューを迎えたマウリシオ・ショーグンと対戦。下馬評を覆し、試合内容で圧倒した上でショーグンにチョークで一本勝ちしたグリフィン。PRIDE GP王者を下したことで、一気にUFCタイトル戦へと駒を進めた。

ショーグンやソクジュが一度負けただけで弱いなんて言ってるヤツは何もわかってねぇ

――試合前と試合後ではショーグンのイメージは変わりましたか？

グリフィン　いや、べつに。一試合でファイターを判断するのは難しい。このあいだは俺が勝てたけど、たまたまショーグンの調子が悪かったのかもしれないからな。俺だって悪いファイトをしてしまうこともあるし、相性ってヤツもある。だから一試合観ただけで「強い、弱い」なんて言えないんだ。それなのにメディアやネットのファンは、俺に一度負けただけで「ショーグンは弱い」とか言うんだろ？

――そんな声もありましたね（笑）。

グリフィン　俺もキース（・ジャーディン）に負けたとき、ボロクソ言われたしな。ソクジュだってそうさ。昨日の試合（中村和裕戦）を観ただろう？　やっぱりあいつは凄いよ。それをＵＦＣデビュー戦でマチダ（ＬＹＯＴＯ）に負けただけで、ＰＲＩＤＥで強い連中に勝ってきたのを「まぐれだった」みたいに言うヤツがいる。

――「ソクジュ幻想崩壊」とか（笑）。

グリフィン　ＭＭＡはまぐれで勝てるほど甘くねぇよ。とくにハイレベルなファイター同士の試合は、ちょっとしたことで勝敗が左右される。だからこそ、どんな局面になっても対応できるように、ハードなトレーニングをするんだよ。それをＭＭＡメディアやネットに書き込んでる連中は、ＭＭＡのすべてを知ってるような気でいながら、まったくわかってねえんだよな。

――え～、耳が痛いです（苦笑）。

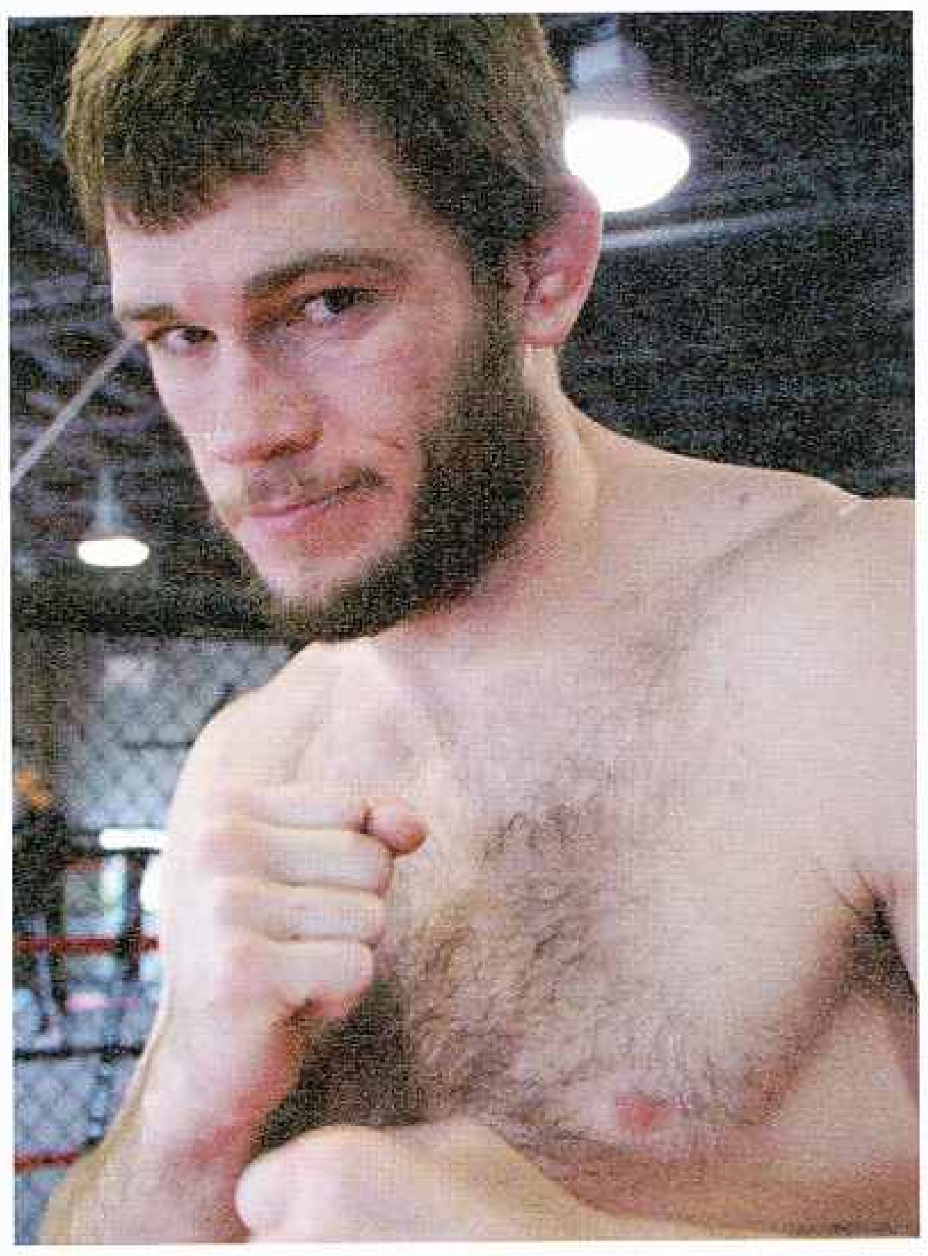
グリフィン　だから、ショーグンについては、次のファイトが鍵になるんだ。自分の実力をちゃんと証明しないとな。

――そのショーグンや、シウバ、ダン・ヘンダーソン、ミルコなど、ＰＲＩＤＥのスター選手たちが、ＵＦＣでなかなか勝てないのは、リングとオクタゴンの違いですか、それとも、いまの彼らの実力だと思いますか？

グリフィン　アイ・ドンノー。俺はＰＲＩＤＥで闘ったことないからわからねぇよ。

――まあ、そりゃそうですね（笑）。

グリフィン　そういう質問はヴァンダレイに聞けよ。彼が一番よく知ってるだろう。もともとＵＦＣで何度か闘って、そのあとＰＲＩＤＥで長いこと闘って、いまはまたＵＦＣで闘ってるんだから。彼に聞きなよ。



Forrest Griffin

1979年7月1日、米国オハイオ州コロンバス出身。リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』の第1シーズンに参加し、ライトヘビー級トーナメントで優勝したシンデレラボーイ。UFC本大会ではティト・オーティズ、キース・ジャーディンらに敗れたが、昨年9月にマウリシオ・ショーグンを破る金星を挙げた。190cm、93kg。

――そうさせていただきます（笑）。昨日のシウバの試合はどう思いましたか？

グリフィン　非常にいい試合だった。俺はヴァンダレイが勝つんじゃないかとは思ってたよ。でも、自分の状況としたら、キースが勝ってくれて、俺がクイントンに勝って、キースとリマッチができたら最高だったんだけどな。

――ライトヘビー王者のランペイジは、ＰＲＩＤＥからＵＦＣへのアダプトが最も成功した例だと思いますが、なぜだと思いますか？

グリフィン　それもクイントンに聞いてくれと言いたいところだけど（笑）、一つだけ言えることは、彼は対戦相手によって準備をしっかりやるファイターなんだ。たとえばダン・ヘンダーソン戦の前にはタイボクシングの練習をしてきたんだ。だからタイクリンチ（首相撲）が非常に有効だった。それに対して、ヘンダーソンはレスリングだけ、それが明暗を分けたんじゃないか。べつにＰＲＩＤＥとＵＦＣの違いじゃないと思うね。

――なるほど。グリフィン選手もランペイジの研究は進めていますか？

グリフィン　もちろん研究しているよ。過去の試合を見る限り、クイントンはバックを取られると非常に弱い。だからグラウンドが鍵になるんじゃないかとは思っている。ただ、ヘンダーソンとの試合では、バックを奪われてすぐに逃げている。だから楽観視はできないがね。

――グリフィン選手にとっては初のタイトルマッチですが、やはり気持ち的にこれまでの試合とは違いますか？

グリフィン　いや、そんなに変わらないね。違いといったら普段は3ラウンドだけど、タイトルショットは5ラウンドだということぐらいだよ。

――5ラウンドだと、スタミナ充分なグリフィン選手が有利だと思いますか？

グリフィン　有利かどうかはわからないけど、自分としては5ラウンドをフルに動いても問題ないだけのスタミナはあるつもりだよ。まあ、試合に向けて自分ができることはすべてやる。それだけさ。

――タイトルを獲ったあとのことは考えていますか？

グリフィン　ベルトを獲ったら、できるだけ長く保持したいね。この階級にはトップ10が20人いる。いまのトップはクイントンだけど、彼と変わらないレベルのファイターが20人いるんだ。昨日の試合を観てもソクジュは強いし、ウィルソン・ゴベイアを倒したクロアチア人も強い。そんな中でタイトルを守れるファイターになるのが目標だ。

――では、まずは7・5『ＵＦＣ86』でのライトヘビー級タイトルマッチ、頑張ってください！

グリフィン　ああ。必ずベルトを腰に巻いてみせる。おまえさんたちの下馬評は「クイントン有利」かもしれないけどな（笑）。

――いやいや（笑）。チャンピオンになったら、また取材させてください！

【08年5月25日／米国ネバダ州ラスベガス、ウォリアージムにて収録】

MMA
MMA the front
最前線



Mark Coleman

+93kg
HEAVE WEIGHT

無念! ケガでレスナー戦をキャンセル!! しかし
熱血オヤジは「まだまだやれるって!」宣言!

マーク・コールマン

「ブロック・レスナーふざけんな!
俺はチキンなんかじゃねえ!!」

今年3月にUFC殿堂入りをはたし、8.9『UFC87』でのブロック・レスナー戦も決定!
43歳にして大復活をはたすと思われた、我らが熱血オヤジ、コールマン。
しかし、ヒザをケガしてレスナー戦がキャンセルになってしまったのだ!
あ〜あ。というわけで、中年の悲哀をまたしても感じさせてくれた
コールマンの嘆きをベガスの寿司屋で聞いてあげました。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真/乾晋也

レスナー戦に向けて張りきりすぎて、練習でケガしてしまった。俺はなんてバカなんだ！

——コールマンさん！　UFCでのブロック・レスナー戦がキャンセルになってしまったようですけど、いったい何があったんですか？

コールマン　（暗い表情で）じつは先週、スパーリング中にヒザ内側じん帯をやっちまったんだ……。

——アチャー。ケガしちゃいましたか。

コールマン　（身を乗り出して）教えてくれ！　なんでこうなっちまうんだよ！

——いや、それを聞くためのインタビューなんですけど（苦笑）。

コールマン　そうだよなあ……。　チクショー！

——あの……、　ケガしたときの状況を話してもらえますか？

コールマン　俺はレスナー戦に向けて、あらためて自分のウィークポイントを探して、それを改善するためにハードなスパーリングをやってたんだ。　そして、レスナーにはキックが有効だと思ったから、キックの練習をしていた。まだ、試合まで時間があるから、　本当はゆっくりやるべきだったんだけど、　キックの練習が楽しくてね。　上達しているのがわかるからガンガン練習してたんだ。コーチにも「もっと軽くやれ。ハードなのは試合だけでいい」って言われてたんだけどな。

——ズバリ言って、　張りきりすぎたのがケガの原因ということですか（笑）。

コールマン　そういうことだ。　俺はなんてバカな男なんだ！

——まあ、そう自分を責めないで（笑）。

コールマン　今回の試合は自分にとってもビッグチャンスだったから、　気持ちが先走りすぎちまった。　コーチにも言われたよ。「マーク、おまえは凄くいいキックを持っている。でも、それは危なすぎる」ってね。　それは、　相手に対してじゃなくて、〝俺自身にとって危ない〟ってことだけどな（笑）。

——アチャー（笑）。

コールマン　ただ、診断の結果、じん帯が完全に断裂してなかったから、　手術せずに済んだのはよかったけどな。

——それは不幸中の幸いでしたね。

コールマン　ああ。　この歳になっちまったら、　手術したらもう引退も考えなきゃならないからな。



06年10月のPRIDEラスベガス大会では、メインでヒョードルと対戦したコールマン。レスナー戦はそれ以来のビッグチャンスだったが、残念ながらキャンセル。つくづく人生の悲哀を感じさせるオヤジなのだ。

——それにしても、　レスナー戦キャンセルは、重ね重ね残念ですね。

コールマン　言うなよ……、　それは俺が一番わかっている。　この試合は自分にとってビッグチャンスだったし、　自分のキャリアにおいても重要な試合だった。　レスナーは非常に有名な選手だし、　俺たちには共通の過去がある。　アマレスで実績があり、　プロレスの経験もある。　そしてMMAファンに知られている。　俺がUFCに戻りたいと思ったのは、　ヤツと闘えるからさ。　正直言って、　アメリカは凄く変わった。　俺は長いあいだ日本で闘っていたから、アメリカ人はみんな俺がもう引退したと思っていただろうし、　俺のことを知らないファンもたくさんいる。　だが、UFCの殿堂入りをしたことで、　みんな俺が誰だかわかるようになった。　だからケガしたことはとても残念だったよ。

——そう気を落とさないでください。

コールマン　まあ、　ケガしてしまったことはしょうがないと思ってるよ。　ただ、一つ我慢できないことがある。　あのレスナーの鼻たれ小僧が「コールマンは俺との試合が怖くて、　ケガしたなんてウソをついている」だの、　俺のことを「チキン」だとか言ってるらしいんだよ！

——ミネソタの田舎っぺ大将がそんな失礼なことを！

コールマン　これは噂でしかないが、　俺はありえる話だと思っている。　ふざけんなって！　俺はチキンじゃねぇし、　ウソをついてもいねぇ!!　おい、　ブロック・レスナー！　俺の経歴を知ってんのか!?　俺がこれまで闘ってきた過去を調べてみやがれってんだ!!　プロになる前でも、　俺は20対1で闘ったこともあるし、　俺がビビるかって。　オマエなんかを恐れる理由は、これっぽっちもねぇ!!

——そうだ！　嵐みたいな風、　吹かせてやるって！

コールマン　おう！　もしUFCがアイツとの試合を実現させないなら、　ヤツに会いに行ってやるよ。　おまえの地元ミネソタでやってやるって！

——いや〜、　元気いっぱいですね！　もしケガがもう少し軽かったら、　無理してでもやりたかったんじゃないですか？

コールマン　もちろんだ。　だいたい今回は自分から「出れない」と言ったわけじゃなく、　MRIの診断書をUFCに提出したら、　UFCからストップがかかったんだからな。ウソじゃねえぞ！

——わ、わかりました。　ところで、　今回レスナー戦が中止になったことで、　コールマンさんのUFC復帰自体が白紙になることはないですか？

コールマン　……そうならないことを願っているよ（苦笑）。

——その可能性もあるんですか（笑）。

コールマン　いや、UFCとの契約は、4試合契約で2試合闘うことは保証されている。　1試合しか保証されていない選手もいるので、　自分はいい条件で契約していると思う。　でもな、　この試合がキャンセルになったときに、　俺のカワイイ娘から「パパ、クビにされたの？」って心配されちまったよ。　まあ、俺は「わからない」って答えたんだけどな（笑）。

——娘さんにまで心配されてしまいましたか（笑）。

コールマン　でも、　UFC側は俺にUFCの殿堂入りをさせて、　みんなに俺の名

DREAMから俺には電話一本なかった 一緒にやってきたのに寂しいじゃねえか！

を知らしめたから、アメリカで復帰させたいと思っているんだろう。俺はこれまでにも何度も窮地に陥ったことはあったけど、常に前向きに考えて、しっかり調整してカムバックしてきた。今回も手術しなくてよかったことを神に感謝して、また壮大なカムバックをするつもりだ！

——待ってます！　それにしても、筋肉三兄弟には苦難が降りかかりますね。ランデルマン選手も真菌感染症で大変だったみたいですし。

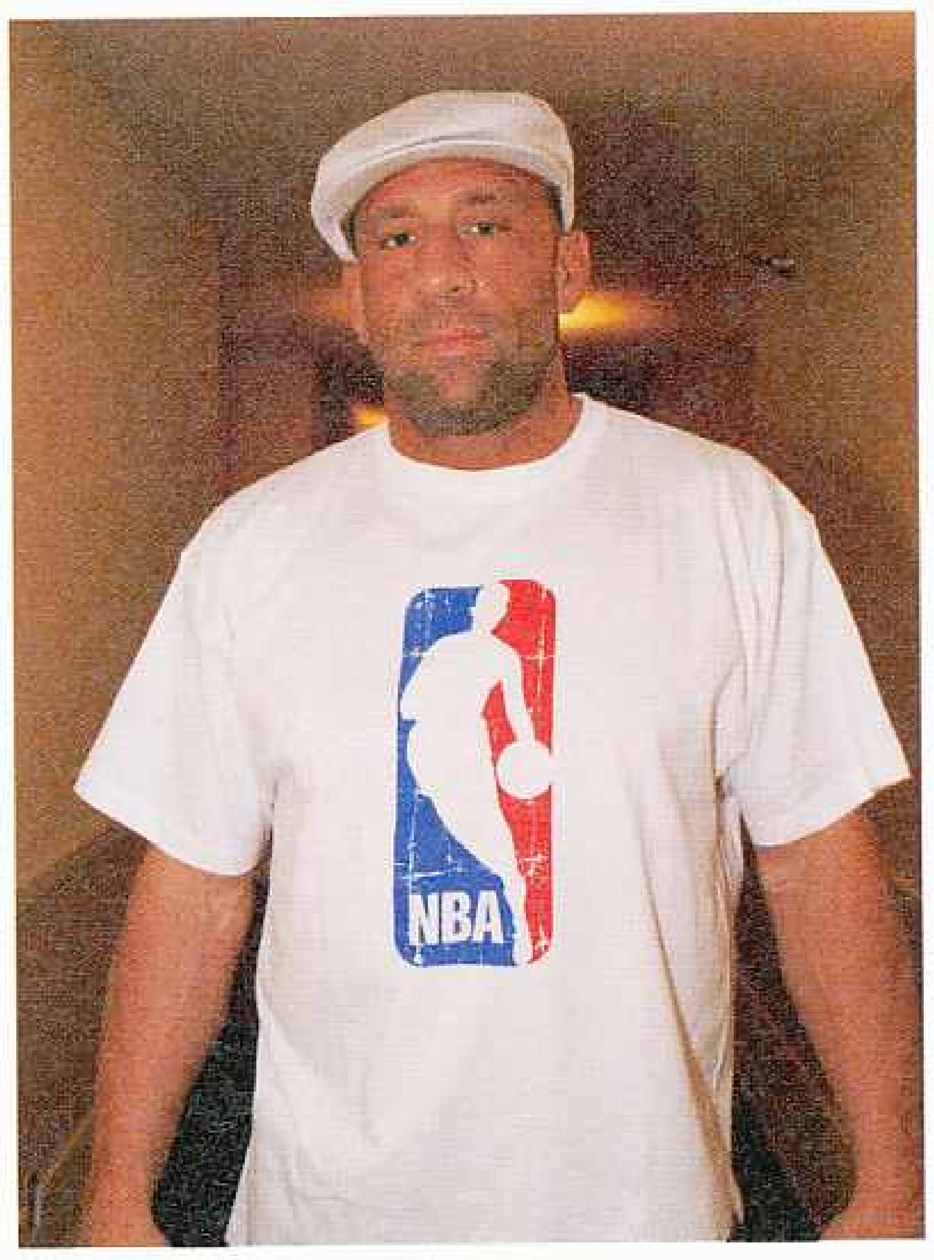
コールマン　ケビンは本当に大変だったよ。ヤツが感染した菌は、もともとロッカーの中にしかいなかったのに、いまではどこでも繁殖して強力になってるヤツなんだ。その菌はケビンの身体の中から出ていかないから、ケビンは凄く気をつけているよ。

——菌はまだ身体に残ってるんですか。

コールマン　ケビンはその病気以外にケガもしているし、もう試合で彼の100パーセントの状態を見ることはできないと思う。それでも彼は闘い続けて試合に勝とうとしてるんだから、彼のことを俺は誇りに思うし、みんなも応援してあげてほしい。

——いや〜、筋肉三兄弟はみんな熱いハートの持ち主ですねえ！　コールマンさん自身は、今後のキャリアをどう考えていますか？

コールマン　今後についてはUFCで少なくとも2試合しなきゃならないから、これから考えるよ。じつはUFCの話が決まったとき、いろんなところからオファーが来てたんだ。エリートXCからも話が来たし、プロレスではIGFやTNAからも話が来た。TNAは俺がサモア・ジョーのコーチ、ランディ・クートゥアーがカート・アングルのコーチになって、そのストーリーを転がして、最後はアングルvsサモア・ジョーのMMAで決着をつけるなんてアイデアも提示されたんだよ。



——へえ、それはおもしろいですね！

コールマン　でも、UFCは独占契約だから、ほかとは話が進められなかったんだ。

——殿堂入りしたおかげで、突然のモテ期を迎えていたわけですね（笑）。

コールマン　ただな、一つ残念だったのは、DREAMからはまったく連絡がなかったんだよ！

Mark Coleman

バルセロナ五輪レスリング7位入賞、初代UFC世界ヘビー級王者、PRIDE GP王者と輝かしい実績を誇りながら、誰よりもブルーカラーで庶民派な熱血オヤジ。今年3月、せっかくUFC殿堂入りをはたしたのに、ケガをしてレスナー戦はキャンセルになってしまった。185cm、107kg。

——ダハハハ！　そうなんですか⁉

コールマン　アイツらは俺の電話番号を知らないのか⁉　知らないわけないよな。日本で7年以上、長いあいだ一緒にやってきたのに、一本の電話もないなんて、寂しいじゃねえか！　俺はPRIDEを愛していたのによ……。

——それはちょっと寂しいですね。

コールマン　そうだろ？　俺は日本を愛してる。だから引退する前にあと一回は必ず日本で試合がしたいよ。いまはUFCと契約しているが、俺はいつでも日本からの連絡を待ってる。

——MMAじゃなくて、プロレスで帰ってくる可能性もありますか？

コールマン　もちろんだ！　プロレスでもMMAでも戻ってくる可能性はあるよ。日本は俺にとって素晴らしい国なんだ。みんな親切でよくしてくれる。俺はアメリカ人だから、アメリカを愛している。だが、日本も同じように愛しているし、いつでも日本に戻りたいと思ってるよ。

——そういえば、ハッスルからは連絡はありましたか？

コールマン　ハッスルからはあったよ。条件的にはいいんだけど、とりあえずいまはUFCとの契約があるからね。ただ、また機会があればぜひ呼んでほしいね！　ハッスルでの試合は本当にエンジョイしたからな。ハッスルはいま、どういう状況なんだ？

——ちょうど今日、東京でビッグショーを行なっていて、インリン様が引退試合をやってるんですよ。

コールマン　オー！　それは残念だな。インリンはベリー・ベリー・グッドだった。彼女は最初、何もできなかったが、とにかく一生懸命練習に取り組んで、いろんな技を覚えたし、凄く上達したからな。

——最後もファンに愛されて送り出されていると思います。

コールマン　そりゃそうだろう！　愛されて当然だ‼　彼女がハッスルで一生懸命やってきたことは、ファンが一番よく知っているだろう。彼女には彼女の考えがあるんだろうが、みんな寂しがるだろうな。インリンだけじゃなく、ハッスルのスタッフとかファンは自分の家族みたいなものだから、ぜひよろしく伝えてほしい。

——わかりました。誌面を通じて伝えておきます。では、コールマンさんも早くケガを治して復活してください。

コールマン　ああ、約束するよ！　レスナーをぶっ飛ばして、俺がチキンじゃないことを証明してやる！　……そういや、チキンといえば、オガワはハッスルに出てないのか？

——いまはハッスルを離れて、IGFで闘ってますね。


コールマン　そうか。まあ、何があったか知らないけど、インリンと違って、オガワと闘うことはいつもプロブレムだったから、しょうがないか（笑）。

——アチャー（笑）。

【08年5月25日／米国ネバダ州ラスベガス、コールマン行きつけの日本料理店『OSAKA』にて収録】

ブッチャー、ファッキン・ガッデム!!

アイム・チョーノ、橋本真也を語る——。



「亡くなって丸3年になりますけど、基本的には記憶が止まったままですね」

盟友が破壊王秘話を公開!



蝶野正洋

今年も“破壊王”橋本真也さんの命日7月11日が近づいてきた。これまで『kamipro』では本誌はもちろん、2冊の追悼本で、愛すべき破壊王のエピソードをさまざまな選手&関係者に語ってもらってきたが、今回、盟友の蝶野正洋が満を持して登場だ!　同期で、よきライバルでもあった蝶野が知られざる破壊王秘話を語りまくってくれたぞ、オラ、エーッ!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也　試合撮影／平工幸雄

蝶野　今日はブッチャー（橋本真也）の話でしたっけ？

——はい。命日（7月11日）が近づいてきたので、橋本さんとゆかりの深い蝶野さんに、さまざまなエピソードを語っていただければと思ってまして。これまで『kamipro』では追悼本を含め、いろんな方に破壊王の素敵なエピソードをうかがってきたんですけど、タイミングもあって盟友の蝶野さんに話を聞けてなかったのが心残りで。

蝶野　でもね、亡くなって丸3年になりますけど、基本的には記憶が止まってそのまま残ってるんですよ。

——まだ、どこかで生きているような気がすると？

蝶野　そうそう。だからいなくなったっていう感覚はあまりなくて。どっか遠くの戻ってこれない場所に行ってるっていうだけで。存在としては、いまだに控室とかで話題になるしね。だいたいが笑い話だけど（笑）。

——やっぱり（笑）。まあ、橋本さんとは闘魂三銃士として一緒に活躍もされていましたし、思い出といってもたくさんありすぎるんでしょうけど。

蝶野　そうですねぇ……（しみじみと）。ブッチャーとは同じ日に入門してからの付き合いでしたからね。

——凄く印象的だったのが、お葬式のときとか蝶野さんは憔悴しきった感じで、やはり大事な仲間を亡くしたというショックが凄く大きいんだなあって。

蝶野　あのときはホント、ショックはショックだったし、それに亡くなる1カ月ぐらい前にひさしぶりに会ってたっていうのもあったんで。

——あ、そうだったんですか。

蝶野　そのときに体調が悪いのも聞いてたんで、それでよけい……なんかこう、きたのかっていう感じで。

——亡くなる1カ月前に会っていたっていうのは、三銃士興行じゃないですけど、何か具体的な今後のプランについて話をしたりしていたんですか？

蝶野　そうですね。亡くなる前かな？　5月の東京ドーム大会に三銃士を揃えようと思ってて、会う前に電話交渉とかはしていて。で、前年の11月に自分の20周年興行に来てもらったんですけど、それから肩の手術をして、自分の団体でもクーデターみたいなのがあったじゃないですか。

——ZERO-ONE内でいろいろとありましたからね。

蝶野　そっちのほうに、もの凄い神経尖らせてたんで、俺は「そういうことはしょうがないからほっとけよ。それよりも肩のケガを直すことを考えろ。プロレスラー・橋本真也がリングに戻ってくる場所はどこでもいいんだから、まずは表に出るということを優先すべきだ」と言ったんですよ。裏の政治的なことは抜きにね。

——橋本さんは、どういう反応だったんですか？

蝶野　本人は直面してる会社経営のことで凄く悩んでいて、「これを整理しないと俺は表に出れない」の一点張りで。5月の東京ドームで何か一つきっかけを作ってやろうと思ってたんですけど、当日になってドタキャンになっちゃって。

——橋本さんがドーム大会に来るんじゃないかって噂は出ていましたね。

蝶野　ちょっと情報が流れちゃったんですよね。それもあとから聞いた話だと、いろいろと表に出れない問題があったみたいで、当日に「やっぱり行けない」となっ

て。そこで三銃士を揃えようと思ってたんですよ。試合はやれなくても、武藤選手の試合か俺の試合後に呼び込んで、かたちだけ作ろうっていうことで動いていて。

——水面下でそういう動きがあったんですね。

蝶野 結局、それがダメになって、そのあとに赤坂の焼肉屋で二人で会ったのが最後でしたね。そのときは諸々の話を聞いて、まあ、変わってなかったですね。「まず自分の足下の整理をしないと俺は前に出れない。俺が悪者扱いされてることは許せない」っていう感じで。ブッチャーはもの凄く執念深いから（苦笑）。

——そういうところはありましたね（笑）。で、先ほども話が出ましたが、橋本さんや武藤さんとは同じ日に入門されたってことですけど、たしか、同日入門はもう一人いたんですよね？

蝶野 そうそう。もう一人、15歳のヤツがいて、全部で4人いましたね。

——武藤さんに「一緒に辞めようぜ」と声をかけられて、その人だけ辞めちゃったっていう有名な話がありますけど（笑）。

蝶野 そうそう！　あったなぁ。

——脱落した方はともかく（笑）、やはり、同期入門の3人は特別なつながりがあるんでしょうね。

蝶野 そうですね。ただね、ホントに俺なんかが同期っていう意識が持てるようになったのは、G1だとか、俺たちの世代でメインを任せられたぐらいのときからですね。それまでは同期の競争でも横一線ではなかったし、武藤さんが一歩も二歩も先に行ってメインイベンターになってたし。で、橋本選手も海外遠征から帰ってきて先にIWGP戦とかやって、俺は一番うしろでしたから。

——単純に、ほかの二人にジェラシーを抱いたりしました？

蝶野 いや、俺自身はね、スタートラインでの位置が違ってたというか。格闘技経験もなかったし。

——ほかの二人は柔道の有段者でしたからね。



05年7月30日に青山葬儀場で行なわれたプロレス界・ファン合同葬の発起人を務めたのが蝶野、武藤、小川、大谷の4人。約8000人が詰めかけた合同葬では長男の大地くんを交えトルネードハッスルポーズで破壊王を追悼!

蝶野 それもあったしね。武藤さんと橋本選手っていうのはライバル関係にあるんだけど、ただ年齢がちょっと離れてるから。3つぐらい離れてるのかな？

——そうですね。そういうのもあって、三銃士はキャラクターも含めて非常にバランスがとれてたように思うんですよ。

蝶野 それはありますよね。微妙に年齢がズレてたり、スタートラインが違ったりというところで、ジェラシーとか、そういう感情はなかったような気がしますね。

ブッチャーの印象？　要領がよさそうで悪いタイプでしたね（笑）

——当然ですけど、新弟子の頃はかなりしごかれたと思うんですけど、橋本さんにはどういう印象がありました？

蝶野 う〜ん……ブッチャーはね、要領がよさそうで悪いタイプ（笑）。

——自分はいいと思ってるんだけど、じつは要領が悪かった、と（笑）。

蝶野 そうそう。たとえば先輩についていくっていうところで、当時は（アントニオ）猪木さん、坂口（征二）さんの大きな二つの柱があって、その前に中堅の（ドン）荒川さんっていうのがいるわけですよ。

——橋本さんを語る上で外せないドン荒川さんですね（笑）。

蝶野 荒川さんはブッチャーを見て「こいつはネタになる」と思ってましたからね。それでブッチャーも、その期待に応えようと荒川さんといるときに凄く頑張るわけですよ。酒はガンガン飲んで、メシもガンガン食って。

——その光景が目に浮かびますね（笑）。

蝶野 荒川さん自身も猪木さん、坂口さんの派閥のどっちかに橋本選手を利用したいわけですよ。でも、ブッチャーはそこでハメを外しすぎちゃったりしてね（笑）。で、当時はたとえばUWFが来たり、長州さんたちが戻ってきたりっていうときで、逆にそういうときに仕掛けるというか、糸引いたりして、荒川さんが上の派閥にどう食い込んでいくかっていうところの材料にされちゃってたところはありましたね。

——いろんな意味で重宝されていたわけですね（笑）。あと、若手時代の橋本さんといえば、ライガーさんや船木誠勝さん、鈴木みのるさんとかと組んで、後輩をかわいがるというか、イジメていたっていう伝説がありますけど、その頃は蝶野さんはどういうスタンスで？

蝶野 たしか、俺が寮長になって最後の1カ月ぐらいの頃に鈴木くんとかが入ってきたんですね。そのあたりからライガー、ブッチャー、船木選手、鈴木選手っていう4人で競争になっちゃったんですよ（笑）。

——練習やらプライベートやら、いろんな競争があったわけですね（笑）。

蝶野 たぶん、そんな感じだったと思うんですよ。俺はちょうどそのぐらいのときから海外に行って、帰ってきたぐらいに今度は船木誠勝選手とか鈴木選手はUWFに行っちゃったんで、当時の話には俺はあまり出てこないと思うんですよ。ただ、その頃から、けっこうひどくなったっていうのはよく聞きましたね（笑）。

——それこそ、天山さんや小島さんの世代は、かなり凄いかわいがりをされたみたいですからね（笑）。

蝶野 そういうのもあって、その頃って1年間ぐらい新弟子が残らなかったんですよ。鈴木くんたちと飯塚（高史）たちのあいだは。

——そうみたいですね（笑）。ちなみに、プロレスラー・橋本真也は蝶野さんから見てどのような評価をされていました？



意外なことに、蝶野と破壊王のシングルマッチ通算戦績は32勝9敗8分けと破壊王が大きく勝ち越している。蝶野が最後に勝ったのは91年8月に行なわれた第一回G1クライマックス優勝戦進出決定戦（蝶野が武藤を下し優勝）。それから最期の一騎打ちとなった97年8月の両国大会まで、なんと蝶野は破壊王にシングルで7連敗を喫しているのだ。

蝶野　とにかく〝痛い〟ですよね。

――痛いのひと言（笑）。

蝶野　こいつ、ここまで蹴ってくるのかっていうのもあったし、とにかく、痛い。たぶん、いままで食らった蹴りでブッチャーの蹴りが一番痛いと思う。キックに限らずだけど、馬力が凄かったもんね。

――馬力は凄かったでしょうね。

蝶野　最初の海外遠征から帰ってきたぐらいのときも、「今日はメシを何キロ食った」とか得意げに言ってて。体重計乗ると実際に6キロぐらい太ってるんですよ、1日で。「これだったらベンチプレス、200キロはいけるやろ」とか、わけのわからないこと言ってましたね。

――体重が増えたぶん、パワーもアップしてると思ってたんでしょうね（笑）。

蝶野　でも実際挙げてるんですよ、そのわけのわかんない理論で。

――さすが、破壊王！（笑）。

蝶野　それに、あの当時のブッチャーは（ビッグバン・）ベイダーとか（バンバン・）ビガロ、（スコット・）ノートン、あのへんとやっても平気でポーンとボディスラムで持ち上げて投げてましたからね。

――日本人選手の中でパワーは群を抜いていましたよね。

蝶野　あの頃はやっぱり力があったのはマサ（斎藤）さん、長州さん、ブッチャー。あのへんはパワーが群を抜いてましたね。ブッチャーが凄いのはパワーだけじゃなく、スピードもありましたから。

――そうですよね。本人も「俺はパワーだけじゃないぞ。運動神経も抜群なんや」って、よく言ってましたし（笑）。

蝶野　瞬発力もあったしね。あの瞬発力であの重さが足に乗っかってくるから、あんなキック受けてたらね、ホント身体が軋みますよ。それに、ブッチャーって見た目より20キロぐらい重いんですよ。

――一応、プロフィール的には135キロっていうのは発表でしたけども。

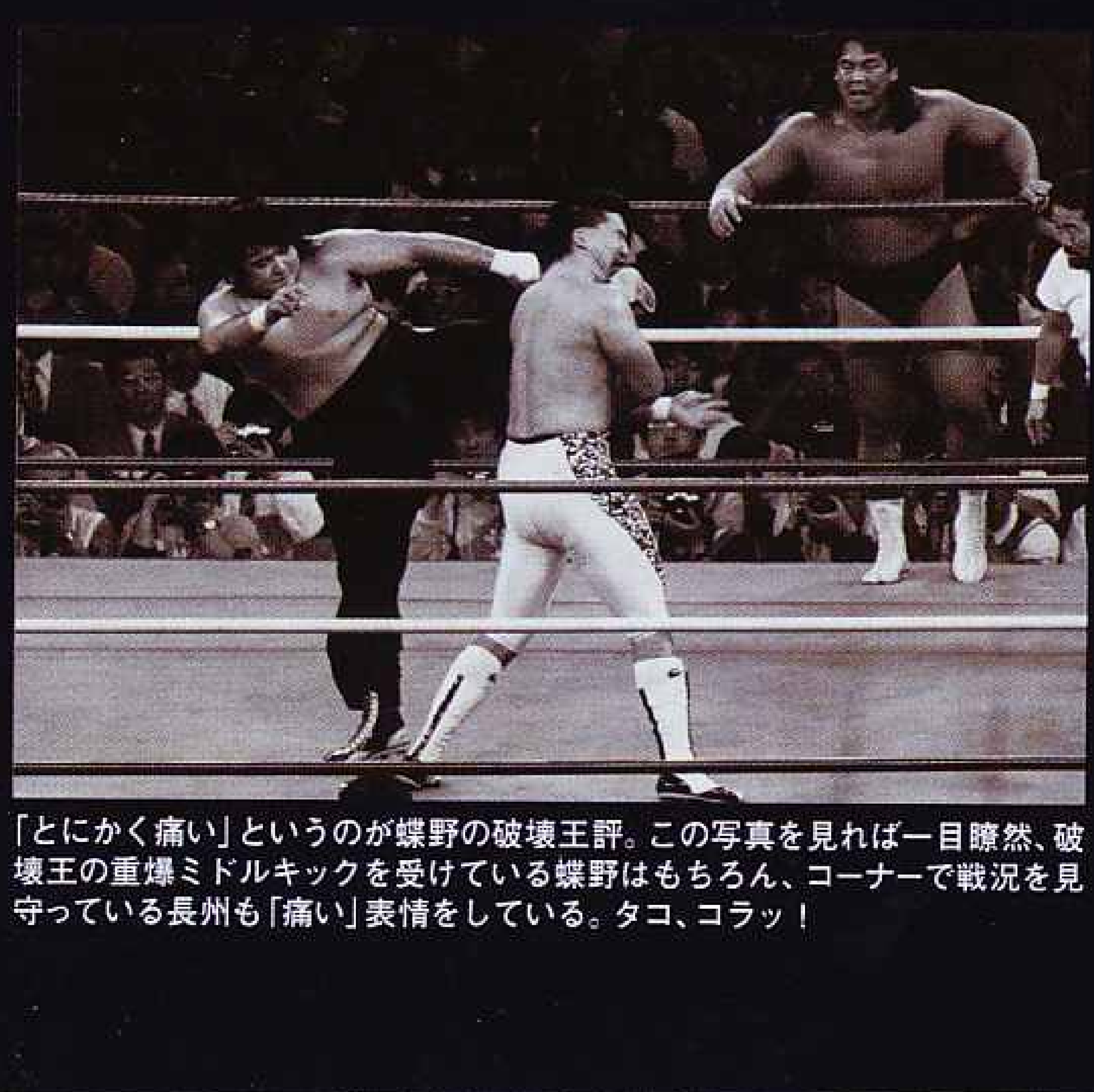
蝶野　あれホントはね、もっと太ってた。ブッチャーは締まってるデブなんですよ。

――「俺は普通のデブとは違うんや！」とも、よく言ってましたからね（笑）。でも、橋本さんは道場には長時間いるっていうのは有名でしたけど、実際に練習はそんなにしてなかったんじゃないかというツッコミもよく受けてましたが、そのへんはいかがでしょう？（笑）。

蝶野　いや～、俺もあんまり道場にいなかったからよくわからない（苦笑）。

――蝶野さんの同じような話もよく聞きます（笑）。

蝶野　アハハハハ。でも、ブッチャーは、よくあんなに道場にずっといれるなと思って。実際は道場にいても釣りに行ったりだとか、山に行ったりとか、子どもみたいな遊びをライガーなんかとしてたんですよね。



「とにかく痛い」というのが蝶野の破壊王評。この写真を見れば一目瞭然、破壊王の重爆ミドルキックを受けている蝶野はもちろん、コーナーで戦況を見守っている長州も「痛い」表情をしている。タコ、コラッ！

―そうみたいですね。

蝶野　ブッチャーは田舎育ちなんで、自分の昔やってた遊びを気晴らしでやってるようなことがありましたね。

―そういう意味では蝶野さんは橋本さんとは違ってアメリカはシアトル生まれの東京育ちですし、プライベートではあまり交流がなかった感じですか？

蝶野　プライベートで遊ぶことはなかったですよね。台風で多摩川が氾濫してるとか聞いたら「道具買ってこい！」とか言ってライガーとかと飛んで行ったりしてましたからね。当時は「何やってんだ」と思ってたけどね（笑）。

―そういった輪に積極的に加わる蝶野さんの姿は想像つかないですね。

蝶野　地方なんか行ってもね、どっかで夜釣りかなんかやってて。付き合うのはだいたいジョージ（高野）さん（笑）。

―ジョージさんも橋本さんに負けないぐらいトンパチだったってよく言われてますよね。

蝶野　いや、でもブッチャーは「ジョージさんはおかしい」って言ってた。

―ガハハハハ！

蝶野　二人ともおかしいんですよ（笑）。

―類は友を呼ぶ、と（笑）。でも、橋本さんは蝶野さんを意識してたところもあったと思うんですよ。蝶野さんのアリストトリストに対抗して、自分でもいろいろとファッションブランドやら、サングラスとかアクセサリーも作ったりしてましたし。

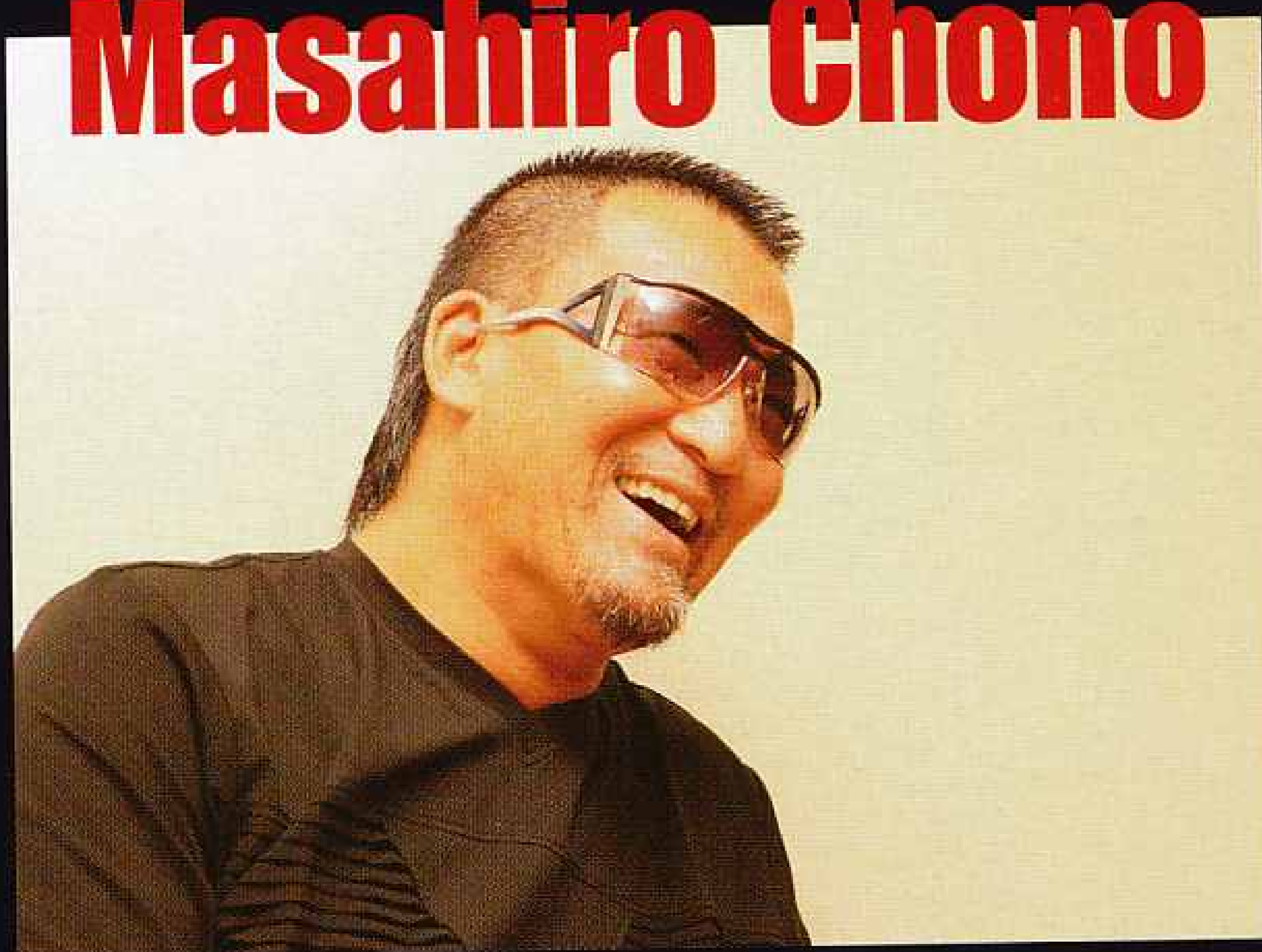
蝶野　でも似合ってないんだよね。

―ガハハハハ！　本人を前にしたらなかなか言えないですけどね（笑）。

蝶野　いや、本人もわかってたと思うよ（笑）。

―ちなみに、蝶野さんから見て橋本さんのファッションセンスはどう思ってました？　マオカラーのスーツや裏地の刺繍とかけっこうこだわりはあったみたいですけど。

蝶野　まあ、あれでいいんじゃないですか、ブッチャーは（笑）。最初に三銃士になって帰ってきて、俺とのタッグでリーグ戦に出たことがあったんですけど、そのときは俺に合わせて白いパンツを作ってたんですよ。田吾作タイツみたいな。



―頼んでもいないのに、お揃いのコスチュームを用意したわけですね。

蝶野　そうそう。でも、ブッチャーが白の田吾作パンツを穿くと、どう見ても赤ん坊にしか見えなくて（笑）。

―なんとなく想像できますね（笑）。

蝶野　「それはおかしいだろ！」って突っ込んだら「いや、蝶ちゃんに合わせたんだよ！」って（笑）。あと、東京ドームで猪木さんたちとやったときの白袴あるじゃないですか？

あの「時は来た!」も、いま考えると いいフレーズだなって思いますね（笑）

―例の「時は来た！」のときですね（笑）。

蝶野　あれも俺が「白袴を着る」って言ったから、白装束みたいな、死ぬときの着物みたいの着てきたんですよ（笑）。「それはどう見ても、いまから切腹する服じゃねえのか」って言って。

―確かに（笑）。で、そのときの橋本さんが「時は来た！」と言ってる横で、蝶野さんが笑いをこらえている映像が、いまでもインターネットの動画サイトでバンバン出回ってるんですけど（笑）。

蝶野　そうみたいだね（笑）。でも、いま考えると、もの凄くいいフレーズだなって思うんですよ。

―「時は来た！」ってセリフは、その後もいろんな場面で使われたりしますからね。

蝶野　あの場面にも合ってたと思うし、素晴らしい発想だなって。ただ、あの「時は来た！」の前は気合いの入ったいい表情をしてたんだけど、そこからあの白装束姿への変わりようが俺の中でなんかハマってしまって、「時は来た！」って聞いた瞬間、吹き出しちゃったんだよね（笑）。

―あと、ちょっと聞きづらいんですが、橋本さんと蝶野さんの共通点の一つに遅刻癖があるじゃないですか？　橋本さんは性格的に遅刻するのもわかるような気もするんですけど。

蝶野　俺？　やっぱり……計算間違いですね（笑）。

―じゃあ、しょうがないですね（笑）。

蝶野　でもね、三銃士で仕事があるときは、ブッチャーは俺が一番遅刻すると思ってて。なんか、そういう空気があったのよ。

―「蝶ちゃんよりは早く着くやろ」と（笑）。

蝶野　そうそう（笑）。で、それを基準に遅れて来るんですね。

―聞いたところによると、三銃士での仕事のときは依頼するほうも集合時間をわざと早めに伝えたりしてたみたいですね。

蝶野　そうみたいだね（苦笑）。ブッチャー的には俺は1時間遅れて来るから、「じゃあ俺は30分から1時間ぐらい遅れても大丈夫だ」って感じで。で、武藤さんはだいたい30分早く来るから、ヘタしたら1時間以上待ってたりね。

―そのへんはホントにバラバラだったんですね（笑）。あと、三銃士ネタでいうと、海外で3人が集まったときに、橋本さんが猪木さんから借りていたゴールドカードを使いまくったっていう、橋本さんらしいエピソードがありますよね。

蝶野　あったねぇ。たしか、あのときは猪木さんがなんかの手術をして、そのリハビリにブッチャーは付き人としてカルガリーからロスに行ってたのかな。そこで三銃士の発想が出て、「じゃあやろう」というかたちでニューヨークに集合したんだよね。そしたら橋本選手が「猪木さんからカード預かってきた」って言って、「カードって、それサイン書かなきゃなんねえだろ」って突っ込んだら「練習したから大丈夫だ」って（笑）。

―「猪木寛至」と堂々と書いてたらしいですね。

蝶野　「それはヤバいんじゃねえの？」って武藤さんと二人で言ったんだけど、「もう、さんざん使ってるし大丈夫や」とか言って。で、結局そのカードでプエルトリコの選手たちを食事に招待してましたからね。

―破壊王らしいエピソードですよね（笑）。カルガリー時代の橋本さんは試合を干されていた時期が長かったっていいますけど、その理由として、頻繁に相手を

ケガさせていたからとか、ギャンブルにハマっていたからとか、いろんな説がありますよね。

蝶野　いや、あれは実際、子どもの背中に●●●マーク書いちゃったの。それで親からクレームがきて干されたんだよ。

——エッ、子どもの背中に●●●マークですか（笑）。橋本さんならやりそうですけど、それはヤバイですね。

蝶野　その子どもも何を書かれたのかと思って親に見せたら●●●マークで。それで、子どもが泣いちゃったんだって。「サインもらいにいったのに、そんなもの落書きされた」って。それを親御さんがプロモーターに文句言って。

——うわ〜！　それじゃあ、欠場理由も正式に発表できないですよね（笑）。

蝶野　まあ、それだけじゃなくて、いろんなことが重なってるとは思うけどね。

——重なってるでしょうね（笑）。

蝶野　あと、ブッチャーって凄い寂しがり屋だったじゃないですか。

——そうですね。常に子分を従えていたいタイプでしたよね。

蝶野　そういうのもあって、海外から電話もよくしてましたよ。ホントいろんなところに。

——だいたいは女性関係だったと思いますけど、国際電話代が月に何十万円とかかかってたみたいですからね（笑）。

蝶野　そうそう。常に日本と連絡を取って、日本の情報をマメに仕入れたりしてましたね。とにかく情報を取るのが好きで、いろんな情報を聞いてないと落ち着かないみたいな。俺なんかまったく日本の状況とかわかんなくて。



破壊王が亡くなった翌月に行なわれたG1両国大会で蝶野は藤田和之と決勝戦で激突。ニールキックやDDTなど破壊王の得意技も繰り出し3年ぶりにG1を制した蝶野は「見えない力が背中を押してくれた」と告白。実際に視力が低下した中で、もぎ取った勝利だったという。

——そのへんも性格の違いなんでしょうね。あと、調べてみてビックリしたのは、橋本さんとの対戦成績なんですが。

蝶野　あ〜、俺は負けてると思うよ。

——かなり負け越してるんですよね。

蝶野　ドームあたりでやってる選手権なんてほとんど負けてるから。俺なんかも自分のイメージの東京ドームって、ついこないだまではドームの天井を見ることのほうが強いというか。

——あ〜、負けて天井を見上げているイメージが強いと。

蝶野　さっき「痛い」って言ったけど、ホント、ヒザのケガとかなかったら手がつけられないところもありましたよね。あと、橋本選手って、表現力だとか、プロレスのうまさとかも凄いなと思いましたよ。

——強さっていうイメージは強かったと思いますけど、うまさも凄かったと？

蝶野　相手を引き出すのはうまかったですね。若手の頃は単に自分の力を誇示するというようなかたちでバンバン蹴飛ばしたりしてたけど、チャンピオンになってからは逆に蹴って相手の感情を引き出すっていうような、引き出しの材料として攻撃してたってイメージがありますね。

——ほぉ。

蝶野　だから昔は一方的にバンバン攻撃してたけど、後半は3発目で倒れちゃうところを、2発やって相手が向かってくるところを引き出すような、そういううまさがありましたね。

——ZERO-ONE時代は本人も「喜怒哀楽を表現したい」とよく言ってましたけど、試合スタイルも変わってきたところがありますよね。

蝶野　変わってきてましたね。ああいうレスリング……相手の気持ちを見せながらやっていける選手はいまは少なくなってますからね。俺なんかはそういうのはできないほうだから。

——いやいや。そういえば、蝶野さんは橋本さんが亡くなった直後のG1で藤田（和之）選手を下して優勝した際に「見えない力が俺の背中を押してくれた」って言ってましたけど、あのときはどんな気持ちだったんですか？

蝶野　あの試合は、試合中に目を横からヒザ蹴りかなんかでやられて、目の前に2〜3人いるような感じになったんですよ。そんな状態の中で闘ってて、藤田がどこにいるかもよくわかんなくて、適当に蹴飛ばしたりしてて。

——そんなひどい状態だったんですか！

蝶野　いまも完治はしてないんだけどね。ただ、決勝だから、そんなこと言ってられないと思ったし、もの凄い不安の中で、見えてるんだけど見えてない世界みたいなところで闘ってて。

——じゃあ、ホントに「見えない力」というか、神がかり的なものを感じたんですね。

蝶野　そうそう。そういうのがあったんでストレートに言ったんだけど。

——ちなみに、あの試合の蝶野さんの入場時に破壊王の『爆勝宣言』のイントロが流れてましたけど、あれは田中（秀和）リン

ブッチャーがカルガリーで干された理由？　あれは子どもの背中に……

ブッチャーはライバルというより、同志的な感じが強かったよね

グアナの仕業だったみたいですね。

蝶野　あれはちょっと困ったんだよね（苦笑）。やっぱりね、亡くなって、まだ日も浅いときで、それであの曲が流れてきたから、いまから決勝に出るっていうときにキュンとなっちゃって。周りのお客さんはいいけど、闘うほうの俺からしたらね……。

――勘弁してくれ、と（笑）。

蝶野　それはないだろっていう（苦笑）。

――ホントに知らなかったんですね？

蝶野　全然聞いてなかったから、困った（苦笑）。でも、あの曲を聴くとどうしても思い出すよね。ブッチャーって、リングに上がるときとかはもちろん、テーマ曲に凄い思い入れがあったじゃないですか。

――いろいろと注文をつけて完成したのが『爆勝宣言』だったみたいですからね。

蝶野　たぶんIWGP戦とか、いろいろなメインイベントを数多く張ってきてる、その責任感っていうのを誰よりもわかってたと思うし、それこそ、俺らがnWoなんかでやってたこととは違う、団体を背負うっていう、もの凄く大きなプレッシャーを抱えたものが、あの曲の中に詰まってるっていうか。そういうのを俺は見てわかってるから、安易には使うべきではないと思うよね。

――橋本さんってドーム興行を連発していた時代の新日本プロレスの象徴的存在でしたからね。もちろん、蝶野さんもそうなんですけど（笑）。

蝶野　俺はそういう意味では、おもしろいことをバーッとやるだけだったんで（苦笑）。メインで、もの凄いキツい、痛い闘いをやって、最後締めてくれるのがブッチャーでしたからね。

――まあ、そうでしたね。あと、凄いと思ったのは、橋本さんって好き嫌いをハッキリ口に出してたじゃないですか。

蝶野　たくさんいましたよねぇ（苦笑）。

――長州さんや健介さん、藤波さんとも関係がよくない時期もありましたけど。



ちょうの・まさひろ■1963年9月17日、米国ワシントン州出身。84年10月5日、越谷市体育館での武藤敬司戦でデビュー。その後は闘魂三銃士やnWo総帥として活躍。最近はレジェンドとして『PREMIUM』というプロデュース興行も手がけている。マルティナ夫人とともにファッションブランド「ARISTRIST」も展開している。写真は蝶野ポーズのケサ斬りバージョンだ。186cm、108kg。

Masahiro Chono

蝶野　あ～、まあブッチャーは典型的なAB型でしょ。

――あ、血液型の問題でしたか（笑）。

蝶野　と思いますよ（笑）。右と左で思ってることや言ってることが全然違ったもん。そのくせ、どっかでもの凄い理路整然とした正しい生き方も持ってる。前を向いてまともなことを言ってるけども、うしろでは女のケツ触ってるような（笑）。ホント、そのまんま生きてる感じで。

――リアル・ジャイアンみたいなところはありましたよね。

蝶野　まあ、ひと言で現わせば〝ナチュラル〟なんですよね。

――言い方を変えれば〝天然〟ですね（笑）。蝶野さんから見て橋本さんの存在は、やっぱりライバルって感じだったんですか？

蝶野　どっちなんですかね？　……ライバルではないですね。同志的なもののほうが強いかもしれないな。目指すものは同じ方向じゃなかったし、目指すテイストも違ったし。さっきのファッションの話じゃないけども（笑）。

――方向性は違いますよね（笑）。

蝶野　それにブッチャーが目指す生き方は、たとえば猪木さんの……また猪木さんもAB型なんですけどね。

――また血液型ですか（笑）。

蝶野　猪木さんの下衆（げす）な部分も、いいところも、すべてを追っかけてたから。で、俺はその下衆な部分は好きじゃないし、マネしようとも思わなかったし。

――橋本さんは猪木さんへの憧れは強かったですからね。

蝶野　だから俺とは目指すものが違ったから。理想像というか。

――あと、橋本さんの息子の大地クンがお父さんの跡を継いでプロレスラーを目指していることに関してはどう思われます？

蝶野　まだわかんないよね、あれぐらいの歳だと。まだ15歳ぐらいでしょ？

――いま高校一年生ですね。

蝶野　まあ、最終的には本人次第だからね。ただ、闘いたくはないよね。

――やっぱり、複雑な感情になるでしょうしね。

蝶野　そのときになってみないとわかんないけど。まあ、高校を卒業して、レスラーじゃないにしろ業界に関係する仕事をやったら、お父さんの偉大さがわかるんじゃない？　まあ、それまでは俺も頑張りますよ（笑）。

――いやいや、そんなこと言わず、これからも〝レジェンド〟としての活躍を期待してます。今日はありがとうございました！

【08年5月31日／埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館控室にて収録】

いまマット界で一番“おもしろい”のはこの男!!

月刊 新日本プロレスNOW通信!! 1

天山の「ハッピーになってもええんちゃう」劇場!!

聞き手／真下義之　撮影／平工幸雄



（写真上）どうだい？ このふんわりヘア！ ツンツンヘアからイメチェン（ただしマウンテンホーンは着用）した“裏切られ男”天山の明日はどっちだ？（写真下）天山とは反比例してヒール道のど真ん中を歩み始めた飯塚さんの勇姿。手の武器（アイアンフィンガー・フロム・ヘル）もサイコー!!

—前回（本誌No・123）の新日本プロレス特集が好評につき、新日本のいまをフロントの阿部タケシさんに語っていただく連載がスタートしました！

阿部 嬉しいですねぇ～。出しゃばりすぎないように頑張ります（笑）。

—よろしくお願いします！ で、今回は飯塚（高史）さんとの友情タッグを裏切られてしまった悲劇の男、天山（広吉）さんのお話をうかがいたいんですが。

阿部 反響は大きいですねぇ。あの裏切りは誰も予想ができなかったみたいで。

—じつは最初の友情タッグ結成まで、飯塚さんはGBHにリンチされる天山さんを4回も助けてるんですね（笑）。

阿部 ええ、地方で何度も助けてます。

—最初は天山さんも「ウザい！」「関係ねぇ！」と言ってたのに、4回目からだんだん心が動いてきて。

阿部 そうそう。4回目の救出のあと、天山の誕生パーティを開いてね（笑）。

—ダハハハハ！ 開いてましたねぇ。

阿部 あのケーキで、「これは信用できる！」って思ったんじゃないですか。

—ケーキでダマされましたか（笑）。そのあと「ハッピーになってもええんちゃう？」っていう超名言も飛び出して。

阿部 「プロレスLOVE」に続く名言ですよ！ 僕は残業して疲れはてていたとき、あのコメントを読んで目が覚めましたもん！（笑）。

—あと逆に天山さんが飯塚さんを救出したとき、最初は「飯塚！」って呼び捨てだったのに、2回目は「飯塚さん」ってさんづけだったり（笑）。

阿部 先輩なのに、最初は「飯塚ごときが」なんて言ってたのにね。

—「一緒にやろうやないか！」って共闘を呼びかけたときも、飯塚さんが「やろう！」と呼応すると、「はい、いきましょう」って敬語で答えたり（笑）。

阿部 どうしても“いい人”の部分が出てきちゃうんですね。そこも含めて憎めないというか（笑）。ただ、そこで日本中にハッピーを振りまくハッピーキャラに移行したハズなんですけど……、裏切られてしまって。

—せっかく友情タッグTシャツも作ったのに、すぐ裏切られて。

阿部 1シリーズ半くらい売ってたんですけど……。けっこうアレ、売れたんですよねぇ（と遠い目で）。

—たった1シリーズ半で、販売できないシャツになってしまった、と（笑）。

阿部 裏切られた大阪大会の前日に闘魂SHOP大阪で、二人のサイン会をしたら、150枚も売れましたから！

—このご時世に150枚も!?

阿部 メチャクチャ売れましたねぇ。近年、まれに見る大ヒット商品でした。

—少しもったいない気もしますね。それにしても、天山さんのレスラー人生ってツイてない印象がありますよね。07年にG1の中継で天山が主役のドキュメントが挿入されたりして、完全に優勝モードだったのに、準決勝で敗退したり。

阿部 ありましたねぇ。会場にお母さんが励ましに来たり。

—あと、ムーンサルトで脳天から突っ込んだこともあったし。

阿部 靴ヒモがロープにからまって、ムーンサルトを失敗したこともあったし。ホントに悲劇を呼ぶ男ですよ。

—IWGPと三冠王座の歴史的なダブルタイトルマッチでも、終了15秒前に脱水症状になって負けちゃうし。

阿部 和田京平レフェリーの迅速な対応で天山さんは救われましたね。王座は流出しちゃいましたが……。

—昔は悲劇のヒーローって、同情が集まりましたけど、今回の天山さんの場合は笑いも一緒についてくる感じで（笑）

阿部 珍しいケースですね。でも、僕らは真摯な視線で見守ってますし、飯塚さんと天山さんという二人で、いままでにないドラマが見せられたのはよかったかな、と。飯塚さんは真面目一辺倒のキャラだったのに、あそこまで変わって。いまや子どもも大泣きするヒールですよ。

—手にハメてる武器も“アイアンフィンガー・フロム・ヘル”ですし（笑）。

阿部 “地獄からの鋼鉄の指”ですから。たぶん飯塚さんは、AKIRAさんが新日本プロレスに来て、「JJジャックスを復活か？」というちょっとした待望論をなんとなく肌で感じたんで、GBHに移ったんじゃないですかねぇ（笑）。

—ダハハハハ！ あのアイドルタッグだけは勘弁してくれ、と（笑）。

阿部 GBHも飯塚さんの加入で、ヒール度が高まってますね。新日本の弱点は絶対的なヒールがいなかったことなんですよ。ヒールをやり続けると支持されて、悪いことをしても歓声が起きちゃう。

—ああ、“反逆のカリスマ”的な感じで。

阿部 ただ本質的には、もっと勧善懲悪で、上田馬之助さんみたいな歩いてるだけで石が飛ぶような悪役が必要じゃないかって気持ちもあるんです。

—一方で、天山さんは「オラー！ エーッ！」的な荒々しいキャラだったのに、“じつはいい人”って部分が出てきましたね。

阿部 髪型も、いまはふんわりした感じで（笑）。素に近い山本広吉的な感じですね。僕らもつい応援したくなっちゃう。

—基本的に豪快キャラというより、イジられキャラですよね。新弟子時代にはライガーさんや鈴木みのるさんに六本木の路上でスッポンポンにされたり。

阿部 本人は「そういうキャラじゃない！」と思ってると思うけど、いまの天山さんはみんながあったかい目で見守ってる感じですから（笑）。

—最近のプロレス界では、抗争劇がうやむやになるケースもありますけど、今回はどうなりそうですか？

阿部 “なかったことにする”のはよくないことですし、落としどころは必要でしょう。

—そういう舞台を設定するのは、フロントの腕の見せどころですね。

阿部 二人には行き着くところまで行ってほしいし、この二人だからこそ、今後の展開をジックリ見てほしい。どうか、皆さんもあったかい目で見守ってください（笑）。

—わかりました。次回もお願いします！

【08年6月4日／新日本プロレス事務所で収録】



あべ・たけし■1972年7月16日、東京都出身。99年よりWWE関連書物に携わるフリーライターとして活動。05年より株式会社ユークスのグループ会社、株式会社ファインに所属、新日本携帯サイト、ポスター制作や会場演出の進行等に関わる。



ハッスルを通して、現代社会を考える!!

菊地成孔が語った物語としての“親殺し”と浄化作用

プロレスと“親殺し”



音楽家であり文筆家
菊地成孔

毎回、鋭すぎる言論でおなじみ菊地成孔氏が語るテーマは、なんと『ハッスル・マニア2008』。あのインリン様引退試合の裏に潜んでいた人類の根源的なテーマである親殺しについて、独自の視点から存分に語ってもらった。今回も必読!!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／平工幸雄



――菊地さん、今回はひさびさに『ハッスル』について語っていただければと思います。

菊地　はい。とはいえ、すみません。今回もDVD鑑賞なんですが、じつは『ハッスル』は今年の年頭に『ハッスル・ハウスvol・32』を会場で観て以来で、ストーリーラインもへったくれもないまま観たんですが（笑）。

――それで観てもらったのが、『ハッスル・エイド2008』のインリン様の引退試合なんです。

菊地　これはお世辞抜きに凄くよかったと思います。一緒にDVDでいただいた『DREAM・3』も拝見しまして、ヨアキム・ハンセンvsエディ・アルバレス戦が凄くよかったじゃないですか？

――現代のガイジン名勝負ですね。

菊地　いや、だから『ハッスル』もそうですよね。

――あ～、確かにインリン様もボノちゃんも純粋な日本人ではないですね。

菊地　ハワイと台湾、どちらも日本と親しい島の人で、どちらも日本語がしゃべれる、しかしガイジンさんですよね。曙さんは当然ながら帰化されていますが、ガイジンさん同士が日本語で話しながら、っていうか、録音されたセリフと効果音が流れる中で闘ってる、という素晴らしく異様な光景だったし、二人とも名優でした。インリン様も凄いんだけど、とくにボノちゃんの名演技はヤバいと思いましたね。

――曙がK―1に参戦したときは、まさかこんな展開になるとは思ってなかったですね（笑）。

菊地　差別意識まったくなしで、あくまで虚構で描かれる代表的な演目として、とエクスキューズしたうえで言いますが、いわゆるカタコトの悲哀、つまり混血児の悲哀みたいなものも喚起しつつ、（フェデリコ・）フェリーニの映画『道』みたいな、“力持ちの大男が悲しい”っていうイメージもあるし、インリン様のムチがボノちゃんの目に入って「痛い痛い」って泣くのも、猪木がグレート・アントニオの顔面を蹴ったという昭和の神話を召還します。目を痛がるというのは、女々しく泣く姿ですからね。

――なるほど。で、お話の軸になると思うんですが、最後に「インリン様を殺すか？　殺さないか？」って部分が『ハッスル』内で問題になったようなんです。ボノちゃんに親殺しはさせられない、と。

菊地　ああ、近親者の殺害事件が多いから時節柄、自粛したってこと？

――そこはいろいろな意見があったと思うんですが。

菊地　そうか、それが今回のテーマなわけね（笑）。なるほど。はい。まあ、結果的に殺害はしてないですよね。インリン様は最後にお腹を押さえて、つまり試合の続きという流れでカーテンコールに応えたわけだし。まあ、あの痛そうな所作の解釈は、凄く難しいけど（笑）。それはともかく、試合のクライマックスでインリン様は「私を乗り越えなさい」とは言ったけど、「私を殺しなさい」とは言わなかったですよね。

インリン様が「乗り越えなさい」でなく「殺しなさい」と言ったら、より凄かった

――ああ、「私を殺しなさい！」って言ったら、それは壮絶でしたね。

菊地　でも、70年代のテレビドラマだったら普通に「殺して」と言ったと思います。これは『FRAU』（講談社刊）という雑誌のワタシの連載にも書いたんですが、日本人の1年間の殺人事件のうちで近親者同士による殺人が、昨年、半数越えしたんです。そのときタイトルにつけたのが、『そんなあ、殺すわけにいきませんよ、家族じゃないんだから』という（笑）。

――家族ならまだしも、と。

菊地　家族もしくは無差別殺人。そういった一種のドーナッツ化というのかな。昔は日本人が人殺しするのは他人との“怨恨”が多かった。いまは怨恨が生じる程の、他者との濃密な関係自体が減って、親を殺すか、あるいは反転的に通り魔として無差別にやっちゃうか、という傾向がありますね（編集部注＝このインタビューは秋葉原の通り魔殺人事件前に収録）。

――親殺しがこれだけ頻繁に起こる時代も凄いですよね。

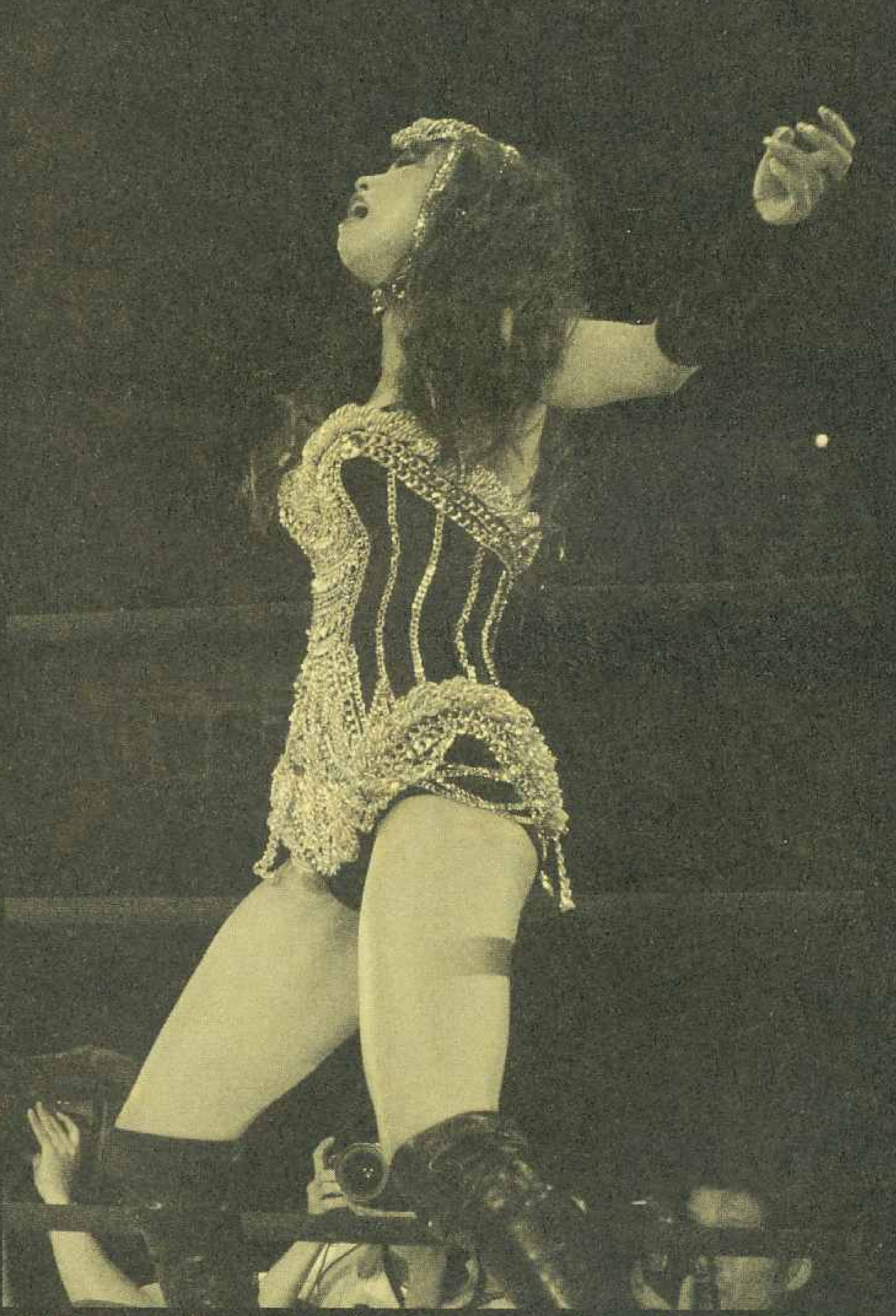
菊地　あくまで原理的に言えば、ですがエディプスコンプレックスに代表される、“親を殺害したい欲望”は人類共通のものです。

――誰でも親が嫌になる時期はありますよね。たとえば反抗期みたいな感じで。

菊地　しかし発達学的に言えば、まず親に殺意を抱き、しかし実際には殺せないし殺さない、というかたちで原初的な殺意がくじかれる。マグマのような殺意は非現実的なこととして家畜化され、それをもって他殺意も自殺意も抑えるスタディになり、それが社会適応したことになる、というメカニズムはいまでも機能し続けてるわけですけど、長い時間をかけて壊れつつあるんですね。あまりに図式的ですが。

――とくに最近は衝動的なケースが多いですね。

菊地　とはいえ、だからこそ長らく親殺しという演目は、ギリシャ悲劇の時代から延々と存在しているわけですから。映画やお芝居の中でい



5.24『ハッスル・エイド2008』、インリン様はボノちゃんに串刺しプレスを食らってフラフラ状態ながら立ち上がって、「来なさいボノ、私を越えてみせなさい!」と絶叫！ その鬼気迫るたたずまいは演者としての“凄み”を存分に感じさせた。



『ハッスル・エイド2008』ではインリン様の試合前に、高田総統劇場が行なわれる異例の展開。総統はインリン様なき『ハッスル』にて初のトーナメント開催をブチ上げたが、いったいどうなる？

くつもの陰惨な親殺しが行なわれ、観客のカタルシスになるわけです。

──非現実の世界を観て、ある部分で欲望が昇華されるというか。

菊地　プロレスなんてカタルシスのキングなんだから、親殺しに限らず、タブーが強い社会では、プロレスが庶民の代行者として親殺しでもなんでも積極的にやってナンボですよね、本来は。

──昔のプロレスはそういう強烈なエモーションも含んでましたし。

菊地　戦争タブーや人種差別なんか大変なごちそうだったわけですよね。とくに初期『ハッスル』は刃をプロレス界全体に向けてました。DSE帝国の庇護の下、とも言えますが、新日本プロレスをはじめ、あらゆる旧体制を見事に揶揄していた。ヘタすると身内のPRIDEまでパロディにして。

──ええ、全方位に牙を剥いてましたから。

菊地　それがいまは保守的になってきた。芸人を出してジャンル超えしてるように見せてますが、実際はジャンル内ですしね。帝国の崩壊を受けての話だから仕方がないですけれども。あそこでインリン様に「殺しなさい」と言わせていたら……。

──凄まじい浄化作用があったかもしれない、と。

菊地　とはいえまあ、「焚きつけてるのか、抑えてるのか？」っていうのは、いつからか難問になってしまいました。最初は浄化、鎮静のためだったものが、ヘタクソにやると促進に反転してしまう。血生臭い演目を観て、興奮した客がスッキリして普通の生活に戻るか、実際に自分もやってみたくなるか？　というのは、現代ではまさに諸刃の剣であって、最近の虚構、残酷なゲームとかロリコンアニメとかは生まれ落ちた瞬間からこの問題を突きつけられています。誰もがスッキリして帰った、近松門左衛門（歌舞伎、人形浄瑠璃の劇作家）の血生臭い心中ものの時代はとうに終わってるわけです。とはいえ個人的にはタレントとしてのインリン様はホントに素晴らしいと思うし、やっちゃってよかったと思いますね。

──「リングでのたれ死ぬ」とウソぶいていた、猪木さんもできなかったことをやるわけですもんね。

菊地　臨死までは見事にやってみせましたけどね（笑）。インリン様というのは、完全なK点越えというか、メイクとスタイリングも併わせ、なんで女子プロレスはいままでこれができなかったのか？　という根源的な問いまで抱かせる超越的なレベルにありましたから、観る側の間口ももの凄く広い。なのに、世代的に言えば、70年代に主人公が死んじゃうようなアニメやマンガやドラマ、いわゆるトラウマカルチャーをたっぷり吸収して『ハッスル』に還元してるはずの山口（日昇）さんや、『ハッスル』のスタッフが、〝虚構＝プロレス〟の根源的な力をあの試合に賭けてみるよりも、放送コード的と言うのかな、世論の予想されうる反発を自主規制的に回避したというのは、じつにお気の毒ともチキン野郎とも言えるわけです。なんせファイティング・オペラつってんだから。オペラなんて、『ロミオとジュリエット』だって『椿姫』だってなんだって登場人物みんな死んじゃうのよ、バタバタと（笑）。

──死んでこそオペラですか（笑）。

菊地　オペラを謳うならね（笑）。まあ、親族殺しのタブーが薄くなってしまっている社会で、わざわざカタルシスを与えなくても。という無力感もあったのかもしれません。あともう一つ考えられるのはタレントの才能が高すぎて恐れられた、という線ですかね。佐藤大輔さんの煽りVのように。皆さん周知のとお

親殺しの物語は、とても痛いですが
同時にカタルシスもの凄く大きい

り、インリン様が『ハッスル』からいなくなるのはガチなわけですし。

──そこは完全にガチですよね。

菊地　そして「ホントはなんで辞めるの？」って一番深い根っこは、「痛いから考えない」っていう（笑）。前号（No.123）の「桜庭（和志）選手がPRIDEを辞めた件をファンがどう処理しているか？」の話と同じですけど、いずれにせよ、家族間の殺人が殺人の半数に至った、という状況下で、インリン様が最後に「私を殺しなさい」って言っていたら、けっこうな迫力があったでしょうなあ。

──引退のメタファーであり、親殺しも彷彿させるわけですから。

菊地　具体例を言えば、水谷豊が息子役で、母親役の市原悦子を殺す『青春の殺人者（注1）』（76年）っていう映画があるんですよ。母親がダイニングキッチンで横たわって、「殺したいなら殺していいよ」って言って息子が殺す。毛布かけてナイフで腹を刺すと、市原悦子が小さい声で「痛いよおお」っていう、凄まじいトラウマ映画で。

──『太陽を盗んだ男』の長谷川和彦監督の第一作ですね。

菊地　ご存知だとは思いますが、日本の法律は近親者の殺害に対して、必ず重罰にするシステムだったんです。尊属殺重罰と言って。ところが、68年に〝栃木実父殺し事件〟（注2）っていう29歳の娘が52歳の父親を殺す事件が起きたんですが、「これだったら親を殺しても仕方ない」ってほど親側がヒドいケースだった。その娘に最高裁が同情的な判断を下して、この事件で最高裁が親殺しを重罰にする法律を見直す判断をしたんです。なので、この事件は尊属殺法定刑違憲事件（注3）と言われてるんですが。

──その事件をきっかけに親殺しに対する法律が変わった、と。

菊地　結審したのがたしか73年で、そういう時代背景を受けて、『青春の殺人者』という親殺しの映画ができたとも言えます。とても痛い映画ですが、同時にカタルシスももの凄くデカい。カタルシスは、気持ちがいい方面だけではないですからね。

──親殺しの物語は、万人にアピールする力があるんですね。

菊地　少なくとも32年前までは、と言うことができるでしょう。今回の『ハッスル』は確かに素晴らしいんですが、親殺しタブーの現状に対しては二重に腰が引けたようにも見立てられます。さっき言ったように、タレントがもっと上のステージで凄いことをやれたのにマッチメイク側がセーブしたようにも見えた。マッチメイカーの支配力を超越するタレントの輝きというのは貴重ですからね。

──ストーリーやアングルを凌駕する人間力が観たいですよね。

菊地　あくまで想像ですが、ある種〝ストップ・ザ・インリン〟的な部分もあるのかな、と思ってしまいまし



眠れないほどのトラウマを与えるのがエンターテインメントの真髄です

た。死ぬとこまでやらせたら、インリン様に全部持ってかれちゃうとかなんとかさ。

――ああ、自ら引退するインリン様があそこで死んだら伝説になった部分はあったかもしれないですね。

菊地　ワタシは（ブルーザー・）ブロディ崇拝者ですから、支配者の思惑以上に才覚があり、やがて殺されてしまう人、というキャラクターに震えるんですね。モーツァルトもそうですが、ブロディはダブルクロスを繰り返しながら、いろんなとこに所属して、誰の言うことも聞かなかったことで、とうとうマッチメイカーに殺されていく。それこそギリシャ神話だと思うんですが、インリン様にはちょっとそういう面影がありましたね。最初に戻るけど、ガイジンってのが大きいのよ。ブロディは地球上のどの場所でも移民だったのよ。

――インリン様はブロディ級の存在感だった、と。

菊地　まあ、テーマがテーマだけに話が大きくなっているきらいはありますが（笑）。それにボノちゃんっていう、カタコトの日本語でしゃべる大男の赤ちゃんっていうのもヤバいですよね。横綱まで取った曙がやってんだから。ただ「おもしろいから、天龍を赤ちゃんにしよう」って言ったって、あんなに悲しくなんないですよね。

――ダハハハハ！　そこは絶妙のキャラクター設定なんですね。

菊地　もうこうなったら、お若い読者の皆さまはブッチ切って進みますが、インリン様はまあ、言っちゃテレサ・テン（注4）よね。

――テレサ・テン!!（笑）。

菊地　テレサ・テンなんてあんなかわいい、ふんにゃりした顔なのに、内面にはもの凄く燃えるものがあって、天安門事件（注5）のあと、民主化運動に傾倒した闘士になっちゃって、政治的な謀殺説があるわけです。そういうアジアの女の人特有の凄まじい気の強さ。

――昔のプロレスは、そういう人種問題や社会風刺も含んだものでしたから。

菊地　もっと言えば、「北京オリンピックが終わったら、台湾はどうなんの？」とか、「ビビアン・スーやテレサ・テンの伝統があるぞ」とか（笑）。いろいろ喚起しちゃってるわけです。抑えつけられることで、アナザー・ストーリーラインを強く印象づけたと言えるでしょう。

――さらに広がりが出ますね。

菊地　日本はキャラクター大国ですが、キャラクターというのは本来、一般生活ではできないことをやって我々を浄化するわけで、最初のキャラクターというのは神々だとよく言われますが、そうした原初的なキャラクターの役割で追っていけば、この試合は含みがいっぱいある。でもいまは逆で、キャラクターは含みがないほどいいんですよ。

――確かに、ボクもそこまで立体的には見てなかったですね。

菊地　いまキャラクターは現実逃避する道具であって、そこから現実の象徴を読む、なんてキツいことは昔の人がやることで、いまの人はキャラクターの世界を純化させて、自分のリアルを消すわけです。多くの人にはワタシの今日の話はウザい、もしくは無粋でさえあるでしょう。それは『ハッスル』に限らず、日本全体が抱えてる現状です。

――一つの事実として語られて、完結してしまうというか。

菊地　日常的な事件を吸い上げて浄化するのがプロレスの祝祭空間だったわけですが、現在多くのプロレス団体は、とくに何も考えずに極めて現代的であるというか。キャラクターの世界を作って、作り手も観客も日常から切り離され、そこで達成感を得ているように思えます。高いカタルシスとトラウマを感じるのは『マッスル』だけですが、『マッスル』は何も知らない子どもは観ない。何も知らない子どもがその日は眠れないぐらいのトラウマを与えるのがエンターテインメントの古典的な意味での真髄だし、『ハッスル』も最初はそこを目指していたのではないかなと思うんです。

――確かにいままでバッドエンディングで終わる大会も何度もありましたからね。

菊地　作り手の方々の、時代との詰め将棋のような苦労がしのばれますが、しのばれてはいけないでしょう、エンターテインメントなんだから。地獄に堕ちる覚悟で芸能をやることも、趣味の合う仲間だけで遊ぶ遊園地を作ることも『ハッスル』には選択可能ですよ。

――菊地さんのお話を聞いて、いろいろ喚起されるというか、もう一回あの試合が観たくなりました。

菊地　テーマ的にどうにもエグい話になりましたが、インリン様なきあとの『ハッスル』のポテンシャルに期待したいですね。楽しさとエグさは相反さないですよ。

――わかりました。今回もありがとうございました！

【08年6月5日／都内・菊地氏の事務所にて収録】



文中でも語られた問題作『青春の殺人者』（1976年公開）。青年による母親殺害シーンは生々しくショッキング。「痛くないようにして」と懇願する母親役の市原悦子の怪演が光る最上級のトラウマ映画だ。

注釈

【注1】『青春の殺人者』
『太陽を盗んだ男』の長谷川和彦監督の第一回監督作品（1976年公開）。1969年に千葉で実際に起きた親殺し事件をベースにした中上健次の小説『蛇淫』をもとに、理由もなく両親を殺害した青年の末路を描いた問題作。

【注2】栃木実父殺し事件
1968年、栃木県で発生した親殺し事件。当時・28歳の娘が52歳の父親を殺害した事件だが、父は娘が14歳の頃から長年にわたって性交渉を強要し、子どもを5人も生んでいた事実が発覚。世間を震撼させた。

【注3】尊属殺法定刑違憲事件
注2と同義だが、注2の事件を受け、それまで制定された刑法第200条の「尊属殺」への重罰規定が、憲法第14条（法の下の平等）に違反し違法であることが1973年に最高裁で判断された歴史的な判例を指す。

【注4】テレサ・テン
70～90年代に日本や台湾、香港で絶大な人気を誇った台湾人歌手。『つぐない』、『愛人』、『時の流れに身をまかせ』が連続大ヒット。後年は中国の民主化運動に傾倒、その影響力の大きさから暗殺説が流れたこともある。

【注5】天安門事件
ここでは、1989年6月4日に発生した、六四天安門事件（第二次天安門事件）を指す。民主化を求め北京市の天安門広場に集まった学生中心の市民のデモ隊が人民解放軍や警察に武力弾圧され、多数の死傷者を出した。


きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家、文筆家。ジャズ・ミュージシャン活動の一方、音楽、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～』（白夜書房）がある。

獏さんが語った、マット界 "親殺し"列伝

『ハッスル』超初心者の格闘ファン

夢枕獏



ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆など格闘技への造詣は広く深い。

UWFは新日本プロレスを親殺しし、そのあと、総合格闘技に殺された

――獏さん！ 今回は『ハッスル』のリングで起きた親殺しがテーマなんですよ。

獏 テーマは問題ないけど、俺は『ハッスル』を全然観てないんだよ。

――あ、やっぱりそうですか（笑）。

獏 『東スポ』と『Kamipro』が唯一の情報源なんだよね。ボノちゃんがインリン様の子どもであるとかは知ってるけどね（笑）。

――それだけで充分です！（笑）。そもそも親殺しというテーマは、古今東西あらゆるジャンルで扱われていますけど、獏さんも小説の中で描かれたことはあるんでしょうか？

獏 直接的には書いてないね。いずれ書くようにはなっていくと思うんだけど俺のシリーズモノの小説はいつも長くてさ（苦笑）。いずれ弟子が師をやっつけるシーンが出てくるんだけど、まだそこまでいってないんだよ。

――プロレス界では力道山と猪木さんとか、猪木さんと長州・藤波の間柄だったりと、親殺しを感じさせる関係はちらほら見受けられますね。

獏 俺が印象に残っているプロレスの親殺しは、昔、猪木が村松（友視）さんの本で対談をやってたんだよね。『私、プロレスの味方です』の2巻目だったかな。そこでね、ゴッチさんは確かに凄いけど何かが足りないっていう話になったんだよ。そうしたら、猪木が「愛が足りない」って言うんだ。

――それは言いえて妙ですねぇ。

獏 うん。あそこで猪木は親殺しをしたんだと俺は思うね。

――このうえなく"愛"のない言い方で（笑）。

獏 で、それは猪木と藤波がなんか試合をやってた頃なんだよ。そのとき古館伊知郎がその『私、プロレスの味方です』を読んでたからだと思うんだけど、試合の実況で「藤波よ、猪木を愛で殺せ！」って言ったのね。

――そんな名言がありましたね。

獏 これは親殺しをした猪木を、さらに藤波が親殺しをしなきゃいけなかったわけだけど……まぁ、藤波は失敗しちゃってね（笑）。

――ドラゴンはついに親殺しはできませんでしたねぇ。

獏 結局、新日本プロレスを親殺ししたのはUWF。でも新日本は死んでも猪木は生きているというへんなねじれ現象が起こってるんだよ。

――どうして誰も猪木さんを殺せなかったんですかね。

獏 う～ん、やっぱ猪木自身が特殊なケースだったからじゃないかな。猪木は自分自身が自らを抹殺する以外に死ぬ方法はないっていうか。

――まあ、最近は自分で自分の首を絞めがちなんですけど（笑）。

獏 自分殺しだよね。で、新日を殺したUWFはやっぱり総合格闘技に殺されたんですよ。

――だからこそ、時折UWFが亡霊のようによみがえってきて。

獏 そうそう。俺たちみたいなUWFファンをくすぐるように、UWFという幻想を消費してるんだよね。

――まあ、ムーブメントなりブームは、やはり常に新しいものに殺されていく運命にあるものなんですね。

獏 基本的にはね、それはしょうがない。進化で言えば、新しい種を生んだ古い種は滅びていくんだよ。だいたいギリシャ神話自体のスタートからして、親殺しから始まってるんだよ。まずウラノスっていう一番最初の神様をクロノスっていうのが下剋上でやっつけて神の王になる。で、それをやっつけるのがクロノスの息子であるゼウスなんだよね。このクロノスっていうのが、ちょっと猪木みたいに狂ったヤツで相当ヒドイんだ。

――古代神に引けをとらない猪木さんって（笑）。

獏 まず神様なのに占いをさせて、その占いで「おまえを殺すのは息子である」って言われて、それにおびえたクロノスは、自分の子どもたちを生まれるそばから次々に食べちゃうんだよ。

――子ども殺し!! 確かに猪木さんの仕業です（笑）。

獏 でも、ゼウスだけが殺されずに生き残って、クロノスをやっつけて、オリンポスをまとめる神々の王になっていくんだよね。だから人類の歴史は親殺しから始まったと言っても過言ではないという。

――なるほど、普遍的なテーマなんですね。マンガで言えば、『巨人の星』なんかもそうですよね。

獏 『巨人の星』は典型的な親殺しだよねぇ。最近でいうと『グラップラー刃牙』も親殺しの話でしょ。親殺しというのは師匠を超えるっていう意味合いもあるから、男っていうのはみんなどっかで親殺しを狙ってるんだよね。簡単に言えば、"自立"ってことなんだけど。

――親殺しは人間にとって必ず通過しなくてはいけない儀式だ、と。

獏 ただ、日本の思想の礎にもなっている儒教では、親殺しは絶対に許されない。逆に子ども殺しはやっていいんだよ。

――あ、そうなんですか。

獏 うん。漢の劉邦なんかも、敵の追っ手から逃げるときに子どもを投げ飛ばして、自分だけ助かろうとしたくらいだし。親のために子が死ぬのは儒教ではOKなんだよ。なぜかというと親が死なないかぎり、子どもは生まれてくるわけだから。

――だからこそ、親殺しは覚悟が問われる。ここ最近の格闘技・プロレス界って、なかなか親殺しの瞬間って見受けられませんね。

獏 最近の格闘技・プロレス界の話でいえば、親殺しが必要なのは亀田親子だろうね。

――ああ、なるほど（笑）。

獏 亀田兄弟はね、これは親殺しをやんなきゃダメだよ～。「親父とは縁を切ります」ってことで試合をやって。負けて再び親父が教えたりするのもいいと思うんだけど。なんにせよ、一旦は親殺ししないとダメだね。それをするのが彼らの自立につながるし……なにより、親殺しをする亀田のドキュメント、テレビ的には「これは銭が取れまっせ！」っていう話だよ～（笑）。親殺ししたたあとの亀田の試合は、観てみたいねぇ。

――ダハハハ！ ちゃんとエンターテインメントに仕立ててほしいですね。ありがとうございました！

【08年6月4日／電話取材にて収録】



いまマット界で一番"おもしろい"のはこの男!!

天山の



動物から、『ハッスル』を考える!!

名獣医が語る動物界のメカニズム!

動物社会に親殺しは存在するのか?



野村獣医科Vセンター・院長

野村潤一郎

前ページまでで検証している「親殺し」ははたして人間界だけに起こりうる行為なのか!? その疑問をぶつけるのはこの男しかいない! というわけで、『kamipro』No.109のキリン特集でご登場いただいた名獣医・野村潤一郎先生に「動物界にも親殺しはあるのか?」というテーマでインタビューを試みた! さらに、話はとんでもない方向に向かうのだが……。なお、このインタビューは秋葉原の通り魔事件の二日前に収録したものです。

聞き手/ジャン斉藤

——今日は、本誌No・109の「キリンは本当に強いのか?」特集でお世話になった野村先生に再びご登場いただきました!

野村 今日は、あれですよね、インリンの引退の。

——はい。『ハッスル』というプロレス団体があるんですけど、そこで「ボノちゃん」という子どもが「インリン様」という自分のお母さんと闘って倒すという物語があったんですよ。

野村 ああ、これかあ(『kamipro』をパラパラとめくりながら)。これはインリン・オブ・ジョイトイの精神のなんとかから生まれたとか、そんな感じですよね?

——ええっと、微妙に合っております(笑)。

野村 で、親子ゲンカなんですよ。結局、子ども役の曙がママに勝っちゃって「ママー!」とか言いながらだっこして帰るんでしょ?

——なんでご存知なんですか?

野村 いや、いまこれを見たからですよ。

——わかるもんなんですね(笑)。で、これはいわゆる親殺しの構図があると思うんですが、動物社会にそういった親殺しは存在するのかというお話をうかがいたいと思います。

野村 ちょっと待って。その前にこれは設定では殺しちゃったってことになるんですか?

——いえ、結局は殺してないんです。ただ、親殺しというのは概念的に「自立」というテーマがあると思うんですけど……。

野村 (さえぎって) 要するに、これ

いつまでも親と子が一緒にいちゃいけない理由がある。それは……

はお母さんの言いなりにならずに一人の男として一人前になるんだよ、と。そして、親に勝った子どもが一人で頑張ってやっていくというストーリーですよね。そうするとね、おっしゃるように自立というテーマが出てきますよね。

——ええ。

野村　結局、子どもが一人前になれば、親子の衝突って必ずあるんですよ。殺しにまで発展するのはなかなか自然界でもないことなんですけど、対立することはありますね。だって『キタキツネ物語』だって、結局「子別れの儀式」であって、あんなに仲が良かった親子が噛みつき合いのケンカになっちゃうんですよ。そして親が勝つ。それで子どもがどこかよその土地に逃げていくわけ。それで、子どもが新しい土地で新しい親になるんです。そんなふうになるのは、いつまでも親と子が一緒にいちゃいけない理由があるからなんですよ。

——その理由というのは？

野村　だって、SEXしちゃうでしょ。そうしたら、遺伝子が重複してその動物がどんどんダメになってしまう。なんでオスとメスがいるかというと、変化する環境に対応するように設計図を書き換えていく、そして次の環境に対応できるDNAを勝ち得るためなんです。たとえば、一番効率のいい繁殖って細胞分裂なんですよ。要するに、単為生殖でどんどん分裂して増えるわけ。ゾウリムシとか菌とか……、うずまきナルト（『NARUTO』）とは違いますけどね！

——えー、あれは忍法・影分身の術ですね（笑）。

野村　ただ、その効率のいい単為生殖だと、自分の弱点を克服できないんですよ。たとえば、僕がニンジンが嫌いだとしますよね。その僕が単為生殖すると、ニンジン嫌いな人間が1000人に増えるわけ。ところが、世の中にニンジン以外の食べ物がなくなったら、人間は死ぬしかなくなるでしょ？

——ニンジンによって滅びる人類（笑）。

野村　そうならないためにはどうするか。僕がニンジンが好きな女と結婚すればいいんですよ。子どもが二人できて、一人はニンジン嫌いな私に似て、もう一人はニンジンが好きなその女に似るとします。すると、ニンジンしかない世の中になったときに一人は助かるじゃないですか。そのように自分とはちょっと違うバリエーションの遺伝子を組み換えて、次の世代に対応させる。

——よくできてますよねえ、自然界って。

野村　ところが、似たもの同士で結婚して子どもを作ったら、結局、次の世代で単為生殖と同じかそれ以下になっちゃう。これは広くオスとメスがいる動物の世界では必ず避けなきゃいけないことなんですね。で、人間界ではいつまでもお父さんとお母さんの子どもっていう感じだけど、動物の世界って、だいたいお父さんは"やり逃げ"でいなくなっちゃうんですよ。



野村先生いわく、インリン様&ボノちゃん親子は、動物界的には正常なとのこと。ボノちゃんもいずれ家族を持つことになれば、娘に歯ブラシを投げつけられることもあるかもしれないのである。

——あ、そうなんですか！

野村　お母さんが子どもを一人で育てる、本当はそういうパターンが多いんです。図鑑の写真を見たって親子のクマはお父さんがいないでしょ？　あと、イノシシがうり坊を連れて歩いているんだけど、お父さんはなぜかいない。これは、お父さんはあっちこっちに種付けするのに忙しい。で、メスにいつまでもかまってられない。次の新しいメスのところに行って種を植えなきゃいけないからね。そうすると必然的に畑に種を蒔かれたお母さんが、芽が出て育つまで面倒を見る、と。

——そういえば、インリン様とボノちゃんの父親（グレート・ムタ）もどっかにいなくなってしまったというストーリーなんですよ。

野村　お父さんはよそでまた子種を作ってるんですね。だからたぶん野生なんですよ、この家族は。

——確かに野性味にあふれていますね（笑）。

野村　お父さんがいなくなって母子家庭になる。ところが、いずれはお母さんともお別れしなきゃいけない。これにはいろんなパターンがあるけど、ナマケモノなんかは親が出ていくんです。ナマケモノって木にぶら下がっているでしょ。で、やっぱり子どものほうが力が弱いし、親のほうがどこかに行ったってなんとかなる体力と経験を持っているから、自分がいた木を子どもに譲って自分は違う木に移るんです。基本的に、ナマケモノは木一本に一匹って決まってるからね。でも、これをいつまでも「ママー！」ってやってたら、この親子は子ども作っちゃうよ。

——マズイですね。

野村　それを避けるために、神様がちゃんとプログラムしてるんです。子どもが一人前になったら、親とケンカするようになってる。だから、誰もが経験する反抗期ってそうなんですよ。反抗期ってよく考えると、繁殖可能な肉体になったときに始まるんです。つまり男の子は中1ぐらいで射精がもう可能でしょ？　あの頃ですよね。「オヤジはなんとか我慢できるけど、おふくろは我慢できねえな」って感じでしょ？

——そうかもしれません（笑）。

野村　娘もそう。あんなに「お父さん、大人になったらお父さんのお嫁になります！」とか言ってて、お父さんも「娘よ！」とかってジーンとなってたのが、生理が始まってある程度の年頃になってくると、「お父さん！　私の歯ブラシとお父さんの歯ブラシがくっついてたわよ！　もう、捨てる！」とか言っちゃう。

——先生、演技が迫真すぎます。

野村　（無視して）あんなに好きだったお父さんよりも、よその男の肉体のほうが愛しくなっちゃうの。これは一つの必然的な現象。だから、原始時代は人間もここで親子が別れたんですよ。ただ、いま世の中が複雑で、お金のことや、法律のことや、学歴のこと、家柄のこと、いろんな社会的なしがらみの中で、教育機関が人間の場合長くなっちゃっているから、成人してもまだ子どもですもんね、なんだか知んねえけどさ。

——なんだか知らないですけど、そうですね（笑）。

野村　そのように、人間でも基本的に遺伝子の重複を避けるために、血族が親子同士でバラバラになって



同族間で殺すまで闘ってしまったらその種は最終的に滅びてしまう

いく必要があるために「子別れの儀式」が必ずなきゃいけないものになってくるんですよ。でもね、殺すまでやっちゃいけないよね。同族間で殺すまで闘ってしまったら、その種は最終的に滅びてしまう。

――以前お話をうかがったときに、動物はそこで"プロレス"をするということでしたね。

野村　だから、毒ヘビだって噛みつき合えば勝敗は一気に決まるけど、相手が死ぬじゃないですか。場合によっては二匹とも死んじゃう。だから、毒の牙は使わずに勝敗を決める。大トカゲもメスを取り合ってオス同士で闘うときに、お互いに噛みつき合っちゃったら大ケガしてメスと交尾するどころじゃなくなっちゃうから、2本足で立ち上がって相撲を取るんですよ。コンバットダンスをやるわけね。こうやって儀式的に闘争して勝敗を決めるわけです。

――それは人間でもそうですよね。格闘技もある種そういう儀式的闘争の意味合いを含んでて。

野村　そう。一つのルールを決めちゃえば制約があるから相手も死なないんですよね。ヒザ蹴りがダメとか、目潰しがダメとか、それにメリケンサックやチェーンは禁止とかね。ただですね、自然界でも親殺しというか、親が身を捧げることはありますよ。

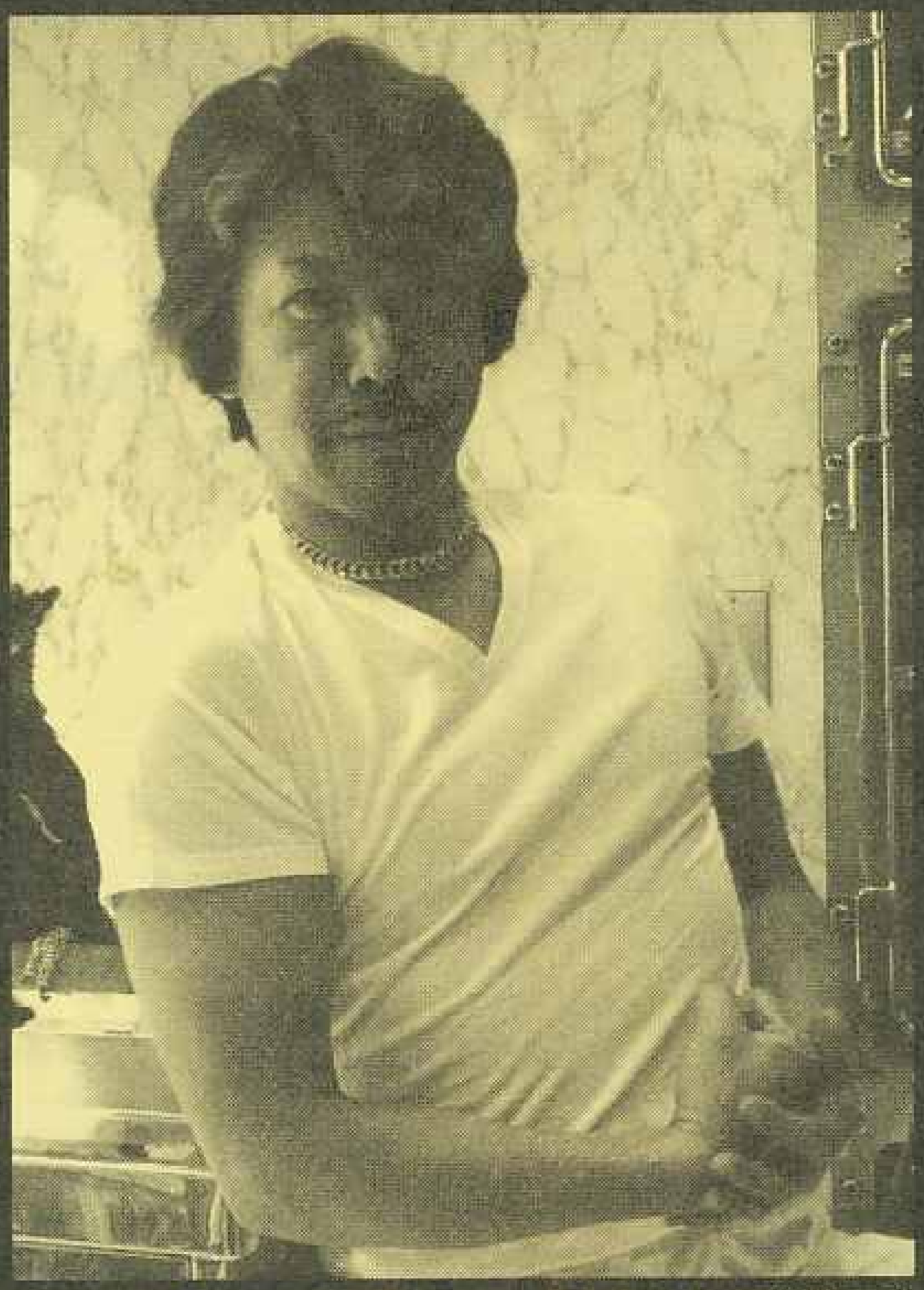
――え、あるんですか!?

野村　ええ。たとえば、ある種のクモは卵を産んで、その卵がかえるまでずっと守るんだけど、卵からかえった子どもたちが最初に獲る餌はお母さんの身体なんですよ。これはね、もう自分の寿命が尽きているから次の世代を作るわけで、寿命が尽きた身体がいつまでも長く生きてきてもしょうがないわけ。それだったら生まれてきた子どもたちが少しでも大きくなって、次の世代をたくましく生きてもらいたい、と。こういうのを親殺しと言うかどうかわからないけど、こういうパターンならありますね。

――でも、それは種の存続のための行為ですよね。

野村　ええ。ただねえ、ときどき親離れ、子離れしない親子がいるんですよねえ……（遠くをみつめて）。「タケシさん、お勉強ははかどってる？（教育ママ調で）」。

――ダハハハハ！　事情が変わった、続けて（髭男爵調）。



のむら・じゅんいちろう■1961年、東京都出身。野村獣医科Vセンター・院長。中学時代から獣医を目指し、30歳で東京・中野に動物病院を開業。イヌやネコをはじめ、あらゆる動物を熟知。患者は全国に約6万件という、まさにスーパー獣医である！『Dr.野村の犬に関する100問100答』『ミミズに笑われない生き方』など著書も30冊ほど出版。獣医界きっての肉体派としても知られている。

野村　「タケシさん、下のほうは……」「うん、ママ。おちんちんがおっ立ってお勉強にお手がつかないのです」……そんなんなっちゃうじゃないですか、気持ち悪い！　そういうのはホントに「死ね！」と思いますよね。

――またストレートな（笑）。話を戻すと、動物界ではいわゆる種の存続のための殺し合いはあるけど、人間社会のように一種の感情であったり、狂気を持って親を殺すというのはないということですね。

野村　毎日ニュースに載るような、「死んだ人間が見てみたかった」とかそういうことでしょ？　世の中って歯車で動いているの。生き物の世界は歯車のようなもの。そのどれが欠けてもうまく機能できなくなっちゃう。小さな歯車や大きな歯車で動いている生物圏の中に人間圏があって、人間圏独自の歯車で動いているんですよ。その中でぶっ壊れた歯車が1個でもあれば回らなくなってくる。だから、そういう歯車はちゃんと直さないといけない。それは子どもを育てた親の責任でもあるわけで、極端なことを言うと、この一族は全部根絶やしにしなきゃいけないんですよ。

――つまり、一家族でもそういった家族ができると、生物全体に影響があるというわけですね。

野村　あのさ、こう言うと人権がどうとか言う人もいるけど、人権どころの騒ぎじゃないんですよ、生き物の世界って。種の存続の問題ですから。たとえばウルトラ警備隊のキリヤマ隊長は、「人間一人の命は地球一つよりも重い」とか言いましたけど、僕は子どものときに「そんなことはねえよ！」って思いましたからね。なぜかと言うと、人間一人のために地球がなくなっちゃったら、地球の動物も人間も全部死んじゃうんですよ！

――確かにそのとおりですね（笑）。

野村　地球全体と、人間一人の命を天秤にかけたら、人間一人の命なんてクソ以下でしょう。だから、一部のキ○○イのためにみんなに迷惑がかかったらダメだっていうことなんです。

――それを許しちゃうと、人間の存続の危機なわけですね。

野村　親を殺すような子どもは、他人も殺すんじゃないですか。だって普通の人は、親と他人でどっちを殺すかといったら、親より赤の他人を殺すでしょう。赤の他人を殺すよりも抵抗があることをやっちゃうわけですから。これは反抗期とか、子別れとかいうレベルじゃないのね、親殺しっていうのは。

――よく獣のような行為とか言いますけど、よっぽど人間のほうが危ないですね。

野村　まあ、だから正常な動物であれば、親殺しはめったにないし、あるとしたらいずれにしても種の存続のため。そういう意味では、この親子は理にかなってますよ。結局、反抗期を乗り越えて曙が自立するという話なわけですからね。

――なるほど。今日はたいへん勉強になりました！

［08年6月8日／野村獣医科Vセンターにて収録］



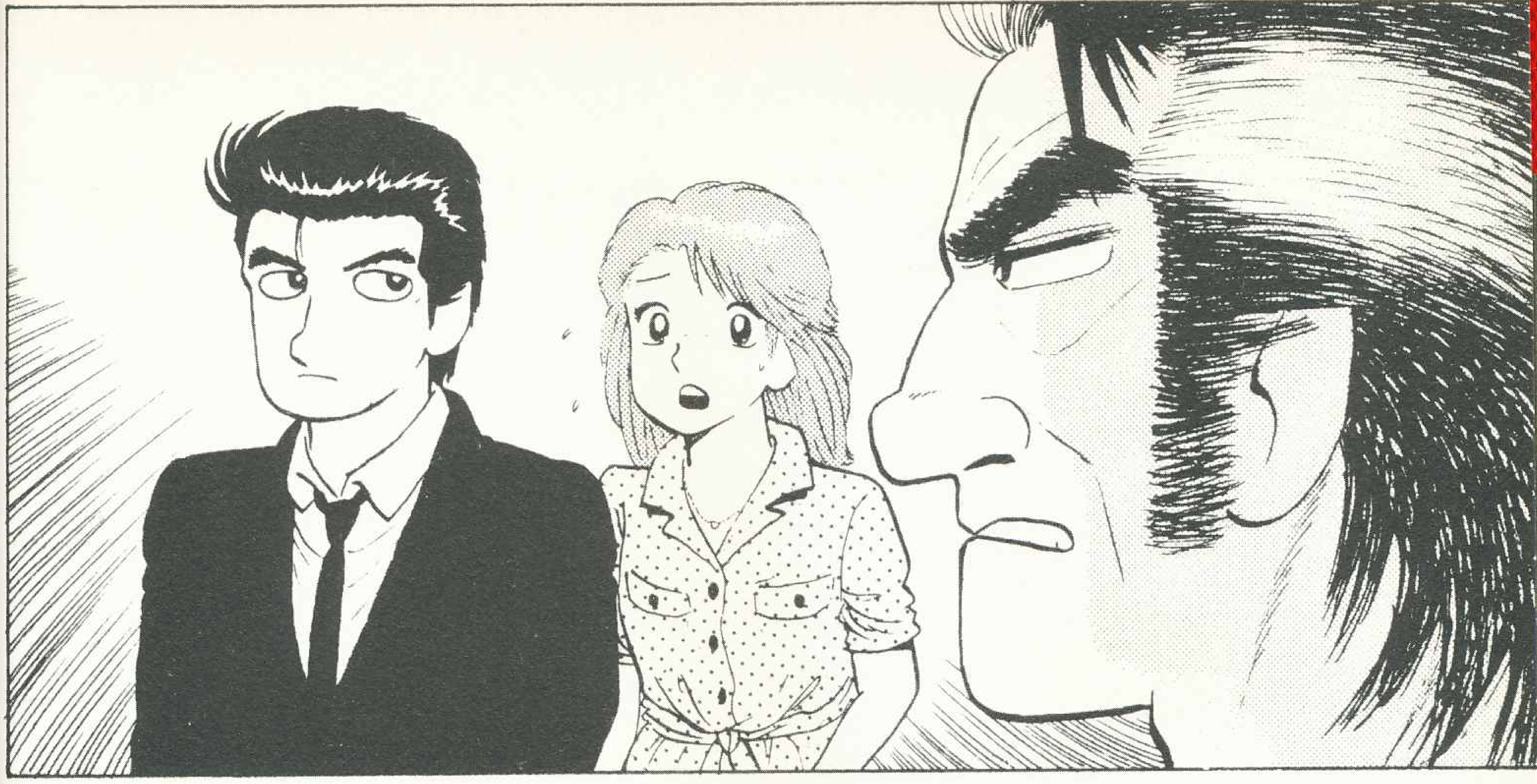
特集

料理とは、〝闘い〟である!!

料理もプロレスも〝おいしさ〟の陰に〝厳しさ〟あり!!

食えばわかるさ!　いつ何時も生活に欠かせない“食”の世界だが、一寸先はハプニング、食糧危機もささやかれるこんな世の中だから、マット界も料理界も厳しく、おいしく原点回帰してほしい。そんな気持ちを込めて『kamipro』が送る、料理と闘いをめぐる12ページ特集、始まるぞ!!

モデル／周富徳　撮影／乾晋也



©雁屋哲・花咲アキラ／小学館『ビッグコミックスピリッツ』連載中

『美味しんぼ』とは、“闘い”である!!

文／マッスル坂井

『kamipro』料理特集のトップバッターを飾るのは、マット界随一の文系レスラーであり、『美味しんぼ』フリークを自認するマッスル坂井が、この国民的な人気マンガを“闘い”という側面から、なんと書き下ろしで執筆!!　連載開始から25年間が経過し、さらに勢いを増す『美味しんぼ』ワールドを解明したぞ!

構成／真下義之



『美味しんぼ』とは?

1983年から小学館『ビッグコミックスピリッツ』にて連載。雁屋哲原作、花咲アキラ作画のコンビが描く人気料理マンガ。主人公・山岡士郎の“究極のメニュー”（東西新聞）と、山岡の父・海原雄山の“至高のメニュー”（帝都新聞）の料理対決が軸。03年には単行本の売上が累計1億冊を突破。アニメ、ドラマ、映画化もされた国民的作品だ。※左は、本文で言及された「対決！ 村おこし（前後編）」が収録された『美味しんぼ』19巻（小学館）。

日本を代表する人気長寿マンガ『美味しんぼ』の物語の主軸は、東西新聞社文化部・山岡士郎とその父親であり芸術家であり稀代の美食家である海原雄山による料理対決である。〝究極vs至高〟と銘打たれたこの過激な料理対決を、ただの家族間の確執や企業間の争いと捉えてはならない。

料理に対し偏執狂的な愛情とこだわりを持つ海原雄山によって、山岡士郎は幼い頃から父の主宰する『美食倶楽部』の板場で徹底的に料理の修業をさせられた。貴重な青春時代を過酷な料理修業に奪われた怒りと、雄山の叱責や度重なる料理の作り直しで愛する母親を失なってしまった深い悲しみ。この2点が山岡の父・雄山に対して心を閉ざさせてしまう原因となったことは言うまでもない。

作品の初期に見られる山岡の東西新聞でのグータラ社員ぶりは完全なADHD、つまり注意欠陥・多動性障害（以下、多動）である。仕事に対する極度の集中力のなさ、遅刻癖、激しい感情の起伏など多動の症状すべてに該当する。

となると山岡の多動やニヒリズムは、けっして幼年期から青年期にかけて形成された雄山への怒りや復讐心が原因となってるわけではないんじゃないかということになる。多動の要因の多くは、遺伝的なものであると指摘されているからだ。

もう一つ。多動には天才が多い。エジソン、アインシュタイン、ウォルト・ディズニーなどは重度の多動だったそうだ。ほかのことはからっきしダメでも、得意な分野では天才的な才能を発揮する。

芸術家・雄山の天才性が息子・山岡に遺伝することはおかしいことではないし、その代償である多動を料理特訓で克服させることは、雄山の父親としてあたりまえの教育法だったのである。

天才は親が作る。実際、山岡には料理の才能があったわけだし、会社の一大事業である『究極のメニュー』の担当者にも大抜擢されるし、すべては雄山の天才教育の賜物なのだ。しかし天才は組織に順応しづらい。営利団体である企業ではとくにそうだろう。ことあるごとに上司や同僚と衝突する山岡は、いつ何時会社をクビになってもおかしくないが、裏を返せばそれは社内で対等に競い合える相手がいないだけ。その相手を買って出たのが同じく料理の天才である雄山だったのである。

〝究極vs至高〟の料理対決の中でこの親子の関係を如実に描いたエピソードがあるので簡単に紹介したい。山岡たちが偶然キャンプで訪れた湖東村は、湖を隔てた隣町・湖西村とことあるごとに対立し、争い合っていた。

古くは湖の漁業権をかけて争い、現在は村おこしのイベント内容で揉め合っている。しかし両村の力関係の拮抗が崩れた。それぞれの村が名物料理を作り、村おこしの材料にしようとしていたのだが、なんと湖西村が助っ人として海原雄山を招聘してきたのだ。

当然のように湖東村は山岡たちに

やむにやまれぬ問題に直面したら、皆さんも〝料理対決〟で解決してほしい

助けを求めてくる。こうして〝究極vs至高〟番外編として〝村おこし名物料理対決〟が決定。敵対する両村長の息子と娘の禁じられた恋のエピソードなども交えつつ、いざ開戦。

雄山が湖で捕れた魚を人工の池でつかみ捕りさせる焼魚料理と湖西村産の豚を使ったスペアリブを出したのに対し、山岡は「湖東村に名物料理などない」と開き直った上で、お客が村で自ら購入し安全に飼育された豚や牛などの家畜を成長後に調理して食べさせるという投資型レストランというコンセプトを提示した。

士郎のアイデアは消費者の視点に立った斬新なものであったが、雄山は激昂。なぜなら雄山がそもそもこの村おこし対決に協力した理由が、じつは両村を仲直りさせるためだったからなのだ。

漁業に力を入れている湖東村と、畜産に力を入れている湖西村が、お互いの名物料理を魚の生け捕りとスペアリブの二つに決定することで、両村が魚と豚を融通し合うようになる。お互いの長所を認め合いコミュニケートすることは、紛争の早期解決の糸口になる。平和を願い名物料理対決をやったというのに、山岡は雄山に勝負で勝つことだけに執心してしまい「なぜ両村が料理対決をしなければいけないのか？」という根本的問題を見落としてしまっていたのである。

結局、山岡側の必死の懇願で料理の再提出が認められ、対決自体は引き分けという結果に終わったのだが、どちらが事実上の勝者であるかは言うまでもない。

僕たちが生きているこの世界では、つねに争いごとが起こっているし、たぶん争いごとがなくなることもない。目に見える争いに発展してなくても、身の周りには問題なんていくらでもある。ムカつくことばっかりだし、ダメな自分にも腹が立つ。でも、たぶんもともと世界はそういうふうにできていて、ちゃんといいこともあるけど悪いことも起こるべくして起こるようにできている。だからわざわざ暴力とかでそういった問題を解決しようというのは、ちょっと違うんじゃないかと思う。

だからどうか読者の皆さんも、親子ゲンカや夫婦ゲンカ、遺産争いに派閥争い、クラスのいじめや学級崩壊、なんでもいい、やむにやまれぬ問題に直面してしまったら拳や弁護士や警察に頼ることなく〝料理対決〟をしてほしい。

なにも自分で難しい料理を作る必要なんてない。基本的に雄山も山岡も料理人ではなく〝料理紹介者〟だ。テーマに沿った美味しい料理をお互いに紹介し、どちらがより優れた料理か批評し合うのだ。「腹が減っては戦ができぬ」なんて大嘘だ。満腹になってこそ戦はできないはずなのだ。試合前にお腹がいっぱいになったら、リングで気持ち悪くなって吐いてしまうこと間違いない。さらにそれが美味しくて仕方なかったりしたら、たちまち多幸感に包まれて、それこそ試合どころじゃなくなってしまう。

絶賛抗争中の新日本プロレスとZERO1・MAXもこれ以上、傷つけ合うのはやめて、まずはじっくりお互いの道場のちゃんこを食べ合ってみたらどうだろうか？　各団体の巡業先で行きつけの焼肉屋ははたしてどっちが美味しいか、思う存分競い合えばいい。

どんなに憎み合っていたとしても料理対決で、どちらが美味いのか白黒ハッキリつければいいのである。同じ料理を食って、お互いの文化や習慣を理解し合えば、リングの上での無駄な争いは少しずつなくなっていくはずだ。

プロレス界にはG1クライマックス、火祭り、チャンピオンカーニバルといった過酷なリーグ戦が多数存在する。すべての試合を料理対決で決着つけさせるのはさすがにアバンギャルドすぎるので選手が満身創痍になった優勝決定戦あたりで〝究極vs至高〟的な闘いを導入したらどうだろうか。傷ついた身体も癒せるし、栄養もとれる。まさに一石二鳥なのである!!



『対決！ 村おこし（後編）』（単行本19巻収録）より。本文のように一度は二つの村に対する雄山の太っ腹な企画に完敗した山岡だが、番外戦で湖西側の魚のダシと湖東村のチャーシューを融合したラーメンで引き分けに持ち込んだ。やはり問題は料理で解決するに限る!!

美味しい結論

結論、料理とは〝闘い〟である。しかしその闘いの決着をつけるのは、〝料理〟なのである！

なぜか気になる『美味しんぼ』エピソード・ベスト3 〝究極vs至高〟だけが『美味しんぼ』ではないのです。

「マルチメディアと食文化」単行本59巻収録

ネット時代の幕開けとともに『東西新聞』にもホームページが開設されることに。しかしWeb担当者と山岡が大ゲンカし（理由はWeb担当者が使っていたWindows機をMac派の山岡が批判したため）結果的に二人は登山へ行く。山の頂上で食べ物の美味しさを再確認した山岡たちだったが、じつは二人ともMacユーザーだったことも判明する。



「ドライビールの秘密（前後編）」

単行本18巻収録

当時、爆発的大ブームとなったドライビールの製造法の謎に果敢に挑んだ問題作。「ドライはビールにあらず」と全否定する山岡がメーカー各社に電話して「ドライビールとは何か？」と質問攻めにする。当時まだ子どもだった自分には山岡がなぜそんなに怒ってるのかまったく理解できなかった。



「トンカツ慕情」

単行本11巻収録



アメリカで大金持ちになった実業家が、極貧時代にトンカツをタダでご馳走してくれたトンカツ屋に恩返しする話。ラストは実業家がお世話になった店主にトンカツ屋をまるまる一軒プレゼントするという超感動作。古典落語みたいで泣けるけど、バブルの匂いもプンプンする！　この原稿を事務所で書いていたらDDTテック社員の松本くんが強引にねじ込んできた一作。



料理は闘いだ！

炎のガチンコ対談

炎の料理人
周富徳

Uインターのチャンコ番長
宮戸味徳

料理の世界も プロレスの世界も 厳しさと伝統が 足りない!

プロレス界一、料理と味にこだわる男として、宮戸味徳（みや・とみとく）の異名を持つ宮戸優光と、尊敬する"炎の料理人"周富徳とのお料理対談が、なぜかプロレス&格闘技雑誌で実現！　リングと厨房の厳しさ、そして情熱には定評のある二人が、プロレスと料理についておおいに語ってくれた！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

料理とは、"闘い"である!!

周　宮戸さん、ひさしぶり！

宮戸　先生、おひさしぶりです。

——お二人はもともとどういうつながりなんですか？

宮戸　もともとは僕が先生のファンで、先生が出された『中華のおかず』っていう本を個人的に本屋で買ったんです。それを見ながら料理を作ってみたら、これがおいしくできるんですよ！

周　宮戸さんは、高田の道場（Uインター道場）でおかず係をやってたんだよね。

——道場で本格的なエビチリとか作ってたらしいですね（笑）。

宮戸　僕が作っておいしいんだから、この本を出した本人が作ったらどれだけおいしいんだろうと思って。そんな興味で周さんのお店に食べに行くようになったんですよ。それである日、Uインターで役員をやってた鈴木健さんと、選手と一緒に食べに行ったら、健さんってけっこう物怖じしない人でしょ？

——いい意味で遠慮がない人ですよね（笑）。

宮戸　ちょうどプロレス雑誌を持ってたから、それを係の人に見せて「いま、このメンバーで来てるんですけど、今日は周さんいますか？」って聞いたら、周さんが僕らの席に来てくれたんですよ。そこでお話しさせてもらって、ちょうどその当時、周さんは『周富徳のお助け料理指南』っていう、いろんなところに行って、料理を作ってあげる

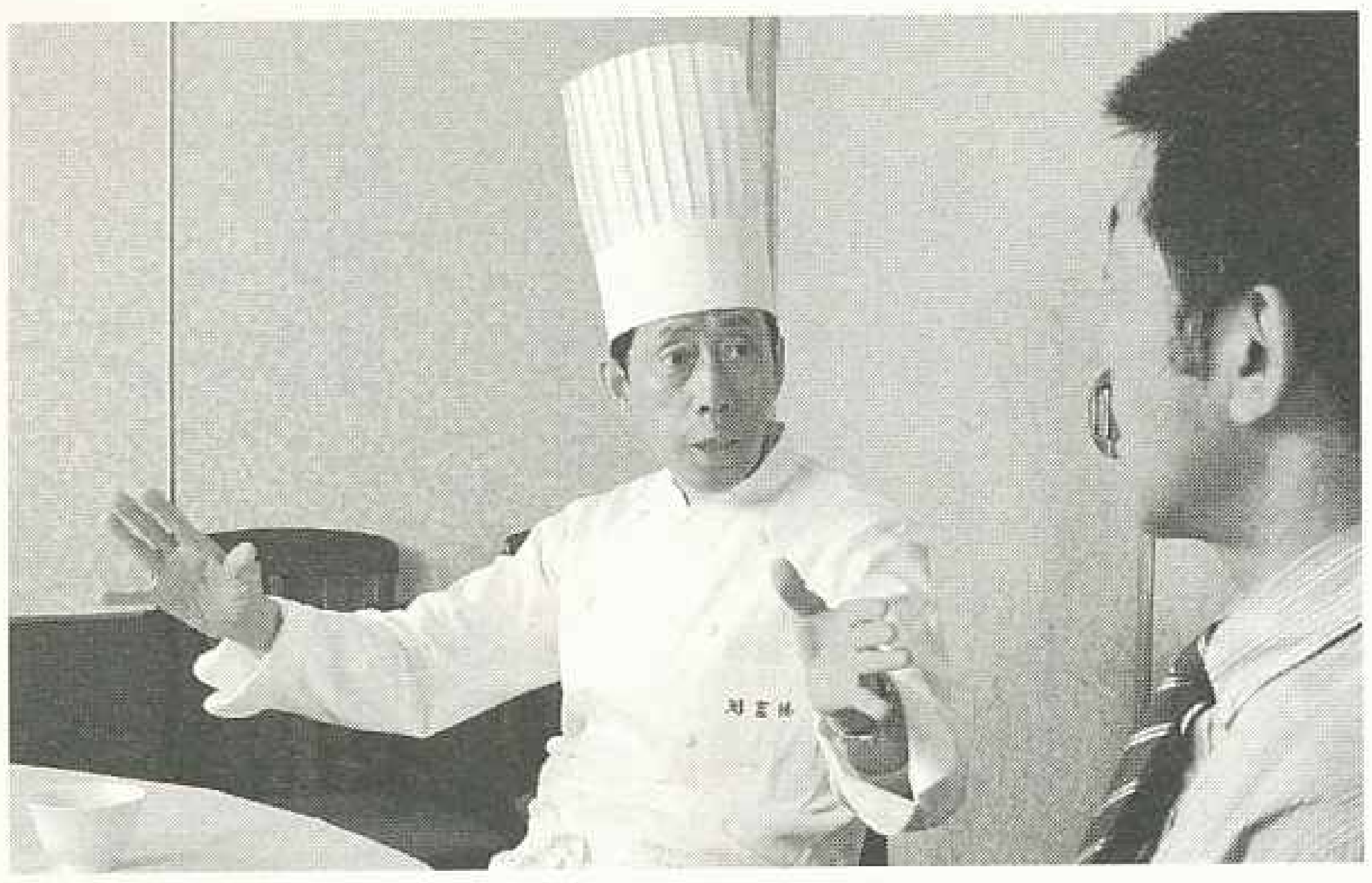
お料理の世界といまの格闘技の世界は、似てると思うんですよ（宮戸）

番組をやってたんですよ。

周　そうそう。お昼の『ワイドウォッチャー』ていう番組のワンコーナーね。

宮戸　それで「ぜひ一度、ウチにも来てください」って言ったら、「それいいな。やろうやろう」なんて言ってくださって。その翌週にテレビ局から電話があって、ホントに道場まで来ていただけたんですよ。

周　道場にロケに行ったら、おかず係の場所があって、そこで料理したんだよな。





宮戸　それでレモン鶏と、黒豆とスペアリブの煮込みを作ってもらったんですよ。また周さんのお弟子さんたちがプロレス好きだったこともあって、それ以来、親しくさせてもらってるんですよ。

——なるほど。じゃあ、もう長い付き合いなんですね。宮戸さんは、もともと料理は好きだったんですか？

宮戸　子どもの頃から好きでしたね。

周　そりゃ好きだよ。好きじゃないと、あんなにできない。宮戸さん、熱心だよ。ここの調理場、何回も手伝い

やっぱり専門は専門よ。なんでも屋じゃ、平均の味しか作れない（周）

に来たよ。

宮戸　若手時代に僕がちゃんこ番のとき、先輩が「おいしい」って言うんですよね。そう言われると嬉しいじゃないですか。それでいろいろメニューを考えたりしてましたね。

周　その気になるんだよな。「おいしい」って言われるとな。

——料理人もそうやって育っていくものですか？

周　そうね、やっぱり素質だよ。素質ない人に一生懸命教えても、やっぱり一味違うから。ホントよ。なんの商売もそうだと思うよ。

宮戸　先生、やっぱりお料理っていうのは、技は覚えても味は教えられないものですか？

周　教えてもダメよ。あれは目で見るんだもん。とくに俺たちは（調味料の分量が）手の時代だもん。いまはスプーンだけど、指の感覚だもん。それは口で言ってもダメ。自分の感覚だから。

——「見て盗め」ってことですね。なんかプロレスに似てますね。

宮戸　似てますよね。あと、料理の世界といまの格闘技の世界が似てると思うんですよ。いま、総合格闘技っていって、柔道、レスリング、ボクシング、いろんな技術をちょこちょこ学んでミックスした選手が多いんですよ。お料理で言うと、無国籍料理とか多国籍料理みたいな。

周　ああ、なんでも屋だ。でも、それじゃダメだ。なんでもやるって料理人は、だいたい味は普通よ。

宮戸　そうなんですよね。

周　やっぱり専門は専門よ。頑固親父がやってる鰻屋なんて最高よ。中華料理でもそうよ。中華って言っても、上海、広東、北京、四川って分かれてるんだよ。俺なんかテレビで「四川料理やって」って言われても、「俺の専門分野じゃないからやらない」って断るから。

宮戸　知らない人が見たらね、中華料理はみんな同じだと思いますけど、違うんですよね！

周　そう、調理場の作りが違うもん。

宮戸　あと、いわゆる"なんでも屋"と、しっかりとした専門を持っている人が、違う要素を取り入れて、新しいものを作るのとでは、全然違いますよね。

周　それならわかるよ。エビマヨを考えたのは俺だからね。

——そうなんですか！

周　それまで広東料理にはなかったから。あれ、似たような料理をサンタモニカで食べて、それをアレンジしたのよ。『料理の鉄人』で道場六三郎を破ったのもエビマヨとチャーハン。

宮戸　やっぱり専門の人って強いと



これが周さんがかつてUインター道場で作った「レモン鶏」。カラッと揚がった鶏肉に酸味と甘みが絶妙なソースがかけられた一品。これは岸朝子も絶賛するはずだ！

思いますよ。アレンジ料理を出しても、専門の人が作るアレンジ料理と、あちこちをちょっとずつ勉強したような人が作るゴチャゴチャ料理は違いますからね。

周　そうなんだよ。なんの料理かわかんなくなっちゃう。

宮戸　そういう意味ではね、格闘技の世界でも、桜庭にしても、吉田（秀彦）選手にしても、ヒクソン・グレイシーにしても、専門を持ってる上で、アレンジをして自分のスタイルを作りあげてる。最初から総合ってことで、いろんな技術をチョコチョコ学んだ選手で、名前が残ってる人って少ないですよね

——試合に印象が残らないし、プロとしての個性がなかなか見られないですよね。

宮戸　でも、バックボーンがあって、それをアレンジする選手はいいと思いますよ。

周　やっぱり基本がちゃんとしてる人がやれば、何をやっても大丈夫。道場六三郎、和食にない食材使って、いろんなもの作ってるよ。でも、あれは基本わかってる。だからおいしいよ、道場さんの料理。

——本当に和食を知ってるからこそ、新しい和食が作り出せるわけですね。

周　そう。僕と道場さんが知り合ったのは、道場さんが「和食にツバメの巣を使いたい、ピータン使いたい、ナマコ使いたい」って言ってきたからよ。だから道場さんが『料理の鉄人』で有名になる前から、俺はよく食べに行ってたから。

——周さんは『料理の鉄人』という番組が始まったとき、どう思いましたか？

周　俺はその前に『浅ヤン』やってたから、いいと思ったよ。ただね、『料理の鉄人』の闘いはね、遊びですよ。違う料理で闘ってるんだから、審査になるわけないじゃん。

——中華とフレンチを比べたりするのは、ナンセンスと言えば、ナンセンスですよね（笑）。

周　あれ結局、勝ち負けはもう決まってるようなもんだよ。

——ダハハ！　そうなんですか!?

周　ホントよ。2回出演したら、だいたい1対1になるんだから。みんな真剣にやってるけど、結局は遊びみたいなもんなんだから。負けるのがイヤな人は出ないほうがいい。だから京料理は絶対に出ないよ。のれんがあるから。

——ああ、なるほど。

周　『浅ヤン』だと思って出れば、負けてもなんともない。あれも似たようなもんよ。それとね、あれは鉄人がちょっと有利かもね。俺、スタジオでずっと見てたのよ。そのとき、テーマ食材が「麺」だったんだけど、食材って本番で初めてわかるはずなのに、なぜか陳建一は麺棒持ってきてたんだよな～。いいカンしてるよね（笑）。

——ガハハハハ！

周　だからカリカリしちゃダメ。ホントの勝負じゃないけど、あれはみんなが興奮して、料理好きになったりしたから良かったんじゃない？

——確かに『料理の鉄人』というエンターテインメントによって、料理の人気が上がりましたからね。

周　エミー賞の候補に入ったんだから、俺と道場さんの闘いが。

宮戸　ああいう番組でお料理に興味を持って、コックさんになった人もいま多いんじゃないですかね？

周　それはいると思うよ。

宮戸　そういう意味では、いい意味で影響力あったんじゃないですか。だっていまコックさんってなりたい職業の上位にきてるらしいじゃないですか。

——昔、猪木さんに憧れてプロレスラーになろうと思った人が多かったように、鉄人に憧れて料理人になろうと思った人も多いでしょうね。

周　だからテレビでああいうことやるのは、いいことだと思うよ。

——宮戸さんはUインターを退社されたあと、中華の修行をされましたけど、どうしてそちらの道へ行こうと思ったんですか？

宮戸　周さん一門の方がいろいろ応援してくれまして。先生にも「じつはプロレス辞めたんですけど」って話して。で、チラッとお料理の話をしたんです。

周　食べ物屋やると思ったもん。

宮戸　そしたら「じゃあ、調理場に遊びに来いよ」って言ってくださって。それでお手伝いさせてもらったり、勉強させてもらって。ただね、いざ入ってみたら、やっぱりお料理の世界ってそれこそプロレスよりキッいんじゃないかと……。

周　どんな世界でもそうよ。

宮戸　とくにお料理の世界は何が大変かっていうとね、レスリングなら、たとえば長くても4～5時間とかね、一日の練習時間はそのぐらいじゃないですか。けど、お料理の世界は朝来て、ずーっと、もう12時間以上ですから。

周　服部（幸應）先生がよく言ってたよ、俺がマスコミに出てバンバンやってるから、「料理学校の生徒が増えた」って、喜んでたよ。ウチにもたくさん来たけど、やっぱり辞めちゃうヤツ多かったね。

宮戸　お料理学校までは我慢できても、厳しいお店に入ったら、保たない人が多いんでしょうね。

周　でも、いまの若いの、心配だよね。フリーターだって威張ってて。昔だったらフリーターじゃないよ、無職だよ。

宮戸　そうだよ！　無職なんだよ、フリーターっていうのは！

——ガハハハハ！

周　俺、フリーターって将来心配だよ。やっぱり本職持たないと生きていけないよ。でも、俺なんか（月給）6000円で入ったじゃん。でも、いまの人は面接来ると、まず「給料いくら？」が一番。二番目は「休みどれぐらい？」。全然違うよ。俺なんか「だったらいらねえ」って。いまそういう時代ですよ、変わっちゃった。

宮戸　それで入っても厳しかったら

宮戸味徳㊙レシピ公開！ これがUインター最強ちゃんこだ！

用意するもの

鍋、お玉、おろし金
ボール（大）ボール（中）

材料

鶏モモ肉：1kg
長いも：1本
キャベツ：2コ
大根：2本
ほうれん草：2羽
しいたけ：3パック
長ねぎ：4本
玉ねぎ：3コ
豆腐：2丁
エノキ：2パック
味噌：1パック
レモン：6コ
ショウガ：1パック
玉子：1パック

調味料

昆布（だし汁用）、しょう油、味の素

つけダレを作る（タレがポイント!!）

1. 宮戸流のタレは、大根おろしにレモンを入れる。（柑橘類の中でレモンを使うのがUWF流）
2. しょう油を適量入れて、タレは完成！

具の仕込み

1. 鍋に昆布だしを取る。（水は鍋の2／3が目安）
2. だし汁を取った昆布も、結んで具にする。（身体にもイイ！）
3. キャベツ、ほうれん草、大根、しいたけは、一口大
4. 肉団子を入れる玉ねぎは、みじん切りにする
5. 玉ねぎと鶏肉をよく混ぜる
6. おろしショウガを入れ、さらにおろした長いもを投入！（精たっぷり）
7. 味噌を大さじ3杯入れる
8. 溶いた玉子を、ダンゴが作れる固さになるのを計りながら流し込む

これで、鍋の具の仕込みは完了

材料をゆでる!!

1. 大根は固いので先に煮る
※次にいく間に、つけダレを作ります（左を参照）
2. 肉ダンゴは手で一口大にして投入！
3. 肉ダンゴが煮えたら、しいたけ、大根、ほうれん草を入れ、約5分間、煮て……

最強のチャンコのでき上がり!!!

周先生には若い人に本物の広東料理をもっと伝えていってほしいですね（宮戸）

すぐ辞めちゃいますもんね。

周　そう。すぐ辞めるんだよ。昔は辞めたらもう（料理の世界には）入れねえから。狭き門じゃん。

宮戸　プロレスもそうですよ。昔は、辞めるっていうことは、もうその世界はおさらばすることですからね。けど、いまはどの世界でも、ここ辞めても次があるって、いくらでもやるでしょ？　辛抱する気ないですもん。イヤなら辞めりゃいいやと思ってるから。

周　いま簡単に辞めちゃうもんな。だから職場に厳しさがなくなってきたし、相撲なんかも殴ったらもう捕まるもんな。

宮戸　いきすぎた稽古はもちろんいけませんけど、厳しいかわいがりまでなくなったら、相撲界じゃないですよね。

周　稽古場なんだから、ぶったり殴ったりはあるよな。

宮戸　昔、先生なんかも若い頃は厨房で蹴飛ばされたりとか、あったんじゃないですか？

周　あるある！　熱いおたまでね、キュッて押しつけられたりするんだよ。怖かったよ。でも、そんなにやたらとあるもんじゃないよ。よっぽどだから怒られる。でも、いまならそんなことでも訴えたりするもんな。へんな時代だな。いいものが育たないよ。

宮戸　ホントにそうですね。

——宮戸さんはプロレスの世界に戻ろうと思ったのってどういうことだったんですか？

宮戸　お料理の世界の厳しさを思い知ったのはありましたけど（笑）、高田さんがヒクソンに負けたことのショックが大きかったですね。

——高田vsヒクソン戦が引き金でしたか。

宮戸　プロレスが負けたということを突きつけられたとき、これからプロレスはどうなるんだろう、と思って。そのときにUインター時代にコーチを受けてたビル・ロビンソンの顔が浮かびましてね。高田さんは負けてしまったけど、ロビンソンに100パーセントのコーチを受けて、いわゆる古いプロレスをホントに身につけたレスラーが闘ってたらどうなったんだろうって想像したときに、これはこのまま消えるわけにいかないなっていうことで、いまの道場を始めたんです。

——プロレスを残さなきゃいけない、みたいな使命感があったわけですね。

宮戸　はい。だから、周先生も広東料理の生き字引みたいな方ですから、これからも中華料理界のみならず、料理界でね、もっともっと若い人に本物の中華料理、本物の広東料理を伝えて残していただきたいな、と思っているんですよ。だって先生が昔やられてた仕事で、いまやらなくなってる仕事っていっぱいあるんじゃないですか？

周　あるある。たとえばフカヒレは、俺たちのときは真っ黒い皮がついたヤツから調理したけど、いまはもう冷凍を戻すだけだからね。

宮戸　いろんな仕事が省かれて、そういった技術を持たない料理人も多いでしょうね。

周　鶏なんかも昔は、俺たちは生きてるのを潰してたけど、いまの若い人はできない。まあ、それはしょうがないけどね。いまの人は鶏一匹さばけって言ってもできない。香港はまだ生きた鶏しか売ってねえから、みんなさばくけどね。

よ。見たことないでしょ？　日本も昔はそう

——ないですね。

周　中華街では、みんな生きた鶏が籠に入ってるの。それをお尻触って買うんだもん。

宮戸　こういう話をね、若いコックさんが聞くだけでも凄く大切なことですよ。いま、たとえばそれはなくなってても、そういうものがあったんだっていうことを知ってるのと知らないのでは、もう全然違いますから。そしたら感性の鋭いヤツは、「じゃあ俺は、そういうところから勉強しよう」って思うかもしれない。そういう意味では、若いコックさんたちにね、そういった古い技術とか、先輩方の時代の話にもっともっと興味を持つべきだし、先輩方には教えてもらいたいですね。そしてそういうものを身につけてもらいたいと思いますね。

——本物の伝統を知り、本物の技術を身につける。料理もプロレスも一緒なわけですね。

宮戸　ホントにそう思いますよ！

周　じゃあ、取材これで終わりでいい？　宮戸さんの道場で出したレモン鶏とチャーハンでも食べていってよ。

宮戸　いやあ、うれしいですね。

——遠慮なくいただきます！（笑）。今日はありがとうございました！

【08年6月3日／東京・青山、『広東名菜富徳』にて収録】



みや・とみとく■"Uインターの頭脳"宮戸優光のキッチンでの異名。道場と厨房での厳しさには定評がある。第一次、第二次UWF、UWFインターを経て、現在は高円寺で「UWFスネークピット・ジャパン」を運営。

しゅう・とみとく■1943年3月11日、横浜の中華街生まれ。18歳で料理の道に入り、赤坂「広東名菜璃宮」の総料理長などを歴任。現在は「広東名菜富徳」青山店のオーナーシェフを務めている。通称・炎の料理人。

料理とは、"闘い"である!!

いまは簡単に辞めちゃうフリーターばかりで職場に緊張感ないよ（周）

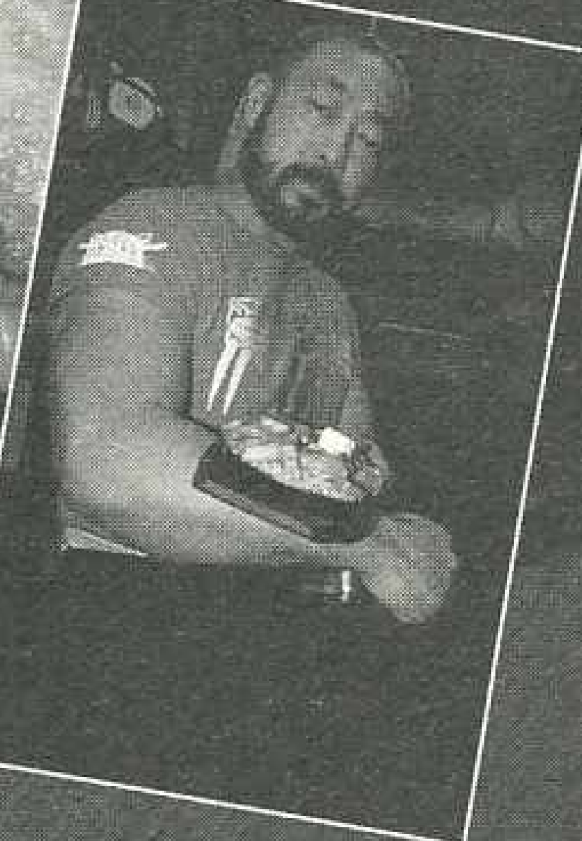
最強の結論
プロレスも料理も「基本」「伝統の技術」そして「厳しさ」が必要！

デスマッチ界のリビング・レジェンドが激白!

料理の世界は ステーキ危険地帯(デンジャーゾーン)!? デスマッチよりもハードコアだ!

ステーキハウス『Mr.デンジャー』店主

松永光弘



プロレスラーといえば血のしたたるステーキ! ステーキといえば、現役レスラーのかたわらでステーキハウス『Mr.デンジャー』を経営し、つい先日自らのデスマッチ人生にピリオドを打ったばかりの松永光弘の登場だ! 肉をひたすら焼き続けて11年、数々の奇想天外なデスマッチを繰り広げてきた松永が語る、料理のハードコアな世界とは!?

聞き手／鈴木佑

——今回は「料理とは闘いである」をテーマに松永さんにお話をお聞きしたいと思います!

松永 よろしくお願いします。

——飲食店経営に乗り出すプロレスラーは多いながらも、人知れず閉店してるところが少なくないと思うんですが、「Mr.デンジャー」はオープンしてからけっこう経ちますよね?

松永 もう11年になりましたね。振り返ると本当にいろんなことがありましたよ……(シミジミと)。それこそ今回の企画じゃないですけど飲食店をやっていくのは闘いだと思いましたね。これまでに店舗展開で失敗したり、痛い目も見たり……。そのあたりは去年出した『人生の壁を破る50の反則』(オークラ出版)っていう本に詳しく書きましたけど。

——『人生の～』はそのタイトルどおり物騒な内容が満載でビックリしました! とくにフランチャイズだった『Mr.デンジャー 水道橋店』のオーナーと、弁護士を介して闘争したっていうところが赤裸々で(笑)。

松永 「あそこまで書いていいの?」って周りに心配されましたから(笑)。まぁ、現在の店の状態が順調だから書けることではあるんですけど。

——料理人としても修羅場をくぐってきたわけですね。

松永 確かに料理は闘いですが、経営者としては料理を作ることだけが闘いではないですね。自分では自分のことを「料理人じゃなく商売人」だと思ってますから!(キッパリ)。

——なるほど。具体的に料理人と商売人の違いというのは?

松永 たとえば料理人は「このダシを取るのに何日かかった」とかこだわりを持ってると思うんですけど、それがお客さんに伝わって「うまい」となるかはまた別の話で。こだわりって自己満足になることが多いと思うんです。自分の場合は、それと近い味を1時間で作れる方法はないかってことに力を入れますね。肉に関してはどこよりも手間暇かけますけど、ほかの部分では徹底的に商売人として日々闘ってます!

——闘ってますか! 経営者ならではの重みのある言葉ですね。

松永 同じ味を作るのに片や3日かけて、こっちは30分とか現実にありますし。以前、フランチャイズのラーメン屋をやってる知り合いが「本部から買う煮玉子用の〝つけダレ〟が高い」ってボヤいてたんです。試しに舐めてみたら、醤油とかつお節を煮ただけって気づいたんで、醤油を買ってきて本ダシを混ぜてその知り合いに舐めさせたんですよ。そうしたら「味が一緒だ!」って驚いて。本部の人がその玉子を食べに来てもうまいって言ってたらしいですから(笑)。

——ダハハハハ! 松永さんは数々のデスマッチを考案してますが、料理人としてもアイデアマンですね(笑)。いままで肉を焼き続けてきて〝闘い〟を感じたのはどんなときですか?

松永 やっぱり01年頃の狂牛病騒ぎのときは〝死闘〟といっても差し支えないくらいでしたね……。肉を扱ってる側にすれば大打撃でしたから。

——しかも商品名が「デンジャーステーキ」だと別の意味にも取られちゃいそうな(笑)。

松永 「食べたら危険!」なんて意味で名づけたわけじゃないんですけどね(笑)。まぁ、あのときに料理はデスマッチよりも厳しいってことを痛感しましたね。

——デスマッチよりもハードコアである、と。

松永 狂牛病対策としては肉を買い溜めして。株と一緒で、どのタイミングで購入するか状況を読むのが難しかったです。あとは使用していた肉に違う部位を混ぜてコストダウンを図ったり。そのときは「当店はアメリカ産、オーストラリア産、国産ホルスタインの3種類を混ぜています、違いがおわかりいただけますか?」って、お客さんに楽しんでもらえるようなポップを店内に貼ったりして。

——ほ～、クイズ形式に!

松永 お客さんも「二種類は判別できたんだけどもう一種類がわからないなぁ」なんて言ってくれたり。配合の割合とかも値段が高騰してない部位を探して研究しましたし。ウチは普段から肉を軟らかくする作業に手間暇かけるんですけど、それをさら



松永が経営するステーキハウス『Mr.デンジャー』は東武亀戸線『東あずま駅』より徒歩3分! 男も女も黙ってステーキ! 東京都墨田区立花3-2-12 田中ビル1F／TEL／03-3614-8929／営業時間／平日 PM5:00～AM0:30 日祝日 PM5:00～AM0:30／定休日／水曜日

料理とは、"闘い"である!!

に汗をダラダラ流しながら念入りにやって。肉屋さんが「ここの部位をこれだけのステーキにするとは」って絶句するくらいでしたから。

——専門家に驚かれるとは凄い!

松永 それだけ試行錯誤して培ってきたものがあるので、いまはお店も好調子ですね。今年の4月にはTV番組の「ぴったんこカンカン」で紹介されたこともあって、売り上げも新記録が出ましたし。

——宣伝効果があった、と。デスマッチを引退されてもお店が順風満帆でなによりですね。

松永 おかげさまで(笑)。あと料理を通じて"闘い"を感じたことっていうと、単純に労働時間になりますね。やってみて飲食業はハードだなっておもいしりました。一日に200人のお客さんが来る日なんかは……厨房は戦争ですよね。7~9時間くらい熱いところで立ちっぱなしで肉を焼き続けるわけですから。

——リング上とはまた違うキツさなわけですね。

松永 死ぬ前に労働時間を見直そうってスタッフと相談して営業時間を短縮したくらいです。

——生命の危機を感じるほど壮絶だった、と(笑)。

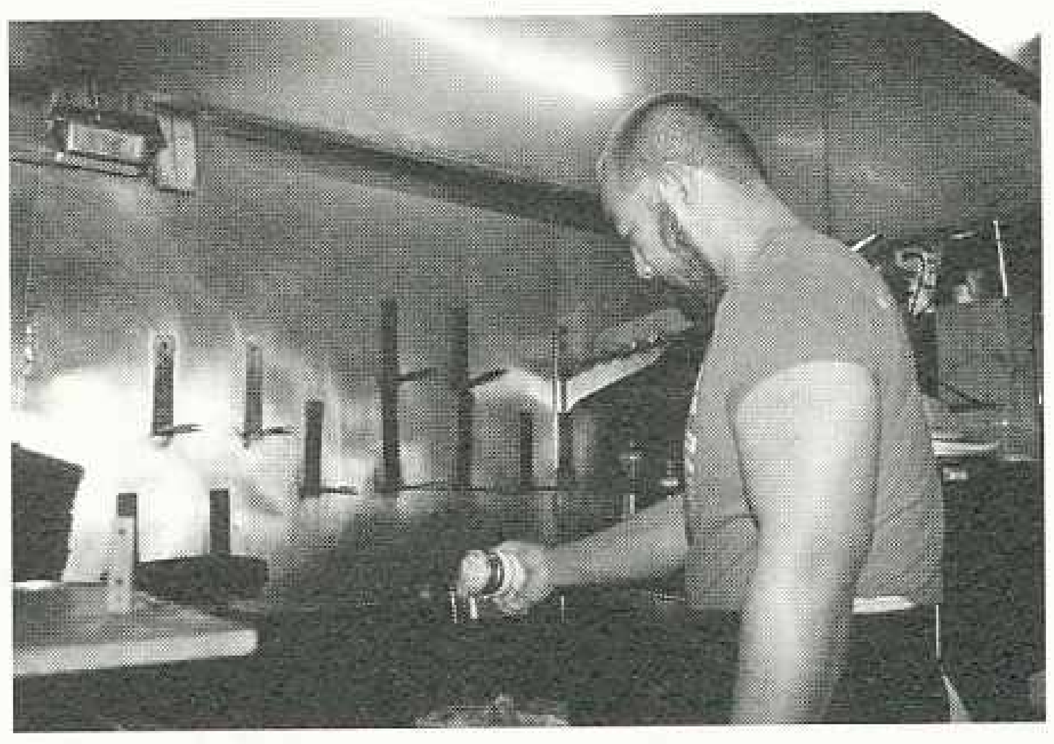
松永 土日なんかはお客さんがいったいいつまで来るの? って感じですよ。だけど回転が早いから200人オーバーでも回せるんですけど。居酒屋をやってるプロレスラーから相談を受けたりしますが、居酒屋は回転が悪いからしょうがないよって言いますね。

——ちなみにプロレスラーも来店するんですか?

松永 ちょくちょくとまでは言わないまでも来ますね。

——これだけ繁盛してると「俺もこういう店やりたいんだけど」って相談されたりとかは?

松永 そういうこともありましたね。でも……話を聞いてるとやっぱり考えが甘いですね!(キッパリ)。プロレスを続けながら店は人任せっていうつもりじゃ到底無理です。やるなら、自分みたいに弟子入りしてとことん身を入れないと!



まつなが・みつひろ■1966年3月24日生まれ。学生相撲、空手を経て89年にプロレスデビュー。W★ING時代に後楽園ホールのバルコニーからダイブを敢行し、"Mr.デンジャー"の称号を得る。以降、あらゆるデスマッチに挑戦し続けるパイオニアとして活躍。97年より、東京・亀戸でステーキハウス『ミスターデンジャー』を営業中。08年5月17日の大谷晋二郎との「ガラスレイン鉄球地獄デスマッチ」でデスマッチを引退。

自分は「料理人」じゃなく「商売人」狂牛病騒ぎはまさに"死闘"でした

——中途半端じゃ通用しない、と。

松永 自分は基本的に試合や法事のとき以外は店に立ちますし。お客さんに来てもらったのに僕がいないと次は来てもらえないと思うので。

——期待して来たお客さんはガッカリしますよね。ステーキ屋をやってきてプロレスに活かせたことってあります?

松永 うーん、逆に活かしたかったのに活かせなかったのは、チケットの値段ですね。飲食店は安くてうまければ基本は流行るわけですよ。だけど正直いまのプロレスって高くてまずいものが少なくないと思うんです。自分に言わせたら後楽園ホールは5000円が妥当かな、と。

——そのくらいだとファンの財布にも優しいですね。

松永 単純にいまは観る人が少ないから、取れるところから取ろうっていう発想は逆効果だと思うんですけどね。飲食店だったら高くてまずいじゃすぐ潰れちゃいますから。

——普通ほかの店に行っちゃいますよね。飲食店をやるうえで参考にしたものはありますか?

松永 「日経レストラン」っていう専門誌はよく読んでますね。流行ってる店はいろんなことをやってるなって勉強になりますよ。アイデアを駆使しないとって思います。ウチも内装を収容所っぽくしたり。

——そこはかとなくデンジャーな雰囲気が漂ってますよね(笑)。

松永 もちろん内装もそうなんですが、いろんな本を読んで重要だと思ったのは外装ですね。まずお客さんが入ってくれないと話にならないし。ウチだったらお店の入り口に手のひら型の大きなイスを並べてたり。

——確かにインパクトありますね。

松永 なんじゃこりゃっていう驚きがないと。もうちょっと広かったら、間口に車が一台突っ込んでもいいと思ってますから!

——それは通行人にもデンジャーな店ってすぐに伝わりますね(笑)。松永さんがお店を経営するうえで信条としてることは?

松永 自分自身が腹を立てないことですね。自分がイライラしてると周りに伝染しますし。ウチみたいに安くてうまいで売ってる店だといろんなお客さんが来ますから。

——松永さんがいるとヘンなお客さんも後ずさる気もしますが(笑)。

松永 それはあるかもしれませんね(笑)。それに自分がトゲトゲしくしてるとスタッフも気を使いますし。

——雰囲気作りが大切なんですね。

松永 だからウチでハプニングってあんまり起こってないんですよね。強いて言うなら開店当初に空手の道場をやってるっていうガタイのいいのが、「勝負しろ!」って酔った勢い絡んできたことはありましたけど。

——寛水流空手出身の松永さんに空手家が挑戦ですか!

松永 こっちはべつに受け流してただけですけどね。剛に柔で返したら相手も拍子抜けしたみたいで。

——料理は闘いであるがお客さんとは闘わない、と(笑)。

松永 お客さんはわがままな人が多いし、お客さんを大事にしつつ自分をコントロールすることが重要ですね。それと、経理表とにらめっこして皮算用してると売り上げって落ちてくんです。で、純粋にお客さんがどうすれば喜んでくれるかって考えてるときは売り上げが上がるんですよ。

——自分よりもお客さんの側に立った視点ってことですね。

松永 あたりまえのことですが、それがサービス業の極意だと思います。不思議なことに、狂牛病のときにお得なセットを廃止したら売り上げ下がったんですけど、やってやれないこともないからってもう一度セットを再開したんです。そうしたら途端に売り上げが伸びたりもしましたね。

——は〜。料理の世界、ひいては飲食業の世界って奥深いですね。

松永 自分は飲食業に関しては現状以上のものはとくに望んでないですね。そもそも牛肉っていう素材は凄く不安定なものなので、いつお店をたたむことになっても問題ないような経営を商売人として心がけてます。また牛肉の輸入が止まる可能性だっていくらでもあるわけですし。

——健全経営ですね、どんなデンジャーな状況にも備えてる、と(笑)。今日はありがとうございました。

【08年5月31日/都内・『Mr.デンジャー』にて収録】

デンジャーな結論

"商売人"としては料理だけが闘いではない!



全女の生き証人

今井良晴が語る 全女ヤキソバ伝説

松永兄弟は、とにかく食いしん坊でした（笑）

“食とプロレス”と聞いて、長いプロレスファンが真っ先に思い浮かべるのは全日本女子プロレスで間違いないはず。松永高司会長自らが焼くヤキソバから、新宿の一等地で経営していたカルビ丼屋まで、食にまつわるエピソードがてんこ盛りの松永兄弟のトンデモ話を、全女の生き証人、今井良晴リングアナに、たっぷりと披露してもらいました!

聞き手／阿修羅チョロ

—今回は「食とプロレス」という特集を組んだのですが、やはり、このテーマだと全女は外せないかなと思いまして、今井さんに、いろいろとお話をうかがえればと思ってます。

今井　要はオチ的な話をすればいいんですよね？（笑）。

—そんな感じです（笑）。で、「全女と食」といえば、なんといっても松永会長が会場で焼いていたヤキソバになると思うんですけど。

今井　ありましたねぇ……。僕が全女に入るもっと前から屋外の興行のときは焼いてましたけど、会長をはじめ松永兄弟って、ああいうバーベキューみたいなこととか、そういうのが大好きでしたからね。

—じゃあ、趣味と実益を兼ねてヤキソバを焼いていた、と（笑）。

今井　あの兄弟にとって夏場の屋外の会場でヤキソバ焼いたりするのは儲けとかよりも、レクリエーションみたいなところはありましたね。

—レクリエーションの一環でヤキソバを焼いてましたか（笑）。

今井　でもね、これがバカ売れするんですよ。周りになんにもない原っぱみたいなところでやってましたから。それにヤキソバなんて原価は安いし、それをまた、しょっぱく焼くんだ。そうするとビールが売れるんで。

—頭を使ってるんですね（笑）。

今井　ビールもまた、どっかから1缶百何十円ぐらいのモノを安く仕入れてきたりしてましたから（笑）。

—今井さん的にはヤキソバの味はどうでした？

今井　味に関して言うと、松永兄弟って食いしん坊なんですよ。テキ屋さんのヤキソバとかって、肉もそんなに入ってないし、たいしたことないじゃないですか。そんなのは嫌みたいで、自分が食べておいしくないとダメなんですよ。

—そのへんはこだわりがあるわけですね。

今井　だから、全女の調子がいい頃はね、肉なんかもけっこう入ってましたし。

—興行の調子と比例して肉の量も違っていた、と（笑）。

今井　そうそう（笑）。

—ヤキソバ以外にも焼き鳥だとかも売ってましたよね。

今井　いろいろとやってましたね。もう、遊び心みたいな感じで、要はお店屋さんごっこですよ。焼き鳥を焼く機械を買ってきたり、大阪で有名なイカ焼きの機械を買ってきて焼いてたこともありましたね。ただ、イカ焼きはなじみがないってことで、あまり売れなかった（笑）。結局、いろんなものを試みたけど、やっぱりヤキソバが一番簡単だったんでしょうね。

—あと、全女と飲食店といえば、事務所に隣接したSUN族というお店もやってましたよね。

今井　SUN族はクラッシュギャルズの絶頂期に、選手見たさにファンが事務所の周りにたむろってるわけですよ。そうすると近所迷惑でしょ。

—当時は凄かったですからね。

今井　なので、どうせだったら店を作って、そのファンたちにお茶でも飲んでもらえばいいんじゃないかという考えで作ったんですよね。

—それはまた合理的ですね（笑）。

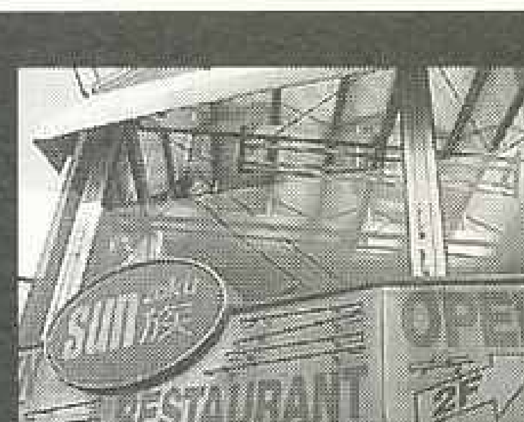
今井　SUN族は亡くなった国松（元全女社長）さんが「俺もお茶飲みたいし」みたいな感じで始めたんですよ。

—そういう理由でしたか（笑）。

全日本女子プロレスと食の歴史

屋外会場で販売していたヤキソバだけでは飽きたらず、喫茶店、レストラン、カラオケボックス、カルビ丼屋、ラーメン屋など、飲食関係のお店を次々に出店していった松永兄弟率いる全女。その歴史をざっくりと紹介します！

SUN族



クラッシュブームで事務所に押しかけるファンを見た松永国松社長（当時）が「お茶でも飲んでもらおう。俺もコーヒー飲みたいし」という動機で始まったという『SUN族』。会見等もよく行なわれていた。現在は消滅。

しじゅうから

カラオケボックスとして全盛期は数店舗展開していたのが今井氏も勤務していたことがあったという「しじゅうから」。全女退団後の立野記代がLLPWに入団するまで店長を務めていたことでも有名。もちろん現在は消滅。

羅漢果ラーメン

歌舞伎町で営業していたカルビ丼屋の経営が傾くと、松永会長は特許を持つ羅漢果ラーメンを販売。しかし、こちらも長くは続かず。ちなみに松永会長は羅漢果ビールや羅漢果酒も特許を出願し、商標を登録済みだという。凄い！

松永会長は羅漢果ラーメンの特許までちゃんと持ってましたから

料理とは、“闘い”である!!

今井 だいたい、あの兄弟は自分が食べたいものとか飲みたいものっていうところから始まってるんで（笑）。ただね、最初は喫茶店って感じだったんだけど、いろんな欲求が出てきて、ちょっとあとにプロの料理人を入れて、けっこううまいものを出してたんですよ。

――本格的な料理も出すようになっていったわけですね。

今井 そうなんですよ。だんだん経営が悪化していって人を雇えなくなっちゃってね。……っていうか、プロの人も嫌になっちゃうんですよ。

――経営の悪化以外にも何か理由があったと？

今井 会長は会長で、海沿いに行くと市場でマグロを仕入れてきちゃったりするわけですよ。それで「これでマグロ丼にしろ！」とか言ってね（笑）。安く仕入れてきたはいいけど、プロから見たら「いや、これはマグロ丼にするマグロじゃないよ」っていう。「俺の目利きで仕入れしたいけど、会長が持ってきたらやらなきゃいけないからまいっちゃうんだよね」っていうのはよくこぼしてましたよ。

――会長らしいエピソードですね（笑）。

今井 そのうちぶつかって、そういう人は辞めちゃうんですよ。そうすると今度は娘たちがやったりして、ちょっとした料理とかお茶を出すような店になっていきましたけど。

――へんな話、スタッフや選手はタダで食べられたりしたんですか？

今井 会長が何か作ったときは「おい、食えよ」って言ったりはよくありましたね。それこそ一時期、ラーメンに凝っちゃって、のちに商品化した羅漢果ラーメンのときなんて、毎日出されて試食させられてねぇ（苦笑）。

――ありましたねぇ、羅漢果ラーメン。



いまい・ながはる■1959年10月16日、東京都目黒区出身。全日本女子プロレス入社後の91年4月21日、後楽園ホールでの高橋美華＆神谷美織vs長谷川咲恵＆山元真由美戦でリングアナウンサーデビュー。ほかにも広報、営業、リング設営など全女のために倒産後もフル活動。現在はフリーリングアナ、イベント司会、さらには合気道家としても活動中。

今井 俺はうまいと思わなかったんで、なるべく避けてましたけど（笑）。

――羅漢果ラーメンって、会長が開発したっていう話でしたけど。

今井 そうなんですよ。羅漢果というものを麺に練り込んでっていうのは会長がホントに考えて、特許まで持ってましたからね。

――特許も持ってたんですか！

今井 ちゃんと商標として持ってましたよ。羅漢果っていうのは自分が糖尿なんで身体にもいいって聞いて、これを練り込んで麺にしたらいいんじゃないかと思って、実際に作って特許を取ったんです。そこまではいいんですけど、それを当時、麺を仕入れてた製麺所にアイデアを持っていったら「じゃあウチでやらせてくれ」って言われたんですよ。

――エッ、商品化の話も!?

今井 そうなんですけど、会長は提携してやるんじゃなくて、自分で全部やりたくなっちゃってね。でも結局、プロじゃないから当然、商品化はできないんですよ。プロの製麺所がホントに作っていたら、もしかしたら当たったかもしれないんだけど。そこがね、会長の貧乏性っていうか（笑）。

――猪木さんもタバスコの特許を持ってたりしましたけど、手放してから売れたという話に近いですね。

今井 似てるところはありますよね。飲食業に限らずですけど、ちゃんとしたところとうまく組めばいいものを「俺がやる、俺がやる」って最終的には全部頓挫しちゃった、と。

――飲食業はもちろん、不動産売買や株なんかにも手を出して、痛い目に遭ってますからね。

今井 そうですね。飲食系だけで言っても、焼肉屋、カラオケ屋、ラーメン屋、カルビ丼屋といろいろチェンジしながらやってたんだけど、全部ダメっていうね（笑）。

――新宿にあったカルビ丼屋は何回か行ったことがありますけど、味はともかくボリュームは凄かったのが印象に残ってますね（笑）。

今井 でも、あの肉は○○屋と同じ肉だったんですよ。

――あ、そうだったんですか。

今井 ○○屋の牛丼がよくできてるのは、やっぱりスライスをして、食べ心地がいい厚さにしてるんですよ。ところが会長たちはボリュームがないとダメだと思って、あの肉をブ厚く切るから全然噛めない（笑）。

――ガハハハハ！ プロレスでは何度かのブームでいい思いもしたでしょうけど、飲食関係では、あまりおいしい思いはしてないんですかね？

今井 そうですね。まあ、全女の看板でそこそこやっていけた時代はあったけど、プロレスの人がやってるから客が入るかっていったら……ねえ？（苦笑）。まあ、食べ物に関しては好きでやってたから、あんまり後悔もないとは思いますけど。

――基本は食べたいモノを作ってたってことですからね。

今井 それと、松永兄弟っていうのは、あまり目が利くほうではなかったんで、いろんな人が興味を持ちそうな商売の話を持ってきて、それに乗っかって失敗しちゃうっていうのがパターンでしたね（笑）。

――そこも、猪木さんと通ずるところがあるというか（笑）。

今井 そうかもしれないですねぇ。結局はヤキソバもそうなんですけど、松永会長って人は商売が好きなんですよ。ちょっと前に出た会長の自伝にも書いたんだけど、子どもの頃、傘を売る商売をしていて、あれが忘れられないわけですよ。雨が降ると人が群がってバカ売れしたっていう、あれが原点なんで。



今井氏が企画・監修を担当し、今年の2月に扶桑社から発売され好評を博している全女元会長・松永高司自伝。危なすぎて自主規制したネタも多々あったらしいが、それでもトンデモエピソードがてんこ盛り！ 必読です!!

――人と向き合っての商売が一番好きだったわけですね。

今井 そうそう。ブームが来て何万人入れる興行を何回やろうが本人は関係なくて、500円でヤキソバ売ったりとか、そういうことをするのが好きな人なんですよ。

――それが最終的には何十億もの借金を背負ったっていうのも凄い話ですけどね（笑）。

今井 会長は「銀行が貸すのが悪いんだ」って言ってましたけどね（笑）。……こんな感じですけど、オチになりましたかね？（笑）。

――問題ないです（笑）。素敵なエピソード、ありがとうございました！

【08年6月5日／都内・池袋の喫茶店にて収録】

食いしん坊的結論
松永兄弟にとって食とはレクリエーションである！

食べれば誰もが破壊王ボディ？

コンビニ弁当とプロレス



01年に発売された伝説の「破壊王弁当」シリーズ。常識を破壊するかのようなインパクトで弁当売り場を席巻！ コンビニ弁当界ではこれに敬意を表し、この年を「橋本元年」と呼んでいるとかいないとか。

特集「料理とは、"闘い"である!!」のトリは、コンビニ弁当とプロレスの不思議な関係をクローズアップ！ え、"闘い"というわりにはいささかダイナミックさに欠けるって？ いやいや、コンビニ弁当をバカにしちゃいけません！ 小さなパッケージの中にも大きな闘いが存在しているのだ!?

文／鈴木佑

夜間や早朝を問わず誰もが気軽に立ち寄れる便利なコンビニは、いまや人々が生活を営むうえで欠かせない存在だ。そんな身近なコンビニと、ボクたちが愛してやまないプロレスが、密接な関係にあることをあなたは知っているだろうか？ そうそう、地方のコンビニなんかじゃ入場チケットの割引優待券が置かれてたりなんかして……、否、話はそんな無粋なことではない。これまでにコンビニの売れ筋であるお弁当とプロレスがタッグを結成、数々のコラボ商品が世に売り出されているのだ！

その中でも衝撃度がケタ違いだったものといえば、いまは亡き橋本真也とのコラボでサンクスより販売された「破壊王弁当」シリーズだろう。とくに注目を集めたのは「スタミナ弁当」1500キロカロリー！ 一食で成人男性1日分の摂取カロリーに近づくという、掟破りにもほどがある一品だ。気になる中身は「スタミナ焼肉つばめ返し」に「ブレーンパスタ」、「セントーン（1000tコロッケ）」、「けさ切り・チョップ・ド・ハンバーグ」に「必殺DDTソース」（D＝大根おろし、D＝デミグラスソース、T＝とんかつソース）という徹底したネーミング！ まさに胃を破壊しかねない強力ラインナップに加えて、弁当の底には『完食証明書』なるオマケまでつくという、破壊王の魅力が真空パックされたかのような商品。そんじょそこらのコンビニ弁当とはカニとカニカマボコくらいの違いなのであった。

この盆と正月がWネームでやってきたかのような豪華弁当は、メタボ対策が流行の世間に風穴を開けるかのように大ヒット！ 発売から一カ月足らずで約250万食を売り上げ、サンクスの株価は一時期1000円以上に上昇、好評につき第2弾も企画販売されるほどに。その新メニューの中で度肝を抜いたのは「破壊王の爆盛きしめん」！ きしめんというからにはヘルシーな印象も受けるが、なんとマヨネーズが丸ごと一本ついてくるという破壊王仕様！ ちなみに破壊王は試食会で「ダイエットなんかクソくらえ！」という言葉とともに、これらをオヤツ代わりにペロリとたいらげてしまったとか。

この「破壊王弁当」の成功に続いて柳の下のドジョウすくいとばかりに、ほかのコンビニもプロレスとのコラボ商品を企画！ 01年にサークルKは蝶野正洋をイメージした「STF弁当」（ステーキ（S）、テンプラ（T）、フライ（F）がおかず）、武藤敬司をイメージした「トリプル丼」（当時三冠王者だったことにちなみ3種の丼モノ）を販売。また、03年にはサンクスが当時お茶の間の人気者だったボブ・サップにちなんだ肉感タップリの「ボブ・サップ弁当」を販売している。


コンビニ弁当とプロレスの"夢の懸け橋"となった破壊王！ 豪快に「スタミナ弁当」をたいらげる姿は、まさに"喰らう"といった表現がピッタリ！

流行語大賞に「大食い」がトップテン入りをはたした07年には、スリーエフが武藤敬司監修の「贅沢武藤がこだわる。リッチ＆ビッグ」企画として、全23アイテム発売の大型キャンペーンを展開！ そして08年、ローソンがハッスルとコラボを結成、下記のラインナップが「いまこそハッスルするときだ！」と、売り場を彩ることになる。

このように相性バッチリなコンビニ弁当とプロレス。これからもきっと、食べる側が奮闘しなければいけないような、リッチボディまっしぐらなコラボ弁当が企画販売されていくことだろう。やはり"食"とは闘いなのである！

「マチのほっとステーション」で
3、2、1、ハッスル！ ハッスル！

ローソンとハッスルが"食"のコラボ結成！

7月より全国で発売開始!!

※価格はすべて税込

現在、"日本を元気にさせる"ことを目的とした『日本ハッスル化計画』を他業種と展開しているハッスルが、ローソンと強力タッグ結成！ この夏、日本各地のローソンを舞台にハッスル軍とモンスター軍が食の白熱バトルを展開する！


ハッスルのオープニング劇場を前に、楽屋でモンスターWカルビ焼そばを食べて精をつける川田利明さん（嘘八百）。ウガンダ・トラさんではない、念のため（追悼）。


150円 7/1より

ハッスル 黒カレーパン

食べたまえ！ 高田総統がモンスター軍食品研究所で極秘に開発させた脅威の黒カレーパンは、ドーナツ生地で牛肉たっぷり。激辛でガーリックも入ったスタミナ満点の逸品だ


150円 7/1より

ハッスル 赤カレーパン

俺こそカレーパンだよ！ 坂田亘がハッスル軍の食欲増進を図り、徹夜で制作した赤カレーパンは、チキンにパプリカも入ってヘルシー。白パン生地で朝食にもバッチリだ。


530円 7/15より

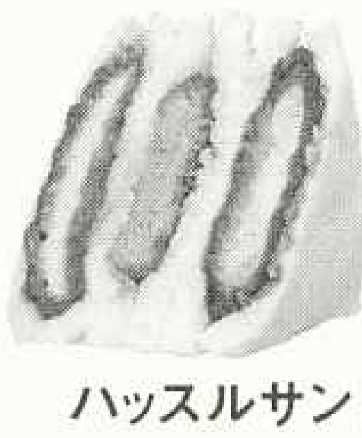
ハッスル大盛対決チャーハン

チャーハン対決でもガップリ四つ！ 赤のハッスル軍がピリリと辛いキムチ味派か、黒のモンスター軍が風味豊かな甘味噌味派か？ 交互に食べ比べてハッスルせよ。


530円 7/15より

ハッスル大盛対決どんぶり

ハッスル軍とモンスター軍が"どんぶり"上で正面激突っ！ ハッスル軍が赤のダッカルビで攻め込めば、モンスター軍は黒の豚焼肉で応酬！ スリリングな味の決戦に挑め。


335円 7/15より

ハッスルサンド

モンスター軍が黒ソースの極上スパイシーなトンカツ、対するは激辛ハバネロソースのハッスル軍のチキンカツで大勝負！ 両者を分けるのはスタミナにんにく入りメンチカツ！


498円 7/15より

ハッスル赤の大盛冷やし中華

ハッスル軍、冷やし中華始めました！ ハッスル軍のイメージカラー、赤の唐辛子入りキムチが味の決め手。もちろん麺も大盛りの1.4倍に増量で大満足！


498円 7/15より

豚玉ダブルモダン焼き

モンスター軍印のモダン焼き！ 山芋を加えたふっくらした生地とソース焼きそばが合体！ 腹ペコモンスターにはたまらない従来の1.5倍のボリューム、味わいたまえ！


498円 7/15より

モンスターWカルビ焼そば

Wビターンよろしく、豚カルビと牛カルビがWでのったカルビ焼そば！ モンスター軍の黒こしょうでスパイシーに仕上げた味と通常の1.5倍に増量された麺はまさにモンスター級！

※一部取り扱いのない店舗がございます。あらかじめご了承ください。※写真はイメージです。

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド

敵が来ても、味方になるな! 小さい頃からそう教育されたのなら仕方がないですが、そんなことはよくあることだと見知らぬおじさんに教えられると、途端にそうかもしれないと思うかもしれません。それならそれでもいいと思いますが、そうでもないかもしれないとも思うので、充分気をつけてくださいね。それでは今号もスタートしましょう! 3、2、1、仲間だ、仲間だ、うー、ほめ殺し!(抹殺)。

kamipro123号へのお便り紹介

桜庭和志変態座談会がおもしろかった。「デビュー当時から見続けてきた変態たちが、その素晴らしき数々の偉業についてたっぷりと語ります」との煽りどおり、Uインター道場でのスター性のない若手のじゃれあいみたいな練習を見てきた〝変態〟世代の同時代体験が読んでいて素晴らしく伝わってきました。

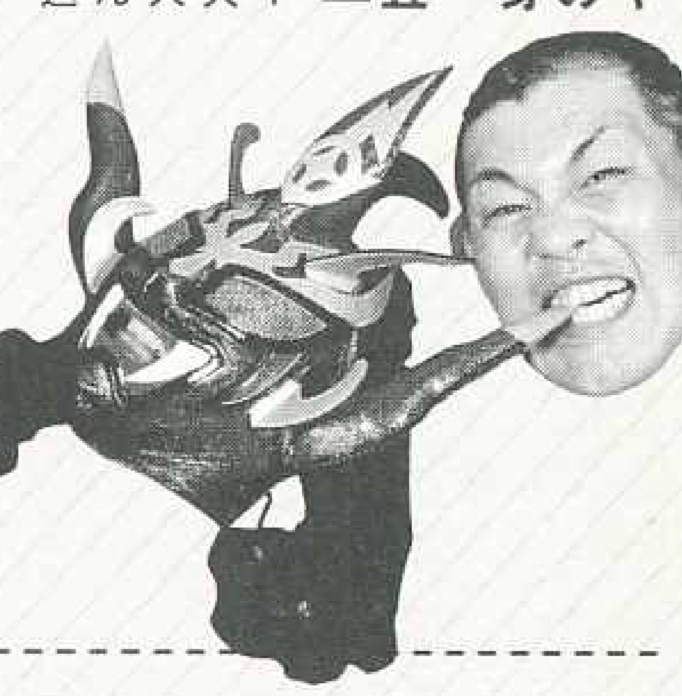
【神奈川県・長瀬誠さん・会社員・41歳】

↓ついに桜庭和志にまで〝侵略〟してしまった変態座談会シリーズ。うらやましくはありませんが、出演者の〝変態っぷり〟にはいつも感服でございます。

鈴木みのると獣神サンダー・ライガー対談がよかったです。二人はドン荒川、藤原組長からなる昭和新日の正統後継者です。二人の試合の幅の広さは私生活のやんちゃぶりからきているのですね。まさに、全身プロレスラー!

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・43歳】

↓獣神サンダー・ライガーは船木誠勝との対談でも大爆発! 大炎上!! この人たちの本職はいったいなんなんだろうと、妙に考え込んでしまいます。



「バカと芸術は紙一重」の青木×元気対談がよかった。青木真也選手と須藤元気さんの対談で青木真也選手が試合前に『ランボー』を観るって言ってたことがおもしろかったです。

【大阪府・北濱貴大さん・高校生・15歳】

↓噛み合わなさそうで噛み合ってしまったこの対談は奇跡! 青木の話に乗れる元気も、ある意味〝変態〟。ところで、永田克彦戦の前にも『ランボー』は観たんでしょうか?

『プロレスに効果音は必要か!?』特集がおもしろかった。トラースキック、アッパーカットから全女まで、あらためて考えさせられた。非常に『kamipro』らしい企画でおもしろかった。

【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

↓プロレス界のセオリーはいろいろ複雑でよくわかりませんが、プロレス初心者としては、結果的におもしろかったらそれで大満足です!

デーブ・スペクターは埼玉生まれのくせに、やけに米国の放送事情に詳しくてビックリ。でも、ギャグはあいかわらずつまらない。なんだよ、「KFC」って……。

【宮城県・毒柴さん・青年乞食・37歳】

↓デーブが解説してくれた、エリートXC放送の視聴率が、なんと3パーセントと大健闘! NBAプレーオフの視聴率が4・1パーセントであることを考慮すると、デーブのジョークも忘れてしまうほど、偉業であることがわかるはず!

『特集・連合赤軍とUWF』がおもしろかった。私は連合赤軍よりも「東アジア反日武装戦線」にシンパシーを、UWFよりその後の総合格闘技に夢中となった(いまも)。しかし、その過程の連赤もUWFも本やビデオで観て興味が昔からあった。その二つがDREAMの煽りVで見事に作られ感動ともなんとも言えない心躍る気持ちになった。私は会社員だが、心のどこかで「革命」や「真剣勝負」が頭をよぎる。もちろん、そんなことを起こせる勇気などないのだが……。とにかく鈴木邦夫氏の記事は秀逸!

【東京都・渡辺信祥さん・会社員・35歳】

↓かつて、『kamipro』編集部にも上杉革命という、いまは亡き革命家がいました。

宇野選手のインタビューがよかった。宇野薫さんの大ファンで、DREAMの会場ではもう大騒ぎでした!! そのテンションを思い出しました。

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・34歳】

↓宇野選手がUWF好きというのは至るところで聞くのですが、それだったら、ぜひ出席していただきたい座談会があるのですが。

藤ジム・加藤会長のインタビューがよかった。熱すぎる会長が、ずーっと気になっていて門嗹裟くんよりも(!?)会長を!! と思っていたら、取り上げていただいて本当に嬉しいです!! あんなに熱い会長が『珈琲館』のコーヒーゼリーパフェが好きだなんて……。ちょっぴりかわいいと思いました!! ちなみに、私もコーヒーゼリーパフェ、食べに言っちゃいました。会長、かわいい!!

【埼玉県・笠井のり子さん・会社員・36歳】

↓会長に触発されてコーヒーゼリーパフェを食べに行くなんて、どんだけ会長ファンなんですか。ちなみに、会長を取材した本誌・真下義之もインタビュー収録の日、コーヒーゼリーパフェを食べさせられたそうです。



髙田延彦と三崎和雄の対談がよかった! トビラの写真、三崎のロン毛写真が素晴らしい!!

【愛知県・久保田太さん・会社員・36歳】

↓個人的には、髙田が三崎のことを「和雄」と呼んでいると いう事実に感動いたしました。

K-1甲子園のページがよかった。これからのK-1が凄い楽しみになってきたから。

【福井県・大平一さん・無職・31歳】

↓K-1甲子園について話を聞いた前田憲作は非常に〝殺し〟のある方でした。殺伐としたK-1甲子園が楽しみでなりません。

新日本プロレスがおもしろいだなんて、ちょっと信じられなかったのですが、ちゃんと読んでみると、不覚にも確かにおもしろいかもしれないと思った。これからは『kamipro Hand』でも新日の結果をちゃんとチェックしようと思う。

【埼玉県・口笛さん・大学生・22歳】

↓新日本プロレス情報は今号にも掲載! いま、RISEにノらなくて、いつノるんですか!

桜庭和志変態座談会に驚きました。まさかバラさんが桜庭にエメリヤーエンコ・アレキサンダー戦をオファーしていたとは。だったら『HERO'S』に移籍する気持ちもわかりますよ。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

↓風貌ならヒョードルよりアレキサンダーのほうが全然恐

123号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	鈴木みのる×獣神サンダー・ライガー
2位	青木真也×須藤元気
3位	桜庭和志変態座談会
4位	連合赤軍とUWF
5位	髙田延彦×三崎和雄 / 宇野薫

なんと! トップを走り続けてきた変態座談会シリーズが首位陥落……。それ以上に評判を得たのは、新日時代の素晴らしきエピソードを披露した鈴木みのる×獣神サンダー・ライガー。やっぱり新日のトンパチ話の破壊力は"鉄板"である! 対談モノや特集モノが上位を占める中、宇野薫が5位にランクイン。石田光洋戦の衝撃は、このランキングにまで影響を及ぼしたのだった!

kamipro速報号 2008JUNE・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	青木真也× J.Z.カルバン特集
2位	三崎和雄×ネイチャージモン
3位	山本"KID"徳郁
4位	今成正和
5位	バック・トゥ・レスリング特集



『DREAM.2』の直後に発売された『kamipro Special ~2008 JINE』号のランキングはご覧のとおり。青木vsJZ戦からもうだいぶ時間が経つが、やはりここでのトップはこの試合に関連した記事が首位に。三崎和雄×ネイチャージモンのこの位置には『kamipro』読者の懐の深さを感じずにはいられない。続く3位4位にフェザー級の選手が連続でランクイン。注目度の高さがうかがえる。

いですもんね。

『kamipro』によく登場する森達也氏の著書にいまハマりまくっております。『下山事件』にまで手を出してしまいました。氏の著書はひさびさにヒットです。『kamipro』を読んでいたからこその出会いでした。感謝しております。

【栃木県・稲葉修さん・会社員・35歳】

⬇それはよかったです!



埼玉県・丑さん➡UFCではヴァンダレイ・フィーバー大炸裂! サクラ〜バのセコンドとか、ついてほしいです。



神奈川県・亜衣さん➡DEEPフェザー級王座陥落とはいえ、やっぱりこの男はDREAMで観たい!

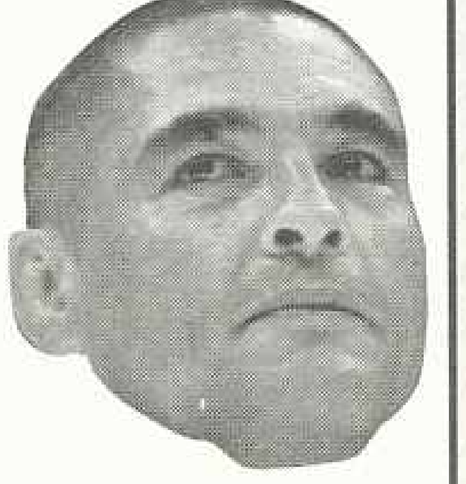


福岡県・江本洋さん➡年末の永田兄のMMA参戦にもぜひ期待したいです!

スクープ! ザ・目撃!!

●『戦極〜第二陣〜』の前々日に、六本木のとある店でケビン・ランデルマンがボブ・サップに催眠術をかけられている現場に居合わせました。1時間ぐらい真面目にかけられていましたが、最後のほうはちょっとケビンはお疲れでした。その甲斐あって、試合は判定勝ち……。しかし、サップは自分に催眠術はかけられないのかな?
【神奈川県・大内和彦さん・34歳】

●5月30日(金)、有楽町ビックカメラのDVD売り場で新日の後藤ヒロオキ選手を見かけました。小柄で細身の女性とご一緒で、「ランボー大好き、死ぬほど見てる」と言っていました。プロレスラーって、もうちょっと周りの目を気にしたりしないのかなあ思いました。
【kamipro Hand投稿】



●先日、新宿フラッグス前でヒクソン・グレイシーを発見。ヒクソンは4〜5人でいたのですが、彼だけが「STAFF」と大きく書かれたTシャツを着ていました。いや、あなたスタッフではないと思うぞ……。意外と小さいなと感じましたが、下を向いて歩いていて、パッと顔を上げたら目の前ですれ違ったので、その瞬間は本気で鳥肌が立ちました。
【kamipro Hand投稿】

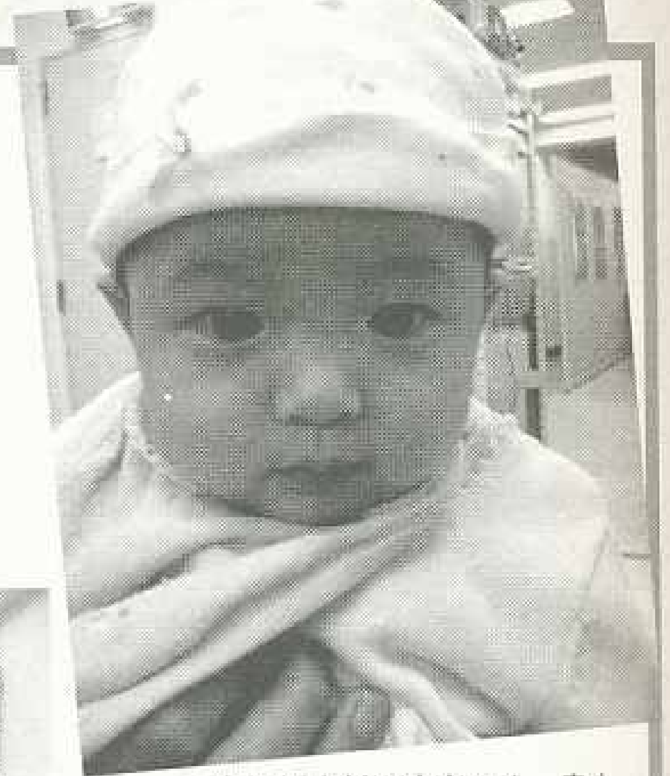
●中央線武蔵小金井行きの最終電車に乗ったら、向かいの席に『週刊プロレス』の鈴木健記者が座っていました。後ろ髪をゴムで結び、レッスルマニアのシャツ(しかもベースボールユニフォームタイプ)姿で、とても異彩を放っていました。さすがだと思いました。
【kamipro Hand投稿】

●先日、五反田の駅ホームで\(^o^)/チエさんを目撃しました。チエさんはお友だちと一緒にデッカい声で話しながらあるいていました。でも、その声が「バンザーイ!」と『ハッスル』のリング上で叫んでいる声とまったく同じ(あたりまえですが)だったので、なんだか感動してしまいました。バンザーイ!!

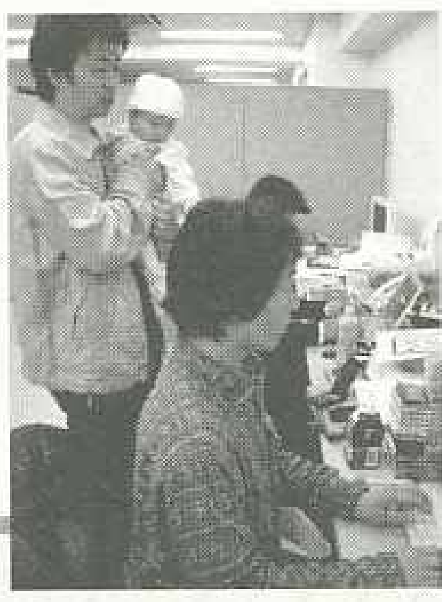
衝撃ショット!!

元・毎号名前が変わる編集部員の上杉が愛娘とともに堂々来社!

在籍当時同様、さまざまな"事件"を残して編集部を去っていった元・毎号名前が変わる編集部員の上杉が、なんと愛娘を連れて来社! "事件"に巻き込まれた編集部員としては、ようやく"怒りの拳"を振り下ろせるかと思いきや、こんなキュートな赤ちゃんを連れてこられては……ずばり、卑怯である! というわけで、写真はその愛らしい赤ちゃんと、来社するも"無視"される上杉の様子です〜。



こちらが上杉の赤ちゃん。奥さんがめちゃくちゃべっぴんさんであることが想像できる。



上杉が話しかけるも、阿修羅さんはこんなときにかぎって熱心にハードワーク。不思議な人である。



さあ、明るい未来への列車に乗ろう! 上井駅長の人生相談

さあ、駅長相談の時間がやってまいりました。今回はなんと『戦極』ポーズがらみの質問のようですよ。なんだか、今回も不思議な相談ですが、ここは上井さんにズバリお答えいただきましょう! それではスタート!!

格闘技イベントにキメポーズは必要か

お悩みごと

■ポーズに関するお悩み
(東京都・しゃあさん・25歳・会社員・♂)

最近、プロレスや格闘技イベントの最後によくキメポーズをやると思いますが、それって必要だと思いますか? 近々の話で言うと『kamipro』誌上でも『戦極』ポーズで盛り上がっていて、「『戦極』ポーズは是か非か?」みたいな雰囲気もあると思います。新日本プロレスやビッグマウスにはキメポーズはなかったと思うのですが、この業界に長くいる上井さんのキメポーズ論を聞かせていただければと思います。

上井駅長

キメポーズねえ。でも一番の元をたどると、最初にやったのは「1、2、3、ダー!!」の猪木さんじゃないの? あれだって一種のキメポーズだよね。だから、僕個人の意見としては、大会全体がそれで締まるならいいんじゃないかなと思うんですよ。ナチュラルな感じでキメポーズが出るんだったらいいよね。まあ、本当はいい試合で大会を締めるというのが一番いいのかもしれないけど、ただ、団体とかイベントによってはお客さんの一番の目的がキメポーズをやるってことだったりするんじゃないの? お客さんがキメポーズを待ってる風潮すらありますよね。

それに、上井ステーションのプチシルマ体操だって、キメポーズではないかもしれないけど、それに近いものではあるでしょ? それだって、一部の人たちは楽しみにしてくれてますよ。だから、そんなに固いことを考えずに、ナチュラルな感じでやればいいと思いますけどね。

え? 格闘技のイベントではやるべきじゃない? そんなこと言っても、PRIDEで髙田さんがやってた「出てこいやー!」だってそうなんじゃないの? でしょ? キメポーズに格闘技もプロレスもないと思うよ。プロレスもいまの総合格闘技と同じような緊迫感をもってやってた時代もあったんだから一緒でしょ。

だからね、中途半端が一番ダメ。もう主催者がやると決めたらやり続けるべき。僕はそう思いますよ!

しゃあさん、おわかりになりましたでしょうか? 『戦極』ポーズも恥ずかしがらずにやり通せということみたいです。『戦極』Tシャツでも着て気合いを入れてください!
※人生相談ドシドシ送ってください! また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは

radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「書類不備」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

kamipro Info

マット界の周辺情報をお届け!!

TV

テレビ番組の新シリーズ!

格闘技道場破り番組に極真空手、ヒクソンが登場!!



ディスカバリーチャンネルで7月から始まる新シリーズは、ホスト役のジミーとダグが実際に体験しながら世界の格闘技を紹介する番組。日本では極真空手に入門し、黒帯相手に5人連続の組手を敢行するなど、かなりムチャな内容。ブラジルでは、ヒクソン・グレイシー道場に入門し、グレイシー一族と対戦するなど、興味深いコンテンツが満載！ いますぐチェック！

★放送日／7月7日(月)より毎週月曜日22:00〜23:00 ほか(字幕)

★放送局／ディスカバリーチャンネル

DVD

アントンのモノマネが満載!

アントキの猪木が初の単独DVDを発売!



元気ですかーッ!!「爆笑レッドカーペット」などで人気急上昇中のアントキの猪木のネタがDVD化！ もちろん、内容はアリキック、4の字固め、卍固め、インディアンデスロック、スリーパーホールドといったプロレス技から闘魂ビンタなどのアントンネタが満載！ その他、アントキの猪木の日常に迫る密着ドキュメントなども収録！ 君も、このDVDを観て、一緒にダーッしますか!?

★アントキの猪木のダーッしますか!?』(製作／ビクター)出演／アントキの猪木

★定価2,940円(税込) 7月9日発売 収録時間90分

DVD

DREAM.1&2のDVDが発売!!

青木vsカルバンの感動をDVDでもう一度!



DREAMの3.15旗揚げ戦と4.29『DREAM.2』がそれぞれDVD化(別売)！ カルバンのヒジ攻撃で没収試合となった旗揚げ戦、そして名勝負となった『DREAM.2』での因縁の決着戦がDVDで観られるぞ！『DREAM.2』のDVDには、特典映像として"カルバンvs青木真也 再戦の経緯〜当日ドキュメンタリー"も収録！ もちろん、ライト級&ミドル級GP開幕戦全試合、ミルコのスーパーファイトも収録! 迷わず観よ!

★『DREAM.1ライト級GP 2008開幕戦』&『DREAM.2ミドル級GP 2008開幕戦』

★定価各5,040円(税込) 7月23日発売(TCエンタテインメント)

BOOK

本誌でおなじみ"刺青カメラマン"

菊池茂夫がまたまたタトゥー写真集を発売!



本誌でも大活躍の"刺青写真家"菊池茂夫が、昨年出版したTATTOO&ライブ写真集の第二弾『ROCKER'S TATTOO Returns』を発売！ 今回も有名ミュージシャンが勢揃い！ THE WiLDHEARTSのジンジャーやMISFITSのジェリー・オンリー、NOFXのエリック・メルビンといった大物海外勢から、練マザファッカーのD.O、元黒夢の清春など国内ミュージシャンなど、44人の肉体に描かれた刺青ワールドを堪能せよ！

★「Rocker's TATTOO Returns」写真・菊池茂夫(ミリオン出版)

★定価1,800円(税込) 7月20日発売

EVENT

世界の寝技師が新宿に集結!

またまたDEEPがグラップリング大会開催!



グラップリング大会『DEEP X』の第三弾開催決定！ 07年には青木真也、今成正和、長谷川秀彦といった日本のトップグラップラーをはじめ、海外からも大物寝技師が大挙参戦して話題となった。今回もすでにブラジリアン柔術統一世界王者、フーベンス・シャーレス、ギリェルミ&ハファエルのメンデス兄弟らの超一流寝技師の参戦が決定! グラップリングファン、必見の大会！

★『DEEP X 03』 ★開催日／7月5日(土)開始18:30

★場所／新宿FACE ★問／DEEP事務局 052-339-0303

MOVIE

アチョー! あの酔拳の使い手が帰還!

王拳聖が武術指導のアクション映画が完成!!



酔拳の達人が、中国映画界で大ハッスル中! あのZERO1・MAXの『奉納プロレス』(靖国神社大会)出場で話題を呼んだ王拳聖さん(写真左)。あのジェット・リーと兄弟弟子でもある王さんが、今回はあの黒澤明監督の『七人の侍』にインスパイアされたという、中国製作のアクション大作『若竹林』で武術指導を担当！ ジョン・ウー監督の新作『レッドクリフ』にも出演したフー・ジュン、そしてジアン・ウーという二大スターが主演。日本公開はまだ未定だが、中国本土ではすでに大きな話題となっているらしい今作に、注目セヨ！

MUSIC

『爆勝宣言』をもう一度!

プロレスファン必聴! あの名曲に酔いしれろ!!



"破壊王"橋本真也をはじめ、蝶野正洋、武藤敬司ら、多くのプロレスラーの入場曲を手がけてきた鈴木修氏が、今秋発売されるオリジナルアルバムに収録予定の、新録『爆勝宣言 オーケストラver』が、7月11日にデジタルシングルで先行配信！ 破壊王の三回忌イベント7.13『ZERO・1生LIVE』で、この曲を破壊王の長男・大地君に贈呈する企画も進行中。ファンは涙して聴くべし!

★『爆勝宣言「活」〜オーケストラバージョン〜』鈴木修作曲

★7月11日よりmu-mo(モバイル)にて独占デジタル配信! http://mu-mo.net/



イラスト◎師岡とおる

第32回

やれんのか？

花くまゆうさく
リングの汁



『DREAM3』でのアルバレス戦のハンセンよかったねぇ（しみじみと）。柔術ムーブでアルバレスを追いつめ、ホントしびれた。宇野選手の底力もよかったし、初めて見た感情の爆発も印象的（口元が、いがらしみきお先生の描く口元のようだった）。

判定で「？」が目立った『DEEP35』ですが、印象に残ったのは、RYO選手の目の腫れ方。PRIDE初期の誰かのたんこぶ以来の、衝撃ビジュアルでした。（衝撃といえば、2月の修斗でセンタク挟みかけた選手が、顔面から落とされたバスター映像も、サムライTVで観てショッキングだった）。

十段の負けは残念。もし勝ってたらKID戦あったのだろうか？　あんましKIDがノリ気じゃなさそうに感じるし、60キロ近くまで十段や所選手が体重落として実力発揮できるのか不安でもある。『東スポ』がキンボで盛り上がる中、WECで小ノゲイラがひっそり負けていたのが悲しい。彼の全盛期に、自分の階級で世界的な大舞台があったらなぁと、しみじみ思う（あとルミナも）。

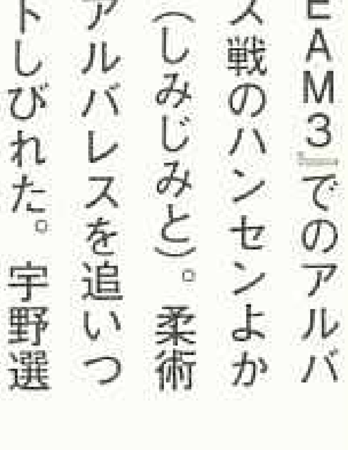
負けといえば、柔術の世界大会で黒帯デビューしたクロン・グレイシーが、初戦で一本負けしたのも衝撃&かなり残念。でも、いま負けておいたほうがいいような気もしてきた。相手はそのあとも勝ち進み、優勝したようだし。これからのクロンのさらなる成長に期待大。

このカードでさいたまスーパーアリーナやれんのか？　と心配させた『戦極～第三陣～』。PPV購入するのもビミョーだなあと迷ってたが、この作文で書くことがないので購入（あと、モーリス・スミスのセコンド＝リュックサック男を思い出し懐かしくなったので）。

と購入して観たけど、とくに何も語ることなし……。もうやめたいこの連載。

以下、『戦極～第三陣～』で目についたとこ。ゆったりした語りの煽りVを観てると、何か吸い取られた気分になってくる。高橋って名前変えたんだと思ってたら、イスマイウ戦の写真！　大会場のスクリーンに映ってイズマイウ、海の向こうでニンマリしてるのかな？　ダムミッションってネーミングに力が抜けた。そしたら、チェ・ムベ（今回は野狐禅の人に似てた）も力が抜けてた。ライト級トーナメントはおもしろそう。だがそこに出なくても、今度五味とワンマッチする相手はラッキーでは？　お腹がふっくら気味だったモーリス・スミスを「グッドシェイプですね」とアナウンサーが話を振っても、解説陣はスルーしてたのがおもしろかった。

いよいよ今夏公開の映画『片腕マシンガール』ですが、観てるとW★INGを感じますよ。

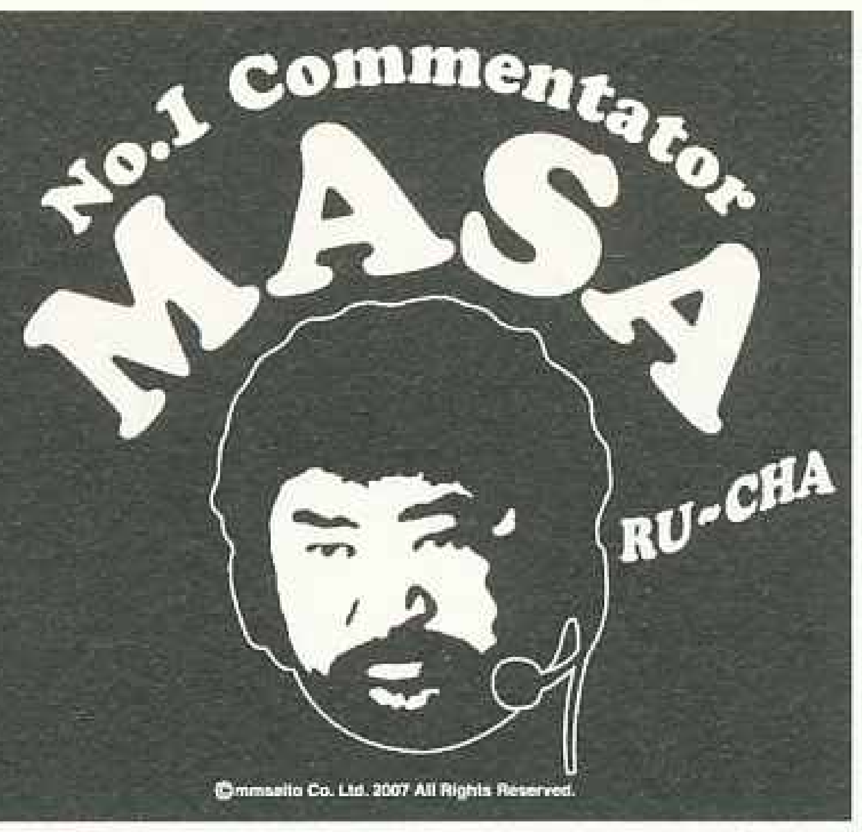


Hanakuma Yusaku
◎映画『人間爆発』、7月19日から名古屋&大阪で上映します。

“男の憧れ”マサ斎藤の

GO FOR BROKE!

～獄門記～



No.3 マサ斎藤、日本人二人目のレスリング殿堂入り!

——マサさん、なんでもこのたびレスリングの殿堂入りをはたすらしいですけど、詳しくお話ししていただけますか?

マサ　いや、俺もあんまよくわからないんだよ（笑）。

——本人もわかりませんか（笑）。

マサ　でもね、この殿堂入りしたのは、日本人ではアントニオ猪木と今度の俺の二人だけ。今後ももう日本人で殿堂入りする人間は出ないだろうと言われてるんだよ。

——へぇ! たった二人ですか。それはどういったレスリングの組織なんですか?

マサ　ダン・ゲーブル&ルー・テーズ・レスリング・インスティテュート&ミュージアムという、アイオワにある世界唯一のアマチュアとプロのレスリング・ミュージアムなんだよ。ダン・ゲーブルっていうのは、アメリカの伝説的なアマチュアレスラー。ルー・テーズは知ってるだろ?

——はい。さすがに（笑）。そんなレスリングの博物館があるんですね。

マサ　そこには、プロとアマ両方でレスリングに貢献した人たちが殿堂入りしてるんだよ。WWEなんかでも殿堂入りとかやってるけど、そういうプライベートな企業が認定するものより、格式は上だって聞いてるよ。俺はプロレスだけじゃなくて、アマチュアもやってるじゃん。それも評価されたみたいなんだよね。

——アマチュアレスリングで東京オリンピックの日本代表ですもんね。

マサ　あとは日本とアメリカのレスリングの懸け橋をしたということも評価してもらったらしいね。

——どうでしたか、殿堂入りの話が来たときは。

マサ　最初はビックリしたよ。レスリングの殿堂入りというのがあるのは知ってたけど、俺が入るとは思わなかったからね。

——そんな表彰を受けるようになるとは。

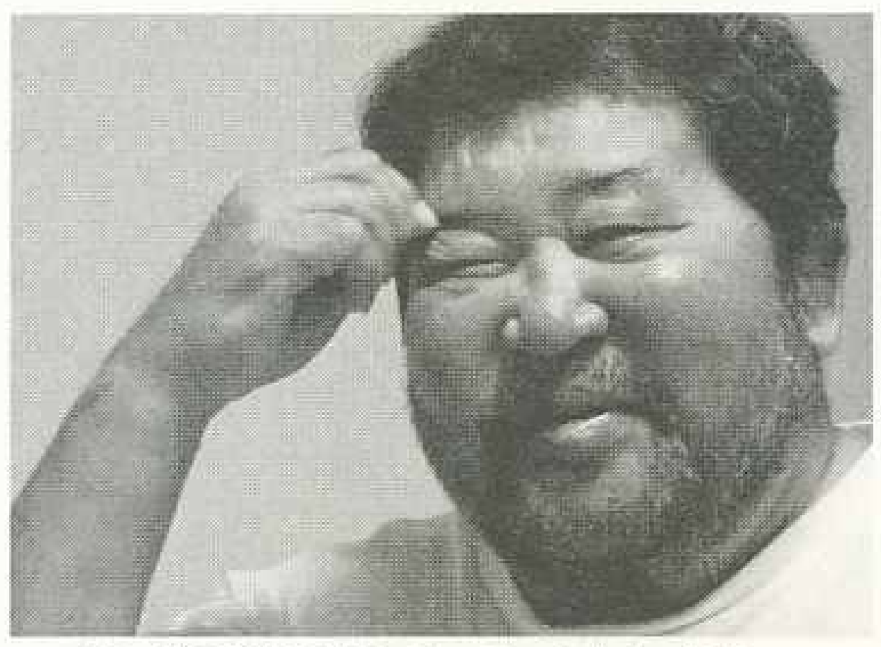
マサ　やっぱりレスラーになったからには、そういうところに入りたいよな。とくにアメリカと日本で俺はやってきて、アメリカのほうが長かったからね。

——マサさんは、アメリカではいいことも悪いこともありましたからね（笑）。

マサ　アメリカじゃあ、刑務所に入れられたこともある俺が、アメリカでこんな表彰をされるとは思わなかったよ。

——そうですよね。

マサ　俺は物事をプラスのほうに考えるから、それがよかったんだろうな。刑務所に入れられたときも、べつに俺が悪事を働いたわけじゃないから「クソーッ!」とは思ったけど、そこで腐らなかった。よく考えたら、刑務所にはジムはあるし、プロテインも飲んでもいいっていうし、それだったらトレーニングできるな、と思ってさ。だったら1年半、刑務所でリフレッシュしてやろうと思ったからね。



レスリングの殿堂入りにテレるマサさん。「ゴー・フォー・ブロック!」の精神で、プラス思考で道を切り開いて生きてきた生き様が評価された、今回の表彰。男はこうありたいものだ!

——刑務所でリフレッシュというのが凄いですよね（笑）。

マサ　ずっと休みなく闘い続けてきたから、のんびりしようってな。

——刑務所で「のんびり」って（笑）。

マサ　俺にとったら冬眠だよ（笑）。

——実際、ホントに体調もよくなって、刑務所から出てきたわけですもんね。

マサ　だって毎日、ジムでトレーニングもできるし、冬はクロスカントリースキーもできる。この1年半の「休み」があったから、60歳近くまで現役がやれたと思ってるよ。メシだって、俺はキッチン係だから食べ放題だったしな。

——刑務所で食べ放題っていうのも凄い話ですけどね。

マサ　アメリカの刑務所は、なんでも自分たちでものを作るわけよ。そしてキッチン係になるには、模範囚じゃなきゃいけない。それを看守が、俺たちに労働をさせながら見極めてるんだよな。だから最初の10日間はつらかったよ。一日中、ひたすら薪割りをやらされて。身体はくたくただし、同じことの繰り返しを何時間も続けなきゃいけなくて、頭がへんになりそうだった。でも、ここで手を抜いたら、厳しいところに送られる。実際、ケン・パテラは岩を運ぶのをいいかげんにやって、厳しいところに送られたからね。

——マサさんを事件に巻き込んだ張本人は、刑務所でも不真面目だった、と（笑）。

マサ　でも、俺は「クソッ! 負けてたまるか!」って、もうひたすら10日間、黙って薪を割り続けて、まんまとキッチン係を手に入れたんだよ（笑）。

——流した汗は嘘をつかない、と（笑）。

マサ　ホントそうよ。あと刑務所で快適にすごす秘訣は、看守と仲良くなること。それは何も「キス・アス」することなんかじゃないよ。あとはほかの囚人の悪さを密告して点数稼ぎするわけでもない。その代わり、作業は一生懸命やって、看守への挨拶も欠かさない。そうやって、人間関係を作ることだって大事なんだ。

——なんか、ホント社会生活にも通じるものがありますね。

マサ　だから、出所したあと、サーキットで刑務所の近くまで来たときに、ちょっと刑務所に顔を出したんだよ。そしたら、「サイトー、よく来たな」なんて歓迎されたからね。

——刑務所で「よく来たな」っていうのも凄いですけどね（笑）。

マサ　それで自分たちの応接室に通してくれたから。やっぱり、マイナスをプラスに変えるってことが必要よ。

——マサさんは、ずっとそうやって生きてきていまがあるってことですね。

マサ　そうよ。刑務所だって「1年半も入るのか～」と思っちゃったらダメ。プラス志向で考えたら、できちゃうんだよ。だからさ、いまの若い人たちなんかも、大変なことあると思うけど、大変と思っちゃダメよ。

——いまは若い人の犯罪、自殺とか、ネガティブな事件が多いですからね。

マサ　つらいことがあったってさ、どうやったらうまくいくかな～って考えて、プラス志向でゴー・フォー・ブロック! そういう気持ちでやれば、なんでもできちゃうよ。若いんだからさ。

——マサさんの場合、アメリカの刑務所に入れられるなんていう、絶望しかねないシチュエーションなのに、リフレッシュしちゃったわけですかからね（笑）。それ以外にもアメリカで一匹狼で生き抜くっていうのは、つらいこともたくさんあったでしょうし。

マサ　つらいことなんてないさ! アメリカは自由な国だもん。あるわけがないよ（笑）。

——あるわけがない、ですか（笑）。

マサ　だから若い連中で悩んでる人は、アメリカに行って勝負してみるのもいいんじゃないの? プラス志向で一生懸命やってたら、いつのまにか殿堂入りしてるかもしれないよ（笑）。

——いや～、今回はじつに人生の勉強になりました。またお話聞かせてください!

Masa Saito◎60年代末～80年代前半、アメリカン・プロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第30回

私だけが知っているモーリス・スミスの天才ぶり

先日の『戦極～第三陣～』で吉田秀彦選手と対戦したモーリス・スミス。吉田選手の強烈な袈裟固めの前に敗れはしましたが、いまだに現役で闘う彼の姿は格闘技の化石そのもの。だって初来日は89年11月の「U－COSMOS」ですから。日本マットとはかれこれ20年近くの付き合いの長いファイターなのです。

モーリスは、80年代を代表する名キックボクサーだったとはいえ、UWFに参戦したことによって、その後の格闘技人生は大きく変わりました。あのとき生じた船木誠勝選手や鈴木みのる選手との物語は、90年代の格闘技界には欠かせなかった。そしてパンクラスからリングスへ、アメリカでもMMAにチャレンジ。あの当時、キックボクサーが柔術家（マーカス・コナン・シルビア）やレスラー（マーク・コールマン）をハイキックでKOするなんて、誰も想像できなかった。歴史的な勝利。いまでこそストライカーが主流となりつつあるMMAですが、モーリスはそのスタイルの先駆者でもあるのです。

意外な接点を挙げれば、リングス参戦時、坂田（亘）選手がモーリスから打撃を教わるため、単身シアトルへ渡りました。TKモーリスと日本人の関係といえば、TK（髙阪剛）の顔を頭に思い浮かべる方が多いかもしれませんが、〝第一号〟はじつは〝小池の旦那〟だったのです。

総合転向当初の藤田和之選手をはじめ、多くの日本人選手が彼のもとでMMAを学びました。彼は性格も明るく、おしゃべりが大好き。いつ何時でもリラックスしているから、生徒からすれば教わるにはピッタリな先生なんでしょう。

ただし、試合のセコンドには不向きで評判はよろしくありません。

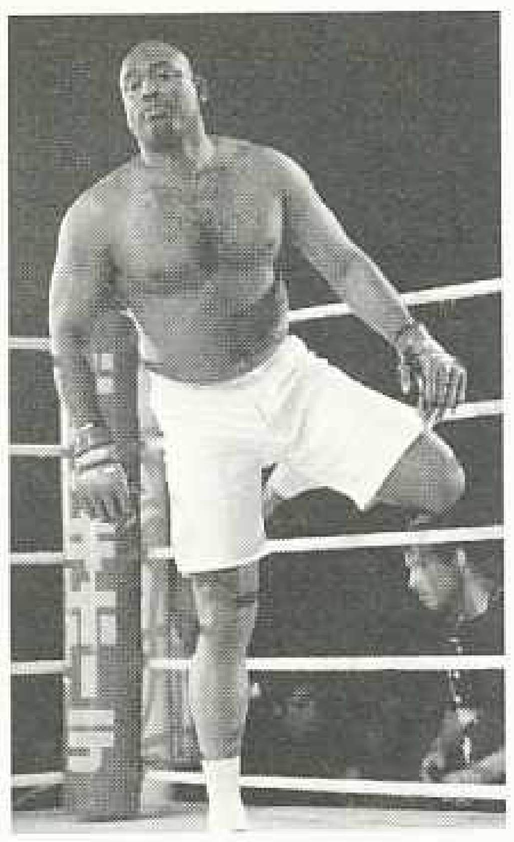
きっと天才すぎるんでしょう。モーリスだったら、だいたいのことを「オッケ～イ、オッケ～イ!」で済ませるような状況かもしれませんが、選手にとっては全然オッケーじゃない事態を招きます。ゲーリー・グッドリッジもわざわざカナダまでモーリスを呼び寄せて何度かトレーニングをしましたが、ヒョードル戦のセコンドぶりが災いして二度と招聘しようとはしませんでしたから。

この天才とピッタリ息が合うのは、もう一人の天才フランク・シャムロックくらいでしょう。

それでも憎めない性格の持ち主モーリスが、唯一感情をむき出しにする相手は意外にもグレイシー一族。彼の前でグレイシーTシャツを着ようものなら、もう大変です! ストライカーのモーリスからすれば、絶対に認めたくない存在、価値観なんでしょう。

「ヒクソン戦? ヤツより1ドルでもファイトマネーが高いのならいいぜ」

10年前、私にそう言った男は、まだまだ闘い続けていました。





金ちゃんのどこまでやるの?

イラスト◎中川画伯

●第24回● プロレスラーとは何か?の巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

いや～、パンクラス5連敗ですよ。6・1パンクラス後楽園ホール大会で、KEI山宮くんと対戦したんだけど、また判定負けになってしまいました。

今回は相手の打撃も見えていたし、俺のミドルもバシバシ当たってたから、3ラウンドの途中までは勝ってたと思うんだけど。最後の最後でもったいないことしちゃったよね。

ホント最後の30秒ぐらいじゃない? パンチ何発かもらって、首相撲にいこうとしたら突き放されたんだよ。そしたら場所がコーナーだったから、足がすべって転んじゃってね。しかも、運が悪いことにリングの端で倒れちゃったから、上に乗られてけっこうパウンドもらっちゃってさ。あれがリングの中央だったら、すぐガードポジションに戻したりできたのかもしれないけど……。なんでそ～なるの!? って感じだよね。

あと、最後に逆転されちゃったのはさ、セコンドの声に動揺しちゃったこともあるんだよ。このところ、いつもセコンドには石井（大輔）くんについてもらってたんだけどさ、今回の相手はパンクラスで石井くんと同門だった山宮くんだからさ、セコンドついてもらったら、お互いイヤかな、と思って、ひさしぶりに滑川（康仁）についてもらったのよ。

それで試合前、滑川が「今回、どんな対策でいきますか?」って聞いてきたんで、「とにかくコーナーから俺を励ましてくれ」って言ってたの。

それでラウンドインターバルのあいだに滑川が「金原さん、今日は凄く調子いいですよ。このままでいってください」とか言ってくれたんだよね。そしたら最後の3ラウンド途中になってさ、いきなり滑川が「プロレスラーは判定勝ちじゃダメだ!」「プロレスラーは打ち合うんだ!」とか大声で言い出してさ。あれで俺の集中力が途切れちゃったんだよ（笑）。

滑川は、ずっと足を使って距離取ってた山宮くんに対して言ったみたいなんだけど、俺は自分が言われてるんだと思うじゃん。だから、「なんで滑川は俺に対してそんなこと言うの?」とか思ってさ。そういえば前回、竹内くんと闘ったとき「KOか一本狙わなきゃダメだ」とかさんざん言ったから、そういうことかな? とか、試合中なのに考えたりして、頭の中が「?」でいっぱいになっちゃったんだよ（笑）。その滑川の声が気になって、おもいきり集中力が途切れちゃったんだよ（笑）。

しかも、逆に山宮くんのほうはさ、2ラウンドまでずっと足使って距離取ってたのが、「プロレスラーは殴り合え」の声に応えるように、いきなり前に出てきたから、「俺を励ませと言ったのに、なんで山宮君を励ましてるんだよ」と思って、こっちも面食らっちゃってね。せっかく、ここまで自分の距離で闘えてたのに、山宮くんの距離になって、パンチもらっちゃったんだよな～。

滑川も一生懸命やってくれたからいいんだけど、ちょっとまいったね。しかも最後はコーナーで転んじゃったでしょ? もう泣くにも泣けないよ～。

これでパンクラス5連敗か……。日本人選手とは近藤くん、川村くん、竹内くん、山宮くんとやってきて、差はないと思うんだけどな。今回だって、ダメージはミドルキックいっぱいくらった向こうの方があると思うんだけどね。

俺は昔、「連勝男」って呼ばれてたんだよ?（笑）。もう、昔は勝つのがあたりまえだったのに、なかなかうまくいかないもんだね。また、何かのきっかけで勝ち続けられるように、頑張るしかないよね!

第1回

本屋プロレス第二弾はなんと金沢で開催!

DDT外伝

by高木三四郎社長

リングを捨て町へ出よう!?

今回からコラムを担当することになりました、私、DDT社長の高木三四郎でございます。

アチコチで連載やらブログやらやってる私ですが、ここでは俺様のリング外のお仕事をクローズアップして書いていきたいと思います。

クローズアップするには、まずは俺様が社長をやっているDDTが手がけているブランドを紹介しないといけないでしょう。いまDDT以外には、『kamipro』でもおなじみのマッスル坂井主宰の『マッスル』、90年代インディーがコンセプトの『ユニオンプロレス』、MIKAMI主宰の軽量級選手の大会『クルーザーゲーム』、ロストポイント制を導入した格闘色が強い『ハードヒット』と言ったブランドがあります。

このほかにブランドではないのですがDDTが招聘している中国で人気の『新北京プロレス』や、別法人で業務提携している名古屋の地域密着型団体『でら名古屋プロレス』、俺様の自伝『俺たち文化系プロレスDDT』のプロモーションの一環として書店内で闘う『本屋プロレス』といったものがあります。

さらに、9月には『キャンプ場プロレス』の話も進んでおり、社長の俺様でも、ときどき自分が何をやっているのかわからなくなるときがあるぐらいです(爆)。

今回はその中でも「本屋プロレス」について書こうと思います。「本屋プロレス」とは先ほども書いたとおり自伝のプロモーションの一環で旗揚げした団体です。担当である太田出版の梅山さんから「何か自伝のプロモーションになるようなことは仕掛けられないですか？」と聞かれたので、口からでまかせで「じゃあ、本屋でプロレスやりましょう」と言ったのがきっかけでした。「まさか、そんな本屋ないだろうなあ」と思ってたら梅山さんがマジで見つけてきたので焦りました。

場所を提供していただいたのは西武新宿線中井駅からすぐの伊野尾書店さん。どこにでもあるような町の本屋さんです。梅山さんが「プロレスできる広さですよ！」と言っていたのですが、いざ会場に行ったら、まったくプロレスができる広さではありません。仕方がないので後半戦は路上で闘ってました。最後は、中学時代に本屋プロレスの経験があるという飯伏幸太のジャーマンスープレックスin路上で負けてしまいましたが、ズバリ言って「本屋プロレス」というより「路上プロレス」といった感じでした。

しかし、こんなデタラメなイベントなのにメチャクチャ人が集まりました。その数なんと200人以上！　しかも、アホみたいに盛り上がってるし。お客さんの目は完全にイッてて、皆で罪を犯しているような共犯意識の中、試合をしてました。

そんなわけでファンの方には、おおむね好評だったのですが、出版社倒産、雑誌休刊など暗いニュースしか伝わってこない書店流通業界にとっても明るいニュースだったようで、そっち方面でもかなり好評価でした。そのせいかどうかわかりませんが「金沢でもやってほしい」とラブコールがあり、7月下旬に、金沢の『TSUTAYA』で第二弾興行をやるハメになりそうです。この日はDDT富山大会が昼にあり、そのまま金沢に移動して夜に本屋で試合を行なう、と。あ〜、ホントにデタラメだ。まあ楽しいからいいか。

というわけで、お楽しみに〜！

Sanshiro Takagi◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのblog」アドレスは→ http://blog.livedoor.jp/t346/

kamipro Handで好評連載中!

ニュース特選! kamiの★1週間

傑作編

DEEPのメガトンGPは日本版UFC!?

(5・27更新分より)

◎『kamipro Hand』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選！ Kamiの一週間」。このコーナーでは、プロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり！ 興味を持った方は『kamipro Hand』にレッツ・加入!!

松　いや〜、凄い試合だったね！

竹内　ホントに凄かったよ！　DEEP7周年パーティでやった、青木真也&しなしさとこvs佐伯繁&公武堂・長谷川社長のガチンコマッチ！

松　確かにそれも違う意味で凄かったけど、俺が言ってるのは5・24『UFC84』ラスベガス大会だよ！

竹内　だって、UFCなんて日本じゃ観れねぇじゃん。だから代わりに「日本版UFC」こと、DEEPメガトンGPを観に行ったんだよ。

松　DEEPメガトンGPが、いつ「日本版UFC」って呼ばれたんだよ！　似ても似つかないよ！

竹内　あれ？　UFCって「アルティメット・ファットマン・チャンピオンシップ」の略じゃなかったっけ？

松　そんなわけないだろ！　無理矢理なボケはやめろ！

竹内　リアリティショー『ジ・アルティメット・ファットマン』も近日スタート。

松　エッ、TUFが日本でも……って、そんな暑苦しい番組、誰が観るか！

竹内　なんかサムライTVあたりでやりそうじゃん。佐伯さんと一宮がコーチになったりして。

松　やかましい！　そんなことより『UFC84』はチケットが前売りでソールドアウト。有料入場者数は1万4773人。

竹内　それは凄いね！

松　チケットの総売上だけで370万ドル（約3億8000円）にのぼった。

竹内　これはゲノムが誇る実数発表です。

松　「ゲノムが誇る」はよけいだよ！　うさん臭くなるだろ！

竹内　ちなみに『戦極〜第二陣〜』有明コロシアム大会の観衆9286人もゲノムが誇る実数発表です。

松　だから「ゲノムが誇る」はよけいだって言ってんだろ！　『UFC84』は前日計量にも4500人のファンが集結。

竹内　そこでアントニオ猪木が炊き出しとともに、ドーム大会の招待券を配っていました。

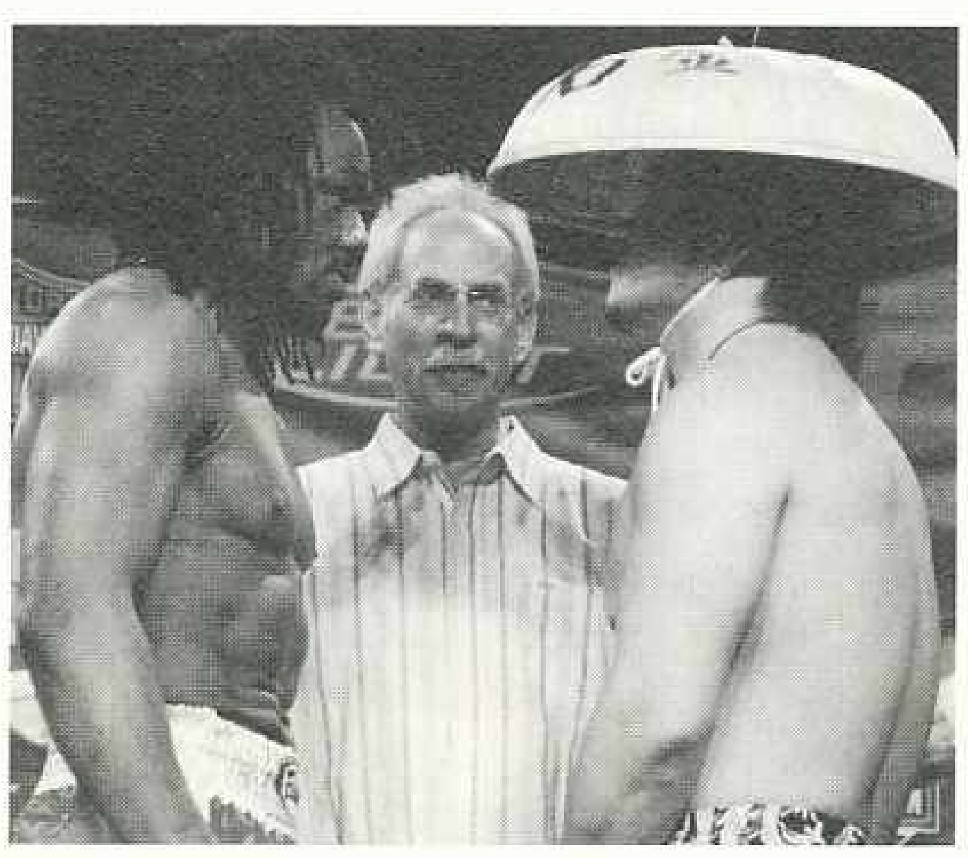
松　年末恒例の新宿公園じゃねぇんだよ!!　ちなみに、その公開計量では、中村カズがガッツ石松を彷彿とさせる、三度笠をかぶって公開計量に登場。

竹内　そして川田利明とともに「TOKIO」の替え歌「TOCHIGI」を熱唱。

松　するか！　それは『ハッスル・エイド』オープニングのガッツ石松だろ！　だいたい、日本でも知られてない栃木県をアメリカ人が知るわけないだろ！

竹内　(無視して)トッチギ！　トッチギ!!

松　いいかげんにしろ!!



椎名基樹のサムライ三昧

第27回

19歳差の仲間

関東地方では例年より6日も早く梅雨入りしたそーで、毎日毎日ジメジメうつうつとして嫌になる。毎年のことながら、梅雨って、いったい何よ。日本の気候を恨めしく思うのである。

四季のある美しい国・日本とかなんとかよく言うけれど、ほとんどは冬ばっかりで、春先は雨ばかり。やっと夏になりかけたと思えば、その1カ月は梅雨、夏もカラっとしてればいいが、高温多湿で、ちーともよくないよ、日本の気候。

四季がある美しい国なんて言うのも、日本人のポコチンは小さいが硬いなどというのと同じたぐいで、ひがみの表われではないだろーか？

などと、することもないので天気に毒づきながら、テレビで格闘技観戦をしているのである。

サムライTVの『VERSUS』で、鈴木みのると藤原組長の対談が行なわれた。胃ガンを患っていることを、猪木がうっかり口を滑らせたことで公表することになった組長。その後、心配していたのだが、元気そうで何より。

その胃ガン公表後、真っ先に電話をかけてきたのが鈴木みのるだそーである。笑ったのは前田日明で、泣きながら「藤原さんがいなくなったら、オレ、寂しいですよ」と電話があったそーだ。組長いわく「まだ、死んでねえ！」。

普通、泣くか？　これから闘病するっつーのに。でかすぎる図体をした、おそろしすぎる風体のおっさんの泣き顔を想像するとおかしい。それにしても前田らしくて良い話ですな。前田は子どもだ！

藤原を反故するかたちで、藤原組を出て行ったあと、鈴木みのるには、ずーと胸に罪悪感が残っていて、どこかのサービスエリアかなんかで、偶然ばったり藤原と会ったとき、組長がただ何も言わず笑顔で「元気か！」と言ってくれたとき、鈴木から胸のつかえがスーと取れたそーである。

組長いわく「嘘をついたり、騙されりしたら、ずっと『アノヤロー！』って気持ちがあっただろうが、やりたいことがあって出ていったんだから、元気でいてくれてさえいれば、それでいいんだ」。

どもりどもり、そう言う組長のなんとカッコいいことだろう！　一本筋が通った、イイ男！

『U−COSMOS』のとき、組長は100万円分チケットをさばいたそーで、当時は若手でそーゆー苦労を知らない鈴木はUWFブームで出せば売れると思っており、その頃は、試合から練習場からギャラから常に最高のものを大人が用意してくれていて、それがわからない若い自分は「藤原さんは練習していない」などと批判していたが、自分で団体運営をやるようになって、苦労がやっとわかったと言っていた。

鈴木と同じ年の筆者も、テメーのことしか考えなかった若いときを思い出し、赤面&反省。またしてもUで人生を知る、アホウな筆者なのであった。

そうして鈴木たちが出ていったあと、「オレだってチケット売るより練習してるほうがいいよ」と言う藤原は、経営者には向いてねえなと思っていたので、これで楽になれると思ってホっとしていたら、「石川雄規一人だけが『オレは残ります』って言ってなあ」、そう言う藤原の嫌そうな顔！（笑）。

天真爛漫、言い換えれば馬鹿面の石川の笑顔を思い浮かべると、組長の心中察する思いで、笑えた。

「それぞれの存在を一言で言うと？」と問われて「19歳年は離れているが、仲間だ」と答える組長。カッコいいですな。

話題変わって、5・19『DEEP35』後楽園大会。ミドル級王者決定トーナメン準決勝、福田力vs白井祐矢の判定にはずっこけた。福田選手が判定勝ちしたのであるが、福田選手にポイントを入れたジャッジの人、どこに目がついてんだ？　大丈夫か？

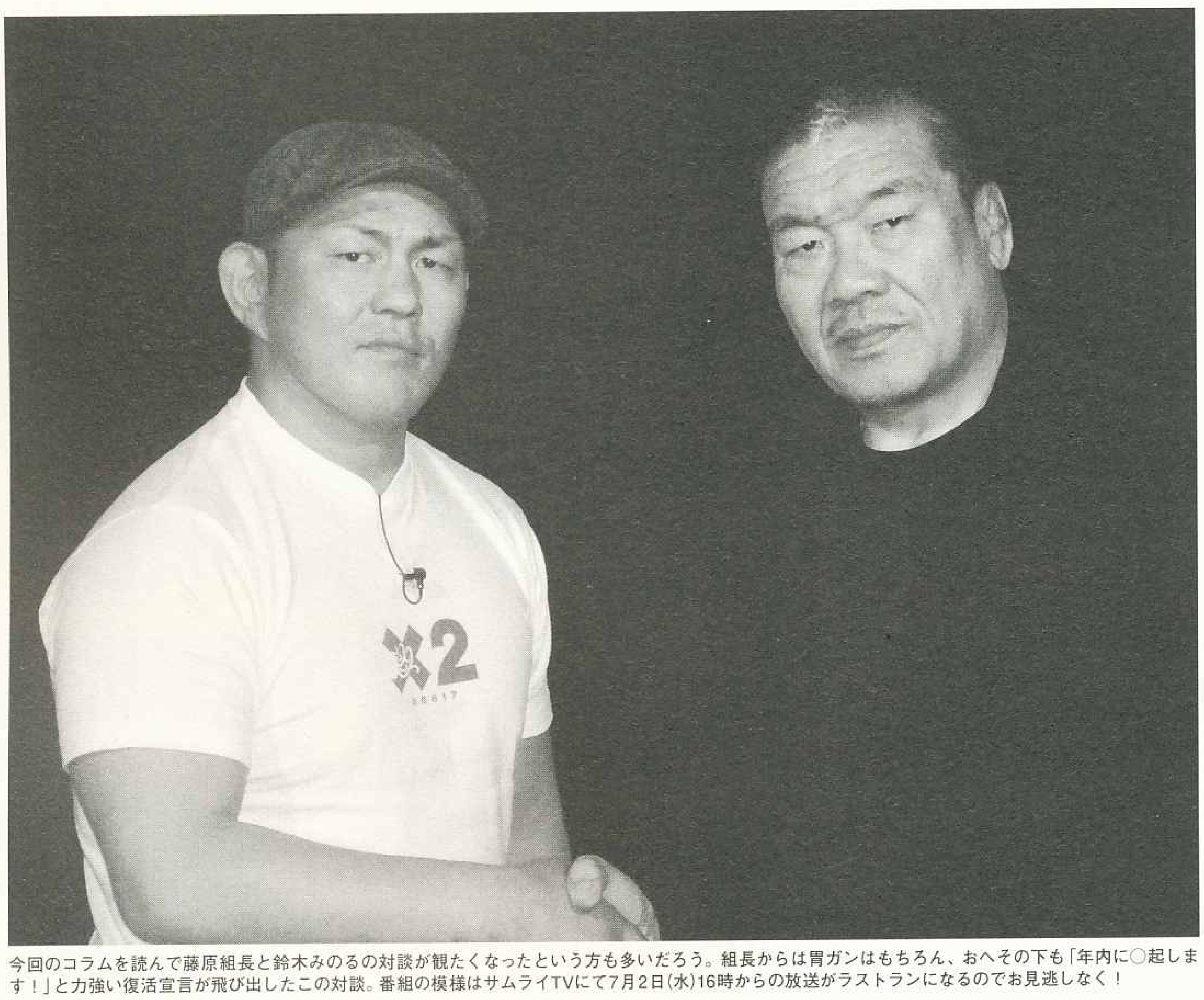
試合内容自体も白井選手の勝ちだと思うが、白井選手は金的を3度までも食らい、福田選手にイエローカードが提示されたにもかかわらず判定負け。イエローカードは判定には影響ないという。狂ってる。じゃあ、イエローカードってなんなんだ〜!?

PRIDEに対して、ここで何度も何度も何度も、イエローカードってなんなんだ〜!?　と書いて来たが、いつまでこんなことやってるつもりなんだろう？　しょーがねーなー。

このあいだもUFCを編集部で見させてもらったが、一番思うことは、そーいったプロレス系総合団体（あえて、そー言わせてもらいますが）に、いつまでも拭いきれない釈然としない部分が、UFCにはないってことだ。

PRIDE崩壊の原因と、そーいったリング上の非スポーツ的な部分は地続きであると筆者は思う。思想的な部分でね。

それにしても、なんでこーなるの!?である。



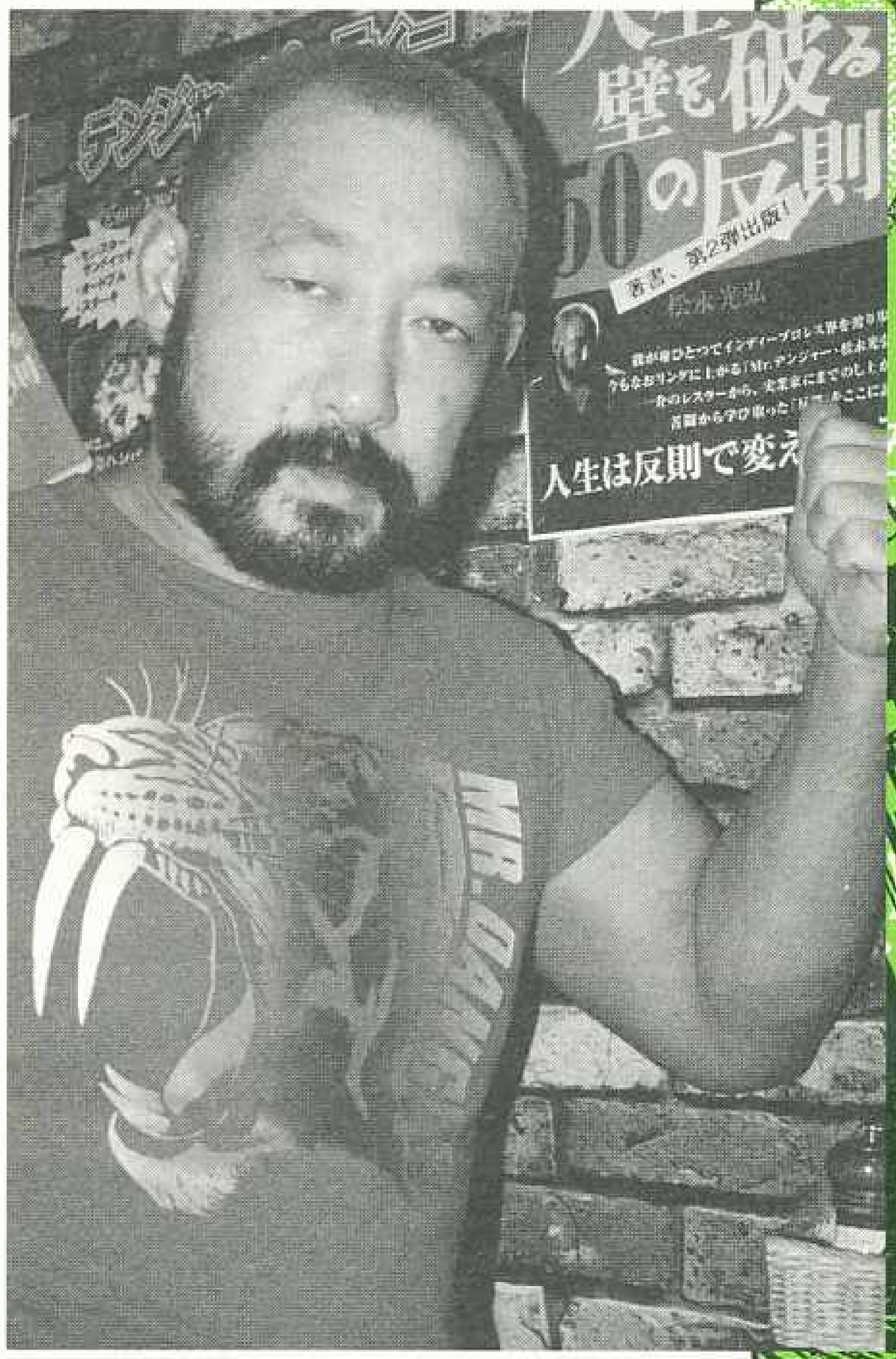
今回のコラムを読んで藤原組長と鈴木みのるの対談が観たくなったという方も多いだろう。組長からは胃ガンはもちろん、おへその下も「年内に○起します！」と力強い復活宣言が飛び出したこの対談。番組の模様はサムライTVにて7月2日(水)16時からの放送がラストランになるのでお見逃しなく！

イナズマKの ハードコア デンジャー Special

スピリチュアル・デンジャーへ転身!?

ミスター・デンジャーが次なるリングを独白!!

松永光弘



まつなが・みつひろ■1966年3月24日生まれ。学生相撲、空手を経て89年にプロレスデビュー。W★ING時代に後楽園ホールのバルコニーからダイブを敢行し、"Mr.デンジャー"の称号を得る。以降、あらゆるデスマッチに挑戦し続けるパイオニアとして活躍。97年より、東京・亀戸でステーキハウス『Mr.デンジャー』を営業中。08年5月17日の大谷晋二郎との「ガラスレイン鉄球地獄デスマッチ」でデスマッチ引退を表明。180cm、105kg。

89年12月10日のFMWでの日本初の『有刺鉄線デスマッチ』参戦を皮切りに、長きにわたりさまざまなリングで斬新なデスマッチを繰り広げてきた〝ミスター・デンジャー〟松永光弘が、08年5月17日のZERO1・MAXでの『ガラスレイン鉄球地獄デスマッチ』で、ついにその壮絶なデスマッチ人生に終止符を打つことに！　デスマッチのパイオニアが目指す新たな場所とは？

ハードコア列伝1 〝死神の代行者〟との友情物語！

まずはデスマッチ最終戦に至った理由について聞くと「やっぱり、いいオヤジが全身血まみれになって観客に同情されてまでデスマッチを続けたくはなかったですね。凶器にしても死と隣り合わせの扉を開け始めてましたし」と、なんとも物騒なことを物静かに語り始めた松永。

それにしても、なぜ引退ではなくデスマッチ最終戦と銘打ったのか？　そこには高校時代からの親友・斎藤彰俊（プロレスリング・ノア）との友情物語があった。「斎藤に引退を告げたら、『待ってくれ。お互いの長年の夢だったタッグを一回も組んでないのに』って言われたんです。それで、『おまえが引退する日に、できるのであればタッグを組むから』って返事をして」。あぁ、美しきは男の友情！　続いて松永は「引退は保留ですがプロレスは事実上、辞めたと思ってください」と、念を押すようにあらためてミスター・デンジャー終了を宣言。そう告げる表情は、じつに晴れやかなものであった。

そんな松永も「最終戦の翌日は少しだけ寂しくなりました」と、後悔の瞬間があったとか。しかし、返す刀で思いを断ち切るように「いまは戻るつもりは全然ありません！　復活しないことが目標です」とキッパリ！　でも、あれだけこだわったデスマッチに本当に未練はないのかとしつこく聞くと、「強いて言うならやり残したデスマッチのネタがあるってことですね。蛍光灯以降のネタがないって言われてますけど、まだあるんだぞってところをガラスレインで見せれたと思いますし」と、潔く答えてくれた。

ちなみに試合後、マッドマン・ポンドに手渡した二つのW★INGリストバンドの行き先は一つはポンド、もう一つは先月のこのコラムで松永へのリスペクトを語ったネクロ・ブッチャーの手に渡ったとか。いい話だ！

ハードコア列伝2 恐怖！　凶器のネタ元は霊感!?

さて、ピラニア、電球、サソリサボテン、蛍光灯、電撃殺虫機、ファイヤーストーブなどなど、「常に初もの」のデスマッチを考案してきた松永。そのアイデアの源をたずねたところ、「うーん……じつを言うと自分、霊感があるんですよ」と、思いも寄らぬ角度から衝撃の発言！　「当時は霊感なんて言うと頭がおかしいと思われるから、誰にも言いませんでしたけど」と、〝スピリチュアル〟という言葉が浸透したいまだからこそのカミングアウト！

「以前は霊感なんかないと思ってましたよ。でも、自然と霊能者の知り合いが増えて、5年くらい前に「あなたは霊感ありますよ」って言われて。霊感って幽霊が見えたりするだけじゃなく、メッセージが降りてくる力も該当するらしくて。だから、いま思えばデスマッチのアイデアも、ふとした瞬間に出てきてたなって思うんです。これまで大ケガをしたことがないのも霊感と関係あるのかもしれないし」と、松永はこれまでを振り返って自身が霊感者であると自覚した模様。

「丹波哲郎は、戦争で自分だけ生還できたのは何かに守られてるからと感じたのをきっかけに霊界の伝道師になったらしいんですけど、自分の場合も近い気がします」と、神妙な面持ちで語る松永。まさにミスター・デンジャーから、〝スピリチュアル・デンジャー〟への華麗なる転身だ!!

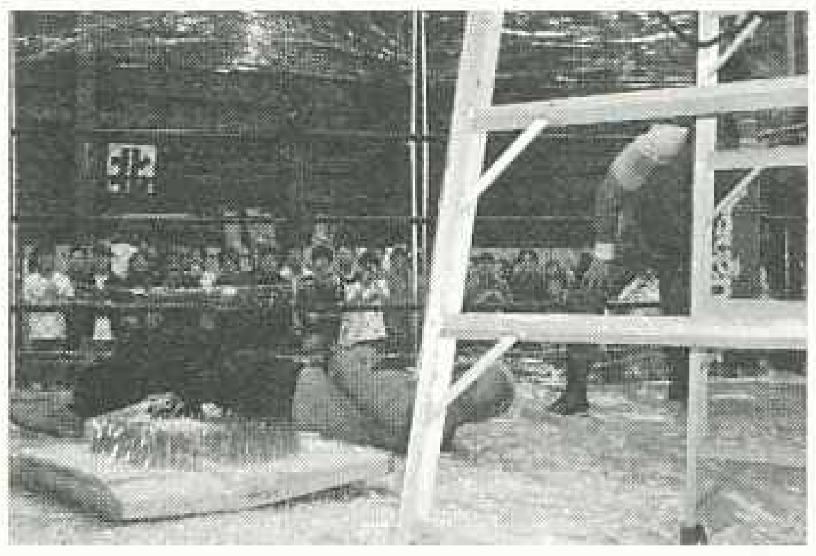
ハードコア列伝3 え、デンジャー相談室開設!?

こんな話を聞いてしまった日には、松永のこれからの動向が気になってしょうがない！　今後のビジョンについてたずねると「意外かもしれないけど、何か人の役に立つことをやりたいんです。じつはいま福祉もやっていて」と、意外な事実を初告白！　このような考えになるきっかけはいったいなんだったのか？　「自分の人生は幸せすぎたんです。レスラーとして脚光を浴びてお店も成功。本を書けば売れて、またプロレスに戻ってもメインを張れた。そんな中で、報われない人たちに次第に目が向くようになったんです」と、周囲に幸せをお裾分けしたくなった素直な心境を吐露。

そんな思いの先にはFMW時代のライバル、ハヤブサの姿もあった。「やっぱり、彼のケガは凄くショックでした。もし神様がいて自分の引退と引き換えにできるのなら、彼がまたリングに上がれる身体に戻してほしいです」と、レスラー仲間への純粋ないたわりの気持ちを表わしてくれた。

数々の危険なデスマッチを闘い抜いてきたミスター・デンジャーが、「人の役に立ちたい」という境地にたどり着いたとは、なんとも素敵な話だ。最後に松永は「これは必ず載せてほしいんですけど」という前置きとともにこう語ってくれた。「これからは弱い人を助けるのが自分の使命だと思ってます。だから、レスラーでも関係者でもファンでも、悩みを抱えてる人がいるなら、遠慮なくメールを送ってもらえれば相談にのりますよ。まあ、自分で言うのもなんですが、人生経験はわりと豊富だと思うので（笑）。いたずらは困るけど、お金を取るつもりもないですし気軽に連絡ください！」

レスラー、ステーキ店に続く、第3の人生を〝スピリチュアル・デンジャー〟として歩み始めようとしている松永。デスマッチでの活躍と同様にこれからもファンの注目を集めてくれそうだ！



ラストデスマッチとなった松永は雨のように降りそそぐガラスの破片の下で見事に大往生！　試合後には「もうデスマッチに未練はありません」と、切々と今回の試合に踏み切った心境を吐露。デスマッチの歴史において松永の残した功績はあまりにも大きい。

松永に悩みを打ち明けたいあなたは、下記のメールアドレスまで気軽に相談内容を書いて送ろう！　newdanger2008@docomo.ne.jp



イラスト◎ゴローちゃん

掟ポルシェの燃え燃え女々苑

鼻歌交じりのレジャー感覚で、大好きな女子プロレスラーの話を聞いてお金までもらえる夢の楽々企画『萌え萌え女々苑』。だが！ このたびシャレにならない事件が勃発！ 俺、掟ポルシェの家が火事に！ これ、マジ話！ んもぉ～、家がブスブスに焦げてるときに仕事なんかしてられっか！ でもこのページは仕事という感じでもないし……あ～、俺どうすればいいの!?

――今回は萌え系の格闘家に登場いただく予定だったんですが、直前で流れてしまい、どうしようかと思っていたら、掟さんが大変なことになってたみたいで。

掟 ええ。〝萌え萌え〟ならぬ、自宅が〝燃え燃え〟になってしまって。

――あまり思い出したくもないでしょうけど、今回は〝萌え〟ではなく〝燃え〟の話を聞かせてもらえればと思ってます。

掟 わかりました。状況を説明すると、5月30日の昼の1時半に犬の散歩に出かけたんですよ。その日の夜は宇都宮でDJイベントがあったんで、それまでに散歩を済ませちゃわないといけなくて。

――掟さんの愛犬家ぶりは、かなり有名ですからね。

掟 毎日1時間ぐらい散歩してますからね。そのときは嫁がタバコを吸ってて、「早くしろ」って、ちょっとせかしたんですよ。吸い殻は灰皿に入れて消したんですけど、たまたま前日が雨だったんで、ちょっと風でも通しておこうってことで窓もドアも開けたままで家を出たんですよ。そしたら、風通しがよすぎて灰皿が倒れちゃって、畳に引火して火災が発生した、と。それが1時58分ですよ。不動産屋から電話がかかってきて「あなたの部屋が火事になってますよ」って言われて。

――うわ～っ。1時半に出かけて、約30分後には、もう燃えていたと？

掟 そうそう。火災発生の報告が消防署にあったのが1時48分だったみたいで、ものの15分ちょっとですよ。窓を開けていたのが幸いしたのか災いだったのかわかんないけど、窓が開いてたことによって、煙が全部外に出ちゃってたみたいで。

――それを見た人が消防署に連絡してくれたわけですね。

掟 そういうのもあって、発見は早くて。で、家が燃えたっていうのは大変だったけど、そのほかは不幸中の幸い続きで。

――と言いますと？

掟 たまたま、消防署の位置がウチのマンションの斜め向かいだったり、大家さんや不動産屋も近くに住んでたんで、ウチのカギとかを持ってたんで、比較的、消火活動はスムーズに進んだみたいで。

――でもさすがに、連絡を受けたときは気が気じゃなかったんじゃないですか？

掟 まあ、そうですよね。連絡を受けて「ヤバイ！ すぐ戻らないと」と思って、嫁と犬と一緒にタクシーに乗ったんですよ。で、タクシーに乗ったはいいんだけど、こんなときに限って渋滞してて全然動かなくてね。

――それはイライラするでしょうね。

掟 「誰だよ、こんなときに事故とか起こして渋滞の原因作ってるヤツは！」とか思ってたら、家に近づいていったら、俺んちの前に消防車が3台停まってて青梅街道をふさいじゃってたっていう（笑）。

――渋滞の原因は燃えている家のせいだったと？

掟 そうなんですよ。でも、ケガ人もなく、被害は自分らの部屋が〝燃え燃え〟になっただけで済んだ、と（苦笑）。

――でも、商売道具から家財道具までいろいろと燃えてしまったんですよね？

掟 ダメージ的には嫁の部屋が出火元だったんで、嫁の部屋の中のモノは全部アウト。それと消火活動の水でパソコン関係や楽器関係も全部アウト。本とかCDも煙と煤（すす）でダメになっちゃって。あとは、とにかく臭いが凄い。

――臭いですか？

掟 そう。クーラーとかプラスティック製品って意外と家の中って多いじゃないですか。そういうものが燃えると臭いが凄くて。要するにダイオキシンですよ。煤っていうのも洗っても、ほとんど取れないですから。

――体験者しかわからないことですよね。

掟 ええ。だから、部屋の中のモノは、ほぼダメになっちゃって。でも、こういうときになると、何が一番大事だったかっていうのが自分でよくわかった！

――掟さん的には何が一番大事だったんですか？

掟 本とかCDとかは、そんな大事じゃないなって思って。そういうのは、また買い直せるんで。で、何が辛かったかっていうと、やっぱセーラーズのコレクション。

――あ～、よく着てましたからね。

掟 セーラーズは中古とかで買ってコレクションしてたんだけど、それが煙を吸ってダメになっちゃってね。臭いが取れないし、汚れも落ちないし。それが一番痛かった。毎日身に着けるモノだけに。

――簡単に買い直すこともできないでしょうしね。でも、掟さんといえば白のスーツがトレードマークですけど、そちらは大丈夫だったんですか？

掟 白いスーツは押し入れの中に入れてあったんですけど、押し入れの中まで煙が入って、白いスーツが煙で黒いスーツになっちゃって。もう喪服として着るしかないですよ。

――笑うに笑えないですね（笑）。あと、聞きづらいんですけど、以前に『おうちが火事だよ！ ロマンポルシェ。』というアルバムを出したことがありましたよね？

掟 そうなんですよ。火事になってみて気づいたんですけど、だいたい予兆があるんですよ。そのタイトルもそうだし、そのジャケットは東急ハンズで売ってる宇宙服なんですけど、よく見たら防火服にも見えるっていう（笑）。



おきて・ぽるしぇ■1968年5月3日、北海道出身。ロマンポルシェ。のボーカル&説教担当。ほかにもDJ、コラム、俳優、声優とさまざまなジャンルで活躍。あまり知られていないが、女子プロ界には「ポルシェ会」なるものが存在するという。メンバーは当コラムにも出演経験のある木村響子、バンビ、希月あおいの3人だとか。近々、会合の予定も。

――何かの予兆だったんですかね（笑）。

掟 あとは、今年の5月3日で40歳になって、40歳になったらいろんなことをやりたいみたいなことを書いて、そのとき一緒にアップした写真が燃えてるカセットコンロを持ってる自分の写真だったっていう（笑）。

――うわ～、それも凄い話ですねぇ。

掟 俺がプロレスラーだったら「ファイアー掟」に改名してますよ（笑）。

――大仁田さんの「ファイアー！」や、アニマル浜口さんの「燃えろ～ッ！」とか、プロレス界には火事を連想させるキーワードがなにげに氾濫してますからね（笑）。

掟 俺は「燃えた～ッ！」ですから（苦笑）。まあでも、猪木さんみたいに、今回のスキャンダルをビジネスにしていかないとね。

――猪木さんのように「どうってことねえよ」とは言えない状況だとは思いますが〝燃え〟からの復活を期待してます！

掟 〝萌え〟はいいけど、皆さんも〝燃え〟には気をつけてくださ～い！（泣）。



これがロマンポルシェ。が04年に発売したアルバムのジャケット。タイトルといい、格好といい、4年後の不幸を暗示していたか。



わずかではあるが『kamipro』編集部からの義援金を手渡すと、封筒にかじりつき涙を流して喜んでくれた掟さん。バックはなぜか安全第一!?

Okite Porsche◎掟ポルシェ■ライブやらDJやら、掟ポルシェ関連情報はブログを死ぬほどチェックしてください！【http://blog.excite.co.jp/porsche/】



イラスト◎エロコエロオ

第4回 シェリル・クロウとインリン様の職人魂

Yuzuru Sato◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。棚橋選手にはちゃんとヒザを手術してほしいんですよ……。

『ハッスル・エイド2008』のインリン様ラスト・マッチ。その入場は、豪華な花道が用意されなかったこともあり、予想に反して地味な印象でした。

しかし、代わりにボノちゃんとの親子の確執の歴史を追った煽りVとBMGに使われたシェリル・クロウの『Tomorrow Never Dies』が激ハマり。筆者の涙腺はあっさり決壊。続くボノちゃんの入場曲、中島みゆき「空と君とのあいだに」で崩壊。クシャクシャになりながら試合を観戦していました

『Tomorrow～』は映画『007 トゥモロー・ネバー・ダイ』の主題歌。ニーナ・サイモンのカバーで有名な『Feeling Good』に爛れたエロスをビターン！と注入したような、哀愁漂うジャズ調のナンバー。で、この歌詞がなかなか興味深い。

冒頭から屍となった女スパイが床に転がり、相手を待つという刺激的な幕開け。そして「世界が崩れ落ちる日まで／もうさよならなんてないとあなたが言うまで／あなたの瞳に映っているわ」と歌い「明日は死んだりしない」と語られる。ある意味では、死してあなたを見守るという愛の宣言のようであり、呪詛のようでもあり、生き残った者への希望を提示した曲とも言えるでしょう。まさにこの日、インリン様の屍を越えて歩き続けなくてはならないボノちゃんや『ハッスル』へ捧げられるにふさわしい曲でした。

そして、この曲のあとにつながるのが「空と君とのあいだには今日も冷たい雨が降る／君が笑ってくれるなら僕は悪にでもなる」というボノちゃんとインリン様の親子関係性をなぞらえたような、「空と君とのあいだに」。つまりこの二つの曲は、インリン様とボノちゃんの「結末」からスタートし「過去」へ遡っていくという映画や小説を思わせる粋なレトリックが施されていました。ファイティング・オペラらしい味わい深い演出だったわけです。

さて、もう一つ。グラミー賞にノミネートされた『Tomorrow～』ですが、じつは彼女はこの楽曲を自身のアルバムに収録しませんでした。同じ007の映画『ダイ・アナザー・デイ』のテーマ「Die Another Day」をアルバムの売りにするマドンナとはエラい違いです。映画のテーマ曲はシェリル・クロウにとってあくまで「番外編」なのでしょう。こうした生真面目な線引きや対応って『ハッスル』では絶対に素の顔を見せないインリン・オブ・ジョイトイに通じる気がします。

90年代の女性ヴォーカル・ムーヴメントの先駆けと言われながら、当時氾濫したあけすけな女性性の告白とは一線を画し、ロッド・スチュワート、ドン・ヘンリーの作品への参加、エリック・クラプトンへの楽曲提供と、豪傑たちに揉まれながら実力で評価を獲得してきたシェリル・クロウ。

一方、セクシーなキャラを前面に出すものの、プライベートの切り売りはせず、仕事と個人の線引きをきっちり行い、与えられた役割をほかのどのハッスラーよりも完璧にやりとげ、その結果、当初のお色気需要から、そのプロ意識が高く評価されるに至ったインリン。

私たちが彼女たちの背中に見ていたのは性差を越えて貫かれた職人のプライド。奇しくも『Tomorrow～』はそんな二人の気質を露わにした曲だったのです。

それにしてもインリン様の引退は本当に大きい。残されたハッスラーには、『ハッスルGP』で『ハッスル』の「明日は死んだりしない」ことをなんとか示してほしいところです。



田中太陽の四本場 / プロレス馬券



Taiyou Tanaka
◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

『ダービー馬のオーナーになることは、一国の宰相になることより難しい」。元英国首相、ウィンストン・チャーチルはそのように語ったという。さすが競馬発祥の地イギリスにおいては、大戦をとり仕切った名相にとってすらダービーは一大事であったというわけなのだが、我らが大日本帝国においては果たしてどうなのか？

さる6月1日、日本ダービーこと東京優駿が今年も行なわれた。日本競馬の祭典として知られるこの大レース、プロレス界にとってもやはり他人事ではなかったようである。プロレスとギャンブルには何かと関わりの深いメディアであるところの『内外タイムス』を通じ、多くのプロレスラーが個性的な予想を披露した。

まずは〝黒のカリスマ〟こと蝶野正洋。出走表を見るやいなや「間違いなく核になってくるのはブラックなんたらだ」といきなり馬名に疎いところを披露したうえ、その根拠も〝ブラック〟と〝黒〟のこじつけでしかないシンプルなもの。そして対抗予想をショウナンアルバ、タケミカヅチ、フローテーションの〝STF〟でまとめ、「オレを信じたヤツは必ずやプレミアムな馬券を手にすることになる。そしたらその金でPREMIUMに来い！」とちゃっかり自主興行の宣伝。むろん予想はかすりもしなかったため、誰もPREMIUMに行くことはできないのだが。

続いては〝プロレスLOVE〟武藤敬司の予想である。「今年はコレってくる馬がいないな」とぼやきながらも、彼が本命に挙げたのはアグネススターチ。根拠は「小学生の時からアグネス・チャンが大好きだったんだよ！」という、どう考えても競馬とはまったく関係のないものであった。

さらには「アグネスでスマイルでサクセスって響きがいい！」と、もはや言ったもの勝ちでしかない理由をつけて2番手にスマイルジャック、3番手にサクセスブロッケンを挙げる。まさしく武藤ならではの〝閃き馬剣術〟なのであった。


蝶野といい武藤といい、さすが闘魂三銃士は馬券を買うときまでもプロレスラーである。大本命のディープスカイを軸とし、チョコチョコとかすらせていった井上亘や田口隆祐には見習ってほしいところだ。

では、三銃士の次世代にあたる永田裕志はどうか。こちらは「今年は5番と2番を勝っておけば間違いない」という、『麻雀水滸伝』などのギャンブル小説でおなじみ〝数字買い〟である。馬の実力をまったく考慮せず、数字にまつわる因果とインスピレーションのみで決めるいわゆる〝勘打ち〟だが、永田はその根拠を「5月2日っていうのはかつて高山さんからベルトを奪われた日であり、昨年は越中さんを相手に王座を防衛した日でもある。今年は復活した日。オレにとって5と2は特別な数字」と語る。いかにも永田裕志らしい実直な予想なのであった。

競馬暦20年を誇る神取忍もまた、永田と同じく日付にかこつけた〝数字買い〟。LLPWの後輩、おばっち飯塚の引退試合が行なわれる5月31日にちなんで馬番5・3・1を中心に予想。このほか、大日本プロレスの〝黒天使〟沼澤邪鬼は「一頭だけ羽根があるペガサスが飛ぶ」とレインボーペガサスを本命に挙げるなど、とても正気とは思えない予想を展開する者まで現われた。

なお、結果は大本命であるディープスカイの圧勝に終わった。騎手は昨年に続く2連覇となる四位洋文だったが、ヒーローインタビュー時に客席から起こった「四位死ね」コールに対して「うるせぇよ！」とブチ切れた四位騎手の姿こそが、じつはダービーにおける最大級のプロレスであったのかもしれないのだった。

ミスターHERO'Sが DREAMにやってきた!







DREAM初登場、好スタート！
新たな舞台に抱いた英雄の思いとは!?

「“招かれざる客”だったらどうしようって思ってました」

所英男

HIDEO TOKORO

ミスターHERO'S・所英男がついにDREAM初見参！
寝技師ダレン・ウエノヤマに判定ながら勝利し、ファンの歓声をおおいに浴びた所。ひさびさの勝利に安堵の表情を浮かべたが、DREAMという新たな舞台にどんな思いを抱いたのか。心の声を聞いてみた。

聞き手／松下ミワ　試合写真／山口比佐夫、乾晋也

――DREAM初登場にして白星デビュー、おめでとうございます！

所　ありがとうございます!!

――試合後は凄くホッとしたような表情でしたけど、いかがでした？

所　いやー、なんかドッと疲れが出たような感じがして。今回、初めての厳しい減量とかして、食事の面とか、いろいろ自分の身体に気を使わないといけない部分が多かったんで、試合が終わって「やっと終わったー！」って思いましたね（しみじみと）。

――今回は、63キロ契約での試合でしたよね。いままで70キロで闘ってましたけど、本来の階級での試合は、やっぱりやりやすかったですか？

所　うーん、まあ、自分の階級といえば自分の階級なんですけど、スタミナが切れちゃいました。

――10分、5分という試合は所さんは初めてですよね。

所　今回はもうプツンと切れちゃいました。すんごいわかりやすいくらい。でも、いい経験させてもらいました。

――どのくらいから切れてたんですか？

所　もう、1ラウンドの途中からですね。ガードポジションの状態になったんで、「ちょっと休んでから攻めようかな」とか思ったんですけど、なかなか休ませてもらえなくて（苦笑）。

――そういう意味では、対戦相手のウエノヤマ選手は、〝ボーン・クラッシャー〟というキャッチフレーズが物語るように、寝技の展開ではまったく動じずに所さんの攻撃を凌いでましたよね。

所　なんか、タイプ的にバレット（・ヨシダ）さんに似た雰囲気でしたよね。見た目は凄くいい人そうな感じでしたし！



[08.6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
○所 英男 vs ダレン・ウエノヤマ×
（2R終了 判定3-0）

強烈なヒザ蹴り、右ストレートなど、打撃とともに、目まぐるしいグラウンドの攻防を見せ、所コールに包まれたこの試合。"ボーン・クラッシャー"の異名を持つダレンも必死に所の極めを凌ぎ、一本取るには至らなかったが、所英男ならではの試合展開となった。

——確かに、凄くいい人そうです（笑）。

所 でも、寝技の粘りはやっぱ凄かったですね。強いなって。いい試練を与えてもらったなと思います。ただ、最悪……って言ったらへんですけど、まあ勝ってスタートが切れたんで、首の皮一枚つながったかなあって思ってますね、いまは。

——ということは、所さん自身、満足していない部分があるし、まだまだやれる、と。

所 それは現役を続けてるあいだは満足できないというか、しちゃいけないと思ってるんで。これを言うと言い訳になりますけど、ここで気持ちよく勝ってしまうとよくないし、勝って気持ちよくなってもいけないなって思うんで。……でも、練習はちゃんとしたんですけどねえ。

——その練習の話で言うと、今日の試合はいまボクシングの練習を熱心にされている所さんなだけに、打撃で見せてた部分も多かったと思います。

所 打撃の練習をするようになって、確かに幅は広がりましたよね。ヒザ蹴りとかも、いままではやってなかったですけど、それもミット打ちの練習で培われたものだと思いますし。そういう部分では、ボクシングをやることによって、どんどん幅が広がってるのは実感できました。

——ちなみに、試合の途中には、所コールとかも起こってましたけど、それは聞こえてましたか？

所 いやー、だからビックリしたんですよ！（嬉しそうに）。試合前は、僕はDREAMに受け入れてもらえないのかなって思ってた部分が凄いあったんで。オープニングセレモニーとかも「僕の入場のときだけシーンとしてたらどうしよう」とか、その佐藤さんの作る煽りVとかでも、「どんな映像が流れるんだろう」とか。

――へぇ～。でも、オープニングのときにはもう所さんへの歓声は凄かったじゃないですか。

所　だから凄く救われた気がして助かりました。って言ったらへんですけど、あれだけの歓声をもらえたんで、またこのリングに上がりたいなって思いましたね。ホントに〝招かれざる客〟だったらどうしようって、その不安が凄く大きかったんですよ。

――所さんみたいな選手は、いままでPRIDEにはいなかったようなタイプですしね。

所　でも、こういうふうに受け入れてもらえたのって、たぶん宇野（薫）さんのおかげだと思ってるんですよ。

――ほう！　宇野選手のおかげ、というのは？

所　今日、凄く気持ちよくリングに立てたのは、お客さんがちゃんと『HERO'S』を認めてくれてるからだと思うんですよ。それは、やっぱり宇野さんと石田（光洋）さんの試合で、お客さんの見る目が変わったのかなって思うんで。そこで宇野さんがあんな勝ち方して実力を見せつけてくれたからこそだと思ってますから。

――そうなる前というのは、DREAMに上がるのは不安でしょうがなかったですか？

所　正直、やっぱりいきなり〝アウェー〟みたいな感覚はありましたよね。いや、〝アウェー〟っていうか……（考え込んで）。

――自分のリングじゃないような、ちょっと距離があった感じですか。

所　そうですね。でも、一回上がると、お客さんもああやって凄く応援してくれたんで、やっぱりまた上がりたいです！

――それはよかったです！





ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。本拠地である『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、『ZST-GP』で優勝。7.6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。ここで修斗ライト王者ペケーニョから劇的な勝利を収め、一躍、時の人に。その後、『HERO'S』では70キロ級で闘い続けたが、DREAMでは本来の体重である63キロで登場し、見事白星を飾る。"神の子の階級"でKID戦に向けて全勝を目指す。170cm、62.9kg。

HIDEO TOKORO

あれだけの歓声をもらえたんで またこのリングに上がりたいなって

――前回、インタビューさせてもらったときに、「佐藤大輔さんの作る煽りVは映画みたいだ」って話をされてたと思うんですけど、自分自身が煽られてみていかがでした？

所　僕、入場前で全然モニターを観れなかったんですけど、お客さんから笑いも起こって楽しんでくれていたので、そのおかげでちょっと和んだというか。これ、どっかで聞いた話なんですけど、笑うと脳が勝手に「楽しい」って勘違いするって言ってたんで、なんだかんだ言っても楽しんで試合ができたんで、結果的によかったかなって思ってます。今回は無理ヤリにでも楽しんでやろうと思ってたんですけどね。

――宇野選手は石田戦の煽りVを観て、「火がついた」って言ってましたけど、所さんもある意味、スイッチが入ったってことですね。あの映像を作るにあたって、所さんもいろいろ取材に協力されたんですよね？

所　協力っていっても、以前ととくに変わりないです。いままでのTBSさんの映像は言葉で見せる感じだったじゃないですか。

――インタビュー形式という感じでしたよね。

所　で、今回の佐藤さんの場合は映像で見せるって感じだったんで、ホント、何にも考えなくていいなって。

――ラクチンでしたか。なんか、へんな要求をされたりしませんでした？

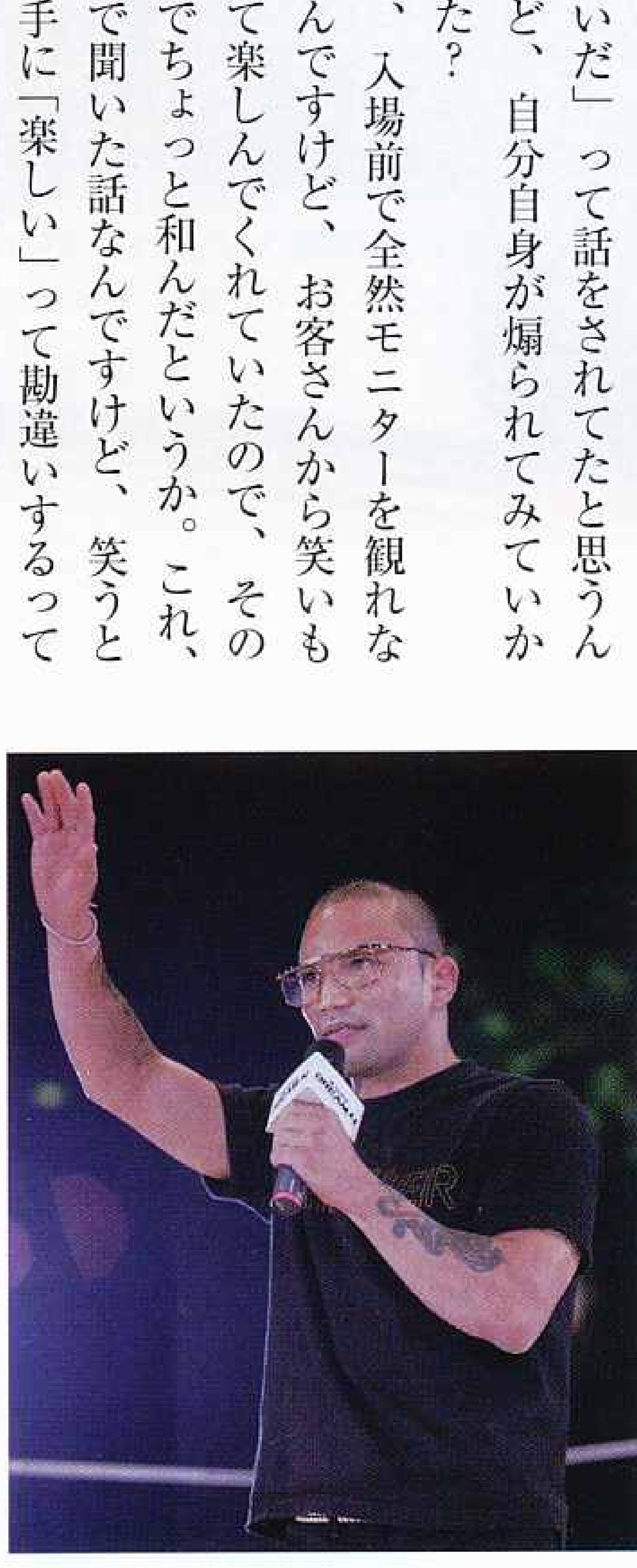
所　いやー、単純に聞かれた質問にその都度答えてたら、ああいう感じになってたんで、まあ、ハメられたのかなって（笑）。しかも、佐藤さんが部屋に来て、ありとあらゆるところを探ってたんですよ。だけど、まさかあの部分が使われるなんて思ってもいませんでした。

――ところで、所さんの師匠である前田日明さんには何かアドバイスはいただいたんでしょうか？

所　やっぱ、今回は減量をやらないといけないってことで、その減量方法を教えてもらいましたね。でも、じつは僕、せっかく前田さんにアドバイスをいただいたのに、まったく守れなかったんですよ。

――それはどういうことなんでしょう？

所　筋肉をなるべく落とさずに、直前に身体の水分だけを抜く減量方法を教えてもらったんですけど、僕、小心者なんで、「早く落とさなきゃ、早く落とさなきゃ」と思って、2～3週間前から体重を落と

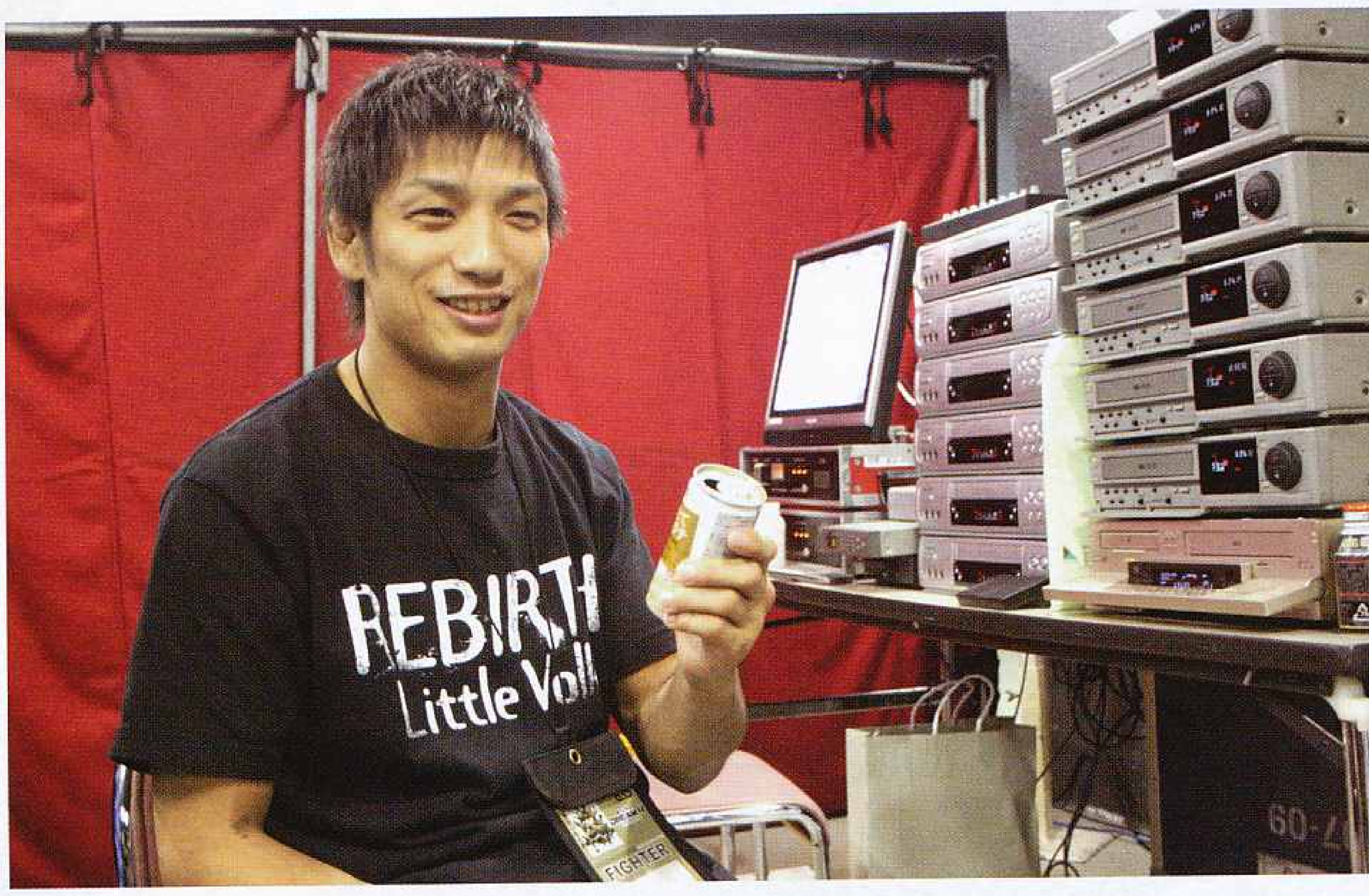


所の試合中、何度もカメラに抜かれていたのが山本〝KID〟徳郁。〝神の子〟KIDとの対戦を目指す所だが、DREAMでの過酷な試練を乗り越え、対戦を実現させることができるのか!?

してしまったんですよ。
――そんなに前からですか。
所　それで思うように減量できなかったんで、やっぱり前田さんの言うことに従えばよかったなあって思ってますけどね。
――あと、前田さんといえば、どちらかというとけっこう体重を「増やせ、増やせ」っていう感じがするんですけど、今回、所さんが63キロでやると決まったときに、反対とかされませんでした？
所　いや、逆ですね。今日、こういう試合ができて「安心したろう。まだやれるって思ったろ？」って言われました。ホントに、そのとおり「まだやれる！」と思ったんで、そういう意味でもホッとしてるのかもしれないです。
――今日、このリングに上がってみて、DREAMという舞台にはなじんでいけそうだと感じましたか？
所　そうですね。厳しい世界には変わりはないですけど、会場のお客さんにも応援していただいたんで、まあ………、やっぱ、わからないです！（困惑した表情で）。
――どっちですか！（笑）。
所　とにかく頑張ります！
――うーん、では質問を変えさせていただきます！　あらためて、DREAMにはどういう印象を抱きました？　実際、自分自身が上がってみて、ちょっと印象が変わった部分もあるかと思うんですけど。
所　やっぱり試合の内容も問われる舞台ですよね。ただ勝つだけじゃなくて、内容もよくて、結果もよくないといけないというか。実際、みんなそういう選手ばっかりなんで、そこについていかないとしょうがないですよね。いい流れで一本というのがベストなんですけど、ちょっとフィニッシュが……。
――ウエノヤマ戦も最後を一本で決めればって感じですか？
所　ですよねえ？　う～ん……。でも、さっきも言いましたけど、勝ててスタートが切れたんで、ここからです！
――では、「ここから」の話に移ります。煽りVでもさんざん流れてた所さんのKID選手への対戦表明、あれを受けてかどうかわからないですけど、じつは所さんの試合中、しょっちゅうKID選手がカメラで抜かれてたんですよ。
所　マジっすか……（若干、萎縮して）。
――今日の試合を終えて、KID戦というのは距離的に縮まりましたか？　それとも遠のきましたか？
所　それは遠のいたと思います（キッパリ）。今回の試合ではKIDさんへのアピールはできてないと思いますね。
――そこは自分で冷静に分析されてるわけですね。
所　はい。KIDさんも「これじゃやる必要ないな」と思ったと思いますし。でも、今日は今日で終わったことなので、またすぐ練習してもっとアピールできるようになりたいです。
――なんだか、ずいぶんアッサリしてますね。
所　こうなったらもう逆に開き直るしかないなって。もう、考えててもしょうがないんで。
――もう、やるしかない！　と。でも、今日のお話をうかがっていると、KID戦は遠のいたと言いつつも、凄く晴れ晴れとした表情ですよね。
所　あ、そうですか？（照れながら）。
――07年の『Dynamite!! USA』ブラット・ピケット戦以来、所さんの明るい表情というのは、正直なかなか見られてない感じがしてたんですけど、今日は勝った直後ということもあるのか、ここ最近ではない明るい表情だなって。
所　どうなんですかねえ？　やっとスタートが切れたからかなあ。
――いままでとは違う心境ですか？
所　まあ、いい意味でフッ切れてしまったというのが一番なんじゃないかなと思いますけどね。でも、伝わるもんなんですかねえ……（遠くを見つめて）。
――で、今後の話で言うと、KID戦にたどり着くまでには、フェザー級の強豪と闘わないといけないと思いますし、いずれはトーナメントも行なわれるんじゃないかと言われてますが、その試練にはどんな気持ちで挑みたいですか？
所　そうですね。負けるのはイヤです！
――そりゃ、みんなそうだと思うんですけど（笑）。
所　ええっと、なんて言ったらいいのかわからないですけど、もしトーナメントがあるとしたら、それまで全勝してトーナメントを迎えたいと思いますね。
――ああ、なるほど。
所　いまはもう怖いものナシというか、「失なうものは何もない」ってぐらいの気持ちで進んでいけると思うんで、そこに迷いはないかなって。
――わかりました。では、その開き直りっぷりで、まだまだ活躍してください！
所　頑張ります！

【08年6月15日／都内・某所にて収録】

いい意味でフッ切れてしまったというのが一番なんじゃないかなと思うんですけどね





DREAMの新世界創造　加速！



桜庭、青木らに見た"巡る季節"

格闘春夏秋冬座談会

サクがマヌーフに、何もできずに90秒で失神KO負けを喫してしまった6・15『DREAM・4』。
英雄がその生々しいリアルな姿をさらした一方で、青木真也、ジャカレイ、メイヘムなど、
新しい世界が着実に作られていくという、相反する事象が同居するダイナミズムが生み出されていた。
DREAMは、そして桜庭は、今後どうなっていくのか？

構成／堀江ガンツ　試合写真／乾普也

結果はどうあれ、マヌーフ戦を受けた時点で〝変態〟的にはもう「桜庭の勝ち」ですよ！

ガンツ　さて、今日は6・15『DREAM・4』直後にカラオケ付き個室居酒屋で収録しているわけですが、井上さん、曲は何入れましょうか？

井上　（神妙な顔つきで）裕次郎お願いします。

ガンツ　では、歌っていただきましょう。石原裕次郎で『わが人生に悔いなし』。

ジャン　コラコラ！　歌ってないで、さっさと座談会始めますよ！　ただでさえ、時間がないんだから。

井上　でも、今回はしみじみ歌いたい気分だよ。お気づきかもしれないけど、ちょっと俺は動揺を隠せないから。

ガンツ　桜庭KO負けのショックがアリアリですか。

井上　ショックというか……なんなんでしょう？

ジャン　さっきプレス控室でライターの橋本（宗洋）さんも「予想される最悪の結果になってしまった」って言ってましたけど、自分はこういう結果はある程度、覚悟してたんですよ。

井上　まあ、結果はありえる話だよね。あるんだけど……。

ジャン　受けとめられませんか？

井上　受けとめてるんだけど……、あの〜今日は父の日なんだよね。それで今日の午前中、幼稚園に父親参観に行ってきたんですね。

ジャン　午前中が父親参観で夜はDREAM取材。凄い一日ですね（笑）。

井上　で、子どもが手作りのハンガーに似顔絵を描いてたりするのをプレゼントしてくれたんだけど、それが終わってDREAMの会場に来てみたら、やっぱりこちらもテーマは父の日というか。煽りVなんかも、父親と子どもの関係みたいなのが多かったじゃん。各選手の年齢を強調してみたり。

ガンツ　あ〜、それはたぶん佐藤大輔さん自身がパパだというのもあるんでしょうね（笑）。

井上　あの人もパパなの？

ガンツ　双子のパパです。だからサクの取材したとき、やっぱり親として感じるものがあったのかもしれませんね。

井上　たしかにあのサクのVTRは父親じゃないと作れないかもなあ。それに今日はおとっつぁん世代が軒並みいかれたっていうか。

ジャン　すっかり自己投影しちゃいましたか（笑）。

ガンツ　でも、そういう感覚が味わえるのって、桜庭と同時代をすごしてきたからでもあるし、桜庭和志という大河ドラマを観ているわけだから、ある意味、贅沢な負けですよね。

井上　贅沢だよね。でも、贅沢という言葉では割り切れない超贅沢というか……。

ジャン　贅沢だけじゃ、消化しきれない、と。

ガンツ　でも、サクは本当に人生を切り売りしてるというか、身体を切り刻んでる気がしましたよ。生前、破壊王が「プロレスとは人生の春夏秋冬を見せるもの」って言ってましたけど、それをMMAで初めてやってるのがサクですからね。

ジャン　そしてプロレスの「秋」と違って、真剣勝負の「秋」は観る側にも痛みを伴いますからね。

井上　俺がいま、まさにその痛みを伴ってるよ（笑）。



今回のサクはシンプルな、白いサクマシンマスクを被って入場。額のDREAMの文字、そして「白」という色に、なんらかの意味が込められているはずだ。

ガンツ　で、いままで桜庭を応援してきた人たちは、みんな「夏をあきらめきれなかった」わけですよね。そんな中で、『HERO'S』に来てから、秋山戦はともかく、秋を迎えた桜庭の試合を「まだまだ夏ですよ〜」っていう売り方を主催者がしてる感じがしたから乗れなかった。

ジャン　でも、今回はありのままの、38歳の桜庭和志を見せたわけですよね。

ガンツ　そう。あれをやられたら、「見届けさせていただきます」っていうだけになるよ。

井上　結果はどうあれ、マヌーフ戦を受けた時点で、やっぱり変態的には「桜庭の勝ち」なんですよ。高田vsヒクソン戦のあとにグレート・サスケが言った「ヒクソンと闘った時点で、高田さんは僕らに勝った」っていう（笑）。あれですよ。

ガンツ　そして桜庭自身、入場曲に『わが人生に悔いなし』を入れてみたり、冗談めかしながらも期するものがあったていうのは、凄く伝わってきたじゃないですか。

ジャン　ここ2〜3回の煽りVのあとのミニコントの中でも、かなり真に迫るものがありましたよね。

井上　それと入場の白覆面！　あの白マシンマスクは、死に装束じゃないけど、「白」を選んできたことに、なんか凄いドキッとした。

ジャン　そうですね。机に置いてあるマスクを慌てて被るっていう映像を流してましたけど、あれはいままで被ったマスクというのが前提じゃないですか。それが、一度も見たことがない極めてシンプルなものでしたからね。

井上　それでマスクを取ったらいままで見たことがないような固い顔しててさ。ヤバいなと思ったもんね。

ガンツ　マスクから覚悟が見えるというか。

井上　よその団体の〝白覆面〟とはちょっとわけが違うんですよ。

ジャン　ズバリ言って、オーちゃんがIGFでやってるのとはわけが違うというか（笑）。

ガンツ　あれこそ夏があきらめきれない最たるものというか（笑）。

ジャン　あれ破壊王に凄く失礼ですよね。だって破壊王はあの格好のまま福岡ドームから福岡空港まで行ったんですよ？（笑）。白覆面を被るならそれくらいの覚悟でやってほしいですねぇ。

井上　ふざけた余生を送ってんじゃないよ、と（笑）。

ジャン　やっぱり現状と正面から闘ってるか、闘ってないかですよね。桜庭は今日はホントに闘ったと思いますよ。

井上　うん！

ジャン　試合前日に谷川さんから、サクがケガして体調が最悪っていうのは聞いてたんですけど、それでも出ていったわけですからね。

ガンツ　やっぱりさ、我々がプロレスラーや格闘家を応援、心酔するのって、「強い」とか「カッコいい」とか

座談会出席者

井上崇宏
携帯サイト『スカパー！　バトルライフ!!』制作に携わっていたベールワンズの総帥。サクとはショップ『グレートアントニオ』のプロデューサー時代から、伝説のサクマシンフィギュアを制作するなど、親交がある。二児の父。

堀江ガンツ
ちっちゃなころから変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『Kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称。ダメな30代から共感される変態のカリスマであり、変態座談会主宰者。

［司会］ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『Kamipro』編集部へ。永久電機、沈没船の財宝など、アントニオ猪木の夢とロマンが溢れすぎ、かつ怪しげな事業の調査をライフワークとする。



「いい試合する」っていうことを超えて、「その心意気買った！」「その生き方買った！」っていう部分が一番大きいじゃないですか。そこを買ったからこそ、その生き方に乗るっていうね。

ジャン　小川直也がＰＲＩＤＥ・ＧＰに出場したときに乗ったのも、小川が「強い」とか、「世界最強を証明してくれるはずだ」なんてことじゃなく、「『ハッスル』を広めるため」っていう、一見くだらないことのために、闘いを挑んだその心意気を買ったわけですもんね。

ガンツ　昔ね、ＵＷＦのポスターに「彼らの仕事は男です」っていうコピーが書いてあったのよ。たぶん布施さんあたりがつけたんだと思うけど（笑）。今日の桜庭を観て、そのコピーを思い出したな。「職業・桜庭和志」って「職業・男」ってことですよ。

井上　高田に初めて「男の中の男だよ」って言われたのは桜庭だからね。

ガンツ　高田といえば、今日観たＤＲＥＡＭの桜庭って、ＰＲＩＤＥに出てたときの髙田がオーバーラップしてきたんですよ。これは全然悪い意味じゃなくて、かつて最強と呼ばれた人が、歳を取ったあと、新しい世界で愚直なまでにチャレンジしていく姿っていうのが、ダブったんですよね。

井上　それはじつは凄いわかる！　俺も一瞬、思った。

ジャン　言葉は悪いですけど、新しいイベントを作るための人柱になったというか。

ガンツ　心のフルチンになって、泥臭く必死に闘う「秋」の姿を見せるっていうのは、しびれますよね。

井上　頑張ろう。

ジャン　え？　なんですか？

井上　俺、頑張る！

ジャン　「猪木が頑張れば俺も頑張る」的な（笑）。

プロレスラーに大事なのは「強さ」以上に「その心意気買った！」と思わせる部分

井上　そう！　サクが頑張るから俺も頑張る！

ジャン　サクが闘うなら自分も闘う、と。

ガンツ　まあ、今日は二人のお子さんを持つ井上さんが、サクに共感している横で、独身一人暮らしの僕なんかは、所英男の煽りＶにしみじみ共感しちゃってるんですけどね（笑）。

ジャン　あのＡＶネタに共感しましたか（笑）。

ガンツ　共感したと同時に、ようやく所のＡＶネタが解禁されたことがホントに嬉しかったよ！

井上　ＡＶ好きはあの松井秀喜だって公言してるからね。

ガンツ　所もＡＶ好きを隠してたら、魅力半減だよ。

ジャン　どんな魅力ですか（笑）。

ガンツ　いやいや、ホントに。ＡＶを女優じゃなくて、監督で選ぶ男だよ？　これは男として信頼できるなっていう。以前、所くんに「誰か対談したい人いる？」って聞いたら、「サトエリかパンチ監督」って言ってたからね。『マジックミラー号』の監督と佐藤江梨子が同じくらい大好きなんだよ（笑）。

井上　所、おまえは男だ！

ジャン　でも、確かにそういうの出したほうが親しみは増しますよね。

ガンツ　女の子のファンはどう思うかわからないけど（笑）。男の支持率は確実に上がるでしょう。

ジャン　あとは、格闘フリーターっていうキャラがリセットされたのもいいですよね。

ガンツ　そうそう。いままで「フリーター所英男」というＴＢＳで作られたキャラにはめられて、所本来の奔放な感じとか、じつはちょっと腹黒いところもある部分がスポイルされてきた。でも、今回は前田日明へのリングサイドでの挨拶とかもなくなって、所英男が大人として独り立ちした感じが出てて、「所くん」じゃなくて、格闘家・所英男としてカッコよかったな。

ジャン　あとはテーマ曲が変われば完璧なんですけどね（笑）。

ガンツ　そのへんは『ＨＥＲＯ'Ｓ』で培ってきたものの意地ということで、いい方向に解釈しよう（笑）。

井上　その所の試合を観て、「まだまだ」みたいな顔をしてるＫＩＤも良かったよね。あのでかい眼鏡も大きな「謎掛け」だし（笑）。

ガンツ　だから、そういうのも含めて、ＤＲＥＡＭって実績あるスター選手がたくさんいるけど、みんなＰＲＩＤＥや『ＨＥＲＯ'Ｓ』での立場がリセットされていて、これから陣地取りをしなきゃいけないところが、凄く刺激的だと思いましたね。

井上　「ＺＥＲＯ　ＹＥＡＲＳ　ＯＬＤ」だよね。

ガンツ　だから、青木が「大黒柱になります」って言ってたけど、それはまだ大黒柱＝エースが決まっていな

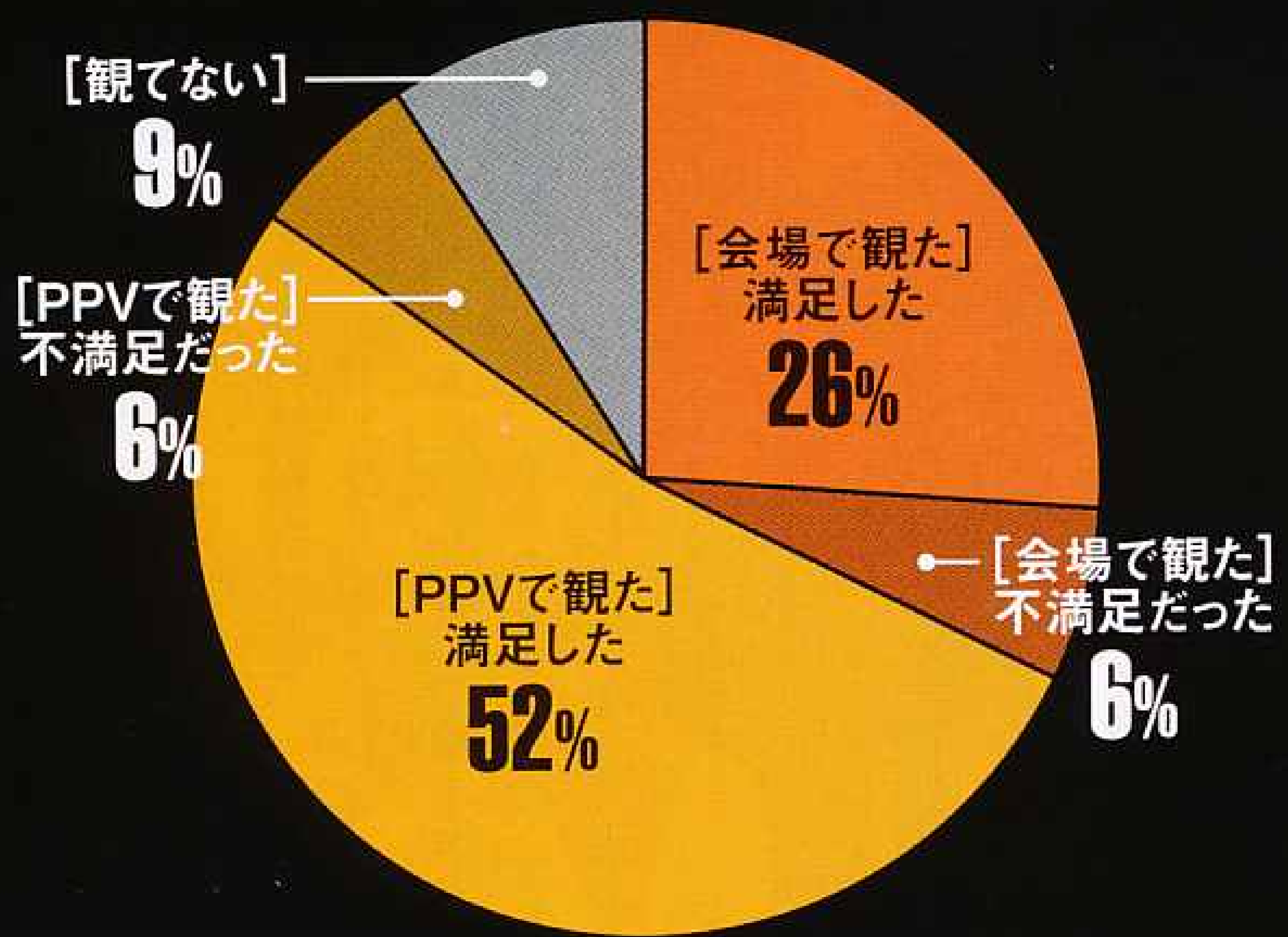
ファンは『DREAM.4』をどう見たか?

本誌ケータイサイト

『kamipro Hand』アンケート結果発表

（アンケート期間 6/16〜6/17）

Q.1 6.15『DREAM.4』をどのようなかたちで観ましたか?



今回、会場及びPPV観戦したファンの9割近くが満足したというアンケート結果が帰ってきた。イベントに熱を帯びるとともに、回を重ねる毎にクオリティも増してきた証拠か。

Q.2 今大会のベストバウトは?

1 青木真也vs永田克彦……214
2 ホナウド・ジャカレイvsジェイソン・"メイヘム"・ミラー……160
3 所英男vsダレン・ウエノヤマ……97



ベストバウトは上位3試合がほかを引き離す得票数。桜庭vsマヌーフ、衝撃の一戦がこれに続いた。

Q.3 今大会のMVPは?

1 青木真也……189
2 ジェイソン・"メイヘム"・ミラー……42
3 桜庭和志……24
4 所 英男……19
5 メルヴィン・マヌーフ……12



MVPはブッチギリでワオ木さん。敗れたものの"バカキャラ"メイヘムがファンのハートをつかみ、2位に食い込んだ!



[08.6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
○アリスター・オーフレイム vs イ・テヒョン×
（1R 0分36秒 KO）

ウェートアップしたアリスターが、シルムの大横綱イ・テヒョンと対戦。アリスターはローキックで足を痛めたように見えたが、強烈な左右のフックからヒザ蹴りで失神KO勝ち！ 試合後はマイクでミルコ戦をアピールした。



[08.6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
○ハレック・グレイシー vs ガジエフ・アワウディン×
（1R 3分02秒 腕ひしぎ逆十字固め）

片やミルコ、片やカカレコと、それぞれ対戦相手が欠場してしまった者同士を当てたにも関わらず意外にも好カードとなったこの試合。ガジエフの打撃をかいくぐったハレックが、マウントからキッチリと腕十字で一本勝ち。

いってことなんだよね。誰もまだポジションを用意されてなくて、それはこれから闘って勝ち取っていくものだという。

井上　みんなキツいな、これは。

ガンツ　だから選手にとってはホント、たまったもんじゃない部分って凄くあると思いますよ。

ジャン　それがわかってるから、所にしてもKIDにしても、なかなか出てこなかったんでしょうね。DREAMに出場するということは、その争いに加わることとなるわけですから。

ガンツ　慎重になるよね。だから宇野薫が石田とやるのは相当な覚悟がいったと思うよ。もし負けたら、これまでの実績は関係なしに、DREAMでは石田の下にランクされるわけですから。

ジャン　今日リングで挨拶したKIDも完全に馴染んでませんでしたもんね。「俺のことわかってる?」っていうような感じの挨拶だったし。

ガンツ　KIDですらポジションが保証されてないわけだから。しかも、DREAMはこれまで4回開催されて、確実に新しい風景と秩序ができ始めてますからね。そうじゃなきゃ、メイヘムとか、ジャカレイが大歓声浴びない。

ジャン　ジャカレイの入場時、ワニポーズやってるファンがたくさんいましたもんね。あれを見て『戦極』ポーズが流行らない理由がわかりましたよ。やっぱりポーズは簡単じゃないと(笑)。

井上　だからイベントが生きてるっていうか、急速に世界ができあがってる感があるよね。

ガンツ　たとえば今日なんて、第1試合の青木が完勝して、メインの桜庭が完敗したことで、無意識のうち

KIDですら立ち位置が保証されていないのがDREAM。だからこそKIDの試合に注目！

にスター交代を見せつけられたというか。昔、猪木がレオン・スピンクスとやった日に、前田はニールセンとやって、間接的に世代交代したような、そんな感じがあったなあ。

ジャン 変態的にはそう見えましたか（笑）。

ガンツ で、こういう新しい世界や秩序ができていくことこそ、DREAMのそもそものコンセプトなんだよね。だから、ようやくDREAMがDREAMらしくなってきたってことでしょう。

ジャン そう考えると、ライト級GPの決勝大会も見物ですよね。残った4人みんながトップになれる実力があるし、誰か一人欠けてもダメという。

ガンツ 青木と宇野っていうのも、ある種、世代闘争だよね。

ジャン 晩夏を迎えた宇野と、これから夏を迎える青木の闘いっていうのも、これまたヒリヒリするというか。

ガンツ かつての前田日明vs藤波辰巳（当時）というかね（笑）。

ジャン「無人島だと思ったら仲間がいた」っていうような試合になればいいですよね。……井上さん、言葉少なですけど、ライト級は興味ないですか？（笑）。

井上 いや、興味あるよ！ 凄い興味あるんだよ！ ただ、じつはまだちょっとこの代謝のスピードの速さに体が慣れていかないんだよね。なんていうか、ごめん、今日はサク完敗ってことだけでいっぱいいっぱいかも……（笑）。

ガンツ でも、その新陳代謝具合が、スポーツの残酷さであり、醍醐味でもありますよね。

井上 だから、いまのDREAMを観ていると、あのPRIDEですら、わりとほのぼのしてたなって思っちゃうぐらいなんだよ。

ガンツ MMAクラシックというか。

井上 そうそう、なんか早くも古き良き時代、みたいな。

ジャン そういう面はありますね。

ガンツ だから今日、ジャカレイとメイヘムの試合観ながら、2003年11月に東京ドームでやって名勝負だったノゲイラvsヒース・ヒーリングを思い出してたんですよ。あれに似てるなって。でも、いまノゲイラvsヒーリングのビデオ観たら、凄く古くさく見えるんだろうなって。

井上 クラシカルだろうね。

ジャン そういう急激に動いているDREAMに、7月から秋山成勲とKIDが加わるんだから、これは楽しみですよね。

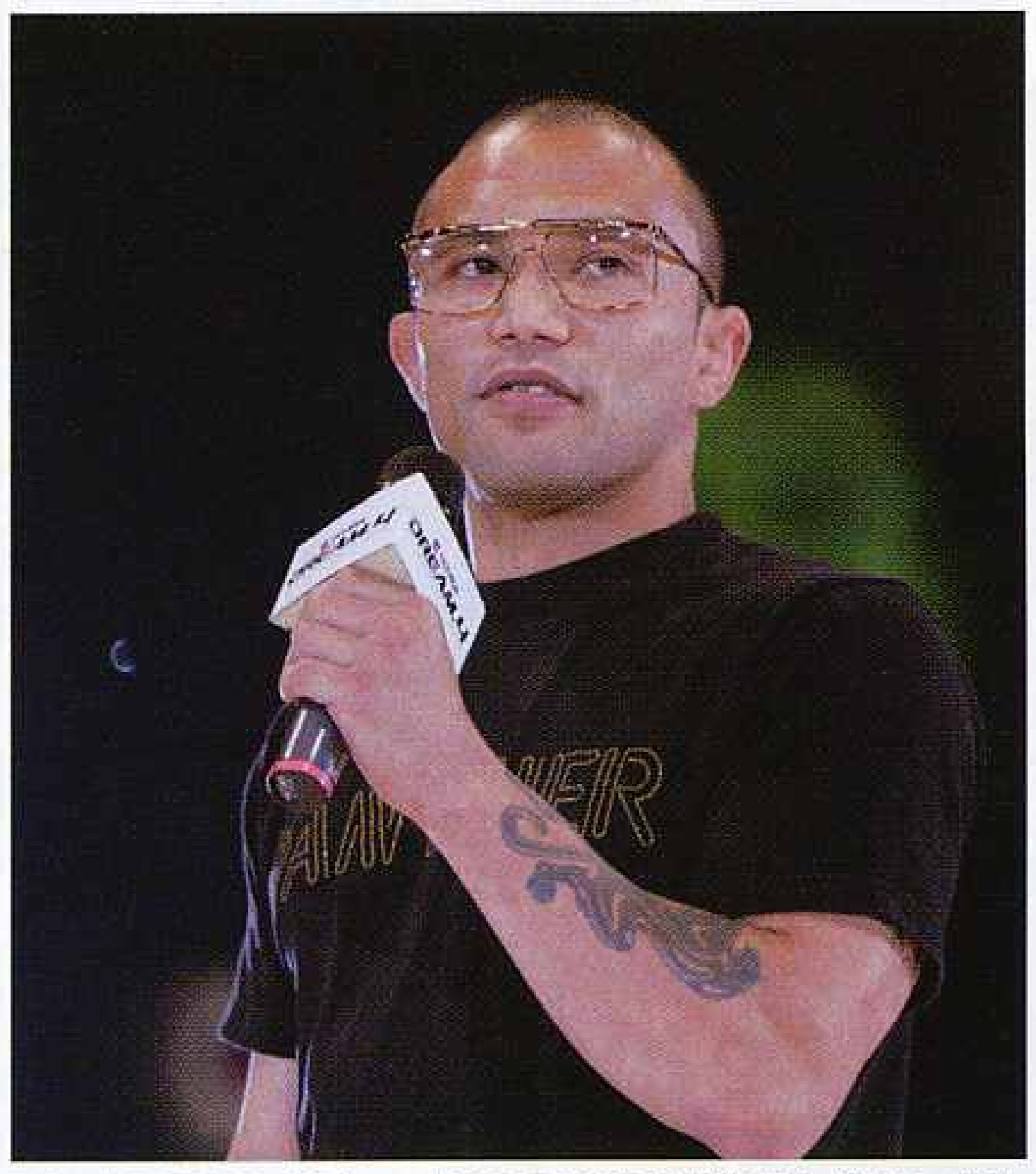
ガンツ そうそう。あの二人がどういうポジションを築いて、どんな世界ができあがるのかっていう。

ジャン 『HERO'S』で築いた立ち位置がリセットされてるって、秋山は感づいてないっぽいですけど、KIDは感づいてますよね。「あれ？ 俺の居場所ないんじゃねえの？」っていうのは。

ガンツ だから、KIDの闘いぶりはメチャクチャ興味ありますよね。KIDですら、またトップのポジションを奪わなきゃいけない。

ジャン 今度の相手がまた強そうですもんね。

ガンツ しかも、セコンドにWEC世界フェザー級王者のユライヤ・フェイバーがつく可能性が高いという。そしたら、単なる日本だけの闘いじゃなくて、間接的にアメリカとの闘いにもなるだろうし。



7.21『DREAM.5』でついにDREAM初出場をはたすKID。新しいイベント、新しい階級で、はたしてどんな闘いを見せ、どんな世界を作り出すのか？ 大注目だ!

ジャン そうですね、いまアメリカMMAのほうが上だっていう概念がありますけど、KIDがぶっ倒すことで、その可能性をアピールできますよね。

ガンツ やっぱりいまはアメリカをちゃんと意識の片隅にでも置かないと、おもしろくないよ。KIDだけじゃなく青木なんかも、DREAMの大黒柱になるだけじゃなく、UFCのチャンピオン倒さないと世界一は名乗れないっていう意識を常に持ってる気がするし。

ジャン そういう姿勢は見えますね。

ガンツ JZカルバンに勝ったことで浮かれないで、「GPで優勝する」い「いつかはBJペンを倒す」みたいに、高い位置に目標を置いている。そこが、やっぱりこれから"夏"を迎える男の楽しみなところですよ。

ジャン そう考えると秋山なんてどうなんですかね？ UFCでアンデウソン・シウバを倒して世界一を目指せとか、そっちに対するニーズをまったく無視してますよね。

ガンツ 不思議とそういう機運がないよね（笑）。

ジャン それなのに、逆にどんどん幻想は高まっていくという。今日なんかもKIDみたいにリング上で挨拶があってもいいのに、秋山の「あ」の字さえ出ないっていう。これは逆に不気味だよなっていう。

ガンツ ミドル級GPの試合を観てて、勝ち上がった選手はみんな強いけど、それでも秋山のほうがさらに強いイメージがあると思ったんだよね。

ジャン ミドル級GPが『ロード・トゥ・秋山』に見えるというか。

ガンツ そう！ 魔王がてっぺんで待ってるような感じなんだよ。欠場したクセに（笑）。

ジャン 凄いですね、魔王。魔王で思い出したけど、『週プロ』見ました？

井上 ん？ 見てない。

ジャン なぜか金本浩二が「魔王」を名乗り始めてるんですよ（笑）。

井上 えっ、なんで金本が魔王なの……？

ジャン 明るく激しい魔王みたいな（笑）。

井上 なんだろうね、それは。それって『週プロ』が命名してるの？

ジャン いや、本人が（笑）。

ガンツ 自己申告です。

井上 「アイム・魔王!!」（笑）。

ジャン で、『週プロ』も「そういえば金本は魔王らしい」とか書いてるんですよ。

井上 「だが、その理由はここではまだ書けない」みたいな？（笑）。

ガンツ あの雑誌を通して見るプロレス界って、ホントに僕らが愛したプロレス界とはまったく違う世界がいつの間にかできあがってますよね。

井上 いやだな〜、金本が「魔王」の世界。ま、どっちでもいいけど（笑）。

ジャン そう。イヤだけど、秋山だからいいかって（笑）。

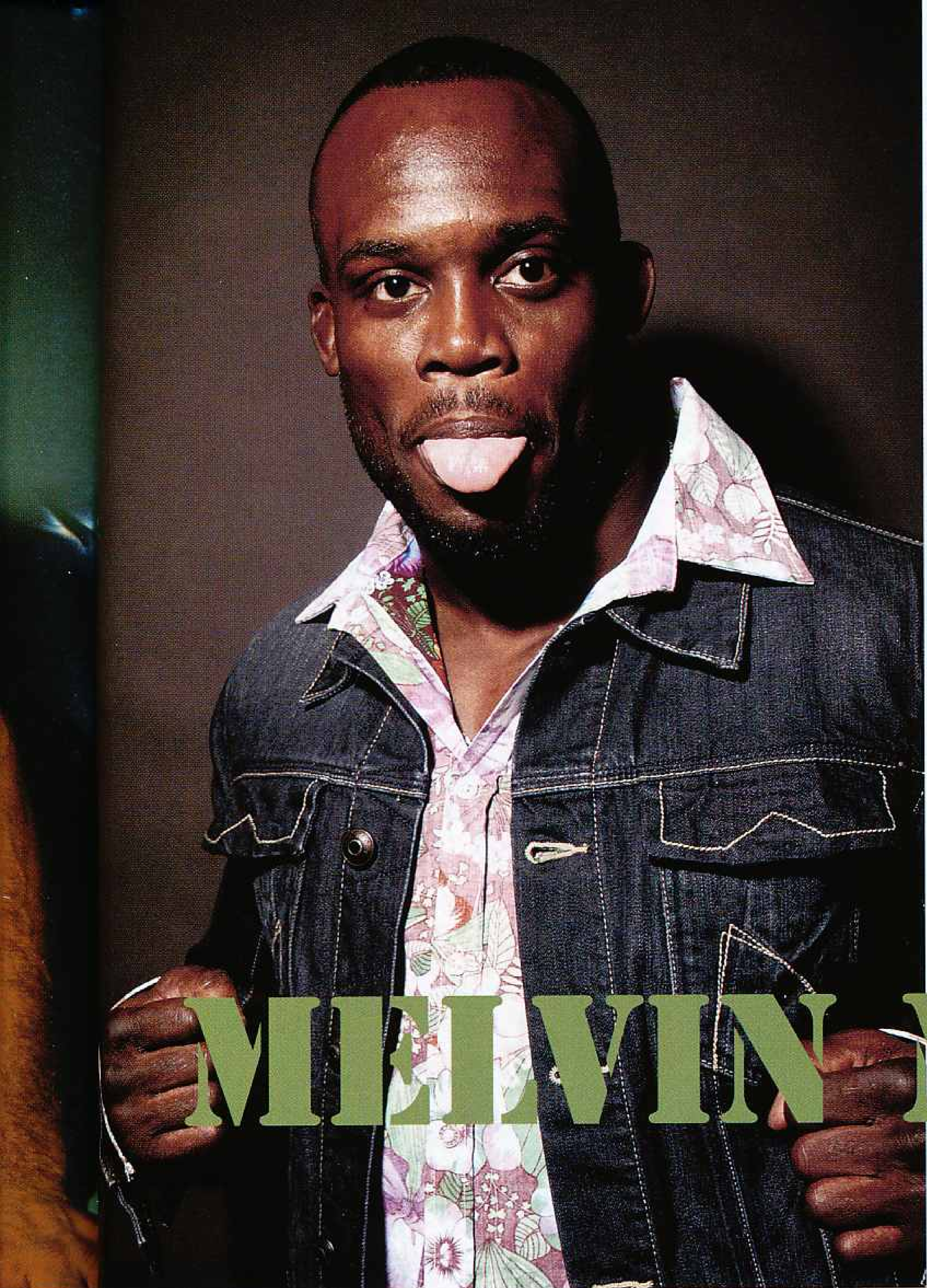
ガンツ ま、完全に冬をとおりこしちゃってるってことですかね（笑）。

ジャン では、ウチはマット界の夏と、真っ赤な秋に注目していきましょう！

【08年6月15日／新横浜のカラオケ店にて収録】



Bruno Frazatto
Cristiano Kaminishi
Carlos Toyota
Rubens "Cobrinha" Charles
Eduardo Pessoa
Rodrigo Feijao
Marquinhos Souza
Leo Santos
Lucas Lepre
Guilherme Mendes
Rafael Mendes
Roberto Souza
Mauricio Souza
Fighter's Shop
BULL TERRIER
www.b-j-j.com
ファイターズショップ ブルテリア URL http://www.b-j-j.com 携帯サイト http://www.b-j-j.com/cgi-bin/i/index.cgi
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町 1782-1 伊藤ビル1F TEL:053-421-2534 FAX:053-421-2542



“拳獣”マヌーフがレジェンド超えの心境を激白!!

「伝説になるためには、伝説を破壊しなければならないんだ!!」

MELVIN MANHOEF

メルヴィン・マヌーフ

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

——昨日の桜庭和志戦は衝撃的な結末でしたね。

マヌーフ　サンキュー。

——試合後のマイクアピールも印象に残りましたよ。

マヌーフ　「伝説になるためには伝説を破壊しなければいけない」。俺の素直な気持ちだよ。サクラバサンは偉大な伝説だ。ヴァンダレイ・シウバのように日本だけでなく、世界中のみんなに知られているスーパースターなんだ。俺はK－1やDREAMで闘う前から、そういうスター選手たちのDVDを観ていて、昨夜はサクラバサンと闘うところまできた。だが、俺がサクラバサンのような伝説の男になるためには、これから伝説を破壊していかなければならない。

——マヌーフ選手はアウェーだったわけですが、桜庭さんのような伝説的な存在と闘うやりにくさはなかったですか？

マヌーフ　サクラバサンは大声援だったけど、それはいたって普通のことだよ。逆にオランダで試合をしたら俺に対する声援のほうが多いだろうしね。サッカーだってそういうものだろう？

——気にしても仕方がないですよね。

マヌーフ　それに俺は、サクラバサンがいままで成し遂げてきたことをもの凄く尊敬している。ファンの声援が彼に送られることはあたりまえだと思ってる。さらに日本のファンは凄いなと思うのは、桜庭選手が負けたことに対してファンの視線が送られるけど、俺自身のこともキチンと評価してくれることだね。

——勝ち負けはもちろんですけど、マヌーフ選手のそういった姿勢も日本のファンは観てるんだと思いますよ。

マヌーフ　俺は一番強い男になりたい。そのためにハードなトレーニングをして頑張っているけど、そこにファンの声援や評価が加わると、さらに頑張ろうという気持ちが湧いてくるんだ。俺の大事なモチベーションだよ。

——モチベーションといえば、入場のときにいつもトレーナーと向き合って、顔を近づけて怒鳴り合ってますよね。あれはモチベーションを上げてるんですか？

マヌーフ　トレーナーのマイクには、試合に対する課題を話してもらうんだ。いつもは聞こえないんだけど、今回は聞こえて、それが非常によかったと思うよ。

——今回はどんなことを言いましたか？

マイク　会場入りしてから、グローブチェックだとか、リングチェックだとかで時間を取られるとテンションが下がってしまうだろ？　入場するときにはテンションを上げる必要がある。それで、最後に声をかけるんだ。「誰がこのリングの主だ？」と私がメルヴィンに聞く。そして、メルヴィンが「俺がこのリングの主だ！」と答える。そうやってテンションを高めるんだよ。

——儀式的なものですね。

マヌーフ　そう。これは攻撃的になりすぎないように、逆に落ち着かせてくれる側面もある。攻撃性は必要なんだけど、無謀なものではなく、コントロールされた攻撃性が必要なんだ。実際に過剰な攻撃性を出してしまったのがユン・ドンシク戦とか、秋山成勲戦だね。そんなときはマヌケな腕ひしぎ十字固めでやられてしまうのさ。

——かなり仲がいいんですね。

マヌーフ　ああ。本当によく会っていて、へたしたらワイフと会っている時間より長いかもしれないぜ（笑）。もう9年の付き合いになる。俺の集中すべきポイントをクリアにしてくれるんだ。

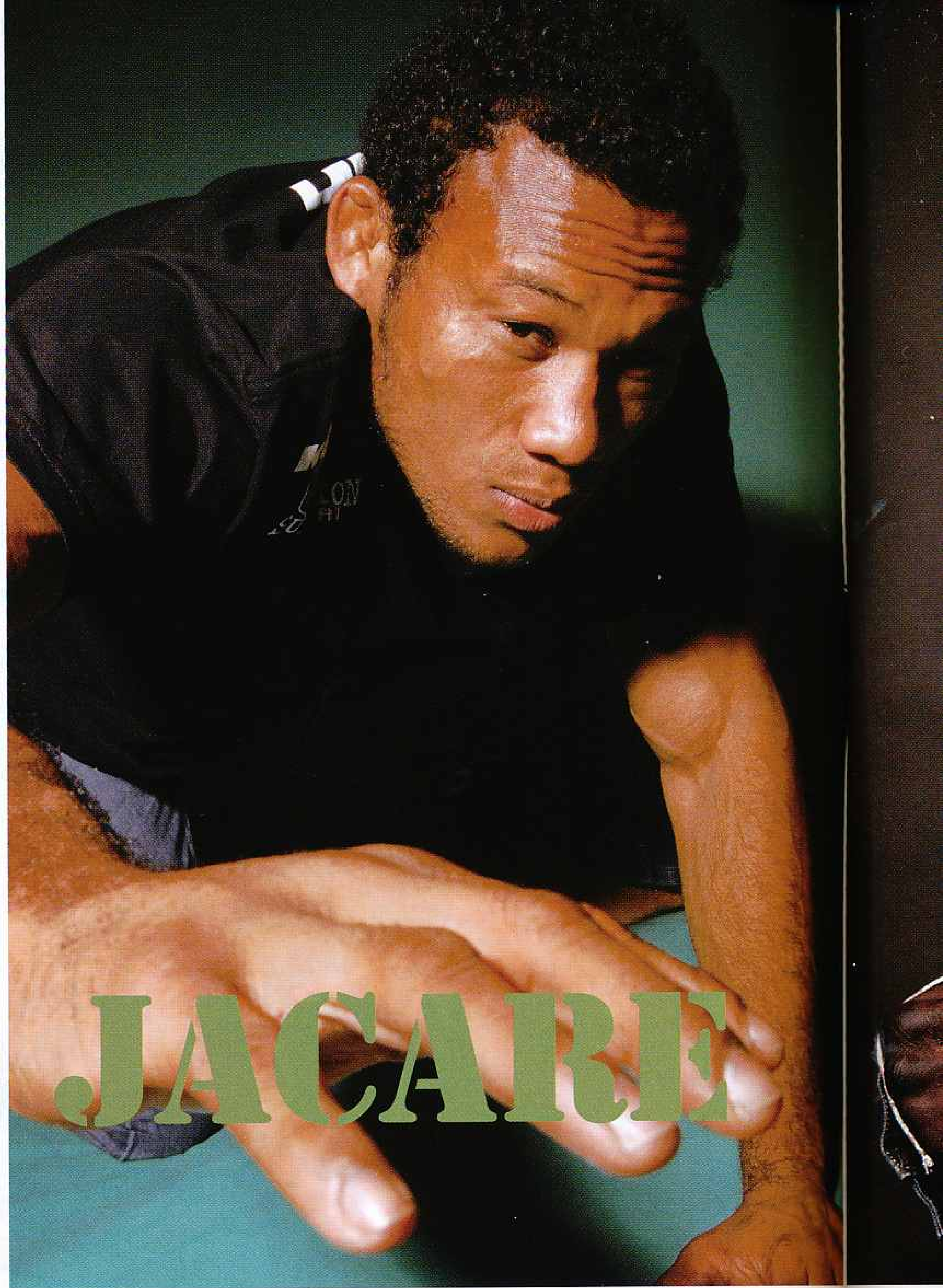
——これからも二人三脚で優勝を目指すわけですね。

マヌーフ　もちろんだ。俺の夢はこのGPで優勝してベルトを巻くことだ。俺がこのGPの主になってやるよ。

【08年6月16日／都内・ホテルにて収録】



［08.6.15 DREAM.4］
横浜アリーナ
○メルヴィン・マヌーフ vs 桜庭和志×
（1R 1分30秒 KO）
『DREAM.4』のメインで桜庭和志と相対したマヌーフは、1分すぎにハイキックから怒濤のラッシュで一気にサクを秒殺KO葬！　試合後はリング上でセコンド陣と喜びを表わした。



ミドル級GPの優勝候補、ジャカレイが本誌初登場！

「次の試合は、ぜひヴァンダレイにセコンドについてほしいね」

RONALDO JACARE

ホナウド・ジャカレイ

聞き手／大川義之　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

――ジェイソン・"メイヘム"・ミラーとの試合は本当に素晴らしかったです！

ジャカレイ　サンキュー。

――ジャカレイさんは本誌初登場なので、幼少期の頃から振り返りたいんです。

ジャカレイ　普通の子どもだったよ。ただ、僕は海兵隊員の兄と二人きりで暮らしていて、兄が海に出ているときは、ずっと一人ぼっちだった。仕送りが足りなくて食うのに困ったときもあったよ。子どもの頃は毎日ケンカばかりしてたけど、柔術が人生を一変させてくれたんだ。

――へぇ～。いまのジャカレイさんからは想像できませんねぇ。

ジャカレイ　僕は柔道の黒帯も持っているけど、規律を重んじる日本の武道から多くのことを学んだよ。

――DREAM参戦時は8つの大会からオファーがあったそうですが、DREAMを選んだ理由はなんですか？

ジャカレイ　単純にDREAMの条件が一番よかったのと、03年に柔術大会に参加するために日本にいたとき、PRIDEを観に行ったんだ。そうしたら、ヴァンダレイ・シウバやアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが大活躍していてね。最高の大会だったし、選手がとても愛されていたから、いつか日本で闘ってみたかったんだ。

――ジャカレイさんは、会場人気も凄かったですね。

ジャカレイ　自分もビックリしたよ。あんなに応援してくれるとはね。

――メイヘムとの試合は、ジャカレイさんにとって初の判定決着でしたね。

ジャカレイ　最初に飛ばしすぎて2ラウンドは息が切れてしまったけど、15分間闘えたのはよかった。こういう経験が自分をもっと強くするからね。

――前にヴァンダレイは本誌のインタビューで「ジャカレイのセコンドで来日したい」と言ってましたよ。

ジャカレイ　彼とはエクストリーム・クートゥアーで一緒に練習しているし、いい友だちなんだ。セコンドについてほしかったけど、僕は今回ほかで練習していたからね。次の試合の練習は一緒にやる予定だよ。

――ヴァンダレイのグラウンドは上達していますか？

ジャカレイ　彼は優れた柔術家と試合しているけど、一度も極められたことがない。いまでもドンドン成長しているよ。

――あなたのライバル、ホジャー・グレイシーが『戦極』で試合しましたね。

ジャカレイ　うん。近藤有己は凄く強いのに、何もさせずに勝つんだから彼は素晴らしい選手だよ。凄く刺激を受けたね。フフフ。機会があれば、ぜひ闘いたいね。

――7月からDREAMに参戦する秋山選手は知っていますか？

ジャカレイ　もちろんさ。彼は精神面が凄く強いね。メルヴィン・マヌーフやデニス・カーンにも勝っているし、素晴らしい選手であることは間違いないよ。いつか闘ってみたいね。もちろん勝つのは僕さ。

――凄い自信ですね！　ジャカレイさんは『ジャングルファイト』に出ていましたが、"闘魂ストーカー"ヴァリッジ・イズマイウとはいまでも関係があるんですか？

ジャカレイ　（サッと表情を変えて）ヴァリッジ？　……確かに以前、親交はあったが、もう一切関係ないよ（機嫌悪そうに）。

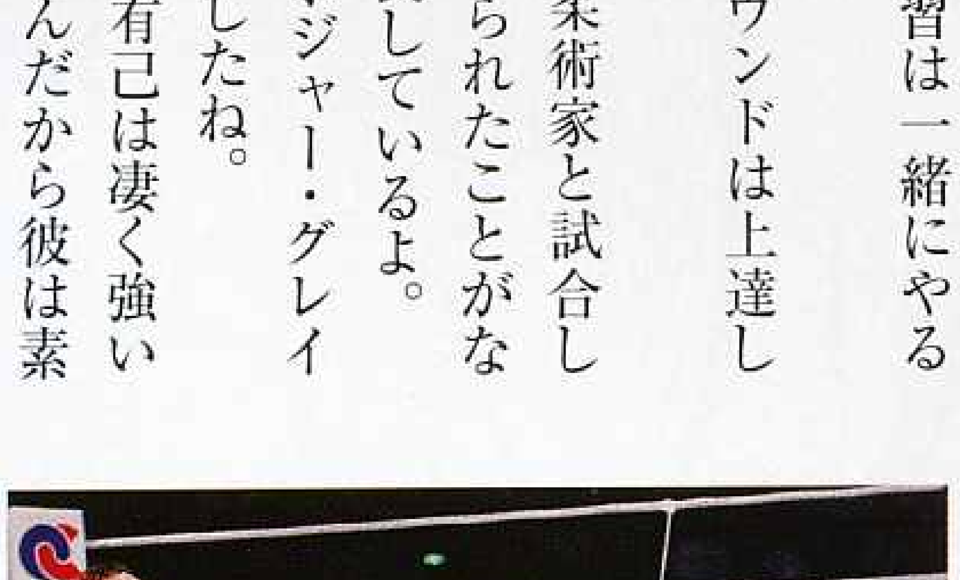
――あれ？　トラブルメイカーのイズマイウと何か問題があったんですか？

ジャカレイ　そういうこと。そんなことより、いまの自分にとってはDREAMで闘うことが一番大事なんだ。

――すみません！（笑）。では次の決勝ラウンドも期待しています！

ジャカレイ　オーケー！　全力で頑張るよ（ワニポーズしながら）。

【08年6月16日／都内・ホテルにて収録】



[08.6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
○ホナウド・ジャカレイ
vs ジェイソン・"メイヘム"・ミラー×
（2R終了 判定 3-0）

注目の寝技師対決は、序盤から両者の技術がぶつかり合う大熱戦に！ メイヘムにことごとく凌がれるも、ジャカレイが攻め続けて判定で勝利! 最後はワニポーズでキメッ!!

豪傑揃いのヘビー級天国!! UFCを脅かす新興勢力のkamipro的楽しみ方!!



アフリクション 番長戦争!!

文／橋本宗洋　イラスト／師岡とおる　構成／ジャン斉藤

噂が飛び交い、情報が錯綜し、憶測が憶測を呼んだ新ＭＭＡイベント、7・19『アフリクション』は、いざ出場メンバーが決まってみたら大変なことになっていた。〝いずれ劣らぬ強豪ばかり〟という紋切り型で済ますわけにはいかない、どうにも独特な、匂い立つような個性を持つ野郎どもなのである。

なんかこう、不良ばっかりが集まる工業高校みたいじゃないか。

アメリカの大会をつかまえて工業高校ってのもへんな話だが、そう考えるとじつにしっくりくるわけである。各地の高校を仕切っていた番長たちがアフリクション工業高校に続々と転校し、世界一の番長を決めようとしている。そんな感じだ。イラストを見てもらえば一目瞭然、『アフリクション』とは、従来のＭＭＡイベントからハミ出した男たちによる〝番長戦争〟なのである。

ラスベガスの名門校・私立ズッファ学園への推薦入学が期待されながら、厳しい校則（独占契約）が「オレには性に合わねえ」とアフリクション工業進学を決めたのがヒョードル。日本に留学し、戦極高校でキングと呼ばれたジョシュ（配下の人間にへんなポーズを強要することでも知られる）も里帰りを決めた。かつてズッファ学園をシメていたティム・シルビアも、あまりの素行の悪さ（誰が何を言おうとテコでも動かない）ゆえ放校になってアフエに乗り込んでくる。

ヒョードル番長をして「オレより才能がある。次の総番はこいつしかいない」と言わしめた実弟アレキサンダーもやってきた。さらには15回くらいダブってると噂のペドロ・ヒーゾ、レナート・ババルの両先輩が新入生を待ち構える。オリンピックで活躍したスポーツエリートのマット・リンドランドも、留年に留年を重ねた末、アフエで再起を期す。

ここに集まったのは、誰もが一国一城の主を自認する番長たちである。独立独歩、頼みは己の拳のみ。誰もがズッファ学園への進学を望む中、縛られるのを嫌ってアフエに流れ着いたわけで、まあ、よくも悪くもスマートさに欠けるというか。つまり番長というのは、金ではなくメンツで生きている人間だと言うことはできるだろう。

そして、このアフエで展開される番長戦争のバックには、ドナルド・トランプという大富豪がいる。この男の狙いはなんなのか？ 番長たちにとって敵か、味方か？ そこがまた物語にスケール感と奥行きをもたらしている。そう、『アフリクション』は格闘技イベントとしてでなく、番長マンガとして見たほうがおもしろいに決まっているのだ。雑誌でいえば『週刊少年チャンピオン』だ。

さて、『アフリクション』が番長マンガの殿堂『チャンピオン』だとすると、ほかのＭＭＡ団体はどうなるだろうか。やっぱり部数的に見ても、ＵＦＣは『週刊少年ジャンプ』だろう。かつてはＰＲＩＤＥこそが『ジャンプ』だったわけだが、榊原編集長からダナ・ホワイト編集長に変わって連載陣一新といった雰囲気である。

ＤＲＥＡＭは一般読者から通な〝マンガ読み〟まで注目する『週刊ビックコミックスピリッツ』。ＤＥＥＰは『月刊コロコロコミック』。って、これ代表の体型からの連想でしかないが。

そうなるとＫ－１ワールドＧＰシリーズが『週刊少年マガジン』ってことになるな。「昔は業界で一番トンガッてたんだけど」とファンに言われたりして。で、Ｋ－１ＭＡＸは、それまであたりまえのようにあった男臭さ（劇画タッチ）をラブコメ路線で一掃、〝女の子も読める少年誌〟を作り上げた……そう、『週刊少年サンデー』。

ＺＳＴは、なんかその独自の雰囲気が『月刊コミックビーム』っぽいかなとか、パンクラスは『週刊ヤングサンデー』だな、とくに意味はないけど、とか考え始めると止まらなくなっていくわけだが、もっとも難しいのは『戦極』だろう。

一時は『週刊漫画サンデー』説も出た『戦極』だが、編集部との話し合いの結果（そんなこと話し合ってるのだ、『ｋａｍｉｐｒｏ』ってところは）、『週刊コミックバンチ』であるということで落ち着いた。

我々が大好きだった全盛期の『ジャンプ』の作家陣が大量に連載している『コミックバンチ』は、元ＰＲＩＤＥファイターを主力とする『戦極』にふさわしい。で、豪華なメンツが揃ってるのに、何をどうやっても『ジャンプ』の再現にはならないところも『戦極』っぽいような。

あ、あと一つ。修斗はやっぱ『ガロ』でしょう。

というわけで〝アフリクション＝番長マンガ論〟を発端に妄想するＭＭＡの世界はじつに楽しい。楽しいのだが、一方でマンガ雑誌はアンケートが大きくモノを言う世界でもある。アンケートの順位が低ければ打ち切りもあるわけだ。

記憶に新しいところでは、鳴りもの入りで始まった『ボードッグ』が中途半端なかたちでの連載終了を余儀なくされている。カナダ、コスタリカ、ロシアと舞台を広げ、ヒョードルにホジャー・グレイシーと主役クラスが揃い、パンクラスというサイドストーリーの伏線まで張ったところでの打ち切り。いま思えば、あれは車田正美の『男坂』みたいなもんだったのか。

『アフリクション』だって、最初の10週の人気がカギだろう。風呂敷をめいっぱい広げ、番長たちが富士山の裾野に集結していざ決戦！ ってところで〝第一部完〟なんてのも、ない話じゃない。長期連載になるかどうかも含めた上で、〝アフリクション番長戦争〟は必読なのだ。

見てみぃ、このメンバー！ 世界の番長が続々集結！

『アフリクション』

米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター
（現地時間）7月19日（土） 開始21:00

主要対戦カード

エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ティム・シルビア
ジョシュ・バーネット vs ペドロ・ヒーゾ
アンドレイ・アルロフスキー vs ベン・ロズウェル
エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs ポール・ブエンテロ
アントニオ・"ホジェリオ"・ノゲイラ vs ヴァーノン・"タイガー"・ホワイト
マット・リンドランド vs ファービオ・ネガオ
レナート・ババル・ソブラル vs マイク・ホワイトヘッド
ビクトー・ベウフォート vs テリー・マーティン
ジャスティン・リーベンス vs レイ・リザーマ
マイク・パイル vs JJ・アンブローズ ほか

身売り説も急浮上!? UFCに何が起こっているのか?

文／高橋ターヤン



北米のMMAシーンはいよいよ"ネクスト・ステージ"への移行を開始した。

初めてCBSという地上波で放映されたエリートXCは平均450万人以上の視聴者を獲得し、メインのキンボ・スライスvsジェームス・トンプソンは650万人という北米史上最高の視聴者数を叩き出した。さらにアパレルメーカーによる新興MMA団体『アフリクション』は、アメリカ最強の不動産王ドナルド・トランプとの提携を発表。そして北米MMA界の主人公であるUFCも新たなる局面を迎えつつある。

本稿執筆時点では具体的な内容のアナウンスはされていないが、ダナ・ホワイトは近日中にUFC史上最大級の重大発表を行なうとしている。その内容は「ボクシング無敗の6階級王者フロイド・メイウェザーの参戦」や「チャック・リデルvsアンデウソン・シウバのドリームマッチ」などと噂されてはいるが、ダナ自身は「今後のMMAシーンの方向性を決定づける発表」と位置づけて、内容はいまだに語っていない。そんな中でまことしやかに囁かれているのが「FOXでの地上波放送決定」と「フェティータ兄弟からUFCが売却される」という二つの噂なのだ。前者の地上波放送はUFCの悲願であったので、グッドニュースと言えよう。だがもう一つの噂、毎興行超満員札止め、PPVは数十万件の売上を記録して業界トップをひた走るUFCになぜ身売りの噂が発生するのだろうか?

じつはUFCは400億円近い巨額の負債を抱えている。その400億円という数値は、地上波放送を打ち切られて満身創痍だったPRIDEの負債が十数億円、すでに破綻寸前のIFLの負債が32億円と言えば、その巨大さがわかるというものだろう。これは会場は常に満員でありながら、広告費に莫大な資金を投入しすぎて費用対効果があまりにも悪かったイギリス進出の失敗、さらに数十億円を投入しながら一回の興行も行なわなかったPRIDEの買収など、イケイケなだけにやってしまった数々の失敗が大きな原因だ。しかしUFCのオーナーは大金持ちのフェティータ兄弟。なぜ彼らは新たな資本の注入をせずに可能性の宝庫であるUFCを手放そうとしているのか?

じつはフェティータ兄弟が経営するステーション・カジノ（以下、SC）はすでに青息吐息なのである。SCのカジノは、ストリップやダウンタウンといったラスベガスの中心地から車で数十分走った郊外に存在している。つまりSCのカジノは、海外からの観光客をメインの顧客とする中心地のカジノと違い、車でカジノに遊びに来る近隣のアメリカ国民をメインの顧客としているのだ。さらにSCは06年にはレッドロックと呼ばれる巨大なホテルの建設など大量の資本投下を行なったが、完成直後にアメリカではサブプライム・ローンの焦げつきによる大不況が始まってしまい、カジノへの来場者は激減。現在SCは深刻な窮地に陥っている。そこでダナは新たなる提携先として、さまざまな投資家集団と接触していることが噂されており、その中にはWWEのビンス・マクマホンや、世界最大の投資銀行であるモルガン・スタンレー社の名前も取りざたされている。

つまり、いままで北米MMA戦争の主役だったフェティータ兄弟やカルヴィン・エアー、エド・フィッシュマンといったセレブに代わって、エリートXCのバックに控えるバイアコム社や、アフリクションと手を結んだ不動産王トランプ、さらにHDNet Fightのマーク・キューバンなど、金持ちとしてのステータスがワンランク違う新たなビリオネアたちが続々と参入し始めている。これから北米のMMAシーンは、我々日本人では想像もつかないような本物の大金持ちたちによる全面戦争の舞台となるのだ。





7.19『アフリクション』ティム・シルビア戦決定!
激動の米国MMA界へ皇帝ついに進撃!!

独占インタビュー

Emelianenko Fedor
エメリヤーエンコ・ヒョードル

「ダナ・ホワイトは醜い人間。私は新生『M-1グローバル』を世界一にする」

聞き手／堀江ガンツ　写真提供／アフリクション　協力／M-1グローバル

皇帝、ついに動く！

UFCが巨大化を続ける一方で、エリートXCが三大ネットワークCBSでの地上波放送を成功させるなど、まさに激動の時代を迎えている米国MMA界。

そんな中、ファッションブランド『アフリクション』が設立した新イベントが7月19日、カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターで旗揚げ。そのメインイベントでヒョードルが元UFCヘビー級王者ティム・シルビアと対戦することが決定した！

もともとヒョードルは今年2～3月に米国で試合を予定していたが、旧『M―1グローバル』が大会を行なわずに分裂してしまったことで頓挫していた。しかし今回、ヒョードルのマネージャーでもあるレッドデビルのワジム会長が新生『M―1グローバル』の代表に就任。『アフリクション』と協力関係を築いたことで、晴れて現在MMAの本場である米国での試合出場が決定したのだ。

『アフリクション』といえば、もともとは多くのUFCファイターをスポンサードしてきたが、新MMAイベント開催の動きが出てから、UFCと犬猿の仲となった企業。

巨大資本を持ち、さらに不動産王として億万長者の代名詞的存在であるドナルド・トランプ氏とパートナーシップも締結。7・19アナハイムでの旗揚げ戦でもヒョードル、シルビア以外に、ジョシュ・バーネット、ホジェリオ・ノゲイラ、ペドロ・ヒーゾ、レナート・〝ババル〟・ソブラルなど、次々と大物の参戦を発表。まさにUFCを脅かす新興勢力なのだ。

ダナ・ホワイトは『アフリクション』旗揚げについて「Tシャツ屋に何ができる！」と切り捨てたが、内心は穏やかでないはず。

はたしてヒョードルの出陣は、米国MMAにどんな影響を与えるのか？

本誌はティム・シルビア戦に向けてロシアで集中トレーニング中のヒョードルを国際電話で独占キャッチ！　米国進出への意気込み、さらに日本マットへの再登場について話を聞いた。



――ヒョードル選手、おひさしぶりです！　なかなか電話がつながらなくて不安だったんですが、ようやくヒョードル選手とお話しできて、ほっとしました（笑）。

ヒョードル　７月の試合に向けて集中トレーニングに入っていたので、なかなかお話しできずにすみません（笑）。

――こちらこそ、試合前の忙しい中、申し訳ありませんが、インタビューよろしくお願いします！

ヒョードル　はい。なんなりとどうぞ。

――まずは７月19日、アメリカ、カリフォルニア州で行われる『アフリクション』への出場が決定しましたが、いまの気持ちを聞かせてください。

ヒョードル　やっと試合が決まり、とても気持ちが充実していています。やはり試合が正式に決まると練習にもさらに力が入りますしね。

――５月にロサンゼルスとニューヨークで行なった『アフリクション』の記者会見では、多くのファンが集まったらしいですね？

ヒョードル　はい。たくさんのファンが集まってくれました。大きな声援をもらって、より一層気合いが入りましたね。

――ヒョードル選手は『アフリクション』という新しいイベントのどこに魅力を感じましたか？

ヒョードル　『アフリクション』は、いまM―1グローバルと一緒にイベントを行なっていますから、一緒に新しいイベントを作りあげられることに魅力を感じました。

――対戦相手のティム・シルビアは今年２月にUFCでノゲイラに一本負けしていますが、シルビアvsノゲイラのビデオはご覧になりましたか？　観ていたら感想を聞かせてください。

ヒョードル　じつはトレーニングに集中しているので、まだ観ていないんですよ。今度、観たら印象をお答えします。

――まだ観てませんか（笑）。ヒョードル選手はシルビアをどのように評価していますか？

ヒョードル　とても強くていい選手だと思います。UFCのチャンピオンシップで５回も勝利していますし、現時点でも世界で４番目に強い選手だと言われていますから。彼と試合ができることを誇りに思います。

――かつてティム・シルビアは「ヒョードルは俺と闘うには小さすぎる。俺にパンチは当たらない」と言っていましたが、それについてどう思いますか？

ヒョードル　私は昨年末に彼よりずっと大きな選手を倒したばかりなので、大きさは問題ないと思います（微笑）。

――そういえば、チェ・ホンマンを倒したばかりでしたね（笑）。

ヒョードル　あとセーム・シュルトも以前、倒しました。ですから大きな選手と闘うのは特別難しいとは思っていません。

――では、ティム・シルビア戦に向けてのトレーニング・スケジュールを教えてください。

ヒョードル　６月27日にサンクトペテルブルグで『ネバー川の決闘』というM―1グローバルの大会があるので、そこに出場する選手たちと一緒に練習しています。一日２回トレーニングを行なっており、午前中２時間半、夕方に２時間トレーニングしています。



『アフリクション』の記者会見では、ヒョードル、シルビア、そして“億万長者”ドナルド・トランプ氏という、驚愕のスリーショットも実現。アメリカでのMMAの巨大化を象徴しているような写真だ。

ko Fedor

UFC王座はとくに興味がありません。ノゲイラとの決着はついたと思っています

――ちなみに練習内容は？

ヒョードル　秘密です（微笑）。

――わかりました（笑）。『アフリクション』には、ホドリゴ・ノゲイラの弟、ホジェリオ・ノゲイラも参戦しますが、ヒョードル選手とノゲイラの再戦が実現する可能性はありますか？

ヒョードル　彼にはすでに二度勝っていますから、決着はついていると思います。ただ、ファンが彼との対戦を望むなら、また闘うのもいいでしょう。

――ノゲイラはいまUFCヘビー級のチャンピオンですが、UFC王者を倒すということに魅力は感じませんか？

ヒョードル　私はとくにUFC王者に魅力は感じていません。すでにUFCのチャンピオンは二人倒していますしね。

――確かに元UFC王者のマーク・コールマンとケビン・ランデルマンを倒してますね。

ヒョードル　必要があるなら、３人目を倒すことも拒みません。ただ、私にとって大事なのは、一番強い選手に勝つこと、そして私が所属しているロシアのM―1グローバルが世界でトップの団体になることです。

――いま、ヒョードル選手が高く評価している選手を挙げてもらえますか？

ヒョードル　ランディ・クートゥアーです。彼は本当に素晴らしいスポーツマンだと思います。あと、ドン・フライも尊敬しています。

――ド、ドン・フライですか⁉

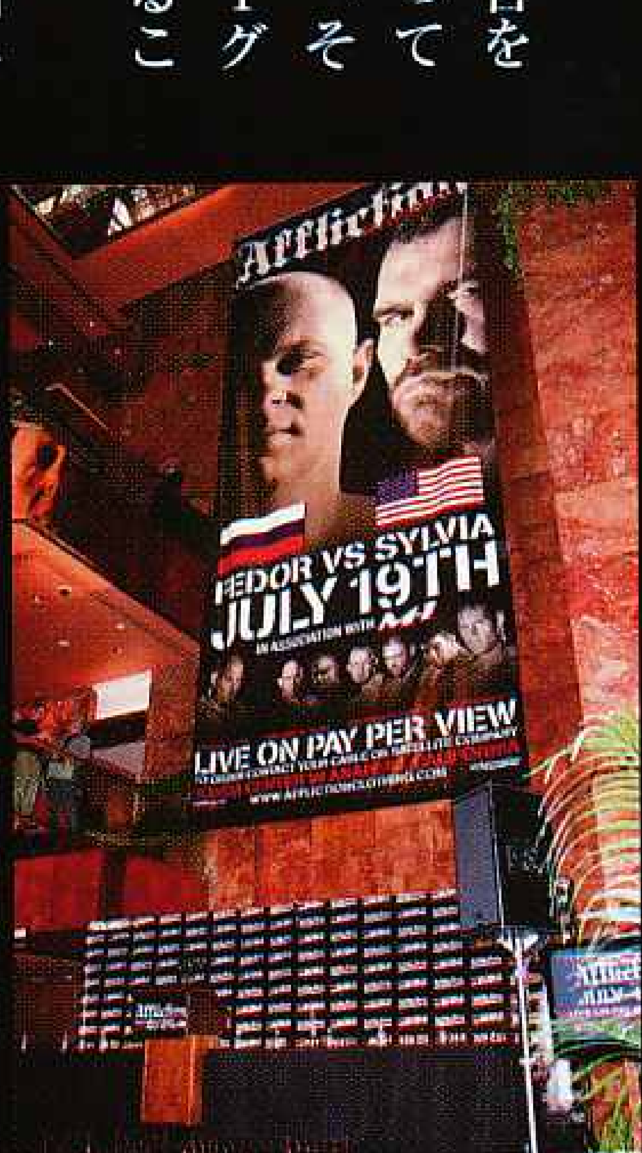
ヒョードル　はい。いまはリングから遠ざかっているようですが、彼の男らしい闘いぶりは、非常に好きですね。

――ヒョードル選手もPRIDE男塾に憧れていましたか（笑）。

ヒョードル　あと階級は私と違いますが、ヴァンダレイ・シウバも大変尊敬しています。

――シウバとはPRIDE時代から認め合った仲ですもんね。そのシウバは5・24『UFC84』で見事、KO勝ちして復活しましたが、ご存知ですか？

ヒョードル　はい、知っています。その試合は私も気になっていたのですが、彼が勝ってとても嬉しいです。ヴァンダレイ・シウバもここ２年ほど、いろいろ難しいことはありましたが、そういった苦しい時期は終わり、このあいだの試合が彼の



7・19『アフリクション』宣伝のための巨大タペストリー。ジョシュ、ホジェリオ、ヒーゾ、アレキら大物が多数参戦するこの大会だが、やはりヒョードルvsシルビアの注目度は飛び抜けている。

連続勝利のスタートであるように願っています。

――あの試合、シウバのセコンドにランディ・クートゥアーがついていましたが、UFCはセコンドにも関わらずランディにオクタゴンに近づくことを禁じました。その件についてはどう思いますか?

ヒョードル　このことは、UFCの支配者が、どれほど醜い人間なのかという証拠になったと思います。

――ダナ・ホワイトは醜い人間ですか（笑）。

ヒョードル　まあ、会ったこともありませんが、非常に評判は良くないですよね。

――ヒョードル選手の悪口も常に言っていますしね（笑）。では、ヒョードル選手がいま一番闘いたい相手は、やはりランディ・クートゥアーですか?

ヒョードル　私が闘いたいというより、ファンが一番楽しみにしていてくれている試合が、私とランディの対戦ではないかと思っています。私が相手を選ぶわけではありません。

――M―1グローバルのワジム代表はヒョードルvsクートゥアー戦を「金網でやるかもしれない」と語っていましたが、金網で闘う練習はしていますか?　また金網での闘いにも自信はありますか?

ヒョードル　私は、まだ状況がわかりません。金網で闘うことになったらお答えします。

――いまアメリカで話題になっているキンボ・スライスという選手について、どう思いますか?

ヒョードル　観たことがないのでお答えできませんね。とくに興味もありません。

――『アフリクション』にはジョシュ・バーネットも参戦しますが、今後、ヒョードル選手とジョシュが闘う可能性はありますか?

ヒョードル　それはマネージャーが決定することです。我々は友だちですから、あまり闘いたいとは思いませんが、もし試合が決まってしまったら、全力で闘うしかないと思っています。

――ジョシュ・バーネットも参戦している日本の『戦極』というイベントはご存知ですか?

ヒョードル　いえ、聞いたことはありません。試合も観たことがありません。

――そうですか……。その『戦極』に出場したホジャー・グレイシーという選手が、「ヒョードルにも関節技で勝つことができる」と言っているのですが、どう思いますか?

ヒョードル　知らない選手なので、そう言われても、答えようがないですね。

――知りませんでしたか（笑）。

ヒョードル　今度、時間があったら、少し調べてみます。

――では、ヒマなときにでもお願いします（笑）。ヒョードル選手は昨年の大晦日、『やれんのか!』に出場してくれましたけど、今年もまた日本で試合をしてくれますか?

ヒョードル　今年も12月31日に大会があるなら、出場したい気持ちがあります。私はもう5年間にわたって12月31日に日本で試合をしていますから、これはもう伝統といっていいと思います。

――日本で試合をするとしたら、M―1グローバルと協力関係のあるDREAMになりますか?

ヒョードル　それはワジムさんに聞いてください。M―1グローバルの決定権を持っているのは、ワジムさんですから。

――ミルコ・クロコップがUFCでの闘いを一時中断して、日本のDREAMのリングに来たことをどう思いますか?

ヒョードル　そのことについて考えたことがないので、答えようがないですね。これはミルコ個人の問題でしょう。

――ミルコがヒョードル選手と再戦するためには何が必要だと思いますか?

ヒョードル　試合に勝って、また世界のトップクラスに戻ってくることでしょうね。そうすれば、また彼と闘う日が来るかもしれません。

――では、最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

ヒョードル　半年以上、日本を留守にしてしまいましたが、もう少しだけ待っていてください。私は必ず日本に行きます。本当はもっと早く日本に行きたかったのですが、アメリカでの試合に向けてトレーニングをしなければなりません。遅くとも秋には一度日本に行って、12月31日にはまた日本で試合ができたらと思います。そのときはまた応援よろしくお願いします。

――では、お忙しいところ、どうもありがとうございました。7・21のティム・シルビア戦、期待してます!

【08年6月16日／ロシアへの国際電話にて収録】



EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身のロシア人。00年リングスに初来日。02年にリングス無差別級、ヘビー級の二冠王となる。02年11月からPRIDE参戦。03年3月にノゲイラを破り、PRIDEヘビー級王座を奪取。04年PRIDEヘビー級GPにも優勝。"60億分の1最強の男"と呼ばれる。182cm、106kg。

今年も12月31日に日本で大会があるのなら ぜひ参加したい。もう少し待っていてください

Emelianenk

激動のマット界情報、いざっ!

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

ポッドキャスト



“カリスマ司会者” 原タコヤキ君presents超人気ポッドキャスト番組『mimipro』。すでにRG、マッスル坂井、笹原DREAM EPが登場。無駄話（おもに戦極ポーズを考案した本誌編集部・阿修羅チョロの生態について）をお届けしています。

大会速報



月刊誌である本誌は、試合レポートを詳細に掲載することはさほど多くないですが、『kamipro.com』は試合結果および試合の詳細や試合後のコメントまでガッチリ取材。ド迫力の試合写真もたっぷり掲載します!!

kami インタビュー



プロレス&格闘技界で旬の人に突撃インタビューを行なう大注目のコーナーです。デスマッチでシェイクスピア作品に挑戦する大日本プロレス・登坂栄児氏や『戦極～第四陣～』で出場が決まったホドリゴ・ダムなど人選も変幻自在です!

発動するリアルウェブサイト

シャキーン!!

最新号情報



「いつ出るんですか?」「どこに行けば買えますか?」「どんな内容ですか?」というお問い合わせが発売日直前になると本誌編集部に殺到します。でも、これからはもう大丈夫。いち早く『kamipro.com』が最新号情報をお伝えします。

ニュース



毎日の情報もプロレスだけじゃ物足りないし、格闘技だけじゃ満足できないというあなたのために、『kamipro.com』はあらゆる団体やイベントを取材して最新情報をお届けしております。

スケジュール



最近、追加された新たな機能。ありそうでなかったカレンダー機能がついにつきました。各団体の大会スケジュールだけでなく、主要な大会については対戦カードも網羅しています。あなたのプロレス&格闘技生活に潤いを与えることでしょう!

このほかにも思わず見入ってしまう衝撃のフォトニュース、メルマガ配信、Tシャツなどの新製品情報……kamiproのすべてがここにあります!

レッツ毎日アクセス!!

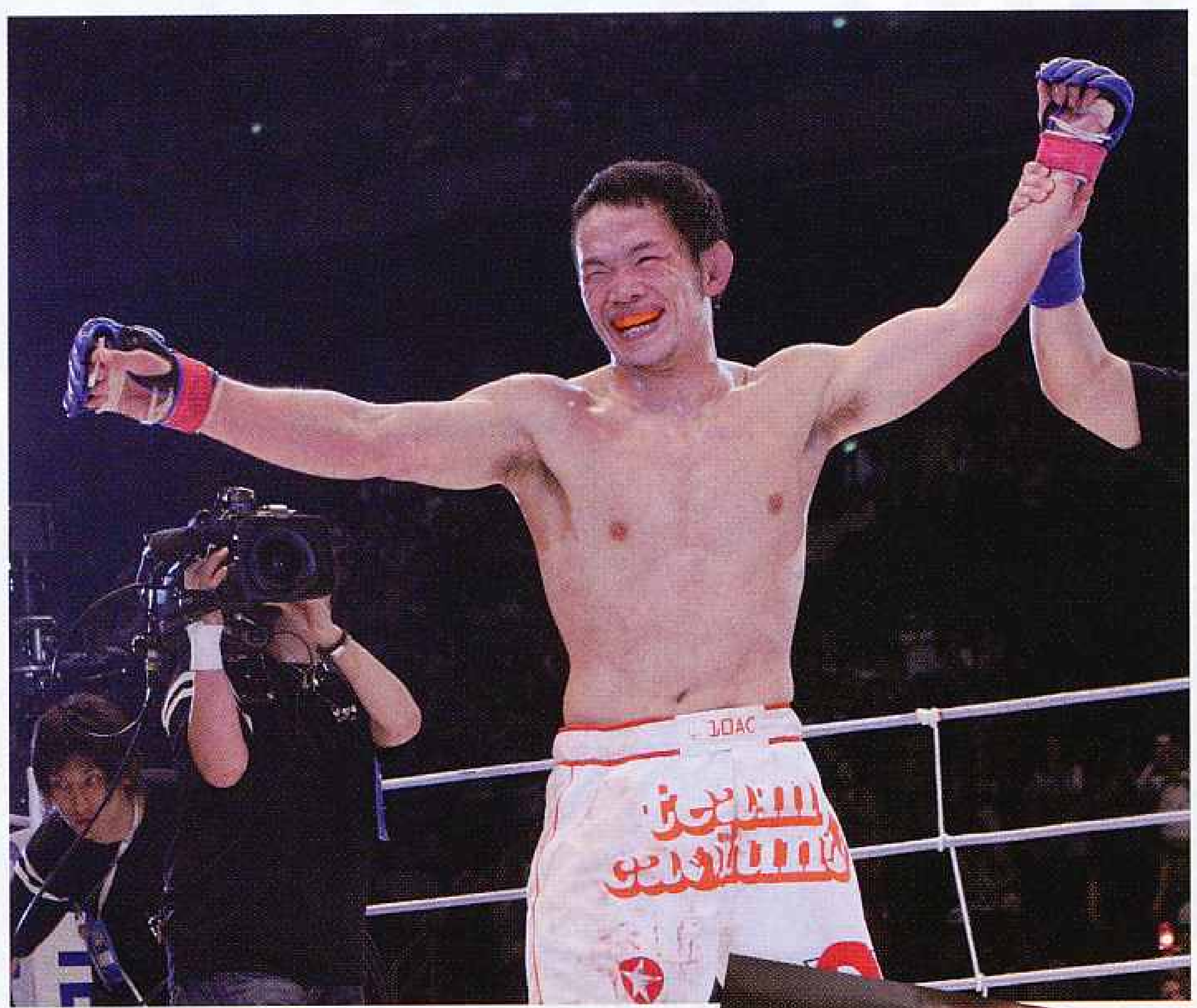
http://kamipro.com

※携帯電話からはアクセスできませんので了承ください。

宇野商店もビックリ! オシャレなグッズがいっぱい!!

お母さんにいいプレゼントをしよう!

kamipro PRESENTS



応募要項

ハガキに応募券を貼り、①~⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年7月23日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦08年上半期のベスト&ワースト興行は?⑧08年上半期のベスト&ワーストバウトは?⑨08年上半期のベスト&ワースト選手は?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス『kamipro』編集部「Tシャツ屋に何ができる!」係まで

※締切は2008年7月22日(火)当日消印有効

kamipro 124 応募券 一つの愛

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

DREAM



1名様

宇野薫サイン入り DREAM.3 オフィシャルパンフレット

サイン入り

[¥2,100(税込)]

宇野 vs 石田、ハンセン vsアルバレスなど名勝負連発! 場内も大ヒートした『DREAM.3』のパンフレットを今号のインタビューで登場した宇野薫のサイン付きで提供。



1名様

DREAM.4 オフィシャルパンフレット

[¥2,100(税込)]

宇野薫インタビューに、"世界のTK"髙阪剛の青木 vs 永田戦解説、そしてDEEP代表佐伯繁氏のフェザー級解説も収録し読み応え充分!『DREAM.4』パンフレット。



1名様

DREAM.4 大会記念Tシャツ

[ブラック/¥4,200(税込)]

青木 vs 永田にミドル級GP2回戦も開催、両GPもいよいよ佳境へ! クライマックスに向け、ますます期待を膨らませた『DREAM.4』の大会記念Tシャツを1名様に。



1名様

DREAM.4 ポスター

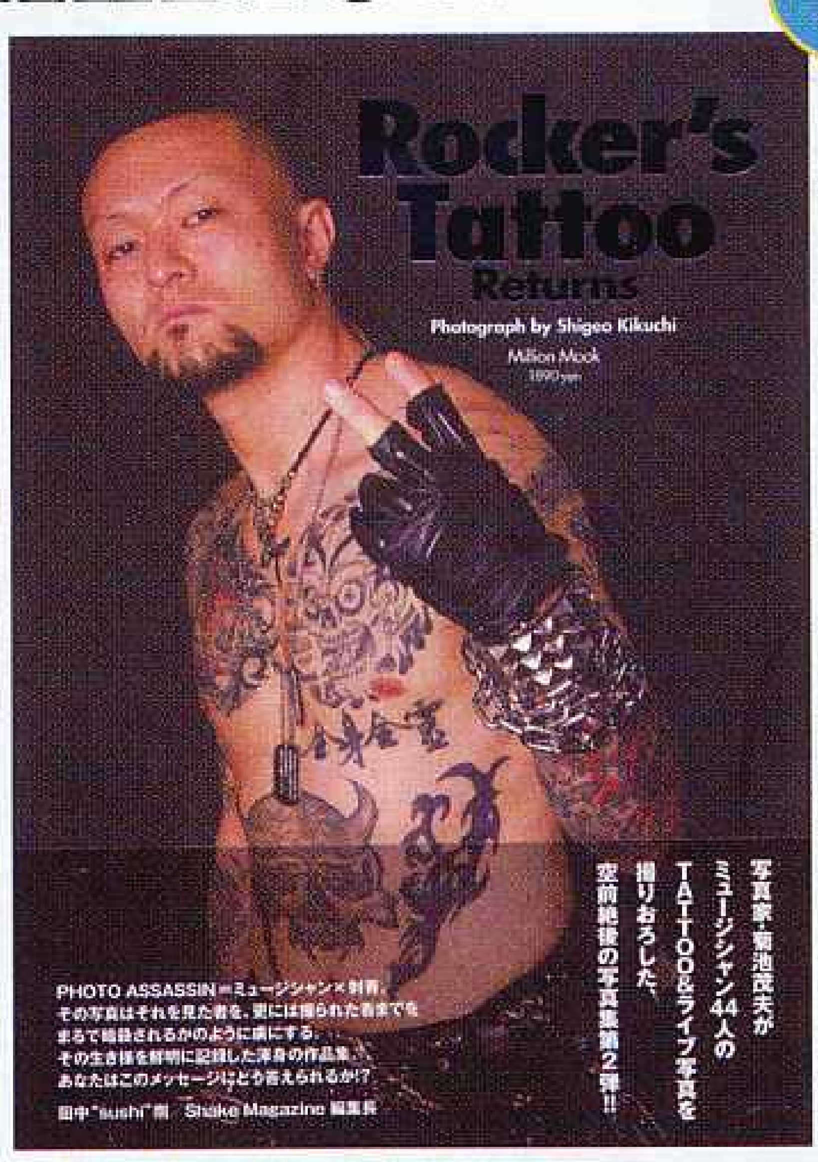
[B2 / ¥525(税込)]

ミドル級GP2回戦に残った8強が桜庭を中心にズラリ大集結!"混沌に咲く夢"6.15『DREAM.4ミドル級GP2ndROUND』の大会ポスターを1名様にプレゼント。

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

MILLION

2名様



Rocker's Tattoo Returns

[撮影:菊池茂夫/ミリオン出版/¥1,890(税込)]

本誌でも絶賛活躍中の"刺青カメラマン"こと菊池茂夫氏が撮影した『Rocker's Tattoo』の第2弾が登場。コワモテRockerたちの刺青アートにビビってたじろげ!

ミリオン出版■http://www.taiyohgroup.jp/group/company/million/

K-1

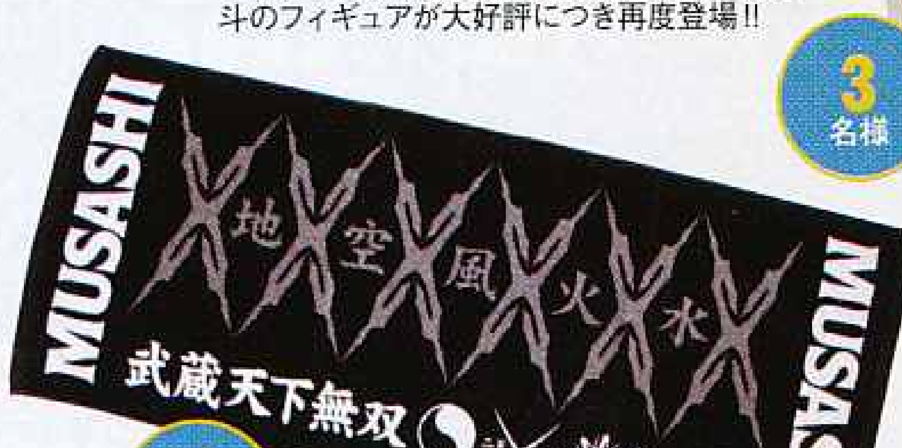


3名様

HAO COLLECTION フィギュア 魔裟斗

[¥3,990(税込)]

K-1 MAXはこの男がいなければ始まらない! 世界中の強豪がひしめくMAXの舞台で常にトップを争い続ける"反逆のカリスマ"魔裟斗のフィギュアが大好評につき再度登場!!



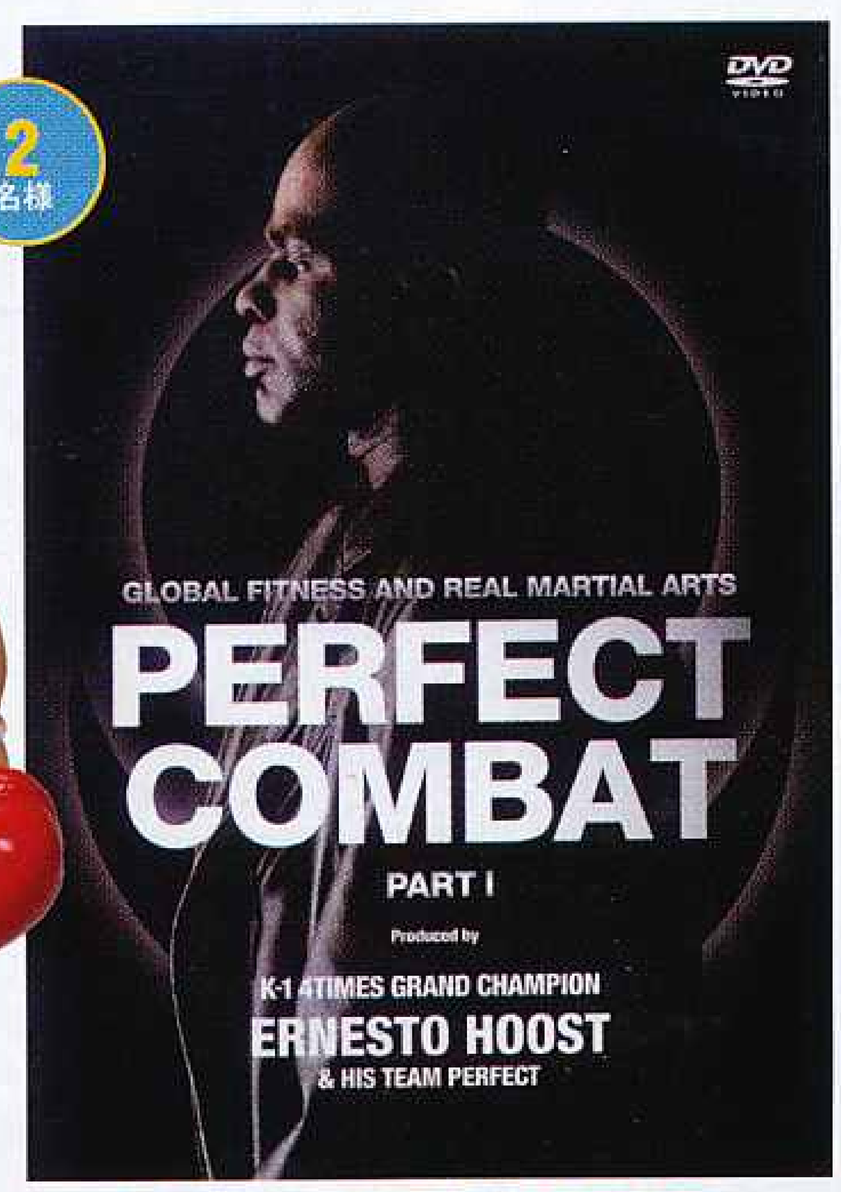
3名様

武蔵 WGPフェイスタオル "五輪書"

[ブラック/¥1,890(税込)]

4月に行なわれた澤屋敷戦後には「まだまだおっさんパワーを見せつけるぞー!」と咆哮、6.29『K-1 JAPAN GP』の参戦に向け気合い充分! 日本のエース・武蔵のタオル。

2名様



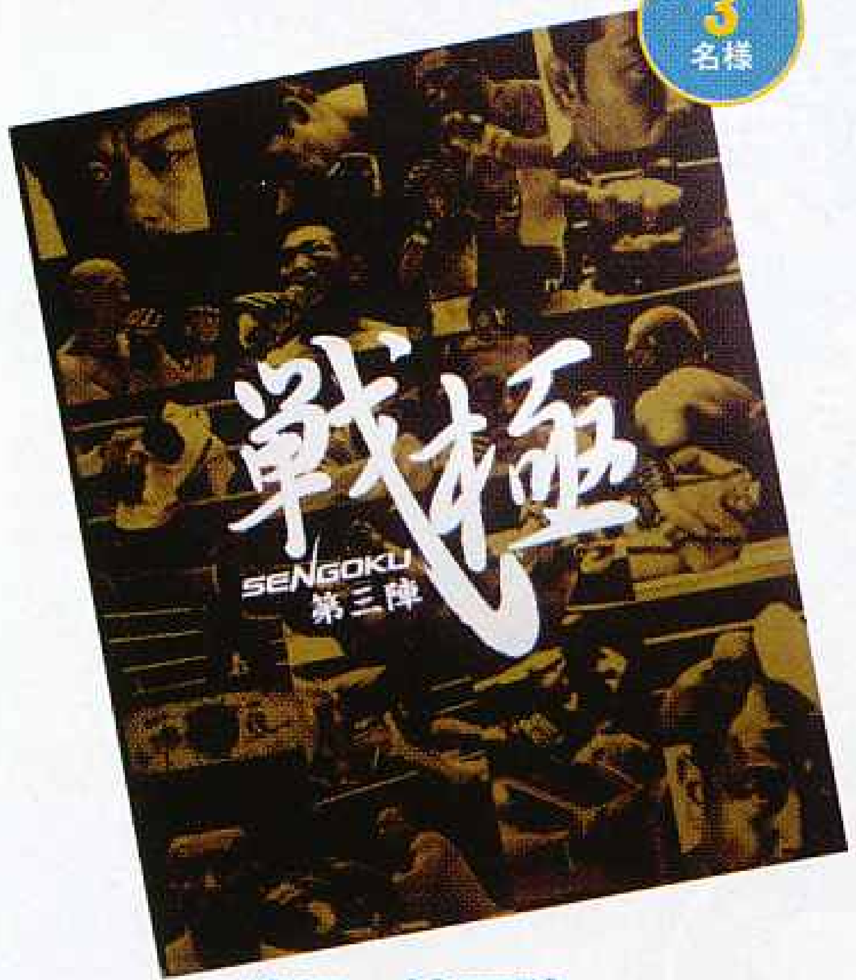
PERFECT COMBAT PART I DVD

[225分/¥9,800(税込)]

シャドーキックボクシングを通し、人間本来の美しさと武道を同時に学び、精神・頭脳も同時に鍛え上げるという、"ミスター・パーフェクト"ホーストのプロデュースによるDVD。

FEG■http://www.k-1.co.jp/ TEAM PERFECT■http://www.team-perfect.com/

SENGOKU



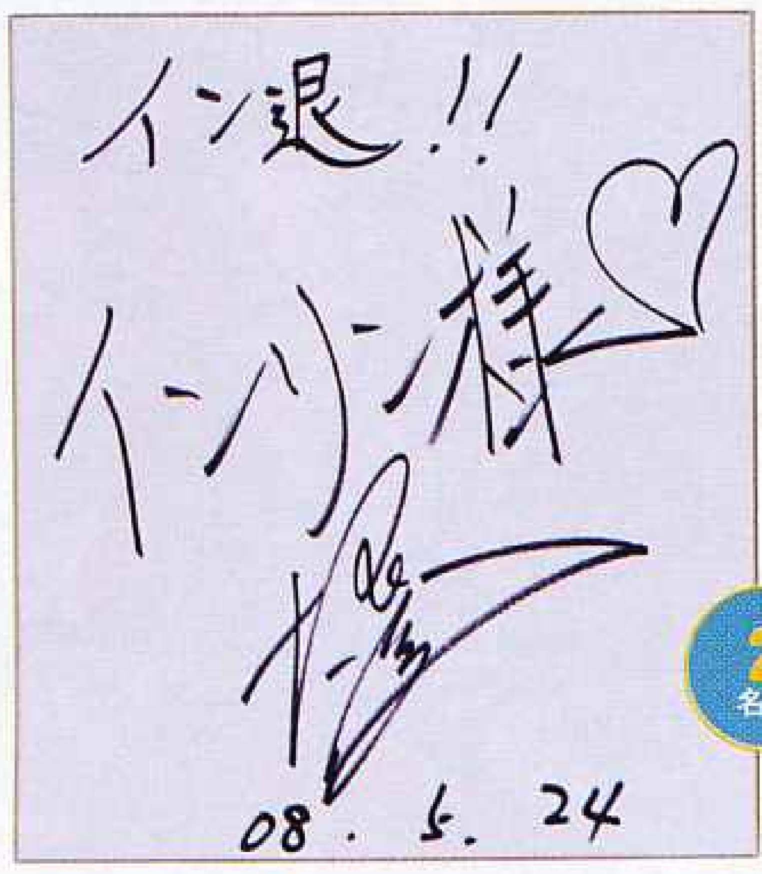
戦極～第三陣～ オフィシャルパンフレット

[¥2,100(税込)]

三崎、藤田、吉田ら日本人エースが続々と"格闘技の聖地"たまアリに集結！ "Road to 五味"ライト級トーナメントの開催も発表された『戦極～第三陣～』のパンフレット。

戦極■http://www.sengoku-official.com/pc/

HUSTLE



インリン様 "イン退"サイン色紙

5.24『ハッスル・エイド2008』涙の引退試合直後のカミスペインタビューの際にインリン様が書いてくれた貴重な"イン退"記念サイン色紙を2名様にプレゼント！



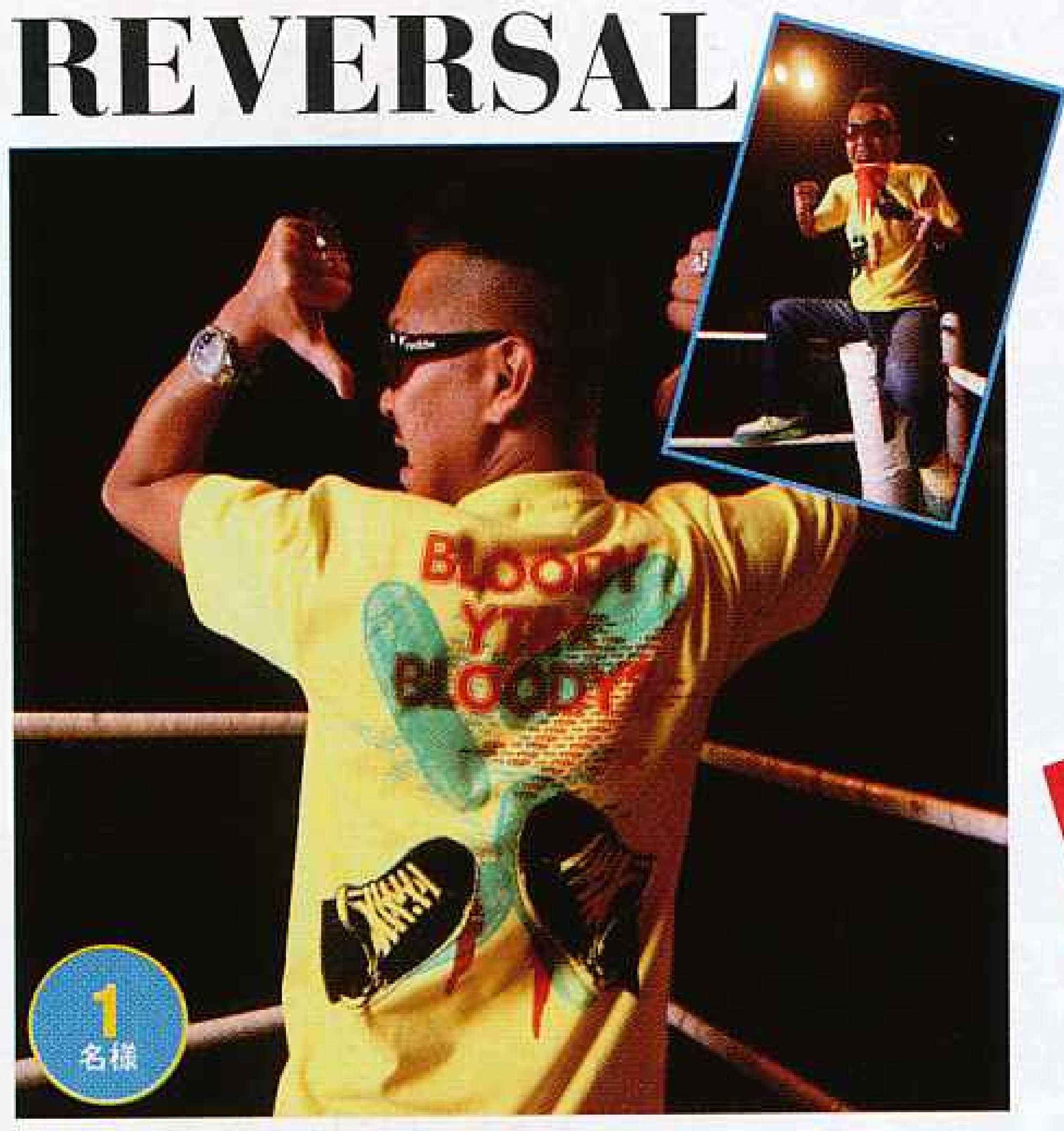


インリン様サイン入り ハッスル・エイド パンフレット

『ハッスル・エイド』の引退試合後には、観客からは鳴りやまない大拍手！ 目に涙を浮かべながらのカーテンコールでさよならしたインリン様のサイン入りパンフレット。

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

REVERSAL



YOU THE ROCK☆ vs reversal コラボレーションTシャツ

[イエロー／¥6,090(税込)]

人気格闘技ブランドreversalと日本のHIP-HOP界をリードする『YOU THE ROCK☆』とのコラボレーションTシャツが登場。そのほか新作商品はHPをチェック！

reversal■http://www.rvddw.com/

PANCRASE

道夫Tシャツ

[ブラック／¥3,000(税込)]

川村、近藤、金原という強豪を相手に3連勝中！ 今号では自身の格闘技人生や船木について仰天エピソードを交えながら語ってくれたKEI山宮の"愛猫"道夫のレアTシャツ。





STC 入江姉妹 Tシャツ

[2008カラー／¥3,675(税込)]

パンクラスラウンドガール"Super Terrific Cuties"としてアイドル的人気の入江姉妹のTシャツが登場。これを来て、パンクラス、そして入江姉妹を応援しに行こう！

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

NEW JAPAN



LEGEND Tシャツ

[グレー／¥3,000(税込)]

今号のインタビューでは同期であり、盟友でもあった"破壊王"橋本真也との秘話を語ってくれたご存知、"黒のカリスマ"蝶野正洋が所属するレジェンド軍のTシャツを提供。



稔 Tシャツ

[ブラック／¥3,000(税込)]

同じく新日本プロレスから、今年の1月にはIWGPジュニアタッグ王座を獲得し、IWGPジュニアヘビー級王座に何度も輝いている"ブラックプリンズ"稔のTシャツが到着!!

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

QUEST







和術慧舟會トイカツ道場 トイカツの 下からの寝技

[111分／¥5,880(税込)]

セコンドワークの巧みさでも知られ、修斗ライト級の世界ランカーとして最前線で長年活躍した"寝技師"トイカツがその寝技の極意を初公開したDVDを1名様に。

『スマックガール大全集』

[245分／¥5,880(税込)]

『初見良昭口伝その十三』

[109分／¥5,040(税込)]

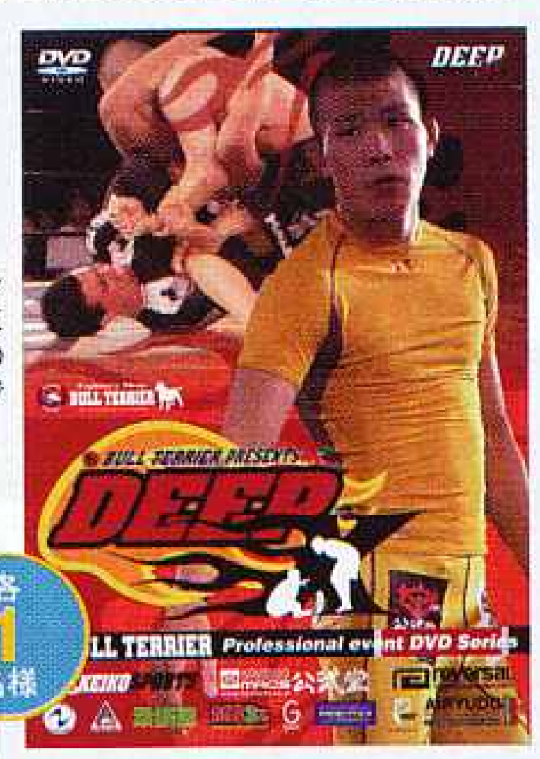
QUEST■http://www.queststation.com/

BULL TERRIER

BULL TERRIER PRESENTS DEEP X DVD

[130分／¥3,800(税込)]

ブラジリアン柔術&総合格闘技専門ショップのブルテリアからは07年6.18に開催された寝技の大会『DEEP X』のDVDが到着。今成、長谷川にメインでは青木も登場！





BULL TERRIER PRESENTS DEEP X Ⅱ DVD

[234分／¥5,990(税込)]

同じくブルテリアから、『DEEP X Ⅱ』のDVDも合わせて登場。メインでは長谷川秀彦がブラジリアン柔術の世界王者ルーカス・レプリと対戦。ちびっ子グラップリングも必見!!

ブルテリア■http://www.b-j-j.com/

DEEP



青木真也サイン入り オープンフィンガーグローブ

[レッド／¥3,980(税込)]

DEEP7周年記念パーティーにてゲットした、DEEPの冠スポンサーFIGHTING ROADのオープンフィンガーグローブを青木のサイン入りで1名様にプレゼント！

DEEP■http://www.deep2001.com/

kamipro 紙のプロレス

No.124
2008年7月7日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
鈴木 佑
八木賢太郎(全31試合観戦のため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん
上杉パパ〜ン

編集次長(蟹工船)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのるさん(以上、TwoThree)

トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

代表監督
入江スコラーリ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"用紙代値上げ"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL: http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

©師岡とおる



ヒョードル、ジョシュら世界の番長が大集結！
7.19アフリクション"番長戦争"の行方は次号にて！押忍!!

NEXT ISSUE

ライト級GP決勝に、秋山、KIDも参戦！
7.21『DREAM.5』直前特集!!
No.125は7月16日(水)発売予定！

五味参戦の8.24『戦極〜第四陣〜』大展望に、
『DREAM.5』速報もドカンとお届け！
kamipro Special 2008 AUGUSTは7月31日(木)発売予定!!

※地域によっては多少発売が遅れるぞ！



最高峰へと続く道。「FIGHTING TV サムライ」
PROFESSIONAL SHOOTO JAPAN
DEEP INTERNATIONAL 2001
"聖地"後楽園ホールから毎月中継!
Line-Up of JULY
7月の主なラインナップ!
ZERO1「勇猛果敢」6.26後楽園ホール
●ON AIR…7/2(水)22:00~24:00、他
「ハッスル・エイド2008」5.24有明コロシアム
●ON AIR…7/4(金)22:00~24:00、他
新日本プロレス「NEW JAPAN TRILL」7.7後楽園ホール
●ON AIR…7/7(月)22:00~25:00、他
「ハッスル・ツアー2008」7.11後楽園ホール
●ON AIR…7/11(金)19:00~22:00
みちのくプロレス 6.20後楽園ホール
●ON AIR…7/11(金)23:00~25:00、他
「PREMIUM」6.27後楽園ホール
●ON AIR…7/12(土)22:00~24:00、他
全日本プロレス「プロレスLOVE in セタ」7.7八王子大会
●ON AIR…7/16(水)22:00~24:00、他
プロフェッショナル修斗「修斗伝承2」7.18後楽園ホール
●ON AIR…7/18(金)22:00~24:00、他
「club DEEP in Nagoya MB3z IMPACT」6.29 Zepp Nagoya
●ON AIR…7/23(水)22:00~24:00、他
ZERO1「熱-1 GP 火祭り'08~勇王邁進~」開幕戦7.27後楽園ホール
●ON AIR…7/30(水)22:00~24:00、他
※放送内容は予告無く変更する場合がございます。※この他にも、様々な番組を放送しています。
バトステ・ライブ!
ハッスル
Sアリーナ格闘ジャングル2
●ON AIR…毎週(土)21:00~22:00、他
戦極、DREAMの始動により再び活気づく格闘技界の最新情報を毎週60分放送!
MC/小野寺力　技術解説/高阪剛
アシスタント/新井ありさ
K-1
K-1 BATTLE SCRAMBLE!
●ON AIR…毎週(日)12:00~12:30、他
ヘビー級中心のWGP、中量級のMAXなど立ち技最高峰のステージ「K-1」をインサイド・レポート!
お申し込み・お問い合わせは、今すぐ!
SKY PerfecTV! カスタマーセンター
TEL.0570-039-888 (年中無休10:00~20:00)
e2 by スカパー! カスタマーセンター
TEL.0570-08-1212 (年中無休10:00~20:00)
※スカパー!及びe2 by スカパー!をお申し込みの際にはお電話の前に有料放送役務契約約款 http://www.skyperfectv.co.jp/top/legal/yakkan/の内容をご確認下さい。
その他、スカパー!光、ひかりTV、BBTV、モバHO!、全国のケーブルテレビ局でお楽しみ頂けます。
視聴料金:1,890円/月
サムライ FIGHTING TV
www.samurai-tv.co.jp
©FEG Inc. ©SUSTAIN ©新日本プロレス ©ハッスルエンターテインメント

kamipro 124 2008

いま闘えないヤツは、明日も闘えない!!
カッコつける姿は見たくない

2008年7月7日 発行人 浜村弘一 編集人 [illegible] 発行・発売所 株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本 図書印刷株式会社



9784757743137

1929476008381

定価：本体838円＋税

雑誌 61956-23 Ⓗ2008.10
Printed in Japan 図書印刷
ISBN978-4-7577-4313-7
C9476 ¥838E

enterbrain